

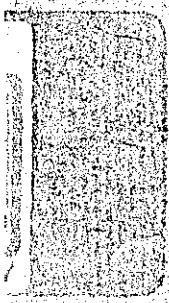
53

海外移住地便覧

(ブラジル南部編)

昭和36年8月

財団法人 日本海外協会連合会



JICA LIBRARY



1004531 [8]

移住關係一般狀況

南 伯 編

国際協力事業団

受入 月日	84. 8. 20	R703
		23.4
登録No.	13228	EA

国際協力事業団

受入 月日	58. 8. 12	E710
		23
登録No.		AE90

ま え が き

日本の22倍の領土をもつブラジル国は、熱帯、亜熱帯、温帯にまたがり、地域的にこれらを北部、中部、南部の3つに大別している。

この大別によるとき、南部には、サンパウロ州、パラナ州、マツト・グロソ州、サンタ・カタリーナ州及びリオ・グランデ・ド・スール州の地域が含まれる。

海協連では、此の地域における移住事業を遂行するために、サンパウロ市に支部を設けており、同支部は更にパラナ州のロンドリーナ市と、リオ・グランデ・ド・スール州のポルト・アレグレ市に出張事務所を設けているとともに、各地にある日系産業組合、日本人会等の団体及び旅行あつせん業者等の協力を得て、移住者の導入はもとより、入植後の営農指導、独立への指導等、保護育成を行っている。

北部、中部への移住者入国形態が自営開拓農を主としているのに反し、南部は雇用契約農が主であり、南部南部のリオ・グランデ・ド・スール州においても分益農及び雇用契約農が主となっている。これは、ブラジルの開発が南部を中心として行われたために、北、中部より自営開拓農として入植し難いことと、更に在留邦人404,000余人の中9割以上が南部地域に居住している、彼等先輩移住者が日本より契約農として呼寄していることに基因する。

戦後渡航費貸付により、南部地域に入植したものは、既に25,000人を超えているが、その大部分は雇用契約農として、サンパウロ州、パラナ州へ入植している。

この移住地資料の作成にあだづては、北部、中部の自営開拓農として入植するのと異り主として日系集団地の日系耕地へ分散して呼寄入植しているものが大部分であるところから、第五章に地域別主要邦人集団地一般状況とし

て、南伯あこの町を紹介することとした。

これから移住する者に、この資料が参考となり、外国への移住が国内隣県又は隣村への移転という軽い気持を抱けるようになれば、望外の光栄である。

編 者

は し が き

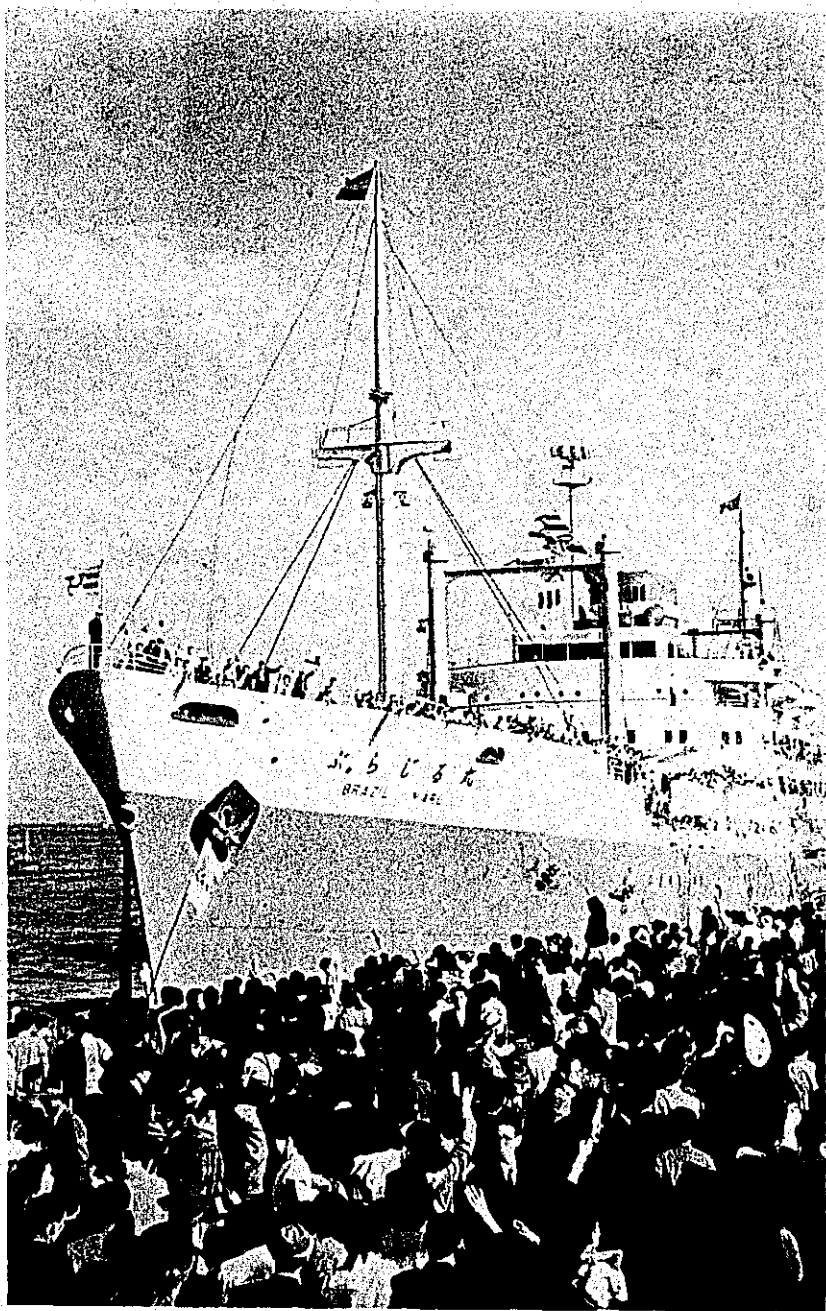
この海外移住地便覧は、現在当会総務部海外課勤務の平野主事が、海協連サンパウロ支部に在勤中の4年間に実地に調査した南伯各地の移住の実態を記録し報告書としてとりまとめたものである。

昭和27年以後中南米諸国に送出した移住者の大半がブラジル国南部即ち南伯地域に入植しているが、これらの地域に入植した者が各地において、どのような状況におかれているかを正確に把握することは、今後の移住希望者に対し正しい現地認識を与えるうえに最も必要なことである。

この便覧が海外移住に関心を有する各位に聊かでも裨益するところがあれば洵に幸である。

昭和36年8月

財団法人 日本海外協会連合会



南米移住者出發(風景)



伯国サントス移住者宿泊所（前景）



伯国サントスより入植に向う移住者専用列車（内景）

海外移住地便覧

(ブラジル南部編)

目 次

第一章 南伯移住者の導入方法推移	1
日本拓植協同組合による導入	1
パウリスク養蚕協会による導入	2
移植民院の特許枠による導入	3
コチア産業組合による導入	4
雇用契約の委任状による導入	5
包括雇用契約による導入	5
現在の導入形態概略	5
第二章 現行導入形態と手続方法	7
公募移住者の呼寄手続	7
指名移住者の呼寄手続	8
計画移住者の導入手続	12
渡航費貸付規準について	14
移住者到着通知及び引受について	15
第三章 南伯移住者の入国状況	17
第一節 入国概況	17
第二節 年度州別入国統計及び主要入植分布図	17
第三節 導入形態、職種、地域及び呼寄主体別統計	22
第四節 昭和35～36年度導入計画	57
第五節 現行職種別雇用条件概況	58
第六節 新移住者の就働実態	70
第四章 移住者受入団体状況	75
第一節 在伯県人会状況	75
第二節 主要受入耕地及団体状況	79
第三節 主要産業組合とその活動状況	84

第四節 主要幹旋業者とその活動状況	89
第五章 地域別主要邦人集落地一般状況	93
第一節 サンパウロ州関係	93
第一項 サンパウロ市とその近郊	95
第二項 中央線地域 (E. F. C. B.)	99
第三項 聖南地域 (含 E. F. S. J.)	113
第四項 モジアナ線地域 (C. M.)	119
第五項 アラクワラ線地域 (E. F. A.)	124
第六項 州内ノロエステ線地域 (N. O. B.)	129
第七項 バウリスダ延長(本)線地域 (C. P.)	135
第八項 ソロカバナ線地域 (E. F. S.)	145
第二節 マット・グロッソ州関係	155
第一項 州内ノロエステ線地域 (N. O. B.)	157
第二項 南部ドラードス地域	160
第三項 北部マット・グロッソ	161
第三節 パラナ州関係	163
第一項 北パラナ地域 (R. V. P. J. C.)	166
第二項 南パラナ地域 (R. V. P. S. C.)	188
第四節 サンク・カタリーナ州関係	195
第五節 南大河州関係	207
第六節 ブラジリア連邦府関係	214
第六章 南伯農産物事情	218
第一節 南伯農事暦と農地購入上の指針	219
第二節 栽培育成方法	233
第三節 農産物統計	244
第一項 日系コロニア農業生産力統計	244
第二項 日系コロニア所有面積統計	247
第三項 全伯主要農産物生産力統計	250
第四節 珈琲栽培	252
第七章 雑	264

第一節 各種統計	264
国勢, 貿易, 対伯投資, 国際収支, 農業, 交通, 外国移民, 日系人口統計	
第二節 移住関係ブラジル諸法令と農業者保護諸規定抜粋	276
第三節 サントス上陸の手引	286
検疫並びに入国手続, 在留届の提出, 営農資金, 引受 上陸, 通関, 移住者宿泊所, 入植地への出発	
第四節 税関課税規準と携行荷物	295
第五節 入国後の諸手続	203
第六節 農業移住者の職業変更	304
第七節 農業者に対する伯銀, 市銀融資規定抜粋	305
第八節 対伯進出日系企業商社便覧	313
第九節 日常便覧	330
日系官庁, 公共団体住所録, 主要日系報道機関, 日語放送 局と周波数, ブラジル特殊度量衡, ブラジル祝聖祭日	

移住関係一般状況（南伯編）

第一章 移住者導入方法の推移

此處で南伯とは、海協連サンパウロ支部が移住に関する業務全般を管轄している地域即ち、サンパウロ州、マツグロソ州、パラナ州、サンク・カタリーナ州、リオ・グランデ・ド・スール州、ゴヤス州及びミナス州の一部（三角ミナス）を指し、此れ以外の地域は、中伯又は北伯と呼び、夫々、海協連リオ・デ・ジャネイロ、ベレンの支部が管轄し、移住に関する業務全般を統轄遂行している。

戦後移住が再開され、ブラジルに渡航越した最初の移住者は、ベレン支部管内のアマゾン地域（俗にジュート移住者と言っている）であり、南伯はこれより、5カ月遅れ、昭和28年7月5日サントス入港のドラーダス連邦植民地向け22家族が嚆矢である。

現在（1960年）までの南伯地域への導入方法の移り替りを述べる。

1. 日本拓植協同組合による導入

本件導入は、日本拓植協同組合代表松原安太郎（サンパウロ市在）氏が、ブラジル農務省土地植民局との間で導入の取り極めを行い、同松原安太郎氏が、引受責任者となり、移住者との間でもブラジル国内輸送配給、及び定着のための指導あつせんに関する契約を締結し、実現したものである。昭和28年7月の第1回ドラーダス連邦植民地向け22家族112名を最初とし、同年度内に総数417名が、同植民地に入植した。

従つて、ブラジル国の計画植民（ブラジル側にとつて）になつており、伯国移民法第10条*1により移住者は、在日伯国官憲より、入国を許可されたものである。

*1 伯国移民法第10条——特別永住査証は前条規定条件にある外国人にして第4条(b)の規定に基き割当数より除外せられたる者に許可せられる

ものとする。

単項 特別永住査証の許可は予め、当該管轄官憲に依りて、撰択区別せられるものとする。

2. パウリスタ養蚕協会特許枠による導入

昭和29年度になつて、在伯邦人よりの呼寄が始まり、同年度内に665名が南伯地域に入植したが、右の内295名は、パウリスタ養蚕協会が移植民院(INIC)^{*2}より、許可せられた200家族の導入枠^{*3}を利用し、前項と同じく、伯国移民法第10条より、入国を許可されたものである。

同年度に入植した移住者の内、残り370名は、個人地主よりの呼寄で渡伯したものであり、此の方式により渡航した移住者を呼寄移住者と謂い、伯国移民法第9条^{*4}により、入国許可を取り付け、入国したものである。

^{*2} 移植民院 (INIC)——従来農務省管轄下におかれていた移植民審議会の権限と、機構を拡大強化した機関であり昭和29年1月に設立された。

移植民審議会の許可により、第1次、ドラードス移住者等は入国しているが、移植民院設立後引継がれている。

^{*3} 200家族の導入枠——パウリスタ養蚕協会は、昭和28年9月23日付をもつて移植民審議会より、サンパウロ州内に200家族を導入する許可を取得し、既にこの枠は、昭和34年度をもつて完了した。

同協会においては、更に移植民院に申請を行い、追加500家族の特許枠を昭和35年に許可されている。

第1次導入枠の利用状況は次の通り。

昭和29年度入国数	47家族	295名
30年度 "	45家族	300名
31年度 "	30家族	199名
32年度 "	26家族	149名
33年度 "	35家族	208名
34年度 "	17家族	98名
計	200家族	1,249名

*1 伯国移民法第9条——永住査証は、決定的に伯國に滞在し、且つ、永住せんとする条件にある外國人に許可せられるものとする。

(呼寄移住者の場合)

被呼寄家族又は単独 1 件毎に雇用予約契約書 (Compromisso de Trabalho) を現地で作成、雇用耕地主の鑑識手帳 fotocopia (Fotocopia de Identidade) 及び地租納税証又は耕地登録証 fotocopia (Fotocopia de Imposto de Territorial ou Registro de Imoves) を添え、在日伯國官憲に提出し、許可を受け渡伯越すものである。

3. 移植民院の特許枠による導入

戦後、目を迫うに従い、移住者の伯國入國が活発化してきたが、二分制限*2 が存続しているので、別途の方法にて、ブラジル移植民院が経営している植民地へ入植せしめるため、移植民院と松原安太郎氏及び辻小太郎氏は、移住者の受入に関し、権利義務を明確にし、更に移住者の素質とその資金的条件を強調した双務協定を締結し、夫々松原氏は、中伯南伯地域に*3 4,000 家族、辻氏は北伯地域に 5,000 家族を導入する許可を取得した。

同特許枠により南伯地域に入植したものは、麻州ドラードス連邦植民地向け、南大河州サンペードロ耕地及びマツグロソ州 JAMIC 植民地、バルゼア、アレグレに入植したのみである。

当初は、旧移植民審議会が許可した、州内の連邦植民地 (又は植民地) へ入國する自営開拓農のみであつたが、雇用移住に対しても適用されることとなつた。

現在同特許は、松原氏の代理として、大谷晃氏が行使しており、辻氏の特許代理も事実上行つている。

本取極めにより、渡伯する者は、移民法第10条*4 により許可される。

*2 二分制限 (伯國移民法第3条)——各國の自由移民数は、毎年國籍につき、1884年1月1日より、1933年12月31日迄に入國せる總数の二分を超過するを得ず、当該管轄機關は、一國籍の割当数を、3,000人まで引き上ぐることを得、又前年の不足数を利用せしめることを得。

*6 中南伯へ4,000家族導入の7・1取極め——昭和29年7月1日移植民院と調印し、ブラジル諸州その他可能性のある地へ、移植民院の事前許可を得て導入する特許であり、松原安太郎氏は、Mato Grosso, Goias, Minas Gerais, Baia, Pernan Buco, Rio Grandenorte, Espirito de Santo, Rio de Janeiroの諸州、その他可能性のある地に導入する許可枠である。

北伯の5000家族は、Amazonas, Pará, Maranhão 並びに Amapa, Acre Guaporé 及び Rio Branco の諸連邦直轄領に事前許可を得て導入する許可枠である。

4. コチア産業組合による導入

昭和30年1月4日になり、サンパウロ市に本部を有するコチア産業組合 (Cooperativa Agricola de Cotia) は、3年間に1,500名を入国せしめる許可料を移植民院より取得した。同枠では30年9月船あめりか丸にて、109人が渡伯し同年度内に406人が渡伯越している。

此の枠は、昭和33年に満了し、コチア産組は、更に1,500名の枠をとり付け、昭和34年2月船あめりか丸にて、89名が第二次枠を利用し入国した。引続き入国中で現在に至っている。

此の単独移住者の入国も計画移住者で、伯国移民法第10条により許可されている。

*7 コチア産業組合取得の枠利用状況

昭和30年度	入国数	406人	
31年度	”	428	
32年度	”	497	1名リオにて死亡(船中)
33年10月迄	”	188	
計 1,519名	但し、査証数	{ 1. 1,499通で 2. 家族が若干含まれている。	

5. 雇用契約の委任状による導入

昭和30年度に至り北伯、中伯向け移住者は、受入れ側の事情で消極的となつたが、南伯向け呼寄移住者の受入れが活発化し、同年度内に1,565名が伯国移民法第9条により、査証を取得渡伯越している。

これらは、当地の在留邦人又は外人耕地主が、自己の耕地の労力不足を補う意味にて未知の者を労働契約により呼寄を行つたものであり、多くの場合耕主側より、導入の条件（雇用契約条件家族数等）の申込みにより、日本にて、募集を行い、更に耕主より雇用契約作成権限の委任状を日本の代理人へ送りつけられていたもので、渡伯書類を作成在日伯国官憲の入国許可をうけ、渡伯したものである。

この委任状（Procrção）による渡航手続は、在日伯国官憲の好意により容認されていたものであるが、現在は利用されていない。

この日本における募集された移住者の渡伯とともに、現地の耕地主が、直接指名して移住者を呼寄るのも多くなつてきた。前者を公募移住者と謂い、後者を指名移住者と謂つている。

これらの入国査証は、伯国移民法第9条により許可されている。

6. 包轄雇用契約による導入

昭和32年になつて、委任状による内地の渡航手続が一部業者の手で悪用されておる事実があらわれ、委任状を統一化し、日本海外協会連合会理事長を受任者として、渡航手続の簡略と費用の低減並びに渡航手続期間の短縮をはかつていたが、或る事情により容認されなくなつたので、委任状にかわり数家族連記の雇用契約を作成し、渡航手続費用の低減をはかつた。

併し、この方法は契約書1件にて、40数家族連記したことがあり、内地より渡伯越す移住者に辞退等相当あり、処理に困る等の問題等により現在は利用されていない。

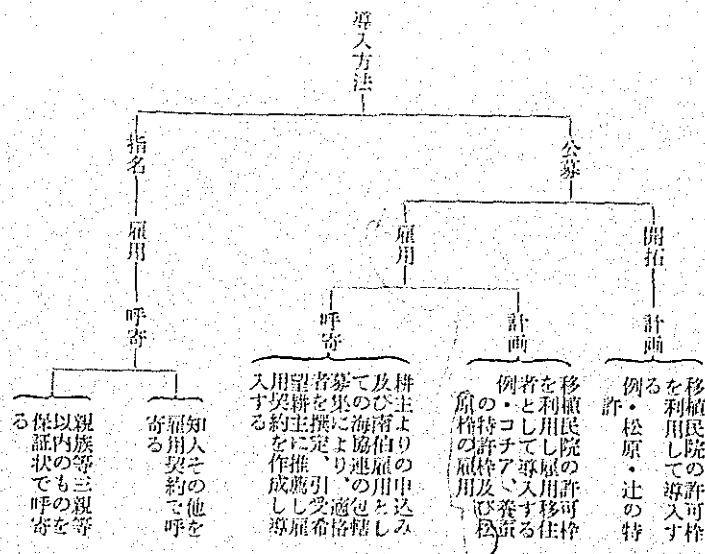
従つて現在は、公募、指名とも、1件毎に雇用契約書を作成し、第9条の許可を受け入国している。

7. 現在の導入形態概略

海協連サンパウロ支部は、公募移者の導入に力を注ぎ、巡回指導制度を実施するとともに、呼寄の啓蒙、引受の勧誘に重点を置き、巡回医療制度により移住者保護にも万全を期しているが、現在の導入方法は、次の通りである。

- A 計画移住 移植民院 (INIC) より許可せられた導入枠を利用して、移住者を導入する場合。
- a 開拓移住者として連邦植民地、その他事前に許可受けた地へ導入する場合。
 - b 雇川移住者として、許可取得の組合が、組合員耕地へ移住者を導入する場合と、事前に許可受けた地へ（松原枠）導入する場合。
- B 公募移住 移住者を日本にて募集し、引受希望耕主に推薦し、労務契約を作成し呼寄る（工場関係等技術者も同様）。
- C 指名移住 移住者を指名して呼寄る。この場合、雇用契約によるものと、保証状による近親呼寄がある。

この分類に従い導入形態を図解する。



第二章 現行導入形態の手続方法

海協連では、計画移住の場合者は現地より申請があつた後、公募移住者の場合は、職種を大別5種類（コーヒー園コロノ、蔬菜、果樹、養鶏、雑作）に分け、常時包括募集を行つており、後者の場合は、適格者の関係書類をサンパウロ支部(IAMIC Ltda. サンパウロ移住幹旋部)へ適時送付しており、支部では、日本にて厳選された移住適格者の登録簿を備え付けている。

更に指名呼寄にて、被呼寄人が渡航費を、海協連より借りて導入する場合についても、次の手続を行う必要がある。

1. 公募移住者の呼寄手続

A 特定公募と呼寄手続

資料2の申請書3部に、夫々※印を全部記載の上、サンパウロ支部へ提出する。支部では、右申請書を審査し適当と認めるときは（必要に応じ耕地又は工場等受入施設を調査する）在サンパウロ日本国総領事館を経由、海協連へ募集方連絡をとる。

海協連では、農業移住者の場合は、外務省、農林省、その他工業技術移住者の場合は、外務省及び所管省と協議の上募集を行い、関係係官出席の下に厳重な選考を行つて適格者を選定し、雇用契約作成に必要な戸籍謄本、適格者名簿、必要に応じ選考概況書並びに、訓練所における調書を支部へ送付してくる。

支部では、適格者名簿及び戸籍謄本を受領後は直ちに申請人に回送し、後述指名呼寄と同様の方法により次の書類を作成願ひ提出して頂き、審査の上海協連へ返送する。

- a 雇用契約書
- b 鑑識手帳フोटコピア
- c 地租納税証（又は耕地登録証）フोटコピア

B 移住適格者の引受と呼寄手続

移住者導入を希望する方は、直接支部へ出願するか、雇用条件その他記載の申請書3部を提出すれば、登録者のある場合には、直ちに登録者側の希望を斟酌し適当な適格者を推薦することになる。

これにより引受が確定した場合は、日本へ引受確定及び雇用条件等を通知し、渡航の諾否を再確認すると共に、引受人側へは、前項Aと同じ方法にて書類作成方依頼することになるので、出来る丈早く提出することが必要である。

C 主な記載事項

- a 申請者（又は団体）氏名及び住所
- b 就働地名及び所在地
- c 引受希望期日
- d 引受家族（又は単身）数
- e 雇用条件
- f 耕地（又は工場）の概況
- g 現地の呼寄手続費用の負担方法
- h 契約期間中の移住者の年別収支計画の概要
- i 移住者に対する要望事項その他

2. 指名移住者の呼寄手続

呼寄人が知人又は県人会、業者等の仲介により未知の移住者を呼寄せる場合は、支部に次の書類を提出願いたい。

A 雇用契約による呼寄の場合

- a 渡航費貸付並びに送出国申請書
- b 雇用契約書
- c 鑑識手帳フोटコピア
- d 地租納税証（又は耕地登録証）フोटコピア
- e 移住者の戸籍謄本

B 主な記載事項

- a 渡航費貸付並びに呼寄申請書

- イ 申請者氏名及び住所
- ロ 提出書類
- ハ 呼寄人に関する事項
- ニ 被呼寄人に関する事項
- ホ 呼寄書類作成に要した費用及び負担者
- ヘ 雇用条件
- ト 営農収支予想
- チ 雇用期間終了後の援助の有無
- リ 耕地の概況
- ス 日本における渡航手続代行者
- ル 呼寄人と被呼寄人との関係

b 雇用契約書

イ 呼寄人関係

氏名及び年令、生年月日、両親氏名、国籍、職業地位独身、既婚の別、住所、被呼寄人を就働させる農(工)場の名称及び所在地

ロ 被呼寄人関係

氏名、年令、生年月日、国籍、職業、出生地独身、既婚の別、両親氏名、現住所(同伴者全員につき記載のこと)

ハ 契約条件

就働場所、就働職種、給料又は歩合、契約年限、余間作地貸与の有無、住宅、医療、最低生活の保証、労働法規に準拠する労働の保証、病気その他万止むを得ざると認められたる事由により、日本総領事館の判断により、被呼寄人が帰国を余儀なくされた場合の帰国につき一切の費用負担、被呼寄人が万一裁判(訴訟事件)を必要とする場合一切の費用負担、上陸港より就働地迄の旅費一切の負担。

(一家族中に50才未満の二夫婦を同時契約することは出来ない。成年男子は単独契約をすることができる。給料額記載の場合は、当国の労働法が規定する最低賃銀以上を記載し、保証すること。)

- c 地租納税証（又は耕地登録証）フोटコピア
 - イ 雇用契約書1件につき1通
 - ロ 税務所（コレトリア）発給のもので、Autenticação を要す。
 - ハ 技術者呼寄の場合は、会社(工場)の営業収益税 (Imposto sobre renda) のフोटコピアが必要である。
- d 鑑識手帳（又は外国人登録）フोटコピア
 - イ 雇用契約書1件につき1通
 - ロ Autenticação を要す。
- e 戸籍謄本
 - イ 被呼寄家族のもの、
 - ロ 渡伯者の氏名両親氏名、及び本籍地に振仮名を要す。

C 保証状による呼寄方法

被呼寄家族を指定する場合で、雇用契約が結べない場合のうち、呼寄人との関係が次の場合は、保証状により、近親呼寄とすることができる。但し、当国の永住権を所持するものに限られ、呼寄人は、成年男子でなければならぬ。

- a 三親等以内の未亡人
- b 未成年の孤児
- c 未成年孫孤児
- d 妻
- e 六十才以上の両親
- f 未亡人となつている母
- g 未成年の子供
- h 独身又は未亡人である娘
- i 未成年の弟又は義弟
- j 独身又は未亡人である姉妹又は義姉妹
- k 被後見人

なお、経済的保証を与え、同居して生活する場合に限り呼寄ることがで

きる。

渡航費貸付を受ける場合は、次の書類を提出すること。

a 提出書類

- イ 近親呼寄並びに渡航費貸付申請書
- ロ 呼寄保証状
- ハ 呼寄人の鑑識手帳フोटコピア
- ニ 地租納税証フोटコピア（土地所有の場合）又は雇用主の発給する呼寄諸能力証明書
- ホ 戸籍謄本

b 主な記載事項

- イ 近親呼寄並びに渡航費貸付申請書

提出書類数

呼寄人に関する事項

被呼寄人の渡航費返還に関する誓約

被呼寄人に関する事項

日本における渡航手続代行者

- ロ 呼寄保証状 (Escritura de Assunção de Compromisso de Manutenção)

呼寄保証人関係

氏名及び年齢、生年月日、両親氏名、国籍、身分証明書番号、既婚、独身の別、現住所

被呼寄人関係

続柄、氏名、生年月日、国籍、職業、両親氏名、出生地、現住所

保証条項関係

被呼寄人が渡泊するに必要な総ての費用を負担する。

当該管轄官憲の判断により、本国へ帰国させねばならぬ場合の帰国についての一切の費用を負担する。

被呼寄人が万一裁判を必要とする場合の一切の費用を負担す

る。更に呼寄側にては、生活を共にし、法律に定められた生活、食、住並びに必要な援助を保証する。

c) 渡航費を借受ける場合は、戦後の渡航費貸付移住者が近親を呼寄る場合であるが、戦後の自費渡航者の場合は更に次の書類を提出して審査を受けることも出来る。

- イ 呼寄人が自費渡航したときの事情並びに理由
- ロ 呼寄人が渡航費負担能力がないと認められる理由
- ハ 呼寄人が渡航費負担能力はないが、確実に渡航費貸付金を返済するという誓約及び返済しうると判断される資料
- ニ 被呼寄人が渡航費を負担することが出来ない理由
- ホ 呼寄人が被呼寄人を呼寄せるに至った経緯
- ヘ 呼寄人の生活状況及び扶養能力
- ト その他、渡航費を借受けない限り、渡航し得ないと判断される資料

3. 計画移住者の導入手続

ここで計画移住者とは、伯国移民法第10条により査証を受け入国するものであり、日本における渡航手続費用は相当低減され、日伯間に移住協定が批准されていない現在では、呼寄を裏口と呼ぶに対して計画を表口移住と呼び入国方法の本筋である。

大別して次の二方法があり、その申請方法は後述の通りである。

なお、呼寄の内公募移住者を同一耕地に10家族以上纏めて導入する場合は、方法Aにより申請することができる(註、日伯間の移住協定は1960年11月14日調印された)。

A 中南伯地域へ導入の枠(4,000家族)を利用する方法

この場合は、次の書類を三部作成し支部へ提出のこと。支部では、審査の上特許取得人へ送付手続を開始する。

a 提出書類

- イ 耕地に関する報告書 3部

ロ 移住者受入計画書 3部

ハ 地主の鑑識手帳フオトコピア 1部

ニ 耕地登録証フオトコピア 1部

b 主な記載事項

イ 耕地に関する報告書 (Informações Acerca da Propriedade)

耕地の名称 Denominação da Propriedade

耕地の所在地 Localidade da Propriedade

耕地主の名前 Nome do Proprietário

耕地の面積 Área da Propriedade

Área Total

Área Preparada para o Cultivo

Área Ocupada Pelas Culturas Permanentes

Área Destinada à Pastagem

Área Ocupada Pela Mata

耕地の地形と現在の水利状態

Topografia e Curso d'água Existentes na Propriedade

耕地の地質 Qualidade do solo da Propriedade

耕地の主作物 Principais Culturas da Propriedade

耕地の現在の施設造成状態

Instalações e Benefeitorias Existentes na Propriedade

農業機械器具 (トラック, ジープ, トラクター, その他)

Maqs e Instrumentos Agrícolas (Jeep Tratores)

耕地に就働しているコロノ

Número dos Colônos Nacionais

Número dos Colônos Japoneses

Número dos Colônos de Outros Nacionalidades

ロ 移住者受入計画書

Plano de localização dos Imigrantes Japoneses na fazenda

……situada no Municipio de……Estado de……

ハ 雇用契約（小作農契約）内容

Contrato de Parceria Agricola

B 既特許取得組合の枠を利用して導入する方法

現在、コチア産組は、3年間に1,500名導入の第2次許可枠を及び産組中央会は500家族導入の第2次許可枠を取得しており、この組合に所屬している組合員が導入を希望する場合は、当該組合へ申請のこと。

なお、勿論指名呼寄にて導入することも出来る。

4. 渡航費貸付規準について

昭和27年以降中南米諸国その他政令で定められている外国（ブラジルを含む）に永住の目的をもって移住する者に対しては、日本海外協会連合会が、次の条件を審査して、適格者に渡航費必要額の全額を貸し付け送出している。

なお、昭和27年以降昭和35年3月31日迄に渡航したものは、その返済が4年据置（利付）爾後8カ年平均等年賦償還として貸付けられていたが、法律第46号（35年3月31日公布、35年4月1日施行）により緩和された。

A 貸付条件（範囲）

a 政府の監督のもとに海協連が、募集、選考、送付する所謂計画及び公募移住者に対しては原則として貸付ける。

b 予算に余裕のある場合には、後記の必要書類を整備したのものには、渡航費を貸付けることができる。

c 前述 a, b の貸付移住者の家族で、近親呼寄として入国許可を得たものの内次の項全部具備した場合には、審議の上、渡航費を貸付けることが出来る。

イ 呼寄者が渡航費の負担能力なきものと認められる書類

ロ 呼寄者の生活状態、経営又は就労状況、渡航費の返済状況、渡航費の返済みとおし等記載の申請書（在外公館の証明を海協連支部ほうける）

ハ 戸籍謄本

- ニ 呼寄者の渡航費貸付金返済誓約のあるもの
 - ホ 呼寄保証状のあるもの
 - d 戦後渡伯の自費渡航者で、近親を呼寄る場合、渡航費の貸付を受けねば呼ぶことができない際は、特別に審議を受けることができる。この場合は、前述(4.Aのc)以外に更に(2.Cのc)の書類を提出のこと。
 - e 渡航費貸付の対象は、日本国籍保有者のみとする。
- B 貸付条件(期間、利率その他)
- a 昭和35年4月1日以降の貸付条件
 - イ 利率10年間無利率、爾後3分6厘5毛
 - ロ 償還10年間据置、爾後10年の元利均等償還
 - b 昭和35年3月31日以前の貸付債権の変更
 - イ 利率、利息 今後の利率は新条件と同率とし、既に発生した利息(旧利率)は元本に組入れる。
 - ロ 償還 現実に貸付けた時から起算して新条件による。

5. 移住者到着予定通知について

呼寄又は引受を申請した移住者が、日本を出発した場合は、乗船名及びサントス入港(又はリオ・グランデ港)予定日並びに携行荷物の内、船舶荷物の個数及び重量を通知する。

入港確定日及び時間等は直接船会社代理店或はラジオ、新聞等にて確め出迎え願ひ度い。

なお、サンパウロ州内に入植する移住者に対しては、無賃乗車券及び貨物無料輸送の便宜が与えられているので州移民局に提出する申請書に必要事項記入の上入植地方の農務局指導官出張所(Casa de Lavoura)担当官の認証を取り付け、在サントス州移民局(Rua General Camara 198)へ提出し、無料切符を受取られ度い。

大阪商船サンパウロ支店 Tel. 35-4186

オランダ汽船サンパウロ支店 Tel. 34-3985

その他

A サントス移住者宿泊所について

サントス移住者宿泊所は、サントス市カンポス・サーレス大通り62番(Av. Canpos sales 62, Santos)に開設されており、移住者がサントス到着後、税関検査を経て、夫々の入耕地に出発するまで、休息又は必要に応じ宿泊出来る準備がきている。

移住船入港時ここでは、次の業務を行う。

- a 移住者の携行金の両替、営農資金の受渡しを行う。(南米銀行係員)
- b 鉄道の無料乗車券の発給、及び貨物無料輸送の斡旋手続を行う。(州移民局係員)
- c 総領事館に対する在留届の提出。
- d 診療室において、必要な検診或は施薬を行う。(海協連嘱託細江医師)
- e 食事、弁当等必要とする場合は、外注であるが、申出により、あつせする。
- f 入植先不明或は変更又は耕地その他の事情についても相談に応ずる。
- g 引受人と移住者が懇談して頂く。
- h 移住者は原則として、全員一定入所して頂き、退所の際には係に申出て頂く。

B 入植地移動の場合の住所変更届について

支部においては、在サンパウロ総領事館へ提出の在留届及び、呼寄申請の際の入植地を記載した、カードを作成しているので入植地を移動する場合は、次の事を記載し提出願ひ下さい。

住所変更届(2部)

- | | |
|----------|------|
| イ 家長氏名 | 同伴者名 |
| ロ 本籍地 | |
| ハ 渡航年月日 | 船名 |
| ニ 呼寄人氏名 | |
| ホ 最初の入植地 | |
| ヘ 移動先 | |

ト 移動先引受人氏名

チ 移動理由の概略

リ 渡航費返還のみとおし

なお、新引受人は、最初の呼寄人が負つた全責任を呼寄人に代つて引受ける旨の誓約書を支部へご提出願ひ度い。

おつて、呼寄人は、引受けた移住者が移動した場合は、その移動概略、月日、行先等ご連絡下さい。

第三章 南伯移住者の入国状況

南伯地域に導入された移住者は、昭和28年7月5日サントス港に入港のドラードス連邦植民地向け移住者を最初とし、導入方法は第一章にて述べた順により、昭和35年6月末日現在24,025名を受入れている。

第一節 入 国 概 況

南伯には、戦前の移住者を含め日系約38万人居住しており、ブラジル国内でも比較的開られた地域であるため、中伯或は北伯の如き、開拓自営農として入植出来る植民地は少ない。

開拓自営農として入植した所は、ドラードス植民地バルセア、アレグレ植民地等2~3カ所のみで、他は、在留邦人或は外人耕主の雇用により呼寄せ入植したもので、この点特殊性がある。

更に、雇用にて導入したものの内で、知人或は、親族等の呼寄が海協連で公募して、就働先を斡旋したものよりも多いのが、その特殊性を如実に示しており、中には、戦前の海外興業株式会社的方式を踏襲している旅行斡旋業者があり、これは一種の公募で、本来は、公募の部類に属するものである。

第二節 年度別入国統計

此処で年度別とは、4月1日より翌年3月31日に終る会計年度で、右年度

内に日本より送出されたものを集計した。従つて、サントス入港又はリオ・グランデ港の入港日とは関係がない。

1. ブラジル入国移住者統計表

年度	地区別	南 伯		中 伯		北 伯		計
1952年度		0		0		54		54
1953		417		345		722		1,484
1954		665		27		2,833		3,525
1955		2,453		53		172		2,678
1956		3,830		360		364		4,554
1957		4,218		54		574		4,864
1958		5,844		108		225		6,177
1959		6,598		509		201		7,308
総 計		24,025		1,456		5,145		30,626

2. 南伯入国移住者形態別統計表

年度	形 態 別				計 画				公 募				指 名				総 計			
	家	人	単	計	家	人	単	計	家	人	単	計	家	人	単	計	家	人	単	計
1953年度	74	417	0	417	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74	417	0	417
1954	47	295	0	295	54	311	0	311	7	27	32	59	108	633	32	665				
1955	68	437	351	788	204	1,187	0	1,187	89	384	94	478	361	2,008	445	2,453				
1956	29	194	426	620	281	1,747	33	1,780	239	1,176	254	1,430	549	3,117	713	3,830				
1957	26	149	497	646	120	766	35	801	406	2,410	361	2,771	606	3,325	893	4,218				
1958	44	267	277	544	153	975	63	1,038	739	3,682	580	4,262	928	4,924	920	5,844				
1959	48	210	314	524	327	1,861	114	1,975	688	3,323	776	4,099	1,063	5,394	1,264	6,598				
総 計	338	1,969	1,865	3,834	1,139	6,817	245	7,992	2,215	11,002	2,097	13,099	3,690	19,818	4,207	21,025				

3. 州別入植統計表

年度別	州 別	サ ン		マ	南	ミ	計
		パ	ウ	ット	大	ナス	
昭和28(1953)		0	0	417	0	0	417
29(1954)		661	0	4	0	0	665

30年度(1955)	2,019	349	84	0	1	2,453
31(1956)	2,817	588	83	342	0	3,830
32(1957)	3,788	262	43	125	0	4,218
33(1959)	4,534	768	415	127	0	5,844
34(1958)	5,673	403	173	347	2	6,598
総計	19,492	2,370	1,219	941	3	24,025

4. 導入時の職種別統計表

年度	職種 近 疎 その他	近 疎 その他	養 蚕 作 業	地 産 物 作 業	開 拓	分 益	実 習 生	青 年 隊	技 術 (企業)	計	備 考
昭和 28年度 (1953)	✓				417					417	INIC扱 ドラードス 417名
29 (1954)	53	295	311	4					2	665	INIC扱 養蚕 295名
30 (1955)	1,574	361	400	84					34	2,453	INIC扱 養蚕300名 コチア 406名 ドラードス 82名
31 (1956)	106	1,695	1,588	64	342				35	3,830	INIC扱 養蚕194名 コチア 426名
32 (1957)	525	2,522	960	42	125	11	16	17	4,218		INIC扱 養蚕149名 コチア 497名
33 (1958)	2,370	1,776	1,150	329	113	31	27	48	5,844		INIC扱 養蚕208名 コチア 277名 バルゼア・アレグレ 59名
34 (1959)	4,994	274	761	128	344	10	18	69	6,598		INIC扱 養蚕 98名 コチア 350名 バルゼア・アレグレ 76名
総計	9,622	6,923	5,170	1,068	924	52	61	205	24,025		INIC扱 3,834名 公募指名雇用 20,191名

(註記) 前掲統計表の年度区切りは次の通りである。

1953年度分は、同年5月15日サントス入港船より翌年2月4日船迄

1954年度分は、同年7月30日サントス入港船より翌年5月6日船迄

1955年度分は、同年6月7日サントス入港船より翌年5月4日船迄

1956年度分は、同年5月18日サントス入港船より翌年5月14日船迄

1957年度分は、同年5月21日サントス入港船より翌年5月17日船迄

1958年度分は、同年5月17日サントス入港船より翌年5月10日船迄

1959年度分は、同年5月23日サントス入港船より翌年5月18日船迄

なお、サンパウロ州内入植者の多いのは、呼寄組合がサンパウロ市に留集しているためであり、相当数が、パラナ州に受け入れられている。

24,715
24,025 = 90.38%

4. コチア産業組合第一次導入枠利用状況

船名	サントス入港日	人員	備考
あめりか丸	1955. 9. 15	109	
ぶらじる丸	1955. 11. 8	8×55+106	家族が含まれている
あめりか丸	1956. 2. 17	124	
ぶらじる丸	1956. 3. 13	12	
あふりか丸	1956. 5. 18	79	
ルイス号	1956. 6. 9	1×2+17	17名は青年隊員 家族が含まれている
チサダネ号	1956. 9. 11	118	
ルイス号	1956. 11. 7	88	
ぶらじる丸	1957. 1. 16	124	
あめりか丸	1957. 5. 21	125	1名航海中に死亡
ぶらじる丸	1957. 6. 11	65	
さんとす丸	1957. 9. 12	83	
ぶらじる丸	1957. 9. 11	82	
さんとす丸	1958. 1. 13	91	
ぶらじる丸	1958. 3. 23	16	16名は青年隊員
さんとす丸	1958. 5. 17	56	
ぶらじる丸	1958. 6. 15	76	
あふりか丸	1958. 8. 20	52	4名は青年隊員
ぶらじる丸	1958. 10. 12	3	3名は青年隊員
テゲルベルグ号	1958. 7. 10	1	
計	19航海船	1,519名	

(註) 第一次導入枠は1,500名であるところ、1,519名が渡伯してきているが、9家族含まれていて、単独査証を必要としない同伴者がいるためである。但し、実際査証受数は、1,499件であるが、この件数で、完了した旨報告済みである。

5. パウリスタ養蚕協会第一次導入枠利用状況

船名	サントス入港日	家族数	人員
ぶらじる丸	1954. 9. 15	45	284
あめりか丸	1954. 11. 6	2	11
あめりか丸	1955. 9. 15	31	209
ボイスベン号	1955. 10. 5	7	51
ルイス号	1956. 1. 6	4	23
あめりか丸	1956. 2. 17	1	6
ぶらじる丸	1956. 3. 13	2	11
ぶらじる丸	1956. 8. 14	15	101
あふりか丸	1956. 10. 21	3	29
ぶらじる丸	1957. 1. 16	7	42
テアルベルグ号	1957. 3. 14	1	6
ムサグネ号	1957. 2. 6	1	5
ルイス号	1957. 4. 11	3	16
ボイスベン号	1957. 6. 9	3	16
さんとす丸	1959. 9. 12	22	129
テゲルベルグ号	1958. 1. 12	1	4
ぶらじる丸	1958. 10. 12	18	102
あふりか丸	1959. 1. 16	7	48
ぶらじる丸	1959. 2. 5	10	58
ぶらじる丸	1959. 7. 14	8	49
さんとす丸	1959. 10. 17	4	23
あるぜんちな丸	1959. 12. 8	5	26
計	22航海船	200家族	1,249名

第三節 導入形態、職種、地域及び呼寄主体別統計

昭和28年度移住者受入概況

概況

昭和28年5月15日神戸港出帆のルイス号（7月5日サントス入港）より、同年度内南伯向移住者入国は、昭和28年12月23日神戸出帆のあふりか丸（29年2月4日サントス入港）までであるが、導入（後述）は、所謂ドロードス連邦植民地向け、開拓移住者417名のみであった。

移住者の導入形態及び就働職種は次の通りである。

1. 形態別 計画移住者（ブラジル農務省土地局植民課許可分）

ドロードス連邦植民地	74家族	417名
------------	------	------
2. 州別入植数

マット・グロソン州	74家族	417名
-----------	------	------
3. 地域別入植数

マット・グロソン州南部	74家族	417名
-------------	------	------
4. 職種別入植数

開拓自営農	74家族	417名
-------	------	------

地域、職種、呼寄主体別導入統計表

昭和28年度分 自 1953. 5. 15 ルイス号
至 1953. 12. 23 あふりか丸

地域別	職種別	呼寄主体別	入 植 数			
			家 族	人 員	単 身	計
マット グロソン	開拓自営	日本拓植協同組合	74	417	0	417
		計	74	417	0	417

昭和年29年度移住者受入概況

概況

昭和29年度の南伯向入国は、7月30日神戸出帆のぶらじる丸（9月15日サントス入港）よりであり、同日本会計年度内の送出国は、昭和30年3月30日神

戸出帆のあぶりが丸（5月6日サントス入港）分までである。

導入数（後述）は計画移住者295名、公募移住者311名及び指名移住者59名の計665名であった。

移住者導入形態及び就働職種は次の通りである。

1. 形態別

イ 計画移住者（INIC 枠）

パウリスタ養蚕協会扱	47家族	295名		計	295名
ロ 公募移住者	54家族	311名		計	311名
ハ 指名移住者	7家族	27名	単身 32名	計	59名
小計	108家族	633名	単身 32名	計	665名

2. 州別入植数

サンパウロ州	107家族	629名	単身 32名	計	661名
マット・グロソン州	1家族	4名			名
計	108家族	633名	単身 32名	計	665名

3. 入植地域（線）別入植数

入植地（線）別	家族数	その員数	単身	計
ノロエステ線	54	311	0	311
サンパウロ市			2	2
その他サンパウロ州内	53	313	30	348
マット・グロソン州	1	4		4
計	108	633	32	665

4. 職種別入植数

職 種 別	家族数	その員数	単身	計
奥地養蚕雑作	47	295	0	295
珈琲	54	311	0	311
近郊蔬菜業	6	23	30	53
開拓自営農業	1	4	0	4
技術	0	0	2	2
計	108	633	32	665

5 地域、職種、呼寄主体別統計表

昭和29年度分 自 1954. 7. 30 ぶらじる丸
至 1955. 3. 30 あふりか丸

地 域	職 種	呼 寄 主 体 別	家族	人員	単身	計
ノロエステ	珈 琲	カフェランジア味寄組合	24	155	0	155
〃	〃	サンルイス耕地	11	60	0	60
〃	〃	和歌山県人会(カフェランジア)	19	96	0	96
サンパウロ市	技 術	パウリスタ新聞社			2	2
その他州内	奥地養蚕	パウリスタ養蚕協会	47	295	0	295
〃	近郊蔬菜	日 伯 協 会	3	11	11	22
〃	〃	日 本 力 行 会	3	12	19	31
マット・グロッソ	自営開拓	松 原 耕 地	1	14	0	4
計			108	633	32	665

昭和30年度移住者受入概況

昭和30年5月4日神戸港出帆のぶらじる丸(サントス入港日6月7日)より、昭和31年3月14日神戸港出帆のテゲルベルグ号(サントス入港日5月4日)までの導入数(後述)は計画移住者788、名公募移住者1,187名、指名移住者378名の計2,453名であった。

移住者導入形態及び就働職種は次の通りである。

1. 形態別

イ 計画移住者 (INIC 枠)

パウリスタ養蚕協会扱	45家族 300名	計 300名
コチア産業組合扱	8家族 55名 単身 351名	計 406名
ドラーds連邦植民地	15家族 82名	計 82名
小 計	68家族 437名 単身 351名	計 788名
ロ 公募移住者	204家族1,187名	計1,187名
ハ 指名移住者	89家族 384名 単身 94名	計 478名
小 計	361家族2,008名 単身 445名	計2,453名

2. 州別入植数

サンパウロ州	279家族1,580名 単身 439名	計2,019名
--------	---------------------	---------

パラナ州	66家族	344名	単身	5名	計	349名
マット・グロソン州	16家族	84名			計	84名
ミナス州			単身	1名	計	1名
小計	361家族	2,008名	単身	445名	計	2,453名

3. 入植地域別(線)入植数

入植地域(線)別	家族	人員	単身	計
中央線地域	10	44	7	51
アララクアラ線	1	10		10
パウリスタク線	16	46	8	54
ソロカバナ線	16	89	3	92
ノロエステ線	132	797	7	804
その他州内	104	594	414	1,008
マット・グロソン州	16	84		84
パラナ州	66	344	5	349
ミナス州			1	1
計	361	2,008	445	2,453

4. 職種別入植数

職種別入植	家族	人員	単身	計
奥地養蚕雑作	45	300		300
〃珈琲	76	392	8	400
〃榴作	10	61		61
蔬菜雑作	201	1,144	430	1,574
自営開拓農	16	84		84
技術(企業)	13	27	7	34
計	361	2,008	445	2,453

地域、職種、呼寄主体別統計表

昭和30年度分 自 1955. 5. 4 ぶらじる丸
至 1956. 3. 14 テゲルベルグ号

地域	職種	呼寄主体別	家族	人員	単身	計
中央線	近郊蔬菜雑作	近郊蔬菜果樹業者会	7	31	1	32
〃	〃	モジダス・クルーゼス産組	3	13	4	17

〃	〃	イタケーラ日本青年協会			2	2
アララクワラ線	奥地雑作	ボッポランガ日会	1	10		10
パウリスタ線	〃	カンピーナス産組			1	1
〃	〃	ボンベイア日本人会	2	6	1	7
〃	〃	ベレイラ・バレット日会	1	3	6	9
〃	珈琲	ガルサ神仏協会	2	14		14
〃	衛生	バストス中島製糸	11	23		23
ソロカバナ	奥地雑作	サンタクルス・ド・リオバルド			1	1
〃	棉作	カテイガイ	1	7		7
〃	〃	マラカイ	9	54		54
〃	珈琲	ブレンデンデ・ベルナルデス日会	6	28	2	30
ノロエステ	〃	パウルー日伯文化	1	2		2
〃	〃	カフエランジア呼寄組合	63	435		435
〃	〃	平野植民地	2	11		11
〃	〃	在伯和歌山県人会	33	182	1	183
〃	〃	フエリシグーデ耕地	7	46		46
〃	〃	福寿植民地	6	33		33
〃	〃	サンタ・マリア耕地	5	10	4	14
〃	〃	アラサツーパー日会			1	1
〃	〃	ホルモーザ耕地	15	78		78
〃	〃	グァイサーラ日会			1	1
その他州内	技衛	ルミノーズ・レインボー会社 (JATIC)	2	4	2	6
〃	〃	モンテ・アレグレ陶磁器KK			4	4
〃	雇傭	南米銀行			1	1
〃	養蚕	パウリスタ養蚕協会	45	300		300
〃	奥地雑作	コチア産組	15	107	351	458
〃	〃	スール・ブラジル中央産組			1	1
〃	〃	ガクホランガ北海道県人会	1	6		6
〃	〃	在伯青森県人会			1	1
〃	〃	〃福島県人会	2	9		9
〃	〃	〃山形県同郷会			2	2
〃	〃	〃三重県人会	1	6		6
〃	〃	〃山口(防長)県人会			4	4
〃	〃	〃広島(芸備)県人会	5	20		20
〃	〃	〃愛媛県人会	1	4		4
〃	近郊蔬菜	アルジ一日会			1	1

その他州内	近郊蔬菜	サンクイザベラ日会			2	2
"	"	日本力行会	6	17	20	37
"	"	日伯協会	20	114	12	126
"	"	長谷川事務所	2	7	13	20
パラナ州	珈琲	ブーグレ耕地	10	70		70
"	"	ウライ日本人会	2	4		4
"	"	トレスバラス連日会	5	23	2	25
"	"	アサイ日本人会	3	13		13
"	"	コルネリオ・プロコビオ日本人会	2	13	1	14
"	"	マリアルバ日会			1	1
"	"	アブカラナ日会			1	1
"	"	ロンドリーナ連合日会	44	221		221
マット・グロッソ州	自営開拓	ドロードス連邦植民地	44	82		82
"	"	松原耕地	15	2		2
ミナス州	技術	シャーレ鉦山	1		1	1
計			361	2,008	445	2,453

昭和31年度移住者受入概況

概況

昭和31年4月3日神戸港出帆のあふりか丸（5月18日サントス入港）より昭和32年3月17日同神戸港出帆のチチャレンガ号（5月14日サントス入港）までの南伯地区導入数は、計画移住者620名、公募移住者1,780名及び指名移住者1,430名の計3,830名であった。これら移住者の導入形態、州及び入植地域並びに就働職種は次の通りである。

1. 形態別

イ 計画移住者 (INIC 枠)

コチア産業組合扱		単身	426名	計	426名
パウリスタ養蚕協会扱	29家族		194名	計	194名
小計	29家族	単身	426名	計	620名
ロ 公募移住者	281家族	単身	33名	計	1,780名
ハ 指名移住者	239家族	単身	254名	計	1,430名
総計	549家族	単身	713名	計	3,830名

2. 州別入植数

州 別	家 族	人 員	単 身	計
サンパウロ州	391	2,160	657	2,817
パラナ州	95	572	16	588
マツト・グロッソ州	10	72	11	83
リオ・グランデ・ド・スール州	51	313	29	342
総 計	549	3,117	713	3,830

3. 入植地域(線)別入植数

入 植 地 域 (線) 別	家 族	人 員	単 身	計
中央線関係地域	14	66	24	90
サントス・ジュンジャイ線 #	1	6	0	6
ブラガンサ線 #	2	10	2	12
モジアナ線 #	1	6	0	6
アララクワラ線 #	4	27	0	27
聖南西 #	1	5	1	6
ソロカバナ線 #	14	79	6	85
バウスタ線 #	24	137	5	142
その他サンパウロ州内	185	937	572	1,509
# 技 術 衛	5	23	12	35
南大河州	51	313	29	342
マツト・グロッソ州	10	72	11	83
パラナ州	95	572	16	588
ノロエステ線	142	864	35	899
総 計	549	3,117	713	3,830

地域、職種、呼寄主体別統計表

昭和31年度分 自 1956. 4. 3 あふりか丸
至 1957. 3.17 テゲルベルク号

地 域	職 種	呼 寄 主 体 別	家 族	人 員	単 身	計
サンパウロ中央線	近郊蔬菜	イクケーラ 共済会			1	1
#	#	日本青年協会(イクケーラ)			3	3
#	#	スザノ産組	8	34	10	44
#	#	バルメイラ日会	1	8		8
#	#	モジ・グス・グルーゼス産組	1	6	4	10

サンパウロ中央線	近郊蔬菜	曙父兄会(モジ)	1	4		4
"	"	聖市近郊蔬菜業者会(＃)	2	10	3	13
"	"	カプテラ六キロ日会(＃)			1	1
"	"	トレメンバー日会	1	4		4
"	"	ボーイスカウト			1	1
"	"	ゼツパーバ日会			1	1
		小計	14	66	24	90
サントス線	"	ジェンジア日会	1	6		6
ジュンシア線	奥地雑作	ブラガンサ連日会	2	10	2	12
ブラガンサ線	"	汎リベロンブレット連日会	1	6		6
モジアナ線	"	ポッポランガ日会	4	27		27
アララグワラ線	"	ボッポランガ日会	4	27		27
聖南西	近郊蔬菜	レチストロ共済会			1	1
"	"	グアピアーラ連日会	1	5		5
		小計	1	5	1	6
ソロカバナ線	"	セードロ日会(ジュキア)	1	4		4
"	奥地雑作	サンタクルスドリオバルド日会	1	3		3
"	"	オウリーニヨス産組	3	12	1	13
"	"	ミランテ日会			1	1
"	"	プレシデンテ・ベルナルデス日会	9	60	4	64
		小計	14	79	6	85
パウリスト線	奥地雑作	バラブアン日本人会	1	2		2
"	"	バストス連日会	3	28		28
"	"	サウーデ日会	1	7		7
"	"	ドラセーナ日会			2	2
"	"	ボンベイア日会			1	1
"	"	アダマンチーナ連日会			1	1
"	珈琲	シヤンテ・ブレー耕地	12	69		69
"	"	ツパン日本人会	5	20	1	20
"	"	ドアルチーナ日会	2	11	5	12
		小計	24	137	5	142
ノロエステ線	珈琲	パウルー日伯文化	3	18		18
"	"	天理教伝道庁			5	5
"	"	サンルイス耕地	3	17		17
"	"	サンタ・マリア耕地(産組)	6	32	3	35

ノロスエテ線	琉	球	カフエラ	ン	ジ	ア	呼	寄	組	合	46	308	7	315
〃	〃	〃	平	野	植	民	地				1	2		2
〃	〃	〃	ゼ	ツ	リ	ー	ナ	連	日	会	1	6	1	7
〃	〃	〃	福	寿	植	民	地				3	17	1	18
〃	〃	〃	フ	ェ	リ	シ	ダ	ー	デ	耕	1	5		5
〃	〃	〃	在	伯	和	歌	山	県	人	会	6	35	4	39
〃	〃	〃	サ	ン	タ	・	ア	メ	リ	カ			9	9
〃	〃	〃	(ゼ	ツ	リ	ー	ナ						
〃	〃	〃	リ	ン	ス	日	本	人	会		3	15	1	16
〃	〃	〃	イ	カ	ツ	ー	耕	地			6	40		40
〃	〃	〃	ス	イ	ッ	サ	耕	地			40	243		243
〃	〃	〃	安	瀬	耕	地					18	110	2	112
〃	〃	〃	ホ	ル	モ	ー	ザ	耕	地		1	3		3
〃	〃	〃	ブ	ロ	ミ	ッ	ソ	ン	連	日	2	6		6
〃	〃	〃	ミ	ラ	ン	ド	ボ	リ	ス	日	1	5		5
〃	〃	〃	ベ	ン	ナ	ボ	リ	ス	日				1	1
〃	〃	〃	グ	ァ	イ	サ	ー	ラ	熊	本	1	2	1	3
			小	計							142	864	35	899
サンパウロ州内	技	術	J	A	T	I	C	会	社		3	13		13
〃	〃	〃	原	合	名	会	社				1	5	9	14
〃	〃	〃	共	同	印	刷	会	社					1	1
〃	〃	〃	エ	ス	ト	ラ	・	フ	ィ	ー	1	5	2	7
			小	計							5	23	12	35
その他州内	農	産	バ	ウ	リ	ス	ク	養	畜	協	30	199		199
〃	農	産	コ	チ	ア	産	組				23	103	429	532
〃	〃	〃	ス	ール	・	ブラ	ジ	ル	中	央	1	4	3	7
〃	〃	〃	エ	ス	ビ	リ	ッ	ト	サ	ン	3	24		24
サンパウロ州内	農	産	在	伯	北	海	道	協	会				1	1
〃	〃	〃	〃	青	森	県	人	会			1	2	2	4
〃	〃	〃	〃	福	島	県	人	会			6	30	6	36
〃	〃	〃	〃	山	形	県	同	郷	会		1	3	4	7
〃	〃	〃	〃	静	岡	県	人	会					1	1
〃	〃	〃	〃	三	重	海	協	支	部		4	16	6	22
〃	〃	〃	〃	芸	備	協	会				1	6	2	8
〃	〃	〃	〃	防	長	人	会				11	49	8	57
〃	〃	〃	〃	高	知	県	人	会			3	14	1	15
〃	〃	〃	〃	愛	媛	県	人	会			8	38		38

サンパウロ州内 その他	奥地雑作	在伯	香川海協支	部			2	2										
"	"	"	福岡県人	会	2	5	6	11										
"	"	"	宮崎県人	会	5	33		33										
"	"	"	大分県人	会	1	3		3										
"	"	"	熊本海協支	部	4	21	4	25										
"	"	"	佐賀県人	会	6	28		23										
"	"	"	沖縄協	会	14	73	1	74										
"	"	"	海協	連	9	36	5	41										
"	"	"	長谷川	事務所	5	26	7	33										
"	"	"	サンタ・マ	ロ日会	1	7	1	8										
"	"	"	サンタ・オ	リビア農園	6	48		48										
"	"	"	アシジ	ャー日会	1	4	1	5										
"	"	"	シチオ	ド・メイオ日会			1	1										
"	"	"	日本文	化協	会	2	10	1	11									
"	"	"	日本力	行	会	9	29	15	44									
"	"	"	日伯	協	会	18	52	17	69									
"	"	"	日輪	学舎父兄	会	17	57	42	99									
"	"	"	ブラジ	ル移住	会	2	8	5	13									
"	"	"	バン	デイランテ	産組			1	1									
"	"	"	大和	日	本	人	会	1	9									
			小	計	185	937	572	1,509										
マットグロ ン州	自管開拓 原用雑作		ド	ラ	ー	ド	ス	9	64	64								
"	"		ド	ラ	ー	ド	ス	(日折扱)	1	8	8							
"	"		リオ・フ	ェー	ロ	植	民	地		1	1							
"	"		プリマ	ベ	ー	ラ	(開	発	青	年	校)	10	10					
			小	計	10	72	11	83										
パラナ州	珈	珈	ブ	ー	グ	レ	耕	地	20	133	1	134						
"	"	"	ト	レ	ス	バ	ラ	ス	連	日	会	5	28	7	35			
"	"	"	コ	ル	ネ	リ	オ	プ	ロ	コ	ビ	オ	日	会	1	4	2	6
"	"	"	レ	ア	ー	ル	耕	地	29	175		175						
"	"	"	ロ	ン	ド	リ	ー	ナ	連	日	会	19	93	1	94			
"	"	"	マ	リ	ア	ル	バ	中	央	日	会	3	14	1	15			
"	"	"	マ	リ	ン	ガ	日	会				2	2	2				
"	"	"	マ	シ	ー	耕	地	10	66		66							
"	"	"	ロ	ー	ラ	ン	ジ	ア	日	会	2	5	2	7				
"	"	"	ゴ	ド	イ	耕	地	8	49		49							

パラナ州	郡	アブカラナ	日会	1	5	5	
		小	計	95	572	16	588
南大河州	市	ホルト	アレグレ			23	23
"	"	サンベード	ロ	33	191	4	195
"	"	"	日輪			1	1
"	"	ジュステーナ	耕地	18	122	1	123
		小	計	51	313	6	342
総計				549	3,117	713	3,830

昭和32年度移住者受入概況

概況

昭和32年4月3日神戸港出帆のあめりか丸(5月21日サントス入港)より、昭和33年3月17日同神戸港出帆のチサダネ号(5月17日サントス入港)までの南伯地区導入数(後述)は、計画移住者646名、公募移住者801名及び指名移住者646名、公募移住者801名及び指名移住者2,771名の計4,218名であった。

これら移住者の導入形態、州及び地域別入植並びに就働職種は次の通りである。

1. 形態別

イ 計画移住者(INIC 枠)

コチア産業組扱		単身	497名	計	497名	
パウリスタ養蚕協会扱	26家族	149名		計	149名	
小計	26家族	149名	単身	497名	計	646名
ロ 公募移住者	120家族	766名	単身	35名	計	801名
ハ 指名移住者	460家族	2,410名	単身	361名	計	2,771名
総計	606家族	3,325名	単身	893名	計	4,218名

2. 州別入植数

州	別	家族	人員	単身	計
サンパウロ州		535	2,937	851	3,788
パラナ州		41	236	26	262

マ ッ ト・グ ロ ッ ソ 州	8	42	1	43
リ オ・グ ラ ン デ・ド・ス ー ル 州	22	110	15	125
総 計	606	3,325	893	4,218

3. 地域(線)別入植数

入 植 地 域(線) 別	家 族	人 員	単 身	計
中 央 線 関 係 地 域	55	549	54	303
ジ ュ キ ア 線	1	3		3
ソ ロ カ バ ナ 線	42	188	51	239
パ ウ リ ス タ 線	49	309	4	313
ノ ロ エ ス テ 線	66	399	17	416
そ の 他 サ ン パ ウ ロ 州 内 地 域	322	1,789	725	2,514
パ ラ ナ 州	41	236	26	262
マ ッ ト・グ ロ ッ ソ 州	8	42	1	43
リ オ・グ ラ ン デ・ド・ス ー ル 州	22	110	15	125
総 計	606	3,325	893	4,218

4. 職種別入植数

職 種 別	家 族	人 員	単 身	計
近 郊 蔬 菜 雑 作 農	95	422	103	525
奥 地 雑 作	300	1,660	713	2,373
奥 地 養 蚕	26	149		149
珈 琲 開 拓 農	153	930	30	960
自 営 開 拓 農	8	42		42
分 益 農	22	110	15	125
技 術 移 住	2	12	5	17
実 習 生			11	11
開 発 青 年 隊			16	16
計	606	3,325	893	4,218

地域、職種、呼寄主体別統計表

昭和32年度分 自 1957. 4. 3 至 1958. 3. 17 あめりか丸
チサダネ号

地域別	職種別	呼寄主体別	入 植 数			
			家族	人員	単身	計
サンパウロ州 中央線	近郊雑作	スザノ産業組合	40	186	33	219
"	"	イタケーラ共済会	1	2		2
"	"	日本青年協会(イタケーラ)	1	5	3	8
"	"	モジ・ダス・グループ産組	3	9	2	11
"	"	カプテーラ六キロ日会	1	3	1	4
"	"	イタカケセツーバ日会			1	1
"	"	セントラル植民会社	5	23		23
"	"	ボーイスカウト(カラムルー)			6	6
"	"	トレメンペー日会	2	11	2	13
"	"	安田耕地(ビンダ)			3	3
"	"	叶野耕地(#)			3	3
サントス デュキア線	"	ジュキア日伯文化協会	1	3		3
ノロガバナ線	"	イタベチニンガ出荷組合	39	170	49	219
"	奥地雑作	プレシデンテ、ブルデンテ 連日会	1	4		4
"	"	プレシデンテ、ベルナルデ ス日会			1	1
"	"	サントアナスタシオ連日会	2	14		14
パウリスタ線	珈琲	シャンテ・プレー耕地	42	271		271
"	"	アグマンチーナ日会	3	18	3	21
"	"	ルセリア明朗日会	1	6		6
"	奥地雑作	カンピーナス産組	2	9		9
"	"	バストス連合日会			1	1
"	"	ドアルチーナ日会	1	5		5
中央線	近郊雑作	ロゼイラ日会	1	5		5
"	"	ボンセソ日会(グアル リヨス)	1	5		5
ノロエステ線	珈琲	パウルー文化協会	2	9		9
"	"	天理教伝導庁	6	32	3	35
"	"	富士植民地(パウル)	1	5	3	8
"	"	福寿植民地			1	1
"	"	敷島日本人会	10	42	4	46
"	"	カフェランジア呼寄組合	1	5		5
"	"	服部耕地	13	97		97

ノロエステ線	珈琲	山下耕	地	1	6		6
〃	〃	グアインベ	日会	1	4		4
〃	〃	リンズ文化	協	1	7	1	8
〃	〃	スイッサ	耕	2	16		16
〃	〃	アラサツ	バ日			2	2
〃	〃	伯国本門	仏立	1	5		5
〃	〃	安瀬	耕	26	167	2	169
〃	〃	ホルモ	ザ			1	1
ノロエステ	珈琲	アトレチコ	倶楽部(アンド	1	4		4
その他州内	奥地養蚕	パウリス	タ養蚕協	26	149		149
その他州内	奥地雑作	サンク・マ	リア産組			1	1
〃	〃	ボッシュ	ール日			1	1
〃	〃	在伯青	森県人	1	5		5
〃	〃	福島	県人	7	32	4	36
〃	〃	山形	県同郷	5	22	20	44
〃	〃	群馬	県人			1	1
〃	〃	静岡	県人	1	3	1	4
〃	〃	福井	県人			1	1
〃	〃	和歌山	県人			1	1
〃	〃	三重	海協支	3	12	3	15
〃	〃	愛媛	県人	1	2	3	5
〃	〃	香川	海協支	2	9	4	13
〃	〃	高知	県人	2	11		11
〃	〃	芸備	協	3	12	4	16
〃	〃	防長	人	10	44	9	53
〃	〃	佐賀	海協支	4	25		25
〃	〃	福岡	海協支			2	2
〃	〃	熊本	海協支	25	138	19	157
〃	〃	宮崎	県人	3	19	4	23
〃	〃	鹿児島	県人	1	2		2
〃	〃	沖縄	縄協	132	862	18	880
〃	〃	沖縄	県人同志	4	37		37
〃	〃	アゼン	シア古			1	1
〃	〃	ハラ	ブアン			1	1
〃	〃	エスピ	リット			2	2
サンパウロ州内	奥地雑作	コチア	産業組	33	153	485	638
その他州内	〃	スール	・ブラジル	2	8	3	11

サンパウロ州内 その他	奥地雑作	フェーラス・バスコンセー ロス(日会)			1	1
〃	〃	ブラジル福生会	1	4		4
〃	〃	ブラジル移住会	23	90	21	111
〃	〃	日伯協定会	12	51	49	100
〃	〃	日輪学会父兄会	5	19	18	37
〃	〃	日本力行会	8	32	20	52
〃	〃	ミスタク産組	1	7	1	8
〃	〃	カークザ東山			2	2
〃	〃	日本文化協会			2	2
〃	〃	サンタ・アメリカ日会	1	5	2	7
〃	〃	サンタ・アマール日会	2	10		10
〃	〃	長谷川事務所	2	14	4	18
〃	〃	シチオ・ド・メイオ日会			1	1
〃	技 術	パウリスト新聞社	1	3		3
〃	〃	オロワイノ紡績KK	1	9	1	10
〃	〃	森田建築			2	2
〃	〃	原合名会社			1	1
〃	〃	ルミノゾ・ド・レインボー 会社(JATIC)			1	1
〃	実習生	海外実習生			11	11
ソロカバナ線	奥地雑作	サンク・クルス・ド・リオバ ルド日会			1	1
バラナ州	調 練	コチア抜開発青年隊			16	16
〃	珈 琲	ロンドリーナ連日会	3	13	2	15
〃	〃	マリアルバ連日会	1	5	3	8
〃	〃	トレスバラス連日会	10	60	2	62
〃	〃	ウライ体育文化協会	3	12	1	13
〃	〃	バラナバイ日会	1	4		4
〃	〃	大和植民地	1	6		6
〃	〃	汎ローランジア日会			1	1
〃	〃	コルネリオ・プロコビオ日会			1	1
〃	〃	ブーグレ耕地	22	136		136
マッド・グロッシン	奥地雑作	ドラーダス植民地			1	1
〃	開 拓	日拓抜ドラーダス植民地	3	15		15
〃	〃	セーラードラーダス	5	27		27
リオグランデ・ ド・スール	分 益 農	ホルトアレグレ近郊	4	21	14	35
〃	〃	カマグアン近郊	13	76		76
〃	〃	イグベチニング抜	4	11	1	12

リオ・グランデ ド・スール	分益農	ス	ザ	ノ	扱	計	1	2	2	
		総			計		606	3,325	893	4,218

昭和33年度移住者受入概況

概況

昭和33年4月横浜港出帆のさんとす丸（5月17日サントス入港）より、34年3月神戸港出帆のテゲルベルグ号（5月10日サントス入港）までの導入人数（後述）は、計画移住者544名、公募移住者1,038名及び指名移住者4,262名の計5,844名であった。

これら移住者の導入形態及び就働している職種は次の通りである。

1. 形態別

イ 計画移住者（INIC 枠による導入）

コチア産組扱					277名
パウリスタ養蚕協会扱				35家族	208名
バルゼア・アレグレ植民地				9家族	59名
小計	44家族	267名	单身	277名	計 544名
ロ 公募移住者	153家族	975名	单身	63名	計1,038名
ハ 指名移住者	732家族	3,682名	单身	580名	計4,262名
総計	929家族	4,924名	单身	920名	計5,844名

2. 州別入植数

州	別	家族数	その員数	単身者	合計
サンパウロ	州	724	3,683	851	4,534
パラナ	州	122	723	45	768
マット・グロッソ	州	66	405	10	415
リオ・グランデ・ドスール	州	17	113	14	127
総計		929	4,924	920	5,844

3. 地域（線）別入植数

入植地域（線）別	家族数	その員数	単身	合計
中央線地域	212	980	166	1,146
モチアナ線			1	1
ブラガンサ・パウリスタ線	1	4		4
パウリスタ線	5	26	23	49
ノロエステ線	57	357	18	375
マット・グROSS州(除ノロエステ)	66	405	10	415
ソロカバナ線	49	300	7	307
パラナ州	122	723	45	768
聖南西地域	29	140	14	154
リオ・グランデ・ドスール	17	113	14	127
その他サンパウロ州内	371	1,876	622	2,498
総計	929	4,924	920	5,844

4. 職種別入植数

職種別	家族数	その員数	単身	合計
近郊蔬菜果樹養鶏	417	1,918	452	2,370
奥地蔬菜	56	343	13	356
奥地養蚕雑作	192	1,070	350	1,420
珈琲園契約農	185	1,125	25	1,150
歩合作農	17	113	0	113
開拓自営農	51	319	10	329
技術移住生	11	36	12	48
実習生			58	58
総計	929	4,924	920	5,844

(註) その他サンパウロ州内（前表では、近郊蔬菜、果樹、養鶏その他に分類されている）に分類されているものには、コチア産組、パウリスタ養蚕協会その他の在伯県人会等の団体にて呼寄せられたものがあり、所属組合員の耕地へ配付されている。

地域、職種、呼寄主体別導入統計表

昭和33年度分 自 1958. 5.17 さんとす丸
至 1959. 5.10 テゲルベルグ号

地域別	職種別	呼寄主体別	入植数			
			家族	人員	車	計
サンパウロ州 中央線	近郊蔬菜	カプテラウバキロ日会(モジ)	3	11	6	17
"	"	聖市近郊蔬菜業者会(#)	11	39	8	47
"	"	西 江 耕 地			1	1
"	"	スザノ市日本人会	6	27	3	20
"	"	スザノ産業組合	188	888	146	1,034
"	"	クワバテ日本人会	1	2		2
"	"	バルメイラ日本人会			1	1
"	"	トレメンペー日本人会	1	4		4
"	"	サンジョゼードス・カンボス日会	1	5		5
ブラガンサ線	"	ブラガンサ・パウリスト日本人会	1	4	0	4
聖南西	"	イタベチニンガ出荷組合	25	121	13	134
"	"	ピエグーデ日会	2	11		11
"	"	ピラール・ド・スール日会	1	6		6
"	"	レヂストロ 共済会	1	2	1	3
パウリスト	奥地蔬菜	バストス連合日会	1	4		4
"	珈 琲	東 山 農 場	1	2	1	3
"	"	パカエンブー日会			1	1
"	"	ポルト・パリンニヤ耕地	2	14		14
"	"	ツーピーパウリスト日会	1	6		6
ノロエステ線	奥地蔬菜	アリアンサ産組	1	2	1	3
"	"	天理教伝道庁(パウルー)	3	17	4	21
"	"	パウルー文化協会(#)			1	1
"	"	伯国第二富士植民地(#)	2	20		20
"	珈 琲	河 上 耕 地(#)	5	33	4	37
"	"	カフェランジア呼寄組合	1	2		2
"	"	服部耕地(カフェランジア)	6	36		36
"	"	平野植民地(#)			2	2
"	"	リンス日本人会	2	13	1	14
"	"	バッチンニヨ耕地(プロミツソン)	2	12		12
"	"	ピラッキ佐賀海協支部	10	56		56
"	"	アラサツバ連日会			1	1

ノロエステ線	加 班	安 瀬 耕 地	16	107	2	109
〃	〃	グアイサーラ日伯青年会			2	2
モジアナ線	奥地養作 雑	モ コ カ 植 民 地			1	1
ソロカバナ線	奥地蔬菜	オウリーニヨス産組	1	5		5
〃	〃	南米招植(サルト)	46	280	4	284
〃	〃	アルパレースマッシュード 日会			1	1
〃	〃	吉雄兄弟商会アブルデンテ			1	1
〃	〃	プレシデンテ・ベルナルデ ス日会	2	15	1	16
サンパウロ州内 他	近郊蔬菜	山 形 県 同 郷 会	2	5	11	16
〃	〃	福 島 海 協 支 部 会	7	33	10	43
〃	〃	宮 城 県 人 会 会			1	1
〃	〃	越 佐 日 本 人 会 会			2	2
〃	〃	福 井 県 人 会 会	2	7	2	9
〃	〃	山 形 県 人 会 会			4	4
〃	〃	静 岡 海 協 支 部 会	2	6		6
〃	〃	岐 阜 県 人 会 会	1	4	14	18
〃	〃	三 重 県 海 協 支 部 会	3	11	8	19
〃	〃	鳥 取 県 人 会 会	2	6	2	8
〃	〃	岡 山 県 人 会 会	8	30	3	33
〃	〃	ブラジル 藝 備 協 会	2	14	2	16
〃	〃	防 長 人 会 会	23	118	17	135
〃	〃	香 川 県 人 会 会	2	11	4	15
〃	〃	愛 媛 県 人 会 会	1	3	1	4
〃	〃	宮 崎 県 人 会 会	1	6	1	7
〃	〃	福 岡 海 協 支 部 会	3	11	7	18
〃	〃	佐 賀 海 協 支 部 会	3	19	1	20
〃	〃	鹿 児 島 県 人 会 会	4	18	5	23
〃	〃	熊 本 海 協 支 部 会	32	145	25	170
〃	近郊蔬菜	沖 縄 県 人 同 志 会	2	14		14
〃	〃	カトリックセンター	11	37	6	43
〃	〃	カ ー ザ 東 山	1	2		2
〃	〃	サルパッソン日会			1	1
〃	〃	スール・ブラジル産組	2	8	1	9
〃	〃	ブラジル移住会	52	244	47	291
〃	〃	ボーイスカウト連盟(パウ)			7	7
〃	〃	日 輪 学 舎 父 兄 会	2	6	1	7

州	内	近郊蔬菜	日伯協会	32	160	23	183
"	"	"	日本力行会	8	25	87	112
"	"	奥地雑作	農拓協中央会	8	44	2	46
"	"	"	コチア産組	25	121	293	414
"	"	"	伯国本門仏立講	1	5		5
"	"	"	和歌山県人会	4	17	3	20
"	"	"	パウリスト養蚕協会	35	208		208
"	"	"	沖繩協	87	530	12	542
サンパウロ州	技 術	鐘紡紡績工場					
"	"	"	豊和工場社	1	4		4
サンパウロ市	"	"	J A T I C 会	3	8	4	12
サンパウロ州	実習生	東山農場研修生		21			21
サンパウリス	"	"	海外実習生			10	10
州	内	"	和歌山不動産	24	145		149
マットグrosso州	珈琲	和歌山不動産		24	145		149
"	開拓	バルゼア・アレグレ植民地		9	59	1	59
"	"	カッペン植民地		41	258	10	268
"	"	リオ・フェーロ植民地		1	2		2
バラナ州	珈琲	カンベ日本人会		1	5		5
"	"	ウライ体育クラブ		5	27	1	28
"	"	コルネリオ・プロコピオ日会		4	16	5	21
"	"	サンセバスチオン耕地		74	480	1	481
"	"	トレスパラス連日会		1	3	1	3
"	"	ブーグレ耕地		11	75		75
"	"	辻農場		4	20		20
"	"	ロンドリーナ連日会		13	65	1	66
バラナ州	技 術	バンデイランテス日本人会		7	24	7	31
バラナ州	訓練	産業開発青年隊				27	27
リオ・グランデ	奥地雑作	鹿見局熊本県人呼寄				13	13
ド・スール州	"	"					
"	歩合作	カマクアン近郊		12	86		86
"	"	リブラメント地区		1	2		2
"	"	鹿見局熊本県人呼寄		4	25		25
"	奥地雑作	シャーカラ・チャボネーザ				1	1
総 計				924	4,924	920	5,844

昭昭34年度移住者受入概況

概況

昭和34年4月横浜港出帆のさんとす丸（5月23日サントス入港）より、昭和35年3月神戸港出帆のさんとす丸（5月18日サントス入港）までの南伯地区導入数（後述）は、計画移住者524名、公募移住者1,975名、近親呼寄移住者50名及び指名移住者4,049名の計6,598名であつた。

これら移住者の導入形態別、州及び地域別並びに就働職種は次の通りである。

1. 形態別

イ 計画移住者（INIC 枠による導入）

a	コチア産組扱	18家族	36名	単身	314名	計	350名
b	パウリストク養蚕協会扱	17家族	98名			計	98名
c	バルゼア・アレグレ植民地（松原枠）						

小計 48家族 210名 単身 314名 計 524名

ロ 公募移住者 327家族1,861名 単身 114名 計1,975名

ハ 近親呼寄移住者 3家族 20名 単身 30名 計 50名

ニ 指名移住者 685家族3,303名 単身 746名 計4,049名

総計 1,063家族5,394名 単身1,204名 計6,598名

2. 州別入植数

州	別	家族数	人員	単身者	合計
サンパウロ	州	907	4,522	1,151	5,673
パラナ	州	71	369	34	403
マット・グロッソ	州	30	171	2	173
リオ・グランデ・ド・スール	州	55	332	15	347
ミナスゼライス	州			2	2
総計		1,063	5,394	1,204	6,598

3. 地域(線)別入植数

入植地域(線)別	家族	人員	単身	計
中央線関係地域	97	397	154	551
聖南西関係地域	15	81	11	92
聖市近郊	3	15	9	24
ソロカバナ線地域	25	116	7	123
アララクワラ線地域			1	1
パウリスタ本(延)長線地域	12	63	14	77
ノロエステ線地域	42	233	11	244
ブラガンサ線地域	1	6	1	7
その他州内	712	3,611	943	4,554
パラナ州	71	369	34	403
マット・グロッソ州	30	171	2	173
リオ・グランデ・ド・スール州	55	332	15	347
ミナス・ゼラエス州			2	2
計	1,063	5,394	1,204	6,598

4. 職種別入植数

職種別	家族	人員	単身	合計
近郊蔬菜、果樹養鶏その他	790	3,924	1,020	4,944
奥地	31	144	22	166
奥地養蚕雑作	19	108		108
コヒ一園契約	136	732	29	761
歩合自作	55	332	12	344
開拓自営農	23	114	14	128
技術移住	6	20	49	69
実習生			10	10
開発青年隊			18	18
近親呼寄	3	20	30	50
総計	1,063	5,394	1,204	6,598

(注) コーヒー園契約農は、上表数字より、実際は相当上廻る。

近郊蔬菜、果樹養鶏その他は、聖市にある農拓協その他の組合分も含められているため、実際には、奥地或は珈琲園契約農として就働している者が、相当含まれている。

地域、職種、呼寄主体別導入統計表

昭和34年度分 自 1959. 5.23 さんとす丸
至 1960. 5.18 さんとす丸

地域別	職種別	呼寄主体別	入 植 数			
			家	人	単	計
サンパウロ州 中 央 線	近郊蔬菜	スザノ産業組合	74	319	104	423
"	"	沖繩協会扱スザノ行	1	5	1	6
"	"	イタケーラ共済会			2	2
"	"	日本青年協会(イタケーラ)			1	1
"	"	吉岡耕地(")	1	2	6	8
"	"	務台農場(")			1	1
"	"	西山耕地(")			1	1
"	"	横地耕地(")			1	1
"	"	松林農場(")	1	4		4
"	"	三沢耕地(")			1	1
"	"	モジ・グスクルーゼス産組			6	6
"	"	カプテラバキロ日会(モジ)	1	2	1	3
"	"	西江耕地(")	2	12		12
"	自営開拓	岐阜県人会モジ支部	10	38	14	52
"	近郊蔬菜	パウ農業生産組合(カンボ ストジョルドン)			8	8
"	"	鐘ヶ江農場(トレメンベ)	3	15	5	20
"	"	神保耕地(")			2	2
"	"	山根耕地(ジャカレー)			1	1
ブラガンサ線	"	遠藤耕地(ブラガンサ)	1	6		6
"	"	山中農場(アチバイア)			1	1
聖 南 西	蔬菜雑作	植木耕地(コチア)			1	1
"	"	松岡耕地(")			1	1
"	"	佐伯耕地(")			1	1
"	"	矢野耕地(チャグアレー)	1	5		5
"	"	森耕地(イクベセリク)			1	1
"	"	菅原耕地(")	4	17	1	18
"	"	土居耕地(")	1	6		6
"	"	川上耕地(イビウーナ)	1	11	2	13
"	"	山本耕地(サンミゲルア ルカンジョ)	1	6		6
"	"	溝淵耕地(ピラール・ド・ スール)	1	3		3
"	"	田辺耕地(イクベセリカ)			1	1

聖南西	蔬菜雑作	原 耕 地			1	1
"	"	渡辺耕地(南伯雇用)(レ チストロ)	3	12		12
"	"	伊藤農場(")			2	2
"	"	野口耕地(")	1	4		4
"	"	高橋耕地(セツテ・バラス)	1	8		8
聖市近郊	"	片山耕地(サンク・マーロ)	1	6	2	8
"	"	山本耕地(")	1	3		3
"	"	後藤耕地(")			1	1
"	"	山田耕地(サンク・マーロ)			1	1
"	"	久保田耕地(グァル・リヨス)			3	3
"	"	松本農場(サンベルトルド)			1	1
"	"	井上耕地(")	1	6		6
ソロカバナ線	瓊地雑作 班	明神耕地(サンロック)			1	1
"	"	イタベチニング親和会			1	1
"	"	南米拓植KK(サルト)	12	68		68
"	"	渡辺耕地(サーレスポリス)	1	2		2
"	"	袴田耕地(アバレー)	2	8		8
"	"	アパレッシェーグ日会(")	6	22	2	24
"	"	アランバリー親和会			1	1
"	"	平田耕地(アルバーレス・ マッシュード)	1	4		4
"	"	プ・ブルデンテ連日会			1	1
"	"	川上耕地(プ・ブルデンテ)	1	5		5
"	"	高野耕地(")	1	2		2
"	"	プ・ベルナルデス日会			1	1
ソロカバナ線	瓊 班	西丸耕地(南伯雇用)(サン トアナスタシオ)	1	5		5
アララクワラ線	"	ポッポランガ日本人会			1	1
パウリスグ本線 延長線	瓊地雑作 班	カンピーナス産組			1	1
"	"	熊本海協カンピーナス支部	1	2	4	6
"	"	東山農場			2	2
"	"	バストス日伯協会	1	2	1	3
"	"	長瀬耕地(マリア)			4	4
"	"	滝谷耕地(")			2	2
"	"	パカエンブー福岡県人会	5	24		24
ノロエステ線	瓊 班	天理教パウルー伝道庁	2	8	5	13
"	"	籾原耕地(チビリッサ)			1	1
"	"	服部耕地(カフェランジア)	1	7		7

ノロエステ線	カ	カ	プログレッション耕地(#)	2	8		2
〃	カ	カ	カフェランジア連日会			2	2
〃	カ	カ	サンタ・アメリカ日本人会 (ゼッリーナ)			1	1
〃	カ	カ	山下耕地(南伯用)(カフェ ランジア)	6	38		38
〃	カ	カ	會根原耕地(#)(ゼッ リーナ)	4	21		21
〃	カ	カ	リンス文化協会			1	1
〃	カ	カ	アリアンサ産組	1	4		
〃	カ	カ	アラサツーバ日会	2	10		10
〃	カ	カ	福島海協扱安瀬耕地	13	68		68
〃	カ	カ	加藤耕地(クレメンチーノ)	10	65		65
〃	カ	カ	グアイサーラ日会	1	4	1	5
聖市近郊	カ	カ	村尾耕地(#) (イタ カケセップ)			1	1
聖南西	カ	カ	宮本耕地(#)(レチストロ)	1	9		9
パウリスト線	カ	カ	岡本耕地(#)(ガルサ)	5	35		35
その他州内	カ	カ	日伯協会	32	147	40	187
〃	カ	カ	日本力行会	12	31	127	158
〃	カ	カ	ブラジル移住会	40	157	69	226
〃	カ	カ	マウア産組	34	140	43	183
〃	カ	カ	コチア産組	24	67	342	409
〃	カ	カ	スール・ブラジル中央農産 組合			1	1
〃	カ	カ	バンデイランテ産組	1	7	2	9
〃	カ	カ	養蚕協	19	108		108
〃	カ	カ	農拓協	175	956	18	974
〃	カ	カ	カトリックセンター	10	63	11	74
〃	カ	カ	蛭田農場			1	1
〃	カ	カ	福島海協支部	13	65	32	97
〃	カ	カ	山形海協(同郷会)	3	10	5	15
〃	カ	カ	宮城県人會	1	3	1	4
〃	カ	カ	福島県人會	5	28	2	30
〃	カ	カ	三重県人會	5	22	7	29
〃	カ	カ	山梨県人會	1	2	3	5
〃	カ	カ	和歌山県人會			1	1
〃	カ	カ	鳥取県人會			2	2
〃	カ	カ	山口県(防長)人會	19	94	25	119

サンパウロ州内	加	理	芸	備	協	会	17	82	21	103
〃	作	業	徳	島	海	協	1	4		4
〃			福	岡		支	2	9	1	10
〃			佐	賀		部	7	41	6	47
〃			熊	本			76	362	35	401
〃			宮	城	県	人	8	41	1	42
〃			鹿	児	島	県	17	71	24	95
〃			沖	繩	協	会	181	1,061	34	1,095
〃	近	親	州	内	近	呼	3	20	26	46
ミナス州			ミ	ナ	ス	近			1	1
〃	技	術	サン	タ	・	バ			1	1
サンパウロ州内			ラ	バ	ラ	紡	2	5	1	6
〃			ト	ラ	ン	チ	1	3	1	4
〃			パ	シ	フ	ィ			1	1
〃			バ	シ	フ	ィ			1	1
〃			豊	和	工	業			37	37
〃			パ	ウ	リ	ス			3	3
〃			サ	ン	パ	ウ			2	2
〃			サ	ン	パ	ウ			2	2
〃			浅	野	指	物	2	10		10
〃			エ	ス	ト	ラ			1	1
〃			エ	ス	ト	ラ			1	1
〃			ベ	ル	ダ	テ	1	2	2	4
〃			ベ	ル	ダ	テ			2	4
パ	実	生	海	協	連	支			10	10
ラ	習		開	発	青	年			18	18
ナ	訓	練	バ	ン	デ	イ			1	1
州	加	班	野	村	農	場	3	11		11
〃			ブ	ー	グ	レ	23	134	2	136
〃			後	宮	農	場	1	2		2
〃			コ	ル	ネ	リ			1	1
〃			ウ	ラ	イ	体	1	8		8
〃			ト	レ	ス	バ	2	3	2	5
〃			ロ	ン	ド	リ	1	5	1	6
〃			富	田	耕	地	1	5		5
〃			柞	磨	耕	地	1	2		2
〃			田	口	耕	地	4	29		29
〃			ア	ブ	カ	ラ	2	7		7
〃			マ	リ	ア	ル	1	9		9
〃			ア	ラ	ボ	ン			1	1
〃			田	村	農	場	1	8		8
〃			加	藤	耕	地	1	7		7

パラナ州	珈 珥	高橋排地(南伯羅用)	テーラ リッカ	1	8		8
"	"	望月排地 (") (")		2	10		10
"	"	萩原排地 (")	パラナバイ	1	6		6
"	"	高野排地 (")	"	4	17		17
"	"	柳原排地 (")	"	1	3		3
"	"	鹿毛排地 (")	"	2	11		11
"	"	川西排地 (")	"	1	5		5
"	"	塩見排地	"	3	12		12
"	"	牧山排地	"	2	10	1	11
"	"	徳本排地	"			1	1
"	"	田中排地	"	1	4		4
"	"	那須排地	"			1	1
"	"	小山排地	"	1	6		6
"	"	赤石排地	"			1	1
"	"	永野排地	"			1	1
"	"	鈴木排地	"			2	2
"	"	吉田排地	"	5	20		20
"	"	辻 排地	"	2	13		13
"	"	ローランジア	連日会			1	1
"	"	グアイラー	日本文化	3	14		14
マットグロソ州	自管開拓	ヴァルゼア・アレグレ	植民地	13	76		76
"	珈 珥	和 歌 山	不 動 産	17	95	2	97
リオ・グランデ・ド・スール州	分 益 農	ホルト・アレグレ	近 郊	3	18		18
"	"	カ マ ク ア ン	近 郊	48	297	1	298
"	"	ア ツ ー ル	耕 地			5	5
"	"	朝 枝	耕 地	3	14	2	16
"	"	福 家	耕 地	1	3		3
"	"	アグロ・テリトリアルシド レイラ	耕 地			4	4
"	近 親	近 親	呼 寄			3	3
総 計				1,063	5,394	1,204	6,598

地 域 (線別) 入 植 数 . 2

地 域 別	家 族	人 員	単 身	計
サンパウロ州	907	4,522	1,151	5,673
(内訳)中央	97	397	154	551
聖南西	15	81	11	92

聖 市 近 郊	3	15	9	24
ソ ロ カ バ ナ	25	116	7	123
ア ラ ラ ク ワ ラ			1	1
パウリスク本(延長)線	12	63	14	77
ノ ロ エ ス テ	42	233	11	244
ブ ラ ガ ン サ 線	1	6	1	7
技 術 生	6	20	49	69
実 習 生			10	10
そ の 他 州 内	706	3,591	884	4,475
パ ラ ナ 州	71	369	34	403
マ ッ ト ・ グ ロ ッ ソ 州	30	171	2	173
リオ・グランデ・ド・スール州	55	332	15	347
ミ ナ ス ・ ゼ ラ エ ス 州			2	2
計	1,063	5,394	1,204	1,598

戦後移住者の主要入植地

昭和28年度以降昭和35年5月28日迄に入国した移住者の年度、職種、地域、呼寄導入形態別統計は第三章第三節にて述べる通りであるが、主要入植地は下記の通りであり、州別入植地位置略図の通りである。

主要入植地別統計表(1953.5.15~1960.5.18)

地 域	入 植 地 (但 管 内)	員 数			
		家族	人員	車身	計
サンパウロ州					
中 央 線	イ タ ケ ー ラ	4	13	22	35
〃	グ ァ ル ー リ ヨ ス	1	5	3	8
〃	イ タ カ ケ セ ッ ー バ			1	1
〃	ス ザ ノ	358	1,427	293	1,720
〃	モ ジ ・ グ ス ・ ク ル ー ゼ ス	47	186	103	289
〃	カンボス・チョルドン			22	22
〃	サンジョゼードス・カンボス	1	5		5
〃	ピンダ・モニヤンガーバ			3	3
〃	ゼ ツ ー バ	5	23	1	24
〃	ロ ゼ イ ラ	1	5		5
〃	ト レ メ ン ベ ー	7	34	9	43
〃	ヂ ャ カ レ ー			1	1
〃	タ ウ バ テ	1	2	3	5

ブラガンサ	ブラガンサ	2	10	3	13
ジュンジア	ジュンジア	1	6		6
アララクワ	ボッポラン	5	37	1	38
聖市近郊	アルチャ	1	4	2	6
"	サンタ・アマ	5	26	3	29
"	ジュンケイロ	1	7		7
"	サンベルナルド	1	6	1	7
"	カシ	24	82	61	143
"	ピエダ	2	11		11
"	チャグワレ	1	5		5
"	コチ			3	3
"	其他(扱団体がサンパウロにあるもの)	1,670	9,774	3,198	12,972
聖南地城	イピウ	1	11	2	13
"	ピラー・ド・ス	2	5		9
"	サンミゲルアル	1	6		6
"	レチスト	6	27	4	31
"	イタベセリ	5	23	4	27
"	セッテ・バラ	1	8		8
"	サンロ			1	1
チュキア	ジュキ	2	7		7
ソロカバナ線	イタベチニ	68	302	64	366
"	アバレ	2	8		8
"	アパレ	6	22	2	24
"	アラ			1	1
"	サル	58	348	4	352
"	オウリーニ	4	17	1	18
"	サンク・クルス・ド・リオ	1	3	2	5
"	サンク・アナスクシ	3	19		19
"	サーレス	1	2		2
"	アルバーレス			2	2
"	ミラ	10	61	1	62
"	ア・ブル	3	11	1	12
"	ア・ベルナル	17	103	9	112
パウリスト本線	カンピー	4	13	30	43
"	ホルト	2	14		14
"	モリ			1	1
"	ベロン	1	6		6
パウリスト延長線	アグマン	3	18	4	22
"	バ	18	62	3	65

パウリスタ延長線

ド
ド
ガ
マ
バ
バ
ポ
ベ
ベ
ツ
ツ
ル

ア ル チ ナ
ラ セ ー ナ
リ リ ア
ラ プ ア
カ エ ン ブ
ン ペ イ ア
レイラバレッ
ツ ー ピ ー パ ウ リ ス
ル セ リ ア

3 16 1 17
61 139 1 1
1 2 6 6
1 2 1 3
5 24 1 25
2 6 1 7
1 3 6 9
5 20 20
1 6 6
1 6 6

ノロエステ線

バ
チ
カ
ア
ゼ
グ
リ
ア
ア
ア
ミ
ベ
ガ
グ
ビ
グ

バ ウ ル ア
チ ビ リ ッ サ
カ フ ェ ラ ン デ ア
ア ロ ミ ッ ソ ア
ゼ ツ リ ー ナ
グ ァ イ ン ベ
リ ラ サ ツ ー ス
ア ラ サ ツ ー バ
ア ン ド ラ デ ー ナ
ミ ラ ン ド ポ リ ス
ベ ン ナ ポ リ ス
ガ タ ポ ラ ン ガ
グ ァ ビ ア ー ラ
ビ ァ ラ イ サ ー ラ

47 246 35 281
10 42 5 47
251 1,037 19 1,056
4 18 18
6 32 13 45
1 4 4
56 340 5 345
91 543 11 554
10 65 65
1 4 4
1 5 5
1 6 1 1
1 6 6
1 5 5
10 56 56
2 6 5 11

パラナ州北パラナ

カ
バ
コ
ウ
ド
ア
ロ
カ
マ
ア
マ
ア

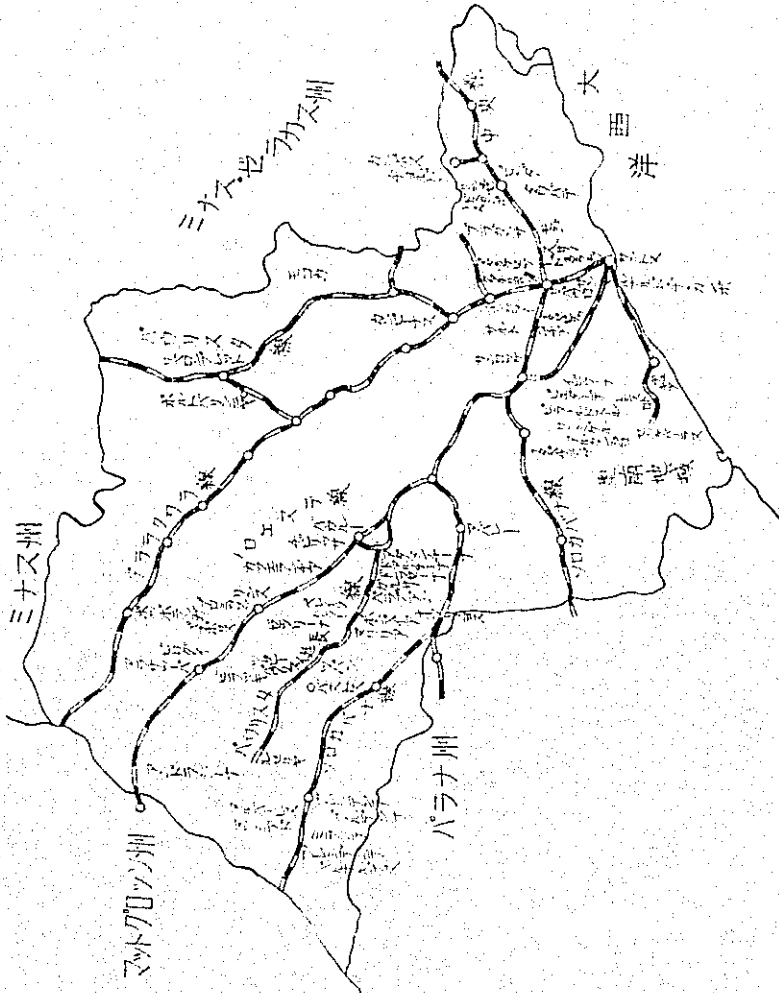
カ ン バ ラ
バ ン デ イ ラ ン テ
コ ル ネ リ オ ・ プ ロ コ ビ
ウ レ ラ イ
ド レ ス バ ラ
ア ン サ リ ー ナ
ロ ン ド リ ー ナ
カ マ リ ン ガ
マ ブ カ ラ ナ
マ リ ア ル バ
ア ラ ボ ン ガ ス

86 548 3 551
11 42 12 54
7 33 11 44
12 53 2 55
23 117 13 130
3 13 13
82 404 5 409
1 5 5
4 29 2 31
3 12 1 13
5 28 5 33
2 15 1 16

州別主要入植地（市・町・村）位置略図

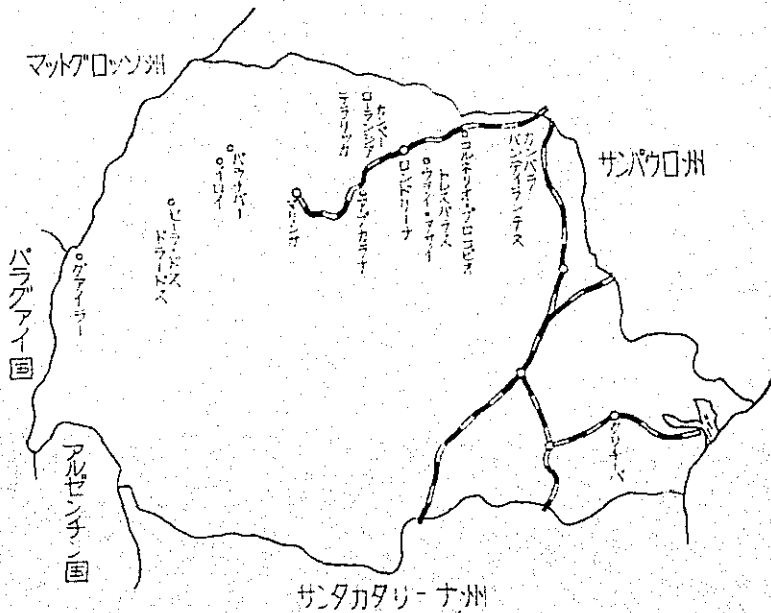
1. サンパウロ州

在留邦人及び日系外人は、州内に314,000余人である。内戦後移住者19,400余人を超え雇川農として入植したものが多し。



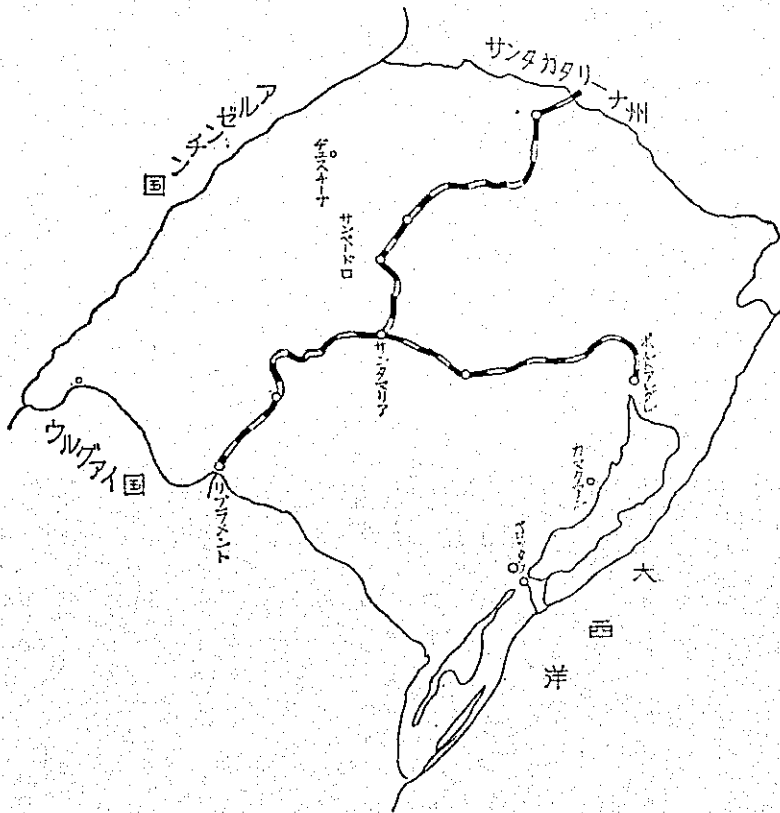
2. パラナ州

在留邦人及び日系外人は、州内に66,000余人居住している。内戦後移住者は2,4000余人を超え珈琲植用農として入植している者が多い。



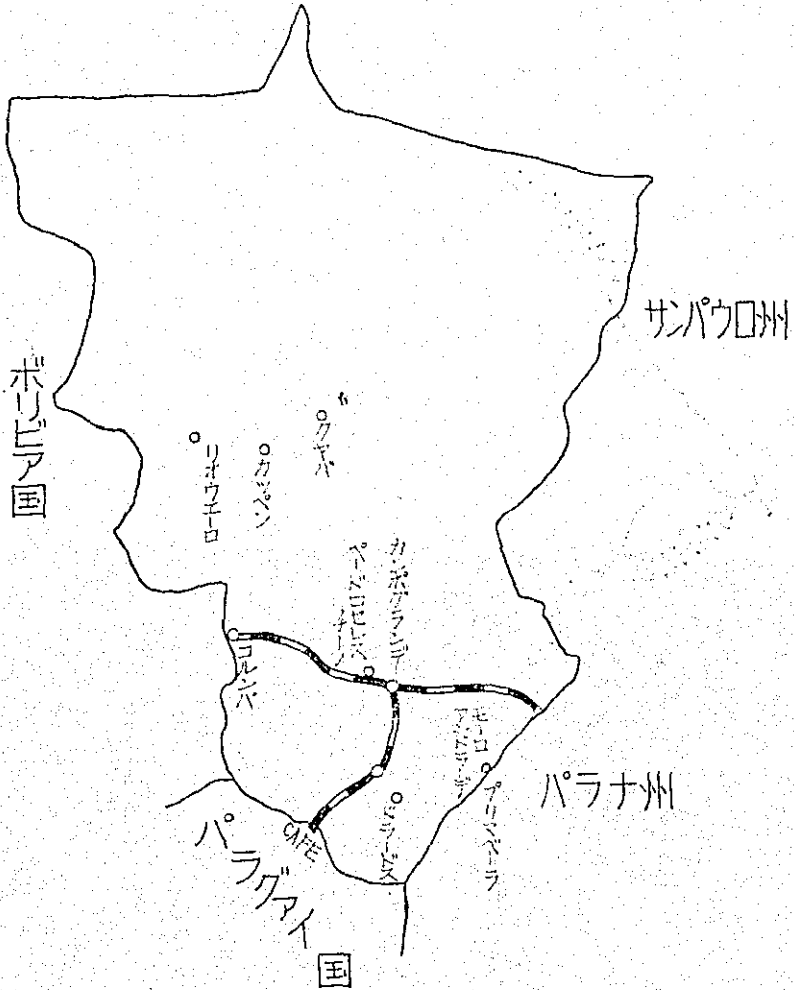
3. リオ・グランデ・ド・スール州

在留邦人及び日系外人は、州内に1,700余人を超えているが、内戦後移住者は約1,000人で分益農として入植した者が多い。



4. マット・グロソ州

在留邦人及び日系外人は、州内に8,000余人居住しており、内戦後移住者は1,250余人を超へ自営開拓農、契約農として入植している者が多い。



第四節 昭和35年度及び36年度導入計画

昭和35年度

1. 移住者受入の確定しているところ

移住地名	受入数		受入機関名	作物	
	家族	人員		形態	業種
バルセア・アレグレ	40	240	JAMIC Ltda.	自営農	果樹, 柑橘, 米, 蔬菜, 綿
ジャカレー	30	180	"	"	養鶏等の集約農
サント・アントニオ	39	234	"	"	"
フンシヤール	30	180	"	"	"
コチア		520	コチア産組	雇用	珈琲, 蔬菜, 雑作等
養蚕(奥地)	40	240	パウリスク養蚕協会	"	養蚕, 雑作
南伯公募	200	1,200	JAMIC Ltda. あつせん部	"	珈琲その他雑作一般
"	200	1,200	農拓協	"	"
指名呼寄	500	3,000	個人耕地	"	"
実習生		30	JAMIC Ltda. あつせん部	実習雇用	農工商
南大河州	100	600	ホルトアングレ事務所	分益農	米, 蔬菜雑作一般
小計	1,179	7,774			

2. 移住者受入見込み移住地

移住地	受入見込	受入機関名	形態	備考
ガクバラ耕地	100名	JAMIC Ltda.	自営農	先発隊
技術	27	全招連	雇用	引受照会中
"	200	豊和工業	"	"
"	750	石川島	"	"
"		その他	"	勧誘中
計	1,077			未確定

3. 昭和36年度移住者導入計画

受入(団体)地	受 入 予 定 数				形 態	備 考
	家 族	人 員	単 身	計		
バルゼア・アレグレ耕地	21	105		105	開 拓	I N I C 枠
ジャカレー耕地	57	285		285	”	”
養 蚕 協 会	36	180		180	雇 用	”
”	17	85		85	開 拓	”
コチア産組	100	200	300	500	雇 用	”
サンパウロ州内	150	750	70	820	”	公 募 呼 寄
パラナ州内	300	1,500	150	1,650	”	”
マツト・グロツソ州内	40	200	25	225	”	”
開 発 青 年 隊			110	110	”	”
技 術 移 住	250	600	50	1,000	”	”
南 伯 各 地	500	2,500	300	2,800	”	指 名 呼 寄
”	10	30	100	130	近 親	迎 親 呼 寄
総 計	1,481	6,835	1,055	7,890		

第五節 現行職種別雇用条件概要

海協連サンパウロ支部では、南伯雇用移住者の総括的常時募集を海協連本部へ申請しており、本部においては、外務省、農林省その他関係機関の協力を得て農業移住者については、コーヒー園コロノ、蔬菜農、果樹園雇用農、養蚕雇用農及びその他雑作農の5職種に別け、募集選考をしている。

そこで、当地における雇用条件等現況を下記し併せて、雇用期間中の収支概算を後表の通り現らわしてみた。

なお、雇用移住者の実態調査については、第六節を参照され度い。

1. 珈琲園コロノ

南伯における珈琲園地帯は、主として、北パラナ地域ノロエステ沿線地域パウリスタ延長（本）線地域モジアナ線地域及びマツト・グロッソ州南部地域である。

A 一般雇用条件

イ 除草賃	1,000本につき	6,500cr\$ 以上
ロ 採集賃	110立入1俵につき	70~100cr\$
ハ 日雇賃	成年男子 1名につき	50~100cr\$
"	婦女子 1名につき	25~50cc\$
ニ 余作地	1万本請負につき	1アルケール
ホ 間作	珈琲の成育度合或は土地の新旧により判断され、耕主により、豆類トウモロコシ等認められる。	
その他	住宅無償貸与	

B 入植適期

珈琲コロノ（又は歩合作）の契約は、10月1日より翌年9月30日に終る1農年単位で締結する。従ってこの時期に間に合うよう入植すれば良いが、採集期（4月頃より9月頃まで）に入植するのが、次の点で非常に移住者に有利である。

- イ 入植草々家族全員が珈琲採集の仕事が出来不慣れたものでも相当の収入が得られる。
- ロ 気候的に凌ぎ易く、移住者の体力がブラジルの農業に順応し易い。
- ハ 最初に賃銀収入があるため、契約期間中の営農生活の見透しがたち、独立への計画をたて得る。

C 契約の内容

- イ 除草 年に3回から4回（10月から~4月頃）
- ロ 山立作業 年に1回（3月~4月頃）最後の除草と同時に普通行なう。
- ハ 道路修理 年に1回（4~5月頃）採集の前

ニ 採 集 (5月～9月頃)

ホ 山散らし 年1回(9月頃)採集の後

前述の事を1農年(10月～9月)に行う。

なお、珈琲園における就働形態には、育成請負契約というものもあり、歩合契約もある。

a 珈琲樹育成請負契約

この請負契約には、4年契約と6年契約の二種あり、4年契約は、耕主側が山伐り山焼き、枝打ち及び珈琲の播付を行った後入植者に後の管理・育成を行わせるもので、6年契約の場合は、山伐りより全て入植者の負担で行う方式で、その間の珈琲の実の収穫は全て入植者の所得となる。

但し、播付用珈琲の種は耕主側負担で、育成に当り欠株が生じた際は補植する必要があり、精算の際の欠株は1株につき20cr\$の罰金が科せられる(霜害等による不可抗力を除く)。この場合の入植者の収入は、間作及び余作地等からあげねばならないので、最低半年間の生活費を必要とし、且つ、入植時期は珈琲の播付期(6月～8月)に限定される。

なお、地域的にはパラナ州奥地又は、マツト・グロッソ州の新開地に限られる。

イ 育成契約条件

(イ) 育成賃 1株につき 3cr\$ 以上

育成作業の主なもの、除草、株穴掃除、欠株の際の補植、珈琲実の採集等。

(ロ) 日雇賃 成長男子 1名につき 120cr\$ 以上

” 婦女子 ” 80cr\$ 以上

(ハ) 余作地 入植者の希望により与えられる。

(ニ) 間作 認めている。

但し、作物の種類及び播付範囲等の制限を課せられる場合が多い。

(ホ) 住宅無償貸与

b 珈琲園歩合農

伯國における最低給料の増額は、奥地農業労働者にも適用され（実際には半年程遅くれる）、古るい珈琲園主の中には、歩合作者を入れているところもある、珈琲園コロノの移動を差し歩める効果と、コロノとの紛争等の煩わしさが避けられ、パラナ州及びノロエステ地域にみられる。

この場合の条件は次の通りである。

イ 肥料は耕主側負担

ロ 労力は入植者負担（施肥、除草採集等全て）

ハ 収穫の折半、但し、不作の場合は考慮され、耕主側4分入植者側6分になるときもある。

ニ 生活資金は、貸与され、最初の収穫より精算せねばならぬ。

ホ 間作 認める場合は少ない。

ヘ 余作地 余作地収入も折半になる場合が多い。

ト 住宅無償貸与

D 労働時間と休日

1日の就働時間は普通10時間である。

珈琲園では、現在においても朝の5時には鐘を鳴らしたりして、植民者に時間を告げており、朝7時頃より、夕方5～6時頃まで働らいているので、相当長時間就働していることになるが、これはコロノといつても珈琲樹を請負つているのと同様であるため、収益に多大の関係があるからである。前述の仕事（C、契約の内容）を遂行したものは、余作地の手入れ、或はパトロンより日給仕事と与えられる。日給仕事の内には、除草が遅れているコロノの分を、パトロンの指示で手伝うこともあり、これは遅れたコロノの負担である。

休日、日曜及び、ブラジルの祭日等は、休んでも可であるが、契約農であるため、就働している家族が多くこれらの休日を利用して余作地の手入れ或は、請負の遅れを取り戻している。

E 契約期間中の収支概算

珈琲園コロノ

家族5名の内可働人員3名の場合

収入の部	金額 (cr\$)	支出の部	金額 (cr\$)
第1農年(初年度)		第1農年(初年度)	
○請負手入賃 7,500本×@6,500cr\$	48,750	○食糧 白米12俵 @1,200cr\$	21,600
○珈琲実採集賃 300俵×@85cr\$	25,500	メリケン橙3俵@1,200〃	3,600
○日給 50日分×@75cr\$	3,750	砂糖2俵 @1,100〃	2,200
○余作地収入 枳15俵×@1,000cr\$	15,000	フエイジョン3俵@3,000〃	9,000
玉蜀黍4カー×@1,000cr\$	8,000	牛肉60kg @ 100〃	6,000
養鶏10羽×@100cr\$	1,000	調味料 月@500cr\$×12月	6,000
自家用蔬菜	自給自足	○衣服 (携行のもので 間に行はせる)	—
		○交際娯楽教養 交際(冠婚葬祭)	1,200
		娯楽(シネマ等)	3,000
		教養(新聞,雑誌,学用品等)	6,000
		○光熱 石油	1,200
		○種苗 枳 30kg	500
		玉蜀黍2俵	1,000
		野菜種,雑等	1,500
		○農具類	4,000
		○医薬費	2,400
		○諸雑費	6,000
計	102,000	計	75,200
1農年日差引利益		26,800 cr\$	

1 農年繰越金	26,800		
第2農年度(収入)		入植2年目(支出)	
○珈琲請負手入 8,500本@×7,000cr\$	59,500	○食生活費 @4,000cr\$×12月	48,000
○珈琲実採集 400俵×@90cr\$	36,000	○衣服費	—
○日給仕事 50日分×@80cr\$	4,000	○交際娯楽教養	
○余作地収入 初20俵×@1,200cr\$	24,000	○光熱	1,200
玉蜀黍4カーロ@2,000cr\$	8,000	○種苗	3,000
養鶏20羽@250cr\$	5,000	○農具	5,000
養豚6頭@2,000cr\$	12,000	○覆葉費	2,400
蔬菜	自給自足	○家畜 雛鶏20羽×@40cr\$	800
		幼豚6頭×@100cr\$	600
		○飼糧 玉蜀黍1カーロ	2,000
		肉粉, 貝殻類その他	4,000
		諸雑費	3,000
計	148,500	計	82,000

2 農年目差引利益

66,500 cr\$

1~2 農年繰越金計	93,300		
第3農年度(収入)		入植3年目(支出)	
○珈琲請負手入 9,000本×@7,500cr\$	67,500	○食生活費 @5,000cr\$×12月	60,000
○珈琲採集賃 500俵×@95cr\$	47,500	○交際娯楽教養	12,000
○日給仕事 50日分×@80cr\$	4,000	○光熱費	1,200
○余作地収入 初20俵@1,400cr\$	28,000	○種苗	3,000
玉蜀黍5カーロ@2,200cr\$	11,000	○家畜用飼料 家畜 雛鶏50羽@50cr\$	2,500
養鶏50羽@250cr\$	12,500	幼豚12頭@150cr\$	1,800
養豚12頭@2,000cr\$	24,000	○雑費 医薬費	2,400
蔬菜	自給自足	諸雑費	3,000
		衣服費	—
		鶏舎・棚材料費	10,000
計	145,000	計	101,900

3 農年目差引利益

9 2, 6 0 0 cr\$

1~2~3農年繰越金計	185,900		
第4農年度(収入)		入植4年目(支出)	
○珈琲請負手入		○食生活費	
900本×@8,000cr\$	72,000	@5,500cr\$×12月	66,000
○珈琲実採集		○交際娯楽教養	18,000
500俵×@100cr\$	50,000	○光熱費	1,800
○日給仕事		○種 苗	5,000
50日分×@85cr\$	4,250	○家畜用飼料	12,000
○余作地収入		家畜 幼豚15頭@200cr\$	3,000
稗20俵@1,500cr\$	30,000	雛馬100羽@60cr\$	6,000
養鶏100羽@250cr\$	25,000	○雑 費	6,000
養豚15頭@2,000	30,000	○鶏舎(枠箱)	5,000
計	211,250	計	122,800
4 農年目差引利益		8 8, 4 5 0 cr\$	
総 計 繰越金	2 7 4, 3 5 0 cr\$		

- 註 1. 前表は5人家族で3人働手の場合を基準とした。
2. 珈琲圃コロノは、一般に除草賃(請負手入賃)にて生活をしているので、移住者も生活費は、除草賃で賄うようにしなければならない。
3. 請負可能本数は、稼働力者一名にて普通 2,500本位で、慣れるに従い多くなる。
4. 珈琲実の採集は、受持つている本数分は、半義務的であるが、別に採果賃があり、結実具合は、4年目の珈琲樹で1,000本で30俵位、それより次第に多く結実し、最盛樹になれば、1本で1俵とれる場合もある。コロノとして入植した場合の請負樹は、大体20本位で1俵収穫し得るもので、これを計算の基礎とし算出した。
- なお、採果期間は所により異なるが5月頃より9月頃までの間3~4月間であり、婦女子も採集が可能で、成人では一日1俵位採集し得る。
5. 余作地の収入は總て収益となり、契約完了後の独立資金となるものであるから、陸稻、玉蜀黍(一部は家畜の飼料にする)豆類を間作、又は余作地に植へ収益を図ると共に養鶏(普通放し飼ひ)養豚(欄飼)等を行うことが必要である。
6. 珈琲栽培方法等については、第六章南伯農産物事情第四節珈琲物語を参照

照され度い。

C 契約の内容

日給仕事であり、耕主の指示に従うこと勿論であるが、整地、蒔付、補植、本植、消毒、手入れ、収穫、選別、搬出に至る一連作業を行う。

D 就働時間（休日）

日曜日及びブラジルの祭日等は休んでも可である。但し、日給制であるため日給は別として、ブラジルの宗祭日及び祝日を全部休むことは収入に影響するところ大である。

なお、日曜祭日と雖も、希望により耕主側では仕事を与へ指示する。

就働時間は、農業労働であるため普通10時間であり、収穫期等の農繁期は更に延長される。

E 資格条件その他

(イ) 農業経験は絶対必要条件とはならないが、体力頑健で農業をする意思強固なものであること。

(ロ) 家族の場合は1夫婦を基幹として働手3人位以上のものが好ましいが、最低2人以上あること。単独青年は20才位以上の者。

(ハ) 住宅は無償貸与され、単独者の場合は、食住付きで家族の一員の待遇を受けることになる。

(ニ) 余作地は、原則として一農年目は与へられていないが、住宅の裏或は近くの空地を若干貸すところもある。

(ホ) ブラジルの祝祭日については、第七章雑第一項各種統計中日常便覧ブラジルの祝祭日を参照され度い。

F 契約期間中の収支概算

蔬菜、雑作、果樹、養鶏 日給農（家族5名、稼働力3名の場合）

収入の部	金額 (cr\$)	支出の部	金額 (cr\$)
第1年目		第1年目	
賃銀収入		食生活費	
大人男2人 120cr\$ × 25日 × 12月	72,000	5,000cr\$ × 12月	60,000

大人女1人 80cr\$×25日×12月	24,000	交際娯楽教養 光熱, 薪代等	12,000 2,000
雑収入 蔬菜 鶏20羽@250cr\$	自給自足 5,000	種苗蔬菜(自家給食用) 雛鶏20羽@45cr\$ 鶏舎材料費	500 900 2,000
計	101,000	計	77,4000
繰越金	23,600		
第2年目		入植2年目	
賃銀収入		食生活費	
大人男2人 130cr\$×25日×12月	78,000	5,500cr\$×12月	66,000
大人女1人 80cr\$×25日×12月	24,000	交際娯楽教養 光熱, 薪代等	12,000 2,000
雑収入		種苗	1,000
蔬菜 鶏50羽@250cr\$	自給自足 12,500	雛鶏50羽@50cr\$ 雑費	2,500 3,000
余作地以アルケール雑収入	15,000		
計	129,500	計	86,500
差引利益	43,000		

- 註記 1. 収支概算は入植2農年で66,600cr\$と算定したが、第3農年目位より、歩合作に移る家族が多いので、3農年及4農年の概算は省略した。
2. 余作地農は普通第1年目は与へられていない。
3. 蔬菜経営者でも、養鶏、果樹等果約的多角経営者が多い。

3. 果樹園雇用費

南伯の果樹地帯は、主に中央線、ブラガンサ、パウリスタ地域、ソロカバナ線(São Roque 地域)及び聖南西地域であり、南大河州ではカシーアス・ド・スール地帯であるが、亜熱帯及び温帯地帯に属するため産出する果樹は多種類に亘たる。

但し、移住者導入可能な果樹園の規模は、余り大きくなく、従って蔬菜、養鶏その他雑作を行っている所となり、事情によっては、果樹園希望の移住者でも、蔬菜その他の仕事をせねばならない。

A 雇用条件

前述の蔬菜農雇用条件と同じ。

B 入植適期

特にないが、例へば桃栽培者の所へ入植する場合は、収穫期頃が良い。

C 契約の内容

果樹園(桃、柿、ブドウ、柑橘、バナナ、マンゴ、パパイヤ、林檎、パインアップル等)の仕事は、次のようなものであり(若干のものを除く)、一連の仕事を行うことになる。

桃の場合 除草、消毒は適時行う。

中 耕 2月～3月 施 肥 4月～5月

剪 定 5月～6月 摘 果 6月～7月

袋 かけ 8月～9月 夏期剪定 10月頃

取 穫 11月～1月頃まで(1月頃は缶詰用のもの)

その他柿、ブドウ等についても大体同様の作業を行うことになる。

D 休日、就働時間

E 資格条件その他

前述蔬菜農の場合と同じ。

4. 養 鶏

養鶏は各地域に経営されており、近年は、鶏糞を珈琲樹に施肥する関係もあり、全南伯各地ということになる。なお、養鶏専業経営者もあるが、蔬菜、果樹、雑作と併業している経営者が多い。

A 雇用条件

B 入植適期

前述蔬菜農の場合と同じ。

C 契約の内容

特別に契約をすることは少ないが、雛の育成に必要な作業鶏に対する飼料配布、鶏糞の処理鶏卵の取等、一連作業を行うこととなる。

D 休日、就働時間

E 資格条件その他

前述蔬菜農の場合と同じ。

5. 雑作農

雑作とは、落花生、フェイジョン、米（雑穀）を普通指すが、此処では、前掲の4種以外のものとし、馬鈴薯、トマト、棉、玉蜀黍、茶、養蚕（除く専業養蚕）西瓜等の農作物一般とする。

これらは、南伯各地で生産されておるので、移住者は各地域へ入植し得るが、主な生産地帯は次の通りである。

なお、各地区の一般状況は、第五章地域別主要邦人集落地一般状況を参照され度い。更に栽培方法については第六章南伯農産物事情第二節栽培育成方法を参照され度い。

主要落花生生産地帯	ソロカバナ線奥地
〃 馬鈴薯生産地帯	近郊及びソロカバナ線奥地
〃 米生産地帯	中央線、ノロエステ線、モジアナ線及びパウリスタ本線
〃 棉生産地帯	アララクワラ線、ソロカバナ線奥地及びパラナ州北部
〃 トマト生産地帯	近郊（合聖南西）中央線、アララクワラ線
〃 茶生産地帯	聖南西レヂストロ地帯
〃 養蚕生産地帯	モジアナ線、パウリスタ線（ドアルテーナ、バストス）
〃 西瓜生産地帯	パウリスタ線、ノロエステ線

A. 雇用条件

a 茶園の場合は（請負）、コロノであり、次の様になる。

- (イ) 採集賃（除草等手入れを含む） 1疋に付 4cr\$
- (ロ) 余作地 1家族当り 約 1アルケール
- (ハ) 採集期は9月頃より翌年の4月頃までであるが、最盛期は、11月頃より2月頃までである。なお、採集は婦女子でも1日最低40疋位以上採集が可能である。

(二) 住宅無償貸与

b その他の雑作農

前述の蔬菜農の場合と同じ。

C 契約の内容

D 休日、就働時間

E 資格条件その他

前述の蔬菜農の場合と同じ。

第六節 新移住者の就働実態

南伯における珈琲園コロノは比較的移動が激しいが、自営開拓農と異り安住の土地を求め或は、独立資金を容易に貯へ得ないところからで、相対的な比判であり、これは新移住者の専売特許でもない。

近時、ブラジルは工業化に伴い、工業労働者に対する最低給与の保障制度が確立され、農村労働人口が都市に吸収される傾向が強いが、珈琲園地帯は金般的に労力不足の傾向が生じてきて、耕主は労力確保のため好条件を出すようになってきている。

珈琲の新地帯（バラナ、マツ・グロン州等）においては、4ヶ年継続コロノ制度を崩し、2年間コロノ、3年目から分益農制度を採っているところが多くなってきており、旧地帯（サンパウロ州内）においてさえ、雑作景気には珈琲園コロノが奪はれ、分益農に移行した方が、採算がとれるとして除々に変わりつつある。海協連サンパウロ支部は、新米移住者の独立を速やかならしめるよう、雇用主側の選定を行っており、雇用条件も有利になりつつある。

なお、現行の職種別一般雇用条件は、第五節にて述べたが、過般、在サンパウロの総領事館に協力して新米移住者の就働実態調査を行ったので、調査結果を述べる。

なお、雇用農が、独立するためには、特に次の点を考慮にいれ就働せねば

ならぬことを、調査報告は物語っている。

1. 余作地の耕作、養豚、養鶏等行うためには、実働稼働力実3名以上を有することが望ましい。
2. 生活費を節約することの出来る家族。
3. 珈琲除草賃によって生活費を賄うことは困難であり、採集賃を加えて生活を維持する程度である。
4. コロノの独立資金獲得は、分益農に移行することにより収益の増大、及び間作、余作の養鶏、養豚による収益のみで達成せられている。
5. 分益農の場合は、隔年なりの収益差が大きく且つ、収穫量の多い地帯と少ない地帯とでは大きな差があるので、副業の条件と耕地の珈琲樹令等検討し、選択することが重要となっている。
6. 間作は自家消費用だけでなく、残りを販売できる条件下にあることが望ましい。
7. 養鶏、養豚による収益の占める率は、非常に大きい。
8. 分益農に入っても養豚、養鶏のできないところでは、通算した場合収益が少なくなっている。
9. 養豚の出来る条件として玉蜀黍を生産する余作地 $\frac{1}{2}$ アルケール見当の確保が必要である。
10. 下表就働実態の調査地は北パラナ地帯である。

これらの条件が満たし得れば、5~7年目に自営農として独立し得る。

調査地 ブーグレ耕地

ブーグレ耕地の概況は、第五章第三節パラナ州関係1項北パラナの地区別一般状況に記述してあるが、同耕地には、過去4ヶ年間に約70家族入植し、60家族程退耕した耕地である。

このため耕主は、労力を確保するため、残留者に対する待遇改善（請負数を減じ、余力を余作、養豚、養鶏に向けるよう）を行ったので、古参組の主力は、養豚、養鶏による副業に投じられている。

実例 1959年3月入植者

家族構成、家長43才、長男18才、主婦43才、長女21才、その他非稼働力者2名

注 入植が3月であつたので、農期終了まで、日雇として就働しており、この間余作地殆んど無い。

収 入		支 出	
第一年 (1959.3~1959.10)			
a 日雇賃 @70cr\$×4名×70日	19,600 cr\$	a 生活費 @5,000cr\$×7月	350,000 cr\$
b 採集賃 @60cr\$×40俵	27,000	b 子豚 @1,000cr\$×6頭	6,000
		c 雛 鶏 50羽	200
		d 鶏舎, 豚子屋	4,000
赤字	1,600	e 飼 料	3,000
計	48,200	計	48,200

(鶏50羽, 豚6頭所有)

第二年度 (1959.11~1960.10)

a 除草賃		a 生活費 @5,000cr\$×7月	35,000
新樹@8,000cr\$×2,500本	20,000	@4,000cr\$×5月	20,000
旧樹@7,000cr\$×3,500本	24,000	(自家産米を消費のため)	
b 採集賃 @70cr\$×300俵	21,000	b 種 苗	1,700
c 日 雇 @70cr\$×30日	2,100	c 飼 料 月額@1,800cr\$×12月	21,600
副収入		d 農薬, 農具, 豚小屋	7,000
a フェイジョン 15俵	20,000	計	85,300
b 玉蜀黍 30俵 (自家用)			
c 糶 15俵 (自家用)			
d 鶏卵月産40打×50cr\$×10月	20,000		
e 豚 1頭	8,000	差引利益	29,800
計	115,100	計	115,100

第三年度 (価格は今年度を基準として推定する。)

a 除草賃		a 生活費月額@5,000cr\$×2月	10,000
新樹@8,000cr\$×2,500本	20,000	@4,000cr\$×5月	20,000
旧樹@7,000cr\$×3,500本	24,000	b 衣服, 作業靴, 数器その他	10,000
b 採集賃 @70cr\$×400俵	28,000	c 飼 料	36,000

c 日雇	21,000	d 肥料, 農薬, 豚小屋増設費	8,000
副収入		計	104,000
a フェイジョン	20,000		
b 籾15俵, 玉蜀黍30俵 (自家用)			
c 鶏卵月額(60打×50cr\$×10月)	30,000		
d 豚 子豚	20,000		
成豚	40,000	差引利益	80,000
計	184,100	計	184,100

(鶏10羽, 豚20頭所有)

第四農年 (推定)

a 除草賃		a 食生活費月額 4,500cr\$×12月	54,000
新樹@8,000cr\$×2,500本	20,000	b 衣服, 交際, 教養その他	15,000
旧樹@7,000cr\$×2,500本	17,500	c 飼料	50,000
b 採集賃 @70cr\$×400俵	28,000	b 肥料, 農薬その他	5,000
c 日雇	2,100	計	124,000
副収入			
a フェイジョン	20,000		
b 籾, 玉蜀黍 (自家用)			
c 鶏卵120打×50cr\$×10月	60,000		
d 豚売却	90,000	差引利益	113,600
計	237,600	計	237,600

(四ヶ年通産利益 221,900cr\$, 別に鶏120羽, 豚30頭あり)

辻 耕地

耕地概況. マリンガ市より30軒, イロイ市より10軒の地点で新地帯に属し, 地質は, テーラ・ミスラ, 樹令10年以内, 収穫は隔年なりの影響は余り受けておらず, 1960年1,000本に付き, 60俵, 1961年度は80俵が予想されている。

作業は砂地のため, 旧地帯より容易であるが, コロノによっては, 2年目から分益農に移っている。

間作は自由, 余作地 $\frac{1}{2}$ アルケールが与へられているので, 養鶏, 養豚が行はれて副収入が大きい。

実績より, 家族5名(3名稼働, 2名非稼働力)についてその収支を推定すると次の通り。

収 入		支 出	
第一農年 (実績)			
	cr\$		cr\$
a 除草費 @5,000cr\$×6,000本	30,000	a 生活費 @4,500cr\$×12月	54,000
b 採集費 @70cr\$×350俵	24,500	b 農具	5,000
c 日 雇 延20日×80cr\$	1,600	c 子 豚 4頭	4,000
副収入		d 豚小屋	2,000
a 間作 粃40俵(20俵売却)	16,000	e 種 苗	1,000
b 余作 玉蜀黍40俵 (自家用)		f 農薬, 肥料	2,500
		計	68,500
		差引利益	<u>3,600</u>
計	72,100	計	72,100
第二農年			
a 除草費 @5,000cr\$×6,000本	30,000	a 生活費 @4,000cr\$×12月 (自家用産米の消費により)	48,000
d 採集費 @70cr\$×450俵	31,500	b 豚小屋, 養鶏小屋その他	4,000
c 日 雇	1,600	c 農薬, 肥料	2,000
副収入		計	54,000
a 間作 粃40俵(20俵売却)	16,000	差引利益	<u>25,100</u>
b 余作 玉蜀黍40俵 (自家用)			
計	79,100	計	79,100
第三農年 分益農 (推定, なり年)			
分益50% 6,000本 = 450俵×750cr\$÷2	168,750	a 生活費 @4,000cr\$×12月	48,000
副収入		b 衣服その他	7,000
a 間作 粃40俵(20俵売却)	16,000	c 豚小屋, 増設	2,000
b 余作 (自家用)		d 飼 料	3,000
c 豚売却	60,000	e 人夫賃	7,000
		計	67,000
		差引利益	<u>177,750</u>
計	244,750	計	244,750
第四農年 (推定, なりの少い年)			
分益50% 6,000俵 = 350俵×750cr\$÷2	131,250	a 生活費 @4,000cr\$×12月	48,000
副収入		b 衣服, その他	10,000
a 間作 粃40俵(20俵売却)	16,000	c 飼料, 農具	5,000

b 余作 (自家用)		d 農 菜	3,000
c 豚売却	80,000	e 人夫賃	7,000
		計	73,000
		差引利益	<u>154,250</u>
計	227,250	計	227,250

(四カ年通算利益 360,700cr\$, 他に鶏50羽, 豚30頭所有)

独立資金として、350,000～450,000 cr\$ は用意する必要があり、内訳は、雑作農の場合は、土地代、種苗費、収穫費、輸送費、及び収穫までの生活費等であり、珈琲農として独立するためには、新山の購入費、開拓費、生産に伴う費用、及び最低1ケ年の生活費が必要である。土地代は場所により異るが新開地の方は、1アルケール20,000cr\$ 位よりある。

なお、近郊で、果樹、養鶏、短期蔬菜を行う場合は最低2アルケール程以上あれば営農が可能であるが、珈琲農として独立し営農がなりたつためには最低5アルケール以上が必要である。

第四章 移住者受入団体状況

第一節 在伯県人会状況

南伯の導入数24,025人(34年度まで)は、INIC 扱の計画移住者3,834名で他は雇用呼寄であるが、雇用呼寄数20,191名のうち、指名呼寄、所謂、県人会、日本人会、邦人(外人)個人及びあっせん業者の手続により呼寄導入した数は、13,099名に達している。

移住関係団体について

1. 在伯県人会状況

在伯県人会名にて移住者を呼寄しているものが若干あるが、県人会の多くは、親睦機関であって、年に1回位会員が集まり親睦を重ねている程度である。

例へば、母県より視察者がくるような場合に会合を行っている程度で、県人数把握も実数を下廻っており、聖市、近郊居住或は地方有力者等のみの機

関の観があり、多くは一部のもののみが利用している。勿論中には、移住関係の業務を行うため母県より委託事務費を受取ったり、駐在員(専従員)を置いていた県人会もある。

A	在伯県人会名	会長名	住 所
	北海道協会	多田栄一郎	R. Silveira Martins 132
	青森県人会	浜川 正吉	R. Itapura de Miranda 72
	宮城(青葉会)県	菊地 英二	Pça Clovis Beillaqua 134
○	山形県同郷会	林 茂夫	P. que D. Pedro II, 62
○	福島海協支部	村井喜代己	Pça da Sé 399.1階
○	秋田県人会	蛭田 徳弥	パウリスタ新聞社 Tel. 37-6384
○	岩手県(県人会ナン 世話人)	袴田 増雄	C.×250 Estação AvarÉ, E.F.S.
	群馬県人会	石原 桂三	R. Silveira Martins 132
	茨城(筑波嶺会)	中 林	Diario "NIPPAKu" Av. Lacerda Franco 1074
	神奈川(湘南会)	原 源藏	Av. Mercurio 564
	東京都民会	山本喜登司	Av. Panlista 91
	埼玉県人会	高瀬 隆司	C.×135 Bragança E.F. Bragança
	千葉県人会	藤平 正義	R. Senador Feijo 69
○	静岡県人会	杉田ジョージ	R. Pagé 194.2階
	長野(信友会)	宮坂 国人	R. Senador Feijo 197
	山梨県人会	寺内 文三	R. Cardeal Arcoverde 69
	新潟(越佐郷土会)	宿屋 忠八	R. Santa Rosa 162
	石川県人会	安田友次郎	R. Itapura de Miranda 58
	福井県人会	宮本由太郎	R. Barão de Duprat 17
	富山県人会	伊藤直次郎	R. Garvão Bueno 65
○	岐阜県人会	岡部 英一	Av. Mercurio 582
	愛知(愛友会)	峰谷 専一	Rua Guardalupe 698

○三重県海協支部	北村 政吉	R. Senador Feijo 29
○和歌山県人会	竹中 儀助	R. Cantareira 116
京都(京都クラブ)	中久保益太郎	R. Frederico. Alvarenga 230
滋賀県人会	加藤 好之	Produtores S. A. R. Senador Feijo 197
奈良県人会	岡本 寅藏	"Chá Ribeira" Registro
大阪府	なし	} 設立計画中
兵庫県	なし	
○広島県人会	杵磨 宗一	R. Silveira Martins 132
岡山県人会	水本 春一	R. Cardeal Arcoverde 2649
○山口県人会	菅 譲一	R. Senador Feijo 30
鳥取県人会	難 波	R. Santa Efigenia 490
香川県人会	高畑 正雪	R. Maria Domitilia 406
○高知県人会	氏原 彦馬	R. Cardeal Arcoverde 2539 a/c COTIA
○愛媛県人会	中矢 一郎	R. Tabatinguera 88 a/c OHMASA
徳島県人会	平井 治二	R. Francisco marinho 116. Casaverde. S. P
○佐賀県人会	富崎 八郎	R. Santa Tereza 28
○福岡県人会	内山 吉藏	R. José Bonifacio 209
○宮崎県人会	松岡 哲男	R. Senador Feijo 30
○熊本県人会	島田 綱彦	R. Quintino Bocaiuva 231
大分県人会	羽瀬 作良	R. Conselheiro Furutado 80
○鹿児島県人会	東郷 一二	Av. Mercurio 564
○在伯沖繩協会	花城 清安	R. Pagé 194

県人会の内には各地に支部を設けている沖繩協会もあれば、単なる連絡先となっているものまである。上表の中業者と結びつきのあるもの或は移住業務を行なっているものは○印である。

B 県人会と業者との関係

上表○印の内業者との関係及びその経緯

県人会名	現地手続あっせん者名	内地指名業者名
山梨県	個人又は、Agencia 菊地	井口 勝一
福島県	ブラジル移住会村井，本田事務所	井口 勝一
岩手県	袴田増雄	
青森県	個人又はクルセイロ旅行社	井口 勝一
宮城県	個人又はクルセイロ旅行社	井口 勝一
静岡県	個人	
石川県	〃	
岐阜県	〃	
三重県	〃	
和歌山県	個人又は和歌山不動産KK，日伯交通社等	
山口県	個人又はブラジル移住あっせん団体連合会	鈴木 義雄
高知県	個人	
愛媛県	個人又はブラジル移住あっせん団体連合会	鈴木 義雄
佐賀県	個人又は（宮崎）世話人	
福岡県	個人	
宮崎県	個人又は農拓協	
広島県	個人又は日伯協会	山田 愨
岡山県	〃 〃	〃
熊本県	個人又は暁交通社	藤森 貞輔
福井県	個人又はクルセイロ旅行社	井口 勝一
鹿児島県	個人又はクルセイロ旅行社	井口 勝一
沖縄県	個人又は沖縄協会	鈴木 義雄

県人会が業者と関係をもっているものの理由は、業者自身が出身県の世話役を兼ねていたり、有力な県人を介して、県人会に呼寄業務等行なうことを依頼しているためである。

従って、現地にてあっせん業者を介させた場合には、自動的に内地の業者を指定しており、その他の場合は無指定（海協連一任）となっている。

第二節 主要受入耕地（団体）状況

南伯に移住者が相当数入国しているが、呼寄が主であり、今後も増加の一途をたどるものと考へられる。勿論日系人の集団地には、文化クラブ、日本人会、その他の名称の親睦団体が設置されているので、新らしく入国してくる移住者は、旧移住者が入植した当時より恩恵が受けられる。

昭和28年以降の移住者受入耕地及び団体の主なものの住所代表者名は次表のとおりである。

受入耕地団体名	代表者	住所又は連絡先
安瀬耕地	安瀬盛次	C.×8075 Rua Senador Feijo 197, S. Paulo
曙父兄会	木本久	C.×97 Modi das Cruzes, E.F.C.B.
アラサツバ日本人会	高橋麟太郎	C.×119 Araçatuba, N.O.B.
アプカラナ日本人会	千田住人	C.×564 Apucarana, E. de Paraná
アルジャー	西岡一士	a/c Escritorio HASEGAWA Rua Tabatinguera 105, S.P.
アダマンチーナ連合日会	池田信雄	C.×301 Adamantina C.P. E. de S.P.
アトレチコ倶楽部	野村馨	C.×44 Andradina N.O.B. E. de S.P.
イクケーラ共済会	渡井光雄	C.×437 Itaquera E.F.C.B.
イカツー耕地	仲介人 下田菊治	Av. 13 de Maio 62, Lins. N.O.B.
イタベチニンガ連合日本人会	矢吹源吾	C.×34 Itapetininga, S. Paulo
イタベチニンガ出荷組合	笹岡忠雄	C.×1133 Rua Tabatinguera 456, S.P.
ウライ体育文化協会	灰田巧	C.×1 Urai E. de Paraná
ウライ連合日本人会	渡辺万次郎	C.×1 Urai R.V.P.S.C.P. E. de Paraná
エストラ・フィーナ紡績会社	大谷一二	Av. do Estado 5200, S.P.

エスピリットサント日本人会	山本 仁作	Espírito Santo do Rio Turvo Via S. Cruz do Rio Pardo, E.F.S.
オウリーニヨス産組	石川 操	C.×100 Ourinhos, E.F.S.
オーロ・フィーノ紡績会社	土居 義男	C.×192 Suzano, Bairro Palmeira, E.F.C.B.
カフェランジア呼寄組合	藤沢 貞次	C.×140 Cafelandia, N.O.B.
カプテーラ六キロ日会	根岸 健治	C.×58 Modi das Cruzes, E.F.C.B.
ガルサ神仏協会	大和 甚三郎	C.×287 Garça, C.P. E. de S. Paulo
カンピーナス産組	笠原 栄三	Rua Ernesto Kuhlman, Campinas, C.P. S. Paulo
グアピアーラ日本人会	玉木 寿市	Guapiara, E. de S. Paulo
グァイサーラ市日本人会	鳥井 政男	C.×12 Guaçara, N.O.B.
グアラサイ熊本県人会	志水 伊平治	C.×66 Guaraçai, N.O.B.
コチア産業組合	井上 忠志	Rua Cardeal Arcoverde, S.P.
コルネリオ・プロコピオ日会	宮本 邦宏	C.×42 Cornesio procopio, E, de Paraná,
サンタ・オリビア農園	仲介人 福島 正介	Rua Miguel Estefano 5, S.P.
サンタ・マリア産組	木村 徳藏	C.×39 Cananeia, Litoral do Sul, S.P.
サンタ・アメリカ日会	鐘ヶ江 美年	C.×98 Getulina, N.O.B.
サンタ・マール日会	源 義政	Rua B. Jardim São Luiz, Santa Amaro, S.P.
サンタ・クルース・ド・リオ バルド日会	鈴木 極淑	C.×153 Santa Cruz do Rio Pardo, E.F.S.
サント・アナスタシオ連合日 本人会	大西 精志	C.×233 Santa Anastacio, E.F.S.
サーレス植民地	佐藤 雷太郎	C.×2 Cafelandia, N.O.B.
サンルイス耕地	仲介人 竹田 清一	Rua Senador Feijo 69.6階 S/64
サウデー日本人会	日野 信夫	C.×99 Junqueiropolis, C.P.
サンパウロ日本文化協会	山本 喜登司	Praça Liberdade 60.6階 S.P.
サンパウロ近郊 蔬菜・果樹栽培会	西江 八郎	Modi das Cruzes, E.F.C.B.

シチオ・ド・メイオ日会	齊藤 伊助	a/c Coop. CO'IA. Rua Cardeal Arcoverde 2539
ジュンジアイ日本人会	吉田 四郎	Av. São João 335, Jundiá, C.P.
ジャポチカパール日本人会	藤崎 二三四	C.×303 Jaboticabar, C.P.
JATIC 商工会社	駒崎 利夫	Rua Conselheiro Crispiniano 79.5階
シャンテ・プレー耕地	仲介人 服部 定平	Rua 13 de Maio 1231, S.P.
スザノ産業組合	原田 敬太	Rua Senador Feijo
スールブラジル中央農産組合	中沢 源一郎	Rua Carlos de Soza Nazareth 436, S.P.
スイ ッ サ 耕地	仲介人 藤沢 真次	C.×140 Cafelandia, N.O.B.
ゼツバ日本人会	柴田 芳三	Caragatatuba. Via S. J. dos Campos, E.F.C.B.
セードロ日本人会	古谷 重綱	Cedro, E.F.S., Juquia
ゼッリーナ連合日会	中村 健樹	Rua Carlos de Campo 425, Getulina
天理教ブラジル伝道庁	大竹 忠次郎	C.×10 Vila Farcon, Bauru, N.O.B.
ドアルチーナ日本人会	三木 猛夫	C.×18 Duartina, C.P.
ドラセーナ日本人会	辰巳 勇平	C.×287 Dracena, C.P.
トレスバラス連日会	頼則 照雄	C.×55 Assai E. de Paraná
ツパン日本人会	右田 辰彦	C.×266 Tupã, C.P.
日本拓植協同組合	大谷 晃	a/c Embaixada do Japão
日本力行会伯国支部	村上真市郎	Rua Florencia de Abreu 464. S.P
日伯協会伯国支部	小田 薫	Rua Anita Garibarji 45, S.P.
日輪県舎父兄会	小川敬太郎	C.×11086 Rua Pinheiros, S.P.
日本青年協会	吉岡 省	a/c Coop. Itaquera, S.P.
バンデイランテ連日会	原田 実	Rua Barão de Duprat 545, S.P.
バストス連日会	谷口 章	C.×39 Bastos, C.P.

パウルー日伯文化協会	高本 由松	Hotel Olucira Rua 1º de Agosto, Bauru, N.O.B.
汎ブラガンサ連日会	大沢 達三	C.×135 Bragança Paulista
汎ローランジア日会	山内 安房	C.×12 Rolândia Paraná
汎プロミッソン日会	坂本 隆弘	C.×260 Promissão, N.O.B.
汎リベロンプレット日会	長尾 庄次郎	Rua Alvares Cabral 970, C.M. Riberão Preto
平野植民地	山下 定一	C.×12 Cafelandia, N.O.B.
ピラル・ド・スール日会	佐々木三次郎	Piral do Sul, Estrada Critiva
フェリシダーデ耕地	仲介者 松林 昇次郎	Rua Itaguçaba 88, S.P.
福寿植民地	柳原 勘兵衛	Duartina, C.P.
プレシデンテ・ベルナルデス 中央日会	西沢 登次	C.×192 Presidente Bernardes, E.F.S.
アルミデンテ・アルデンテ 連日会	佐々木 敏雄	C.×96 Presedente Prudente, E.F.S.
富士殖民地	河上 利一郎	a/c Sr. TAKAMOTO Rua 1º de Agosto, Bauru, N.O.B.
ブーブレ耕地	吉雄 武	Rua Senador Feijo 197
ブラジル移住会	村井 喜代己	Praça da Sé 399.10 S/105 S.P.
ペーナポリス連日会	久保田 福一	C.×101 Penapolis, N.O.B.
ペレイラバレット連日会	小松 盛幸	C.×87 Pereira Baretos, N.O.B.
ホルモーザ耕地	安瀬 盛次	Rua Senador Feijo 197
ボンスマソ日本人会	大槻 兵哉	Bonsucesso, Munc. Guarulhos
ポンベイヤ日本人会	浜崎 新二	C.×130 Pompeia, C.P.
ボーイスカウト	細江 静男	Rua Cantareira 116.3階 S.P.
ボッポランガ日会	高橋 徳意	C.×65 Votuporanga, E.F.Araraçaraense
ポルトアレグレ農協	星子 直隆	Rua Cardas Junior 373, R.G.S. Port-Alegre
バラプアン日会	前田 情勝	a/c Sr. TAKEDA Rua Senador Feijo 69.6階 S.p.

バストス中島燃系	天野賢治	Rua Venceslau Braz 208.10階 S.P.
パウリスク新聞社	蛭田徳弥	Rua Oscar Cinta Gordinho 42, S.P.
マリンガ日本人会	安藤京造	C.×165 Maringa, Paraná
マリアルバ中央日会	大原信章	C.×280 Marialva, Paraná
マリンガ連日会	田口虎夫	C.×78 Maringa, Paraná
マシ一耕地	仲介人 松岡哲男	Rua Senador Feijo 30, S.P.
松原耕地	松原義和	C.×19 Maringa, C.P.
ミランテ日会	中津井四郎	C.×5 Mirante do Parana-Panena, E.F.S.
ミランド・ボリス日会	藤野勝氏	Rua Rafeal Pereira 780, N.O.B.
モジ・グス・クルーゼス中央日会	中谷益太郎	C.×178 Modi das Cruzes, E.F.C.B.
モジ・グス・クルーゼス産組	長尾藤太郎	C.×178 Modi das Cruzes, E.F.C.B.
森田建築設計事務所	森田芳一	Rua Quintino Bocaiuva 30 S/34
ロンドリーナ連日会	伊藤達馬	C.×875 Rua Jatui 353, Londrina
ロゼイラ日会	下田未松	Estação Roseira, E.F.C.B.
リンス日本人会	田中庄助	Rua Campos Sales 636, Lins, N.O.B.
ルミノーズ・ド・レインボー ドブラジル会社	Sr. Fabio Teixeira de Carvalho	Rua Barão de Itapetininga 221.6階
ルセリア明則日会	岡崎信之	Estação Luceria, C.P.
レヂストロ共済会	松地栄治	C.×38 Registro, E.F.S. Juquia
大和日本人会	藤沢良之助	C.×172 Apucarana, Paraná
一平絹織物 K K	鈴木盛蔵	Rua Marconi 138.8階
安田耕地	安田良一	Rua Gustavo de Godoy 118
叶野耕地	叶野貞男	Pinda Monhangaba, E.F.C.B.
シャーレ鉦山	草間宏三	Rua Capitão Salemao 80, S.P.

第三節 主な日系産業組合とその活動状況

移住者受入団体として、産業組合等が相当活発に活動しており、移住者は、組合員の耕地へ配耕されているが、契約期間終了後は、産組の組合員に加入することが出来、組合より資金的援助を受けることが期待できる。聖市及び聖市近郊に本部を置く産組の主なものについて、その活動状況等を略記する。

1. サンパウロ農業協同組合中央会

Cooperativa Central Agricola de São Paulo

本部所在地 Rua Americo Brasiliense 361

サンパウロ農業協同組合中央会（通称産組中央会）は、1934年4月23日に創立されたもので、各地方に散在している日系産組の中核機関として組合相互の連絡統制を計るためにも有意義なものである。

1937年頃は、この中央会傘下の日系登録組合29、組合員は9,500家族に上って、産青運動、産組講習会等が行われ、協同組合の経済面と精神面とがよく結びついた日系組合運動の再盛期であった。

現在中央会は、アメリカ・ブラジエンセン街に煉瓦造総3階建の大ビルを持っており、建坪2,600平方米、地階は農産物販売部、1階は冷蔵庫及食堂、2階は事務所、3階は食堂である。

1958年度の主要農産物取扱量は次の通り。

鶏卵	130,000箱	馬鈴薯	30,000俵
肉鶏	60,000羽	トマト	30,000箱
精綿	28,000フローバ	西瓜	3,000噸
実綿	48,000フローバ	桃	20,000箱

なお、中央会には現在次の18組合が加盟しており、パウリスク養蚕協会の会員であって、日本より導入の養蚕移住者の指導も行っている。

コチア産業組合、聖市近郊組合、カフェランジア産組、アリアンサ産組、
 チエテ産組、バストス産組、ツバン産組、マリリア産組、レヂストロ産組、
 ジュキア・バナナ生産者組合、モンテ・アルト産組、オウリーニヨス産
 組、モココ産組、カンピナル産組、パルメイラ産組、イクベセリカ産組、グ
 アラレーマ産組、フェルナンドポリス棉花組合。

2. コチア産業組合

Cooperativa Agricola de Cotia

本部所在地 Rua Cardeal Arcoverde 2539

コチア産組は、1927年12月11日、サンパウロ郊外のコチア郡モイニョペー
 リヨにて創立総会を開き、創立組合員83名、出資金290,000cr\$にて組織
 されたものであるが、1932年にブラジルに組合法が發布されたので、従前の
 株式会社を新法令に従い改組、コチア産組と改称、ここに名実ともに現在の
 コチア産組が形づくられた。爾来30年幾多の内外の危機圧迫を乗り越え、遂
 に現在の組織と機構をもつに至ったものである。

現在の活動範囲は、サンパウロ、リオ（グアナバラ）パラナ、ミナスの諸
 州に及び更にマツト・グロッソ、ゴヤス州等に及びつつある。

1958年3月末現在では、組合員数5,846名を擁し、家族を含めた総人口は
 34,915名に達し、これを国籍別にみると、伯国人は2,202人、日本人3,387人
 その他31カ国人257人となり、全世界の人々を集めた協同組合組織体といえ
 る。

サンパウロ市ピネーロスに組合本部を置き、市内に18ヶ所の販売所及び倉
 庫を設けている他、次の通り地方に倉庫、販売所を設置している。

地 方 倉 庫		市 内 販 売 所	
サンパウロ州内	38カ所	リオ市内	2カ所
パラナ州内	4カ所	サントス市内	2カ所
リオ(グアナバラ州内)	1カ所	地方都市	13カ所
ミナス州内	1カ所		

なお、組合の機構を大別すると、販売、購買、信用、利用、農事、総務の

6部に分けられて、1957～58会計年度の販売事業総額は、1,709,345,726.20 cr\$ に達し、大コチアの面目を発揮している（4月より翌年3月迄を会計年度としている）。即ち

馬鈴薯	14,594,202俵	619,309,580.60 cr\$
トマト	990,753箱	238,203,844.80
鶏卵	10,810,954打	374,581,487.10
蔬菜		150,763,508.40
バナナ	1,344,487房	47,614,920.20
茶	183,868キロ	14,346,531.80
食鶏	291,591羽	19,775,910.30
落花生	42,045俵	10,190,051.80
米	36,985俵	39,419,554.70
夾綿	72,357アローバ	13,013,537.90
ラミー	347,264キロ	7,850,684.80
玉ネギ	83,804アローバ	11,466,314.90
その他		162,809,797.90

なお、コチア産組総務部内に拓植課があり、コチア産組取得の特許枠により、日本より移住者を導入しており、これら移住者の営農を指導している。

3. スール・ブラジル中央農産組合

Cooperativa Central Agricola Sul-Brasil

本部所在地 Rua Americo Brasiliense 419

スール・ブラジル中央農産組合（南伯産組）はもとジュケリー農産組合と称した、1929年12月29日サンパウロ市より35軒のブラガンサ街道に沿ったマイリポラン市（旧ジュケリー村）を中心とするジュケリー植民地在の日本人・馬鈴薯栽培者49名によって創立されたもので、その後幾多の変遷を経て、1954年11月に定款を改正し、中央会組織としその活動範囲も拡大した。この際中央農産組合と改称した。1958年4月現在組合員数2,300名を越え、この組合に加入しているものを数え生産物の集荷と必需品供給の便のため、サ

ンパウロ州に17ヶ所、パラナ州に3ヶ所、リオに2ヶ所（サンパウロ市以外に22ヶ所）の出張所を設け、その生産物売上高が年間約450,000,000cr \$、購買部利用高は20数万コントスの巨額に達している。

なお、南伯産組は、その組合機構を販売局、購買局、運輸局、殖産局、地方支部統制局及び総務局の6局に別けられており、馬鈴薯、雑穀、トマト、青物、果物、鶏卵等組合員の生産物を有利に販売することを目的としている。

南伯産組に加盟している産組名——モジダスクルーゼス産業組合、トレメンペー産業組合、カンピーナス産業組合、リベルダーデ産業組合、ジュンジアイ産業組合、ジョアキンタボーラ産業組合。

4. バンディランテ産業組合

Cooperativa Agricola Bandeirante

Rua Barão de Duprat 545, São Paulo

バンディランテ産業組合は、1939年3月22日にブラガンサ街道に沿ったマイリポラン市に創立された、ここも第二次大戦の勃発とともに敵性国民の団体とみなされ幾多の障害にあったが、戦後1947年日本人による理事会が復活すると共に逐次、聖市郊外を始め奥地に組合員の増加を見、生産高も急テンポに上昇し事業も拡張、1957年現在組合員1,200人、生産物約250,000,000cr \$ に達している。

現在日系三大組合といへば、コチア産業組合、南伯中央農産組合と、それに、このバンディランテ産組であるが、この組合が一番若い。

創立の動機、目的は特に小農業者を育て、大きくならしめることで、このスローガンを掲げて若さに溢れた力強い歩みを続けている。

5. マウア産業組合

Cooperativa Agricola Mista de Mauá

本部所在地 Rua Mendes Caldeira 392, São Paulo

産業組合といへば、歴史、組合員数、規模、経済活動からいっても、まずコチア産組、南伯中央農産組合、バンディランテ産組の順であることは論を俟たないが、次の4番目にくるのは、マウア産業組合である。

このマウア産組の創立は、1953年10月31日で、まだ7年にしかっていない。

組合員の分布は、スザノ、サンタアマーロ、ボンセソ、イクベセリカ方面で、生産物は主としてアルファッセ、馬鈴薯、トマトであり、組合員約900（1958年現在）、年間の取扱高、12～150,000,000cr\$である。

創立の動機は、農家又は農業団体以外は、中央青物市場での卸売を禁じられたため、窮余の一策として、委託販売業者は「組合」に切り替えた中の1つであり、1時は、同種組合が100を超えていた。

委託販売が禁じられ、その販売が生産者に開放されたため実際問題として農家は、直接販売せねばならぬ煩わしさが増し、これを脱けるため出荷者の要望により、マウア産組が結成されたものである。

組合の従業員は出張所併せて、40名位で、出張所は、リオ郊外、マドレイラに2ヶ所、サンパウロの青物市場に1ヶ所の計3ヶ所である。

6. モジ・ダス・クルーゼス産業組合

Cooperativa Agricola Mista de Mogi das Cruzes

本部所在地 Rua Dr. Deodato Wertheimer 34,

Mogi das Cruzes, E. F. C. B.

中央線モジ・ダス・クルーゼス地方は、リオとサンパウロ両市を控えて、農産物を供給する地の利を占めた所で、1930年頃には、モジには200余家族の邦人が蔬菜栽培を中心に集団していた。産組は、1933年3月8日に結成しており、新法令にもとずき、1939年1月現在のモジ・ダス・クルーゼス産業組合と改称し、モジ郡に隣接した地域も含めて、本格的な活動に入っている。

主要農産物は、馬鈴薯、トマト、キャベツ、青果及び養鶏等であり、聖市及びリオ市に事務所及び販売所を夫々1ヶ所もって活躍している。

7. スザノ産業組合

Cooperativa Agricola Mista de Suzano

本部所在地 Bairro Palmeira, Suzano, E. F. C. B.

スザノ産業組合の創立は、1940年4月で、名称が示す通り組合員は、中央

線スザノ市及び近郊に居住している者の一部にて組織されており、同組合の取扱わ、養鶏、卵が主で、他に、キャベツ、馬鈴薯、トマト、その他の野菜、果樹類等組合員の生産物の販売を行っている。1959年の組合員数は116で、出資金は2,622,150cr\$であり、同年決算未の販売事業総額は26,190,911.60cr\$, 賄買事業総額は24,042,529.50cr\$であった。

なお、スザノの本部以外に聖市に事務所及び販売所各1カ所を設けている。

8. サンパウロ州農業拓植協同組合中央会

Cooperativa Central Agricola e de Colonização do Estado de São Paulo

本部所在地 Avenida da Liberdade 47.7階

サンパウロ州農業拓植協同組合中央会（農拓協）わ、1957年10月に、日本にて訓練されている産業開発青年隊員の受入機関として創立され、隊員の導入とともに、パラナ州に技能青年訓練所を設けて、一定期間同所で、訓練を行い、各地へ就働をあっせんしている。

1960年現在の組合員数は、571人に達し、出資金は、5,900,000cr\$に及んでいるが、訓練所の水田事業等につきこんでおり、産組本来の活動未だ行われていない。

なお、農拓協に加盟している産組は10あり、移住者の受入業務も行い、コロニアの機関として海協連支部の受入業務に協力している。

農拓協に加盟している法人組合——コチア産業組合、モジ産業組合、マウア産業組合、トレメンペー産業組合、ドラード産業組合、イタケーラ産業組合、聖市郊外産業組合、タウバテ産業組合、バンデイランテ産業組合、トメアスー産業組合。

第四節 主要斡旋業者とその活動状況

サンパウロ市にわ旅行案内社、呼寄手続代行等の名称にて、40数社があるが、移住者の導入業務に関係する場合わ、商事登録所（Junta Comercial）

に会社設立を登録するのみならず、移植民院の許可も受けねばならない。

更に切符の売捌を行うためには、国際空輸協会（IATA）及び船切符の発売取次には、船会社との間で公認されねばならぬ、現在 IATA に加盟している業者は三社で、手続中のもの一社である。

これら業者は、鑑識手帖、外国人登録手帖取得手続のあつせん、訪日その他旅行切符の取次ぎ、旅行案内、郷里送金手続代行、呼寄、再渡航、帰化手続の代行又わあつせんに関する業務を行つているが、正式にわ、各種法律行為を代行するためにわ、デスパツァンテの学校を卒え資格を有するものでなければ行えぬものであり、資格を有せぬ業者は、資格を有している代書人（デスパツァンテ）に再依頼している状態である。

移住者を呼寄するための書類作成等は、法律行為でわあるが、呼寄人が直接公証役場へ出向き作成することが出来る。

このような場合でも、時間の浪費と手続が煩鎖である理由にて、業者に依頼しているものが多く、業者は通訳として付添う場合と、依頼者より業者の個人名あての委任状をとりつける場合とがある。

主要あつせん業者

A IATA 加盟業者

- | | |
|---------|--------------------------------|
| (a) 業者名 | ユニベルツール（国際交通観光社） |
| 代表 | 水本浩九郎 |
| 日本の代理人 | 井口 勝一 |
| 現地の活動状況 | 個人呼寄とブラジル移住会社名にて呼寄 |
| (b) 業者名 | ブラスビア社（Brasvia） |
| 代表 | 加来 晋一 |
| 日本の代理人 | 加来 養一 |
| 現地の活動状況 | 個人呼寄及び農拓協協指名の一部 |
| (c) 業者名 | 日伯交通社（Turismo Nipo Brasileiro） |
| 代表 | 赤川 威陽 |
| 日本の代理人 | 藤森 貞輔 |

現地の活動状況 個人呼寄，ブラジル移住会社名にて呼寄，山梨県人会，和歌山県人会関係一部

B 加盟手続中のもの

(a) 業者名 ブラジル移住あつせん団体連合会（ブラジル旅行社）

代表 原田 敬太

日本の代理人 鈴木 義雄

現地の活動状況 在伯北海道農友会，愛媛県人会，スザノ産組，マウア産組，イタペチニング出荷組合

C 未加盟業者

(a) 業者名 暁交通社

代表 甲斐 久

日本の代理人 藤森 貞輔

現地の活動状況 個人呼寄と，日輪学舎，熊本海協の一部

(b) 業者名 アゼンシア菊地

代表 菊地 鉄弥

日本の代理人 井口 勝一

現地の活動状況 個人呼寄と山形県関係分

(c) 業者名 沖繩協会

代表 花城 清安

日本の代理人 鈴木 義雄

現地の活動状況 沖繩出身者関係

(d) 業者名 クルゼーロ旅行社

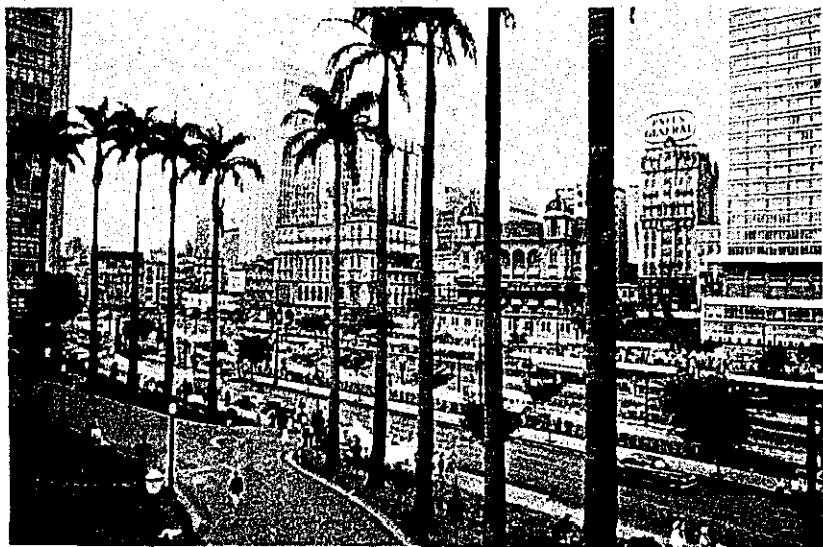
代表 鎌田 豊

日本の代理人 井口 勝一

現地の活動状況 鹿児島県人会，青森県人会，福井県人会，宮城県人会の一部

(c) 業者名 中島旅行社

- | | |
|---------|-------|
| 代表 | 中島 正 |
| 日本の代理人 | 井口 勝一 |
| 現地の活動状況 | 個人の呼寄 |
- (f) 業者名 日伯協会（小田旅行社）
- | | |
|---------|--|
| 代表 | 小田 薫 |
| 日本の代理人 | 山田 愿（日伯協会） |
| 現地の活動状況 | 個人呼寄，日伯協会々員，広島県人会，和歌山県
庁依頼分及び岡山県人会の一部 |
- (g) 業者名 日本力行会
- | | |
|---------|-----------|
| 代表 | 村上真市郎 |
| 日本の代理人 | 永田 稔（力行会） |
| 現地の活動状況 | 力行会員の呼寄 |
- (h) 農拓協（指名のみ）
- | | |
|---------|-------------------------------------|
| 代表 | 久万 浩 |
| 日本の代理人 | 無指定と若干わ加来義一 |
| 現地の活動状況 | 指名わ，組合員，宮崎県人会，カトリックセンタ
ー及びコチア組合員 |
- (i) 業者名 長谷川事務所
- | | |
|---------|-------------------|
| 代表 | José Rueda, 阿部 弼門 |
| 日本の代理人 | 井口 勝一 |
| 現地の活動状況 | 個人呼寄 |
- (j) 業者名 ブラジル移住会（村井・本田事務所）
- | | |
|---------|---|
| 代表 | 村井喜代己 |
| 日本の代理人 | 井口 勝一 |
| 現地の活動状況 | 個人，福島海協支部関係。なお，ウニベルツール，
日伯交通社，クルセイロ旅行者がブラジル移住会
名にて，呼寄手続をしている。 |
- (k) 業者名 村井・本田事務所（上述(j)のとおり）。



伯国サンパウロ市中心街
(市立劇場側より州立銀行ビルを望む)

伯国サンパウロ州の首都サンパウロ市は350万の人口を擁しているが、日系人は市内に11,000家族62,000人余郊外に6,600家族41,000人余計10万余人が居住し、商、工、農、政界の面で活躍、ブラジルの発展に貢献している。



伯國サンパウロ市の展望

第五章 地区別主要邦人集団地一般状況

海協連サンパウロ支部は、ブラジル国の南部諸州即ち、サンパウロ、パラナ、マツト・グロッソ、サンタ・カタリーナ、リオグランデ・ド・スール、及びミナス州の一部（三角ミナス）についての移住に関する業務を遂行しているが、右の内サンパウロ州は特に発達しており、日系人40万人の内31万余人が定住している。

従つて、この主要邦人集団地の一般状況を作成するに当り、比較的邦人の多い地区、パラナ州は2地区マツト・グロッソ州は3地区に別け、更にサンパウロ州は、州の地形交通状況より8地区に分けた。

このことは、記憶し易くするために、右掌形にて表することも出来る。

即ち、掌平の真中に聖市が展開しており、交通網の幹線は指形で

- 1 親指方向が、リオに通ずるセントラル（中央）線
- 2 人指方向が、モジアナ、アララクワラ線
- 3 中指方向が、ノロエステ、パウリスタ線
- 4 薬指方向が、ソロカバナ線
- 5 小指方向が、聖南西地帯で、サントス・チェキア線であり、前述の掌の真中が聖市及びその近郊ということが出来る。

第一節 サンパウロ州関係

サンパウロ市（略史）

1500年4月21日、ポルトガル人ペードロ・アルバレス・カブラルによつてブラジルが発見された。それはアメリカ発見におくれること8年、日本紀元2160年、御土御門天皇の御代で室町幕府の前期に相当する。

その開発は最初に発見された北部海岸から次第に南下し、1930年には、早くもマルチン・アフォンソス・デ・ソウザの率いる植民団によつて、いまのサントスに近いサンピセンテに植民地の基礎がつけられた。サントスからサンパウロまでの間には、1,200メートルの海岸山脈があつたため、このピラ

チニンガ高原に移動するまでには、なお、20年の才月がかかった。

このサンパウロがはじめて記憶されたのは、1553年である。

1560年には、ヴィラ (Vila) に発展、サンパウロの特異な地理的条件と、人口の増加は、ブラジルにおけるポルトガルの植民地建設に重大な使命を果たすこととなった。

バンディランテたち、金銀や宝石を求めて、底知れぬ原始林の奥深く入りこんでいった。このバンディランテたちの華々しい探険活動期の後にサンパウロは地味な1県の首都としてその落着きを取り戻した。

併し、1822年9月7日にイピランガ丘のふもとを流れる小川のほとりで、ドン・ペードロ皇子によつて、ブラジル独立宣言が高らかに叫ばれ、その日ドン・ペードロ皇子は、サンパウロにおいて、ブラジル皇帝に即位した。

その翌年サンパウロ法律専門学校が、開校されるや、サンパウロは一躍文化の中心地となり、皇帝下の政治運動において、奴隷廃止運動において、又、共和政体運動についても多くの偉材が、このサンパウロの地から輩出した。

18世紀末、サンパウロ経済に革命をもたらしたのはコーヒーであつた。

此の栽培は、たちまち州内各地へ行き亘つて、サンパウロの経済的飛躍をもたらした。コーヒーは又、鉄道の敷設を促進した、サンパウロ、サントス鉄道は、パウリスカの歴史に一新紀元を画したものだといえる。

19世紀末に行われた奴隷廃止は、必然的に外国移民の導入となり、そして特別な保護の条件下に、外国移民は、州内いたるところコーヒー園に配耕された。

更に今世紀の初頭には、このバンディランテスの地は、新たな経済飛躍をとげることになった、それは工業の勃興であつた。

そして、今次大戦中に育てられた工業の地盤は戦後、更に先進国の技術導入により今や南米最大の工業センターとして、名実ともにその偉容を誇るに至つている。

第一項 サンパウロ市とその近郊

概況

聖市の膨張と移民の導入

サンパウロ市の膨張は移民と密接な関係にあるが、1820年以降サンパウロ州に導入された移民の数は、250万人と言はれ、ブラジル全体に送り込まれた移民総数500万の5割が聖州産業の発展に寄与し、延いては、サンパウロ市を現在のように発展させたものである。

1820年より1849年迄は、微々たる数であつたが、その後移民の数わ10万人を超え、イタリア移民が圧倒的であつた。即ち、

1850年～59年には、	108,045人
1880年～89年には、	453,780人

この内60.98%は、イタリア人であつた。

ブラジル移民史中最も華やかな時代は、1890年より、1899年の10年間で、1,211,076人中57%がイタリア人で、サンパウロ州内では、名聞移民合計734,985人が入国した。

この驚くべき数に、奴隷開放による労力不足が大きく響いている。

今世紀に入つて最初の10年間は、649,893人、次の10年間は、835,768人、1920年より29年は846,647人、1930年～39年は、332,768人となつている。この年代はイタリア移民が激減したが、替りに日本移民が激増している。

現在のサンパウロ

サンパウロは人口350万を超え、ブラジルでは第1位である。中南米のBig three（ペノスアイレス、メキシコ、サンパウロ）に入り、世界でも第19番目の都会である。

サンパウロ市の教育文化局統計課が発表した1959年12月31日現在の人口は、358万1,186人であり、10年間に70%の人口膨張率で世界1である。

いま、第1回国勢調査の1765年から1959年までの人口増加の動きをみると次の通りである。

1765年	3,835人	1797年	21,327人
1817年	25,683人	1872年	31,385人
1890年	64,931人	1920年	1,314,952人
1940年	2,198,096人	1950年	2,313,984人
1955年	2,915,960人	1957年	3,069,628人
1958年	3,321,465人	1959年	3,581,186人

サンパウロわ7つの行政区と市内が40区に分けられている。これを市内、郊外、農耕地帯の3つに分けると人口比率は次の通りで、市内が一番多く72.13%を占め、密度は1軒平方に11,203人で農耕地帯の295人に比べ如何に都心地に人口が密集しているかがわかる。

地域	人口	%	面積	%	密度
市内	2,583,037	72.13	230.5	15.27	11,203
郊外	661,824	18.48	202.6	12.06	3,266
農耕地	336,355	9.39	1,139.4	72.00	295

男女別

サンパウロの人口を男女別にみると次の通りで、女の方が男より136,220人多く、女50.506%に対し男は49.494%となっている。

地域別でわ、女は市内に多く、郊外、農耕地帯でわ男より少い。

1958年にブラジルにおける日系人わ、日本移民50年祭を迎えて、コロニア実態調査委員会が行つた調査によると、コロニアの経済地盤が固まり、商工業界えの進出が、愈々サンパウロえの人口集中となつて、現れてきている。

市内における日系人口わ、11,572家族62,327人(男31,893,女30,432)で、サンパウロ郡、即ち市内と農村地帯を加えると13,597家族74,674人(男38,356,女36,318)となる。近郊には、6,624家族40,907人が住んでおり、これらわ又、仕事の上でもサンパウロと結ばれているので、サンパウロ郡とその近郊の日系人口は115,581人となる。

サンパウロ州における日系人口は49,357家族313,670人だから、その約3分の1がサンパウロとその周辺に住んでいることになる。

奥地からの移動の原因

奥地からの移動の原因としてわ、社会的動因と日本人自体による動因が挙げられる。社会的動因とは、聖市の発展を指す第1次大戦前後からのチエテ左岸への西漸運動が聖州を単一農から多角農へと変換させ、更に聖市工業の勃興となつたことは、周知の通りである。

この事実は、西漸運動の萌芽しかけた1907年の工業生産指数100が、1938年7,888とはねあがつたことによつても、また1930年の農業及び工業生産指数100のが1940年に農業が152、工業が304となつて、工業が農業に大きな開らきをみせたことによつても肯定されよう。

サンパウロ市の工業動態一覧表 (1955年)

工業別	工場数	従業員数		月平均 工務員	生産額 (単位千cr\$)
		合計	工務員		
鉄産物抽出	105	1,301	1,165	1,222	81,298
植産物抽出	7	28	24	51	1,309
非鉄金属変形	469	22,668	18,264	18,970	3,856,143
冶金	781	45,681	39	39,473	10,385,952
機械	324	17,439	14,493	14,340	3,422,786
電器具通器	299	20,274	16,646	16,287	6,720,144
運輸資材組立	192	14,844	11,886	11,328	4,955,623
木材	240	5,271	4,306	4,413	1,220,031
家具	338	12,564	10,237	10,111	2,439,038
製紙	166	9,634	8,109	8,136	3,678,789
ゴム	55	5,956	4,982	3,611	2,597,729
皮革	52	2,024	1,796	1,711	426,345
化学及薬品	337	30,082	19,795	19,722	10,989,136
紡績	880	99,146	89,317	90,207	19,611,904
衣服靴及工業	753	25,346	22,378	21,606	5,035,873
食糧	383	23,398	17,470	17,739	13,128,366
飲料	35	8,303	4,330	3,896	2,689,285
煙草	10	3,436	3,014	3,198	1,364,385
印刷及製本	344	16,712	12,835	12,832	3,252,614
その他	359	18,500	15,499	15,129	3,109,710
合計	6,059	382,607	315,579	316,042	98,966,520

この気運が奥地の日本人を駆つて聖市へ向けさせ、或は蔬菜供給者に転向させたのである。勿論こうした動因は、社会性の中にも包蔵されていて日本人は、本来園芸農や集約農に適したこともさき乍ら、更には戦後ようやく定着心を持ち祖国に似た気候風上の近郊を選んだこと、子弟の教育に目覚めたためでもある。

この傾向は奥地農業の浮動性と危険性が逐年烈しくなりつつあるので、今後益々高潮し、いつそう聖市及び近郊への集中化が行われるものと思われる。

サンパウロ市の近郊

a. サンタ・アマーロ Santa Amaro

サンパウロ市の衛星都市として、サンタ・アマーロが先ず挙げられる。サンタ・アマーロ郡はサンパウロ市民に供給している水の貯水池(湖)のある所としても有名で、市内のバールで水道の水を飲みたいときは Agua Santa Amaro といつても通じる位、親しまれており、好楽にも絶好の場所でもある。サンタ・アマーロは、本部のシッポ区、コロニアパレリェーロス、カーザ・グランデ、バラージェン、エンブーラ等にて郡を形成しており、日本人の入植も25年を越し馬鈴薯、トマト等栽培に励んで、いずれの地区も好成績である。なお、日本人はカーザグランデにわ約80家族、エンブーラには約50家族と郡全域で数百家族になつている。

b. ノーバ・ボンスセソ Nova Bonsucesso

ノーバ・ボンスセソは、アルジャーと、ゲールーリヨス郡の境界で、日系人の入植者は、ここを中心にして約300家族がアルファッセ栽培に活躍している。更に、此の地には、ブラジル日系人の手により興こされているサドキン電球工場があり、工業面にて日系人の力を發揮している。

c. ミズホ植民地

瑞穂村が建設されたのは、1935年の5月であつたので、本年25周年祭に當つている。

サンパウロ市から、アンシェッタ街道に沿つた20軒の地点から、サンベル

ナルド・ド・カンボ（住民の多くはイクリヤ系で、本年は407年になる古い町である）と反対の西方4軒の地域で、地勢は平均10度の傾斜地の海岸山脈地帯である。

標高800米、村の中央をうねっている山脈が分水嶺で、南に流れる水流はサントス港へそそぎ、北の流れはチエテ河へ注入し、地質は雲母岩の崩壊土で、既に1887年サンパウロ州政府がイクリヤ移民を入れ開発に着手した土地である。

気候は海岸山脈の影響で雨量多く約1,300ミリメートル、植民地は200アルケールで養鶏に加え、桃、ピワ、栗、ボンカン、洋茸が栽培されている。

植民地の経済機関としてわ、カーザ・朝日農商株式会社と、サンベルナルド・ド・カンボ産組があり、前者は1940年に創立され、毎年の利益配当を増資配当に振替え基礎を作ったので、当初の資本金6コントスは、払込済3,000コントス、別に不動産見積3,000コントス、年度事業分量40,000コントス（1955年現在）となっており、株式組織ではあるが、内容は協同組合的で村の発展と共に進展を続けている。

現在の入植者は70家族余で殆んど日本人である。村の文化設備としてわ、活心堂（剣道場及講堂）浄心堂、相互館（シネマ、演芸その他催物場）記念館（図書室、娯楽室、集会場）学校、運動場等であるが、更に、サンベルナルド、郡として土地7,000平方米、工費6,500コントスを投じて、グループ・エスコラールが来年の入植祭までには開校する旨郡長が定礎式と仮校舎のイナグラソンの際に述べており、文化村は、更に近郊の模範植民地として発展する可能性が大である。

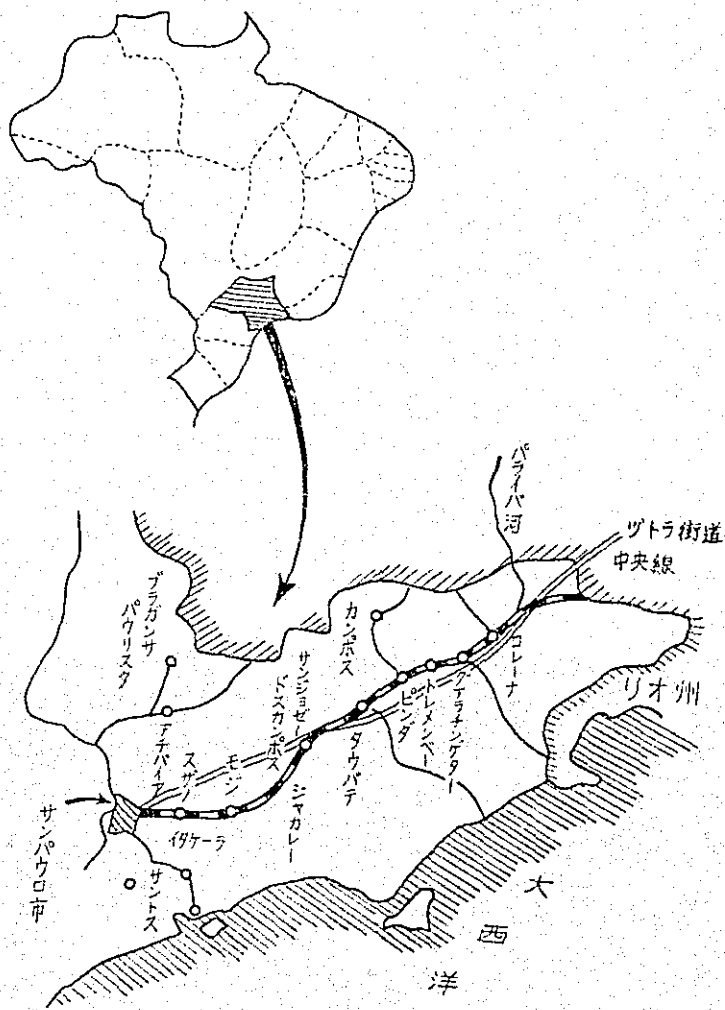
第二項 中央線地域

中央線地域 E.F.C.

概況

サンパウロよりパライーバ平原に至る迄のイクケラ、スザノ、モジ・ダス・クルーゼスは、桃、柿、養鶏、蔬菜と、夫々地方の特色をもち、大消費

中央線地域(E.F.C.)



都市サンパウロを控へ、益々堅実な経営を行つている。

パライーバ平野は海岸山脈と、マンチケイラ山脈の間に流れるパライーバ河の流域に位する。此の地方の發展は、サンパウロ州内でも早く、その昔珈琲の主産地であつたヅトラ街道を行くと、今もその名残りが見られる。珈琲地帯がモジ・アナに移り珈琲が衰微してから、此處は、米作地帯に變つた。この地の米作りはイタリア人が主である。今日日本人家族が各地に限なく入つており、移住振興会社も此の地域に2カ所の土地を買収したパライーバ平野最大の悩みは、水害であるが、近い将来この水害の危険もなくなるという希望に湧いている。

即ち、パライーバ開発計画は、数年に1度襲われる水害を防止すると共に灌漑設備をつけ、パライーバの自然資源を充分に活用して、この地方の經濟發展を計らうというもので、Serviço de Vaie de Paraiva という州政府直轄の機関によつて着々と進められている。

此の機関の主力は、州水道の水力發電課で農務局、交通局の外 Point four による援助がある。

サンパウロに近いパライーバ平野は、今急速に変化しつつあり、丘は削られ、低地は埋められ、緑の表面は赤い土が現れられ、此處に工場が建設され、表土はコンクリートで覆われて行つている。

地区別一般狀況

✓ a イタケーラ (Itaquera)

イタケーラの起源は Comercial Agricola e Bastril (商農牧会社) の社長が未来に大きく發展する都会に近接した地域を蔬菜、果樹、養鶏などの集團地とする計画をたて、聖市への供給源とすべく、1924年中頃より分譲を開始した。

イタケーラのコロニアは、30年を経た現在200家族の地主が在住するが、その80%は日系である。

イタケーラの發展と生産力

1925年に最初のトマトの収穫をみ、3年後にはイチゴの栽培が始めら

れ、聖市近辺における1大生産地となつたが、Colonia de Itaquera の第1期の10年は試験期であつた。

桃の最初の植付けは、1934年に初められたが、何年にも亘る適種選定の研究が多くの入植者によつて続けられ、現在の栽培種が生まれてきたものである。

1958～59年度イタケーラ農業生産表

種 類 別	数 量	生 産 量	生 産 金 額
生 食 用 桃	49,000本	45万箱	40,500コント
加 工 用 桃	30,000本	145 kg	30,000
柿	10,000本	80,000箱	4,000
ゴ ヤ バ	4,000本	40,000箱	4,000
枇 杷	6,000本	150,000 kg	6,000
産 卵 鶏	156,000羽	1,889,000打	60,160
カイピーラ鶏	50,000羽	—	5,000
若 鶏	20,000羽	—	1,800

上表は、1958～59農年度の生産高であるが、180家族が生産に従事しており、その中140家族は地主であり、他は歩合作か借地農である。

桃の栽培は、“シャット”“ペント”“マラコトン”“ブランコ”の諸種によつて始められ、“サツキハナ”種が輸入され、植えられるようになった。そして熱心な栽培者の研究努力の賜として、“ペロラ・デ・イタケーラ”（イタケーラの真珠）“サワベ”（沢辺）“レイ・ダ・コンセルバ”（加工用の王様）“ローザ・ド・イタケーラ”（イタケーラのバラ）等の優良種が交配の結果生みだされた。

1945年以降これらの種類の大量植付けにより生産量も、急激に上昇し、消費市場も開拓されたが、1949年にわ当局的技術陣が栽培地に指導その他の専門家を送り、品種の公的選定が行われ、前述の品種名がつけられて公認された。

斯うしてサンパウロ州農務局は、イタケーラのこの産業を推奨して、第1

回桃祭りが1949年11月24～26日の3日間行われ、公けな行事として公認され1959年に10回目の桃祭りを催している。

現在イタケーラには360家族2,500人であるが、その全てが農事に働んでいる。

b スザノ (Suzano)

1930年の3月11日原田敬太氏、古賀兄弟の僅か3家族で開拓の鋤が土に下ろされてから、満30年たった現在、スザノ福博村は、文化村として名実ともに発展の途上にあり、村は電化され、アスファルト道路は、村の中心を貫通し、経済的には、スザノ産組を基盤に現在170家族の入植者を数えている。

その8割5分までは、自作農として活躍、養鶏、馬鈴薯、果樹、蔬菜とそれぞれ近郊農業の特性を遺憾なく発揮した新しい村となっている。

c モジ・ダス・クルーゼス (Mogi das Cruzes)

概 略

型市近郊最大の邦人集団地モジ・ダス・クルーゼスわ、マンチケイラ山脈の余派イタベチの山裾（標高760米）に広がる所に位し、1560年9月1日創立であるので、400年の歴史を持つている。Modi das Cruzes とは十字架の川と訳されるが、1611年町制施行、1855年市制施行で古い町である。

このモジはサンパウロからバスで1時間余という近距離にあり、その衛星都市的発展の様相を呈し、サンジ。ゼー・ドス・カンボスを中心とした中央線工業地帯ともいえる一環で重要な位置を占めており、近代諸産業の急速な発展をみるに付けモジわ更に大きな発展への躍動を強く感じる。

日系家族2,000余1万余の人口を誇るモジは、近郊最大の集散地でもあり、市内の職業分野でも日系のない部門わない位進出しており、街の重要なポイントは殆んど日系で占められていると言える。

個人経営の商店でも必ず日本語の話せる日系店員を置かなければ商売にならないと言われており、日系の利用率は50%を占め、日系の経済力の基盤も堅い。

モジ市は、6～7年前からぐんと経済的に良くなってきたと言われているが、

モジに入植した人達の多くは、奥地で失敗した者或は子供の教育のため近郊にでてきた人達もあるため考え方も地味であり、投機的な営農でなく、定着性を持ち地道な経営を行つている。

農家の1戸当りの耕作面積は平均3アルケール位であるが、機械化され集約的多角化経営で年間を通じて収入が途絶えることなく、年間農産物の収入60~70万コントズの7割は日系が占めている。

消費市場もリオ・サンパウロ両市場の中間にあり、トラックで簡単に積出が出来る利に恵まれており、モジの農業の将来は明るい。

邦人諸産業の発祥地

日系がモジに入植したのは、1919年で、モジ郊外コクケーラ街道に入植、1925~26年頃より、毎年20~30家族位入植しており、主として馬鈴薯栽培に従事していた。

1927~28年頃からトマト栽培が盛んになり、1932年の統計をみると、トマト300万本余、モジのトマトとしてサンパウロの市場を牛耳つていた。

当時既に入植者も200家族を数え、1933年にわ、現在のモジ産組の前身であるモジ出荷組合が誕生した。

1937~38年頃より養鶏が盛んになり、養鶏のモジとしても知られるようになった。当時在住邦人の80%は養鶏に従事していた程である。

養鶏と共に発展したのは、果樹である。大々的な養鶏は別として、果樹と養鶏は不可分の関係にあり果樹の研究家もいたので、ブドウ、桃、柿、ピワ、李、栗等一大果樹園地帯となつた。今日系の手で、開拓された果樹の分野で、モジに住む邦人によつて研究され広められて行つたものが多いのに驚くが、その他養鶏でも、初めて平面式定卵器を使つてのピント充出しが現在のブラジル養鶏の嚆矢であり、養鯉、養蜂での功績も大きい。

モジの農産物

モジ産業組合は、モジの邦人発展史の上に大きな力を与えており、モジ全農産物の過半数を扱つているが、モジ産組の帳簿により、モジの農産物の概算を眺めてみると、モジは柿とすぐ考えられるが、案外少なく果物全部の50%

もいつていない。年間農産物収入60~70万コントの内10万コント余である。

1番多いのは、玉子で40万箱(30打詰)で40万コントであり、年間総収入の過半数が玉子となつている。次に馬鈴薯、トマトとなり果物はその次である。果物の中では、桃が第1でその生産高は桃の里として知られているイタケーラを遙かにしのいでいる。

果樹の中で特産の柿をみると、1959年コチア産組の調べでは、現在収穫期にある柿59,252本、まだ収穫に至っていないもの71,045本の合計130,297本で、生産は、120個詰大箱で135,290箱となつており、モジ近郊の農家わ豊かであり、生産物も各種にわたり豊富である。

(4) ポンテ・グランデ (Ponte Grande)

イタベチー山裾の市街より、やや小高いこの地帯は、モジの市外地であり、ブドウ、柿、桃等の果樹と養鶏が行われており、別荘地でもある。

ポンテ・グランデ街道は、ゾトラ街道に通ずる連絡道路でもあり、それに沿つて村が開けている。日系55家族余が居住しているが、南伯産組指導員として第1線で活躍している平松氏は、将来のモジの柿について次のように述べている。

ブラジルの果樹地帯は、今の所モジ・ダス・クルーゼスであるが、近い将来にアチバイア、ブラガンサ方面が本場になる可能性がある。

併し、モジの柿は立地条件も良く科学的な研究も行われているから、今後とも発展して行く。モジわ柿と桃が適しており経営経済から云つても伸び得る作物である。

他方生産過剰という事も聞かれるが、ブラジルの果物消費量わ、アメリカ96kg(1人当り年間)、イギリス38kg、日本16kgと比らべて僅かに8kgである。消費も伸びてくるし、リオ、サンパウロ市場でなく中間の未開発市場を考えれば、そんな事は全く考えられない。

交通機関の発達わ、近郊圏の拡大、それに伴う生産圏の増加等により、生産過剰と考え勝だがその様な心配わ今の所ない。

更に桃わ10~12月、柿わ3~5月と時期的にズレがあり、労力の分配、経済

収入面でも良いし、特に柿わ、その後が続く果物が無いので値も潰れず、その点明るい見透しである。

(ロ) ピンドラーマ (Pindorama)

モジ駅の一手前 ジュンジアペーバ (Jundiapéba) 駅より約14軒、一時は国際飛行場の予定地として脚光を浴びたが、この夢も霧の多いこの地帯では望めない。

モジ市近郊の各植民地は、歴史が古く、落ち着いた感じを与えるのに対して、このピンドラーマは開拓前線であり、たくましい開拓の気魄がみなぎっており1947年に入植した者が草分けである。

ピンドラーマとわ、土語で椰子繁る里という意味で、その昔イスパニア人の植民地であつたが、厄病に災いされて全滅した歴史がある。

入植当初わ、トマトを主として作られていたが、5~6年前から養鶏が盛んになり、それも3年前の玉子生産過剰による不況に、殆んど中止してしまい、今は馬鈴薯、果樹トマト、野菜に変つている。

日系105家族で男女青年会も入植の1947年に発足、日本語の夜学を始め、機関紙の発行等めざましい活動をしている。

またこの植民地は開拓途上にあり乍ら、教育に熱意があり立派な小学校、会館も日本人の手により造られている。

(リ) ビリチーバ・ウスー (Biritiba Usu)

カプエーラ街道12軒の地点から、左に折れるとビリチーバ・ウスー街道である。モジから20軒のこのビリチーバ・ウスー植民地は、モジ管内の他の植民地と変り馬鈴薯が主産である。日系家族83余。街道に沿つて、見渡たす限りの馬鈴薯畑は壮観である。

馬鈴薯の後作として、キャベツ、トマトも作られ、経済的に豊かだ。

(ロ) その他

モジ管内にわ、この他小植民地だが、ビリチーバ・ウスーと背中合せにグパンヤウー(日系35家族)、ピンドラーマ植民地の背中合せにグルマ植民地(日系25家族)、コクケーラ奥に相互植民地(モジから約15軒日系30家族)、モジ

から26軒に曙植民地（日系65家族）、モジから9軒にサンゼラルド（日系40家族）、それと背中合せに、リオ・ア・シーマ植民地があり（日系25家族）、これわモジ管内で最も新らしく開拓中の植民地である。

d カプエーラ植民地（果樹と養鶏の里）

コクケーラ街道と平行線に大西洋の海岸山脈に向つて走るカプエーラ街道沿いは、コクケーラ（後述）とともにモジの二大植民地である。

果樹、養鶏、野菜というところわ、モジ一帯の特長であるが、経済的基盤もがっちりして、落ちついた感じのする植民地である。

1920年に岡山県の西江八郎氏が入植、その後8年間は邦人の入植はなく、1928年にカプエーラ・デ・リベロン町まで、道路が開通してから入植者が激増、1932年には、90家族となつた。

当初、馬鈴薯、トマト、野菜作りであつたが、10年前頃から今の果樹、養鶏に変わった。現在6軒の地点に約90家族、9軒の地点に80家族、13軒の地点に100家族、18軒の地点に60家族、更に奥のタイヤスペーバ（22軒）に10家族、25軒の日の出植民地に35家族と、此の街道沿いの日系わ非常に多い。

イ 6軒の地点わ、殆んど果樹という地帯で桃、ブドウ、柿、ピワ、レモン等、初めは、野菜地として開発されたところであつたが、後果樹に変わった。なお、この1番奥に岐阜県出身の足立小平治氏は、養鯉、互製造を行つている。

ロ 14軒の地点は、戦後果樹の良さを聞いて、パラナの霜でやられた人が入植したが、この奥6軒程の所 Vila モラエスという植民地があり40家族余の日系が入植している。

ハ 19軒の地点地帯は、大養鶏場が道路に沿つて点在している。

e ボージュール

旧リオ街道4軒返から道に沿つて開けているボージュール植民地わ、モジの特産物、柿の発祥地であり、1948年ゾトラ街道ができるまでは、リオ、サンパウロを結ぶ要路で、交通頻繁な場所であつた。現在日系75家族余り住んでおり、主として、果樹、養鶏を営んでいる。

ここで柿について述べる。

柿の歴史

柿は古くから、ブラジルにも移植されてわいたが、これはイタリー移民が持ち込んだものではないかと見られている。併し、邦人が栽培するまでは一般に需要がなかつた。

邦人として最初に柿栽培に着眼したのは、イタケーラの松本氏である。

1926年に日本から「富有」「次郎」の両種を持ってきて、1933年頃イタケーラ植民地の吉岡、西岡氏等が、右両種を植付け始め、サンパウロ州内に拡がった。

モジ地方が、柿栽培の本場になつたのは、1936年、タウバテのエウゼニオ・ダビーで作られていた柿の苗を取り寄せ、改良研究に当り最適種として固定させ、頒布したことから始まる。

なお、名もない柿であつたので、御所柿に似ているところから、「御所ブランコ」と名付け、1951年に正式に「タウバテ」と名がきまるまで、それで通されていた。このタウバテ種が本収穫に入つたのは1943年からである。

f コクケエラ植民地

コクケエラ日本人集団地は、モジの日系集団地の中でも最も大きいもので、経済的地盤も他の集団地に比較して2廻りも大きく、入植40年の歴史をもっている。モジからコクケエラ街道に入り左手に豊和工業など、新興工業地帯をみながら、約4軒行くと日本人集団地になる。集団地附近は、土の道であるが市の広い堂々たる道である。

街道の17軒の地点に日本人会館が建てられている。街道の左手にチエテ河の支流が入つて平坦地、右手は幾分起伏がある。

日本人の家族数は350家族、その中土地所有者が126戸で日本人の所有面積わ、1,419アルケールで、主作は、鶏卵、トマト、馬鈴薯の3本建である。種鶏は、ここが発祥地で、モジ種鶏の中心地であり、果樹も盛んである。

入植は1919年であるので、今年で40年になるが、当初野菜、果樹など、色々の作物を栽培し、とくに馬鈴薯の栽培は一時旺盛であつたが、その後現在

の養鶏に移つてきた。

此の植民地わ教育に熱心な所で、学校が植民地中に8ツあり、又コクケエラの小学校わ日本人会の所有である。入植者が、子弟の教育を重視して、日本人会の所有物として学校を設立したが、この学校を州に利用させ、正式のグルッポに発展してきている。従つて、現在に至るまで日本人会の経営下であり、州に貸していることになつている。

コクケエラの奥に相互植民地があり、日系約15家族モジ市から15軒の地点から始まつている。更に20軒の地点にピリチーバ・ミリン町があり、日系約20家族で、元映画俳優の大日方伝氏もここに住んでいた。

“Modi 箱根”

モジの名所として知られているモジ箱根は、コクケエラ街道9軒より入つた山の中腹約1畝の土地を開いて3平方メートルの堂に平和観音がまつつてある。この平和観音は、1950年にモジ在住の石橋氏外4氏が世界の平和を祈願する目的で建立したものであり、毎年9月7日の独立記念日にわ、平和祈願法要が行われ、お祭りの後にわ、ノド自慢や餅マキが行われる習慣である。此処にわ、大きな岩が多く、岩にわ、夫々大岩、友の岩、二見ヶ丘、高見ヶ丘の名称が付けてあり、日本式庭園と共に故国を想わせるものがある。

g ジャカレー (Jacaré)

サンパウロ市からグトラ街道を約65軒行つたところにジャカレーがある。ジャカレーわ、バライーバ平野の入口であり、これからバライーバ河に沿つて、延々と平野が続いて行く、町の真中にバライーバ河が流れており詩情にあふれている。

最近ここに移住振興が283アルケールを買入れた。この地方の作物は、トマト、鶏卵、西瓜、米、馬鈴薯、果樹で、果樹にわ、ボンカン、柿、桃などがある。日本人家族の大部分はコチア産組の組合員であるため、仲買人の立入る余地わない。

1938年にコチアの下元氏がこの地方に目をつけて Deposito を開けたのが、日本人家族を増加させる動機となつた。

コチアの進出わ、サンパウロ州一帯に降霜があり、他のトマト地帯が被害をうけたにも拘らずこの地方にわ被害がなかつたため、トマトが主作として脚光を浴びる結果となつた。

h サンジ・ゼー

サンジ・ゼーは、工業都市として変貌しつつある。ゾトラ街道の両側には目のさめるような近代的な工場が並び始めた。工場の立っていない所にな、何々会社工場用地と大きな看板が掲げられている。

日本人家族は250見当であり大部分わ商業、工業労働者などで、養鶏、蔬菜作りなど農業関係者わ余り多くない。

鐘紡がここに工場を建てたのは、周知の通りであるが、General Motois, Ford, Johonson e Johonson などの大会社が統々進出している丈でなく、電話器、製靴、繊維工場などがある。

ゾトラ街道を右に入つて数分走ると白い波形の屋根が目に入る。鐘紡の整備された野球場とテニスコート、フットボール場がまず披がつて、その先が工場である。

ブラジルで最も新しい機械を使用しており、2,400錠に女子労働者1人という高度の能率である。生産は、月産の綿糸、30番手から50番手までが作られている、製品は米國へ輸出用の綿布に織られる。

娯楽地帯から遠いという地理的な条件からスポーツは工員の最大の楽しみであり、それによつて社員の團結心も増かわれるという。

工場の裏へ廻ると社員の住宅が2列に並んでいる。1廻り大きな家は独身寮、ここに30人が収容できる。

“カネボウ村”

此処は、米、馬鈴薯及びトマトの3本建である。

i ロレーナ及びガラチンゲター

ロレーナは移住振興が町から8軒の地点にあるサント・アントニオ・デ・ポルト・デ・メーロ農場を買入れてからコロニアでも知られるようになった。

一方ガラチンゲターわ中央線の主要な政治都市として常に新聞紙上にあら

はれ、サンパウロでも広く知られている。

日本人会に入っている家族はロレーナが18、その中殆んどは町内で生活しており、純農家は2軒に過ぎない。ガラチンゲターは35家族、郊外でアレンダ農業を行ない歴史も浅い人が多い。主作はトマト、馬鈴薯、米、現在のところ日系農家は少数だが移住振興の土地に入植することになれば、日本人集団地としても大きくなる可能性がある。

j ポルト・デ・メーロ農場

ロレーナから、マンチケーラ山脈の方向に約8軒行つたところに移住振興の買入れた農場がある。Fazenda Santo Antonio de Porto de Mero がそれである。

k エウジェニオ (Eugenio)

サンジョゼーの工場の先をエウジェニオに向うとここには、パライーバ平野特有の機械化米作を営む日系家族が13家族いる。皆コチア雇組々合員で、今から8年前(1952年)ここに300アルケールの土地を13家族で共同にて借り入れて行つている。

農場の面積は、324アルケール、パライーバ河から山手に広がっており、米作の適地といはれる。平地は90アルケール、他の230アルケールは緩い起伏を持った山だ。移住振興が買入れた値段は17,200コント、アルケール当り53コント見当である。

l タウバテ (Taubaté)

タウバテは、中央線随一の都会である。人口は5万見当、サンジョゼー・ドス・カンボスが最近工業都市と飛躍して中央線最大の都市になりつつあるが、現在の所タウバテがパライーバの中心で最大の都市である。

日本の映画もタウバテで間断なく上映されており、ピング・トレメンバーの日本人家族が土曜、日曜にはこの町に集つてくる。

タウバテの町の真中に大きな工場があり(タウバテ繊維工業)、ジープウイリスもここにモーター部品の製作工場を持つている。

この他注目されるのは、タウバテにおけるペトロプラスの活動で、現在

の計画では、1年位の間にガス施設を完備し、タウバテ市民に Gas de Rua を供給し得ることになる。

タウバテ日本人会は、トレメンペー、キリリンを含めており総計150家族、タウバテ市内には40家族見当居住している。

市内居住者は一般商業の外、タウバテの Mercado に店を張つてゐる人が多い。

m ピンダ (Pida Monhagava)

ピンダには、約100家族の日本人がいる。70家族が郊外で農業に従事しており、30家族がピンダの町で生活している。

ピンダへの日本人の入植は1919年が最初であり、44年前である。

ピンダ周辺の日系農家の主作はトマト、米、鶏卵、馬鈴薯の順で、最近ピメントンが脚光を浴びている。ピンダのトマト作りは中央線でも古く、有名であるが、転向するものが続出している。

なお、ピンダも工場都市への変貌が少しづつみられるようになった。

スイス系の会社が現在工場建設を急いでいるが、ピンダの工業都市化も、リオ、サンパウロ間という土地環境から自然のすう勢であらう。

n カンボス高原

カンボス・ド・ジョルドンは結核療養所で知らない人はない。町の真中にカンボス鉄道が通り、その両側に道路がある。

カンボスの日本人は、近郊のレノポリス、サント・アントニオ、ピンニヤールを加へて150家族、カンボスの町だけで90家族いる。

これらの家族は、療養所で生活した後、この土地に居ついた人が大部分で療養生活者の親戚や家族が残つたという人も多い。多くは商人であり此処4～5年の間に良くなり、経済的地盤もできている。

o トレメンペー

ピンダからトレメンペーの町に入る。相当大きな町であるが、鉄道がなくなつて、ズトラ街道に生命を奪われた過去の町で、大きな工場も閉鎖されたままだ。併し、パライーバ河を渡つて郊外に踏み入れると様子は異つてくる。

“鐘ヶ江農場”

農場は、パラíba河からマンチケーラ山脈まで続き、見渡す限りの大きさである。パラíba河の氾濫を食い止めるため堤防を築き上げているが、それでも増水した場合、農場内の水量が多くなる。これを河へ吹きあげる排水設備を完備している。米、馬鈴薯、トマトが主作で、今年は米250アルケール、馬鈴薯100アルケール、トマト25万本を栽培した。農場内には教会が2つと学校がある。

此処には180家族がここで働いている。日系家族が40、ブラジル人家族140、小学校は、午前と午後の2部教授で生徒は100名近い。農場といつても一大集団地である。

トレメンペーを中心としてカ鐘江氏の一党が機械農による米作を営んで大をなしている。

第三項 聖南地域

聖南地域 Litoral do Sul

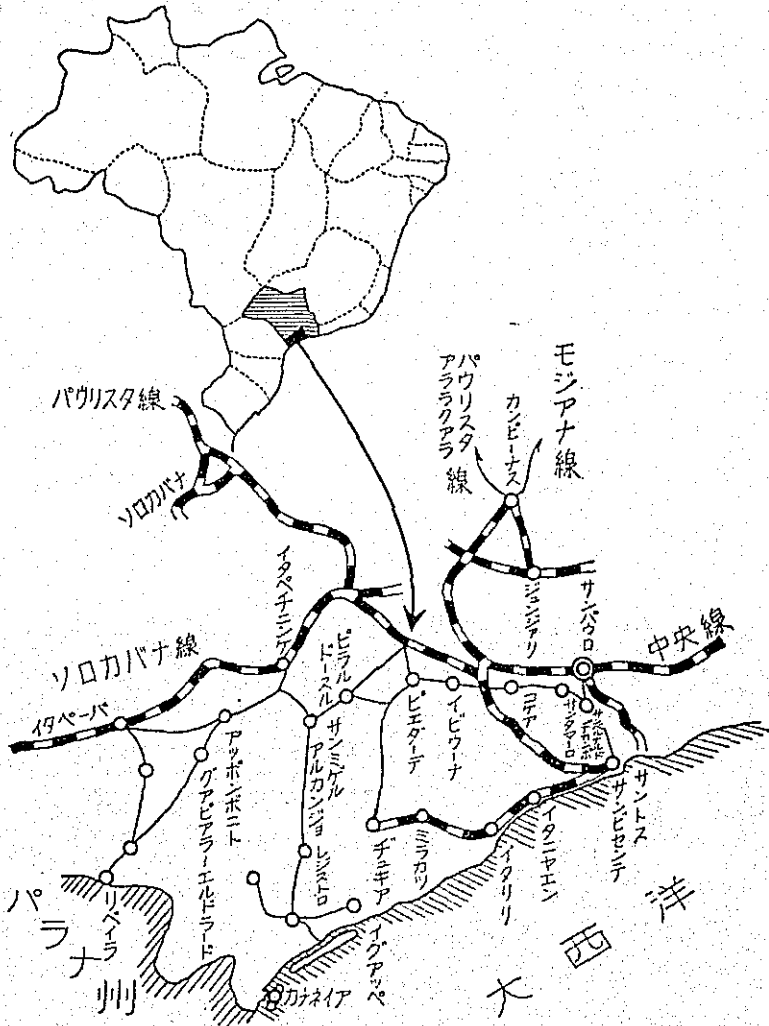
サントス・ヂュキア線地帯 E. F. S. J.

概況

日本人がブラジルに入国して、最初の植民地を、日本の中部(静岡県当り)と比較的風土の似ている。此の地帯即ち、レヂストロと、イグアッペの中間のリベイラ河畔に創設し桂植民地と呼ばれ、邦人30家族が入植米作をしたところで、モヂアナ地域について、世話になつたところである。海外興業は此の地域に三植民地を創設(ヂュキア植民地、セッテ・パテス植民地及びレヂストロ植民地)、大正5年より導入している。更に邦人では、サントスより、大西洋岸沿いに敷設されていたサントス→ヂュキア鉄道(現在は、州政府直営のソロカバナ鉄道)の沿線に沖縄出身者がコロノ契約を完了した後、バナナ、米栽培に転職している。南聖地域の中央は西南に走る海岸山脈のため、多雨多湿で、主作物は、ヂュキア地帯はバナナ、レヂストロ地帯は茶、イグアッペの米、グェピアテーのトマトと大別出来、ピンガの生産

聖南地域 Litoral do Sul

サントス・ヂュキア線地帯 E.F.L.J.



地でもある。

サンパウロ市には比較的近い地域であるが、従来、交通の便は余り良くなく開拓が遅れており、来た原始林地帯がサンパウロ州内で残こされている。

従つて地価もアルケール 20,000cr\$ と割安であり、これからの入植地としては見逃がせない。

現在工事中のサンパウロ→クリチーバ間の国際道路を完成の暁には、急速な発展を期待され、既にこれを見込んで、ブラジル人が続々と此の地に入植している。

特異な産業としては、リベイラ河を産卵のため通行してくるマンジューバ（10極位の自身の小魚）を捕獲し、生魚或は塩づけにしてサンパウロに輸送販売している小規模な加工工場があるが、殆んど日系人で年産2万コントス位になつているようで、農業以外にも斯かな産業のある地域は異例である。

地区別一般状況

a. レヂストロ (Registro)

レヂストロは、1913年にブラジル政府と日本政府との協約によつてできた唯一の植民地であり、気候風土は日本の中部周辺に似ており健康地でもある。

レヂストロは昔、ポルト・デ・レヂストロと呼ばれ探掘された金の登録所であつた、町になつたのは、1934年9月17日で、イグアッペ郡の中にレヂストロという区が生まれた。

海拔15米で、気温は最高38度、最低18度、面積は1,683平方軒である。

1913年に植民地が開設され、米を作り、海興の奨めで砂槽キビを植えたが余り良くなく、養鶏も試みられたが良くなかつた。

1928年岡本氏が、35 kg ばかりの茶を作つたが、1933年頃迄は、珈琲の全盛期で、一般の人は茶に目もくれていず、1941年頃ブロッカ繁殖で珈琲が全滅し始めてより、本格的に植え始められた。併し、行詰りの状態でこの植民地を見限つて、四散していつた者も多かつた。

茶の栽培にも色々な変遷があつたが、1945年にコチア産組が、本格的に乗

り出し、それ以来、輸出茶は為替の変動などで、苦勞もあつたが、ブラジルにおける茶の産地としてゆるがぬものに發展した。

現在、市街地を含め日系農家は約500家族が在住しており、茶の栽培はブラジル全生産量の90%、州生産量の100%は此の地で産出され、日系農家が100%を占めている状態である。

レヂストロの活動状態 (1958年調査資料)

人口	郡内 28,550,	市内 9,701,	郡内日系 500家族
経 済 (年産)			
バナナ	45,010,000房		110,000コント
茶	900,000 kg		72,000
米	68,000俵		19,040
珈 琲	8,000アローバス		3,440
ピメンタ・ド・レーノ	2,000 kg		400
工業茶精製工場	46	精 材 所	2
マンジョカ精製工場	2	煉 瓦 工 場	5
精 米 所	4	珈琲精撰工場	3
学校—小学校	39	中学師範	各 1
		高校	1

茶は、60%が国内消費で40%が輸出されているが、主な輸出先は、北米、チリー、パラグアイ、ウルグアイ等。

レヂストロ ↔ サンパウロ間の交通状況

1935年に州道が出来たが、これ以前は生産場をサンパウロに輸送する方法として、レヂストロからイグアッペ迄車で運び (Rio Ribeira) そこより鉄道で、サントスを経てサンパウロに送られていたため (舟便は半月1回) サンパウロ往復には3カ月も要していた。

現在でもレヂストロよりサンパウロ迄自動車で約6時間費しており、これには、リベイラ河を河舟 (バルサ) で渡っているためであるが、現在レヂストロを経由するサンパウロ ↔ クリチーバ河 370 軒の国際道路を建設しており、1960~61年頃には、リベイラ河に架設中の橋が完成する予定であるので、

不便は一掃されレヂストロより、サンパウロ迄は、トラックでも3時間弱で行けることになる。

この道路の完成によつて沿線の開発が促進されることは勿論であるが、距離の短縮によつて、レヂストロは、サンパウロ、サントス、クリチーバの3つの大きな消費地を完全に掌握することになり、近郊農業の野菜生産地帯（レヂストロは野菜の冬期栽培に特に適している）として発展することは必定である。

b. グアピアラ (Guapiara)

聖市より、263軒、サンパウロよりクリチーバ街道沿いにあり、カッポンボニートより35軒南西の地に位する。人口は1950年に8,024人であつたので、現在は推定12,000万人位と思われる。この内で市内居住は僅か1,200人程度であり、あとは皆郊外に住んで農業に従事している。邦人家族は72家族で、約150万株のトマトを植付けている。この他、当地では、果樹もマルメロ・ウーバを始め植えられているが管内で拓けている土地は、344平方軒、非耕地面積21,956エクタール余りでその殆んどが、原始林に覆われた肥沃な土地である。

併し海岸山脈のセーラ・ド・パラナピアカイーバの真只中に位置する関係から、土地の傾斜は相当ひどく、果樹園経営に方針を転換しなければと入植邦人の多くを考へているようだ。

1960年3月に懸案であつた第一回トマト祭りをやつたが、その生産量1万44噸と聖州唯一のトマトどころにのしあがつてきた。トマト以外の主な産物は、次の通りである。

筆頭はトマトであるが、トウモロコシ、ピメントン、南瓜などの時期ものや、果樹では、柿、リンゴ、無花実、オリーブ、桃、ブドウ、バナナ等である。

主要農産物の生産高 (1959年度)

米	2,300俵	トウモロコシ	30,500俵
馬鈴薯	13,000俵	トマト	161,000噸

玉ネギ	90,999箱	卵	730,000打
フェイジョン	10,000俵	牛乳	107,520立

果樹植付情況

ブドウ	20,000本	マルメーロ	30,000本
桃	1,500	梨	1,500
無花実	1,000	リンゴ	1,000
柿	1,000	アバカシ	80,000
バナナ	25,000	アメイシャ	3,000

c. ピエダーデ (Piedade)

ピエダーデの歴史は19世紀に始まり、ソロカバナ方面より最初に入植した。此の町の発展は、道路が聖市に通じた1934年以來で聖市まで99軒の所である。

標高は750米（郡内最高地は1,200米）であるため、時期外れの蔬菜栽培地として注目され、入植者が続き、1934年にピエダーデとなった。

ピエダーデを中心にした各都市への距離は、ソロカバナ市へ32軒、イビウーナへ24軒、サルト・デ・ピラボラへ25軒、ピラール・ド・スールへ45軒、タピライへ37軒で、ソロカバナへ日に10往復、サンパウロへ5往復のバス便がある。

ピエダーデ郡の人口は約2万5千うち6千がピエダーデ市に住んでおり、郡内には75部落がある。なお、ピエダーデ市には小学校、州立中学校各1校あり、この他に日本語学校、日本人経営の奨学会、コチア産組の奨学会、サプライ親睦会の日語学校等三校を数え教育に熱心である。

このピエダーデを中心にして日系農家は約350家族で、地主は230家族を数え、トマト、玉ネギ、マンジョキニヤを栽培して経済的安定した生活を送っており、その他に綿、サトウキビ、穀物、果物、工業は、家具、木材、木炭等を産出している。

近郊としては土地も安く道路から1~2軒入るとアルケール当り40~50コトで、土地代は、玉葱黍を作つたとしてもアルケール当り300~500俵が出

米、時期外れ（気候寒冷な地のため）のため、1俵当たり2,400~2,500crSで売れるため1回で回収されており、入植者が2~3年歩合をやり、独立農として成功している人が多い。

なお、ピエダーデ市主生産物統計は次の通り（1959年度）。

馬鈴薯	317,880俵	玉ネギ	75,000俵
トマト	3,600噸	人参	1,800噸
マンジョ・キンニヤ	4,500噸		
果樹 柿	3,000箱	桃	1,000箱
ブドウ	2,000箱	イチゴ	15,000 kg
養鶏	9万羽	鶏卵（年産）	436,000打
蔬菜 キヤベツ	2,400俵	コーベフロール	8,000俵
南瓜	5,600箱	キウリ	1,600箱
ピメントン	1,000箱		

サラブール親睦会

サラブール区はピエダーデ市よりレサストロ街道に沿う110軒から124軒附近までに点在し、時期外れのトマトやマンジョ・キンニヤを主作に67家族の人が住んでいる。

1947年に隣りのピエダーデ日会が発足したときには、サラブール支部として参加運営されていたが、1953年に距離的に遠く入植者も増加したので分離し、日語学校も創設している。

男、女青年会もあるが、ピエダーデ青年会と手を取りあっている。

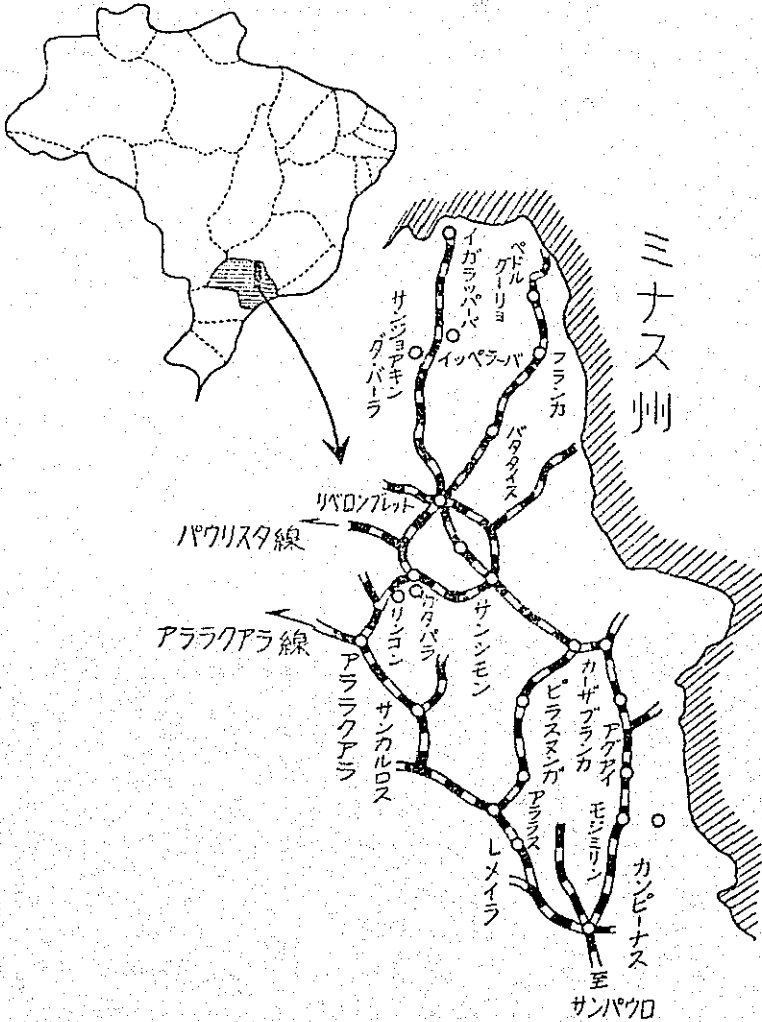
第四項 モジアナ線地域

モジアナ線地域 C.M.

概況

本地域は、明治41年の笠戸丸便、渡航の第一回日本移住者以来、昭和3年の当時の珈琲不況まで、引続き多数の邦人雇用移住者が入植した旧コーヒー園の多い地域であり、日本移住者の伯国農法練習農場的存在であつた。

モジアナ線地域 C.M.



前述の昭和3年の珈琲不況により、大コーヒー園主の経営難に基因する雑作への転換、或は容易な借地料稼ぎの貸地に切替えコーヒーを抜伐し、棉作、米作又は甘蔗栽培に転向してゐるが、地質は、北パラナ地方に匹敵する良質のテーラ・ロッシヤ地帯であり、同地方残留の日系農家は、コロノ→借地農→独立農と規定のコースを経て健全な営農を実践している篤農家タイプが多く、コロノ修業時代を経てノロエステ線、ソロカバナ線地方へ巣立っていった移住者に比して投機的な影が少なく、着々と基礎を作つていった者が多い。

1958年には、モジアナ線ガタパラにあるガタパラ耕地の一部を、移住振興会社を通じ、全招迎が購入し一大水田にすべく造成中であり、更めて此の地域が、クローツアップされてきた。

此の古い伝統をもつ、モジアナ地域は、現在個人の土地所有は比較的大きく、逆に利用面積は牛の放牧場が多くその間にあつて、蔬菜、雑穀、果樹を中心とした集約的小経営がその内容を充実しつつある。

蔬菜を更に分類すると、トマト、西瓜、メロン、ナス、ピーマン、玉葱、キウリ、馬鈴薯、野菜、果樹はラランジャ等であり、日系農家もこれら雑作に従事している者が多く、年間の収入もサンパウロ市場、リベロンプレットの市場の便が良いため非常に良い。

地区別一般状況

a. リベロンプレット (Riberão Preto)

リベロンプレット市は人口11万、州内奥地最大の都市でサンパウロより約325軒の所にある。第一回笠戸丸以来日本人移住者にとつてなじみの深い町で、同市駅前広場には、日本人移住50年記念碑が建設され現在砂糖、棉花、雑穀の集散地として、また過去半世紀に互リブラジルコーヒーの中心地として著名であつた。

農企業として大ビール会社が二社工場をもつており、甘蔗栽培と製糖事業を兼営する大企業があるが、鋳工業は特にみられない。

b. イガラッパ市 (Igarapaba)

日系人の草分けは、ハツ田一藤氏であり、明治45年渡伯、コロノの義務農年を終え借地農より、独立農へと進み既に此のイガラッパーバに40余年定住、その間同地方で最初の米作りを始め、また現在は甘蔗栽培を主とした経営を行つている。

なお、同氏の指導により日系農家は殆んど甘蔗栽培を主とした農作に転じ同市のチュンケイラ製糖工場（年産70万俵）に原料を供給している。

c. ガワラー市

当市には日系農家が少ないが、日本人会が結成されており、この会の中野氏は、内外人を対象とした精米工場、精棉工場を経営して信用も篤い。

d. イッペラーバ市

特筆すべき日系篤農家は佐賀出身の前田氏で、同市附近に四耕地を所有し総て機械化した耕地を経営を行つている。

棉作においては、旧地帯に拘らず、1アルケール当り450アローバ（1アローバ15kg）を生産し、州農務局より金牌を受領した程であり、玉蜀黍は州政府の種採取指定農場となつている。同耕地には、昭和32年1月着伯した移住者が4家族入植し入植早々3月より棉摘み作業を行い、10月より棉、米、玉蜀黍の分益農に入り、32年末には既に50,000～100,000の収益を挙げた実績をもち比較的恵まれている。

e. ガタバラ (Guatapara)

ガタバラ耕地は、笠戸丸第一回移住者の入植以来コロニアにとつてなじみの深い耕地で、サン・マルチンニヨ及びゾーモン耕地とともにサンパウロ州の三大耕地として、珈琲樹300万本を数へ模範的大耕地であつた。

大正4～5年頃には、モジグァス河流域の低湿地に邦人入植者が、米作を試みた経緯もあつたが、猛烈なマラリア及び雨期の水害により全く失敗に帰した生々しい過去をもつている。昭和3年以來、コーヒーの不況に因り、旧コーヒー園を抜伐し、貸地、並びに自営の棉作、甘蔗栽培に転向し切抜策を構じたが、農産界の不況の影響を受け今次世界大戦の勃発頃までは赤字経営を続けていたようである。

開戦後、何を作つても儲かる時代が到来したので、甘蔗栽培を主作として製糖会社を組織し、良質のテラ・ロッサ地には新しくコーヒー(novomundo 種)を育成し、他方二等地及び低湿地帯を牧場に利用、牧畜をやつている。このガクパラ耕地の中一部を、全拓連は購入し、現在目証としてFazenda "ZENTAKU"の標札がたつている。

面積は、3,014アルケール約75平方軒であるが、その内約1,000アルケールが、モジ・グァス河に面した低湿地であり現在はマラリアの心配がない。

全拓連の構想は、現サンパウロ州知事、カルバーリョピント氏の Prano de Ação (農業改革政策) に沿つて荒地特に河川流域の低湿地を恒久的農耕地とすべく日本の農業技術を導入し一大水田にするものであり、全地域を夫々各戸あて12.5町歩(丘陵地9町、水田3町、宅地5反)として、375戸に分譲せんとするものである。

f. モコカ植民地

モコカ植民地の開設は、在伯十数年のブラジル農業に経験をもつた人達が、中心となり、これに日本から新しい知識をもつた新移住者を受入れて協同組合組織のもとに、新しい村造りをする意味で、従来の直来の移住者のみで植民地を経営する政策と異つている。モコカ植民地は、モコカ市より12軒の地点の540アルケールで、リオ・パルドを境として、その河岸240アルケールは平垣肥沃地で米作に適し、裏作にトマト、野菜を行い、高台地200アルケールは施肥による高地利用で珈琲、果物、桑、その他、永年作物を栽培する計画が進められている。

1954年には、7月に5家族が入植し、年内に第1回の養蚕移住者3家族、旧移住者9家族、伯人7家族の計24家族が入植し、100アルケールを耕作しており、その後も、毎年新旧移住者が導入され、養鶏を採入れ、その鶏糞を利用して高台地の永年作物に力を注ぐ事になつた。

このモコカ植民地の成果を注視していた附近のブラジル人は、今迄顧みられなかつた地から新鮮な野菜類、果樹、トマト、馬鈴薯その他の生産物が産出される事に深い感心を持ちはじめ、自分達の処にも日本より新しい移

住者を導入して欲しいという声が高まっている。

第五項 アララクワラ線地域

アララクアラ線地域 E.F.A.

概況

アララクアラ線地域は、サンパウロ市から東南300軒のアララクアラ市より北西に延びた地で、ポルトデ・プレシデンテ・バルガス市迄である。

此の地域の主要邦人集団地は、アララクアラ200余家族、タクアリチンガ150家族、メリジャーノ100家族、サンジョゼ・ド・リオプレット110家族、ポッポランガ200家族、サンタフェ・ドスール150家族、フェルナンドポリス250家族、チャーレス400家族余と、軒並みに集団しており雑穀地帯であり、新来移住者は余り入植していないが、相当数入植することが可能で、雑作が主体となり、サンパウロ近郊へ入植するものよりは比較的独立がし易い。

a. アララクアラ (Araraquara)

サンパウロ市から東南約300キロのアララクアラ市は、パウリスタ本線の中間に位し、アララクアラ鉄道の起点である。

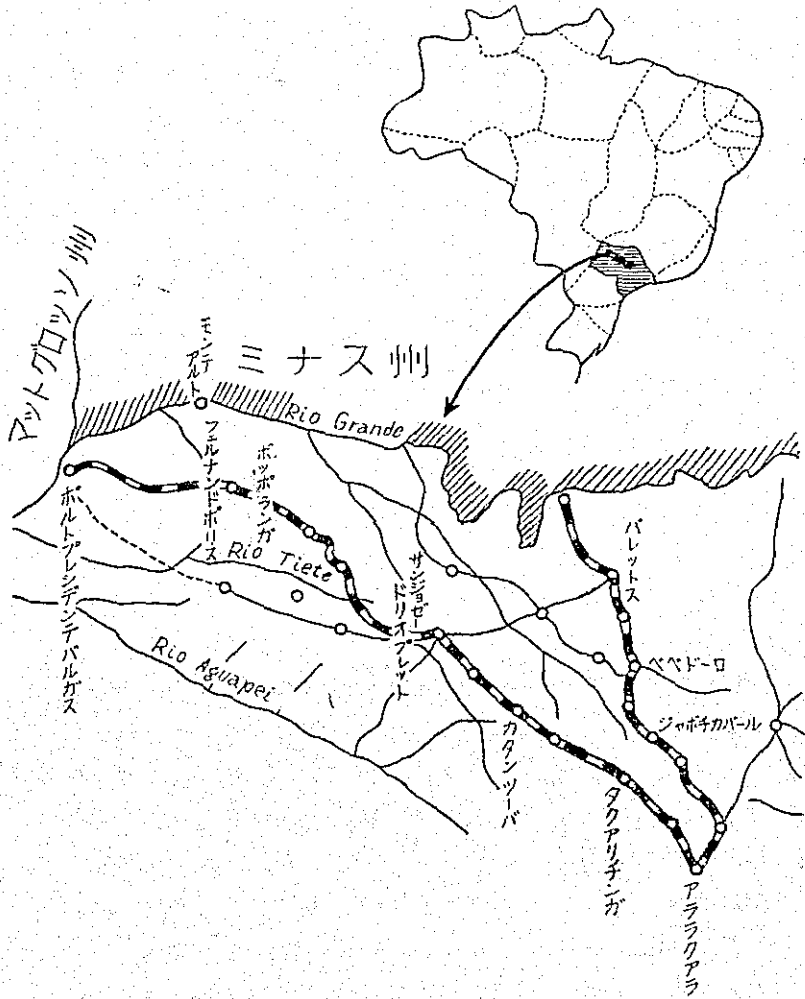
また同地方における物資の集散都市、教育都市として栄えている。創立143年を迎えるアララクアラ市の歩道は緑樹におおわれ「緑の古都」として親しまれている。最近この緑の歩道に沿って近代高層建築が林立し始め、駅の近くに完成した市場と共に近代美を誇っている。新設された市場は、日系人が大半を占め、さながら日系人のみの市場という感を与えている。

市内巡行の電気バスは15分ごとに運転され学生や市民の便を計っている。この外、サンパウロ市への直行オニブスも30分毎にあり、近郊への自動車道路の発達と共に、ますます活気をおびてきた。

このような市の発展に伴い、日系人の進出も活発でアララクアラ市日本人会の世帯数は200余家族を数へている。

b. サンジョゼ・ド・リオプレット (São jose do Rio preto)

アララクアラ線 E.F.A.



サンジョゼ・ド・リオプレット市は、聖市よりアスファルトの道路450軒、奥三角ミナス、ゴイアス、マツグロソの各州を控えた中心地で、落着いた感じのする町である。

人口は8万、日本人は、町と近郊合せて120家族で、市内での邦人は、八百屋、洗染業パールぐらいで大きな雑貨店はみあたらない。

此の地方の自作は、珈琲、米、綿、馬鈴薯、トマトである。馬鈴薯・トマトは主に日本人家族が生産しており、聖市近郊と差がない良い品が生産されている。

併し、市場競争も激しく、トマトの生産地として名高いクアリチンガ、モンテ・アルト方面の工場用のトマトがリオ・プレット市に出廻り現地生産のA級でも聖市の半額程となっており、対策が望まれている。産組設置が直接生産者より消費者に渡るため有利に販売出来るので進出の実現があると期待できる。

c. ボッポランガ (Votuporanga)

管内に日系人200家族居住しており、市内近郊の60家族、他の140家族程は奥地で雑作農に従事している。

日系人の入植は、1939年で、当時は、ミラソール迄しか鉄道が開通してなく、同地より、バス(1日1往復)又は馬の背で入植したものである。

ノロエステ線、モジアナ線地域より移動してきたものが多く、棉作、米、トマト等を主とし、珈琲は近頃植え始められている。

アララクアラ線全域についていえることだが、ボッポランガも3/5位が借地で残りの2/5位が自己所有となつている。借地料は地代の1割程度で遠近その他により差があるが、アルケール当り7~8,000crs以上が相場である。

1956年に日本人会は待望の会館を設立し、親睦、教育等に力を入れ、巡廻日本映画も青年会の手により月1~2回開催している。

日伯間の親善風影は、年1回行われる日本人会主催の運動会に如実に示されておる。

参考までに、当地方の一般雇用条件(1960.5)を次に記す。

珈琲の歩合作(変形)

第1年目(2年成木)

除草賃	1,000本につき	10,000cr S
間作	樹間2列米植	入植者収穫

(1,000本面積当り1959年は4俵平均)

第2年目(3年成木)

除草賃	1,000本につき	5,000cr S
間作	樹間1列米植	入植者収入
珈琲実	5分5分	

(1,000本につき50俵を予想, 25俵が入植者の収穫, 但し, 採集賃, その他の労力は入植者負担で, 耕主は肥料, 殺虫剤等負担する)

第3年目(4年成木)

除賃	義務
間作	認めぬ
余作地	必要な場合 1/4 アルケール位
珈琲実	5分5分

(収穫予想1,000本につき100俵)

雑作歩合

耕主は, 植付の準備を整え, 種, 肥料, 消毒費等耕主負担にて歩合作者に渡す。

生活費は無利息にて収穫まで貸す。

収穫の5分5分

(普通家族労働のみの場合は3~4アルケール位の耕作が可能)

借地料	アルケール当り	8,000~20,000cr S
日雇農	1日男	150cr S
	" 女	100cr S

ポッポランガ (奥アララクアラ) の市場相場 (1960. 5. 19)

(生活必需品)	cr\$	鎌 日本製 (7.5寸)	100
茶 腕 1ダース普通のもの	150	ノコギリ 日本製	350~400
皿 類	250	カンナ	400
スプーン	250	馬耕用具 普通品	1,800
フォーク	250	” 小サイモノ	1,200
ナイフ	300	馬車用具一式	2,500
ナベ, カマ類 (アルミ) 24cm巾	280	馬用スキ	1,000
ヤカン 1ヶ	220	(家畜類)	
ランプ テサゲ	250	ブーロ (5~6才)	12,000~20,000
” ボンプ式ブラジル製2,500~3,000		馬	6,000~7,000
” ” 外国製 6,000~7,000		馬車 (carinho)	10,000
” 小型卓上 15~20		鶏	150
シャモジ	20	幻豚 (乳離れ頃)	1,000
コーヒー茶腕 1ダース	60	(食糧)	
コーヒー湧し (アルミ製)	150	米 kg	25
弁当箱 4コツミ	300	フエイジョン kg	25
ホウチョウ	100	豚脂 25kg入	280
珈琲ヒキ maquina	450	食用油 kg	140
肉ヒキ maquina	480	馬鈴薯	20
バケツ 10立入	150	クマネギ	60
水ガメ 20立入	150	ウドン	35
水ガメロカキ付き 20立入	450	サトウ	15
毛布普通	500	塩	8
” 上等	2,000	麦粉	25
石油 1缶	280	珈琲	65
寝台 1人用 普通	1,000	牛肉	90
(農具類)		トウモロコシ 1俵	450
エンシャーダ “ドイスカラー”	200	豚肉 kg	70
エンシャーダ	200	魚 (イワシ)	40
エンシャーダ用ヤスリ	90	” その他	70
マツシャーダ	300	果物ミカン ダース	10~15
フオイセ	200	バナナ ダース	10

d. ジャーレス (Jares)

サンパウロ州の穀倉地帯として知られている奥アララクアラ線ジャーレス地方は、本年 (1959~60) の豊作は特に好調で、棉作は 600 アローバ、米は

アルケール当り150俵の収穫があつた。

又、近年邦人の入植者が激増しており、植民地も10指を数え、管内に500家族の邦人が在住している。

農業規模も大きく、内には、米作1万5千俵の金城兄弟を始め、棉作5万アローバ組も数名あつて同地方全体的に好影響で活気づいている。

第六項 州内ノロエステ線地域

ノロエステ線地域 N.O.B.

概況

パウルー市を基点として北西へ一直線に州境へ進み、パラナ河を越えてマツト・グロッソ州の平野へ延びボリビアへ連絡しているのが、ノロエステ鉄道である。ノロエステ鉄道は、1904年から起工を始めたところで、当時、珈琲地帯はモジアナ線だ、パウリスタ線だと信じられ、このノロエステ線は珈琲栽培地に不適当といわれていたため、ノロエステ沿線の地主連中は、容易に、土地を安価に売却した。

封建的な荘園制度を頑守するモジアナ、パウリスタの珈琲地帯を脱がれたコロノ達が搾取なき、平和な自由開拓の独立生活に入つたのが、ノロエステ線の新開拓地であつた。

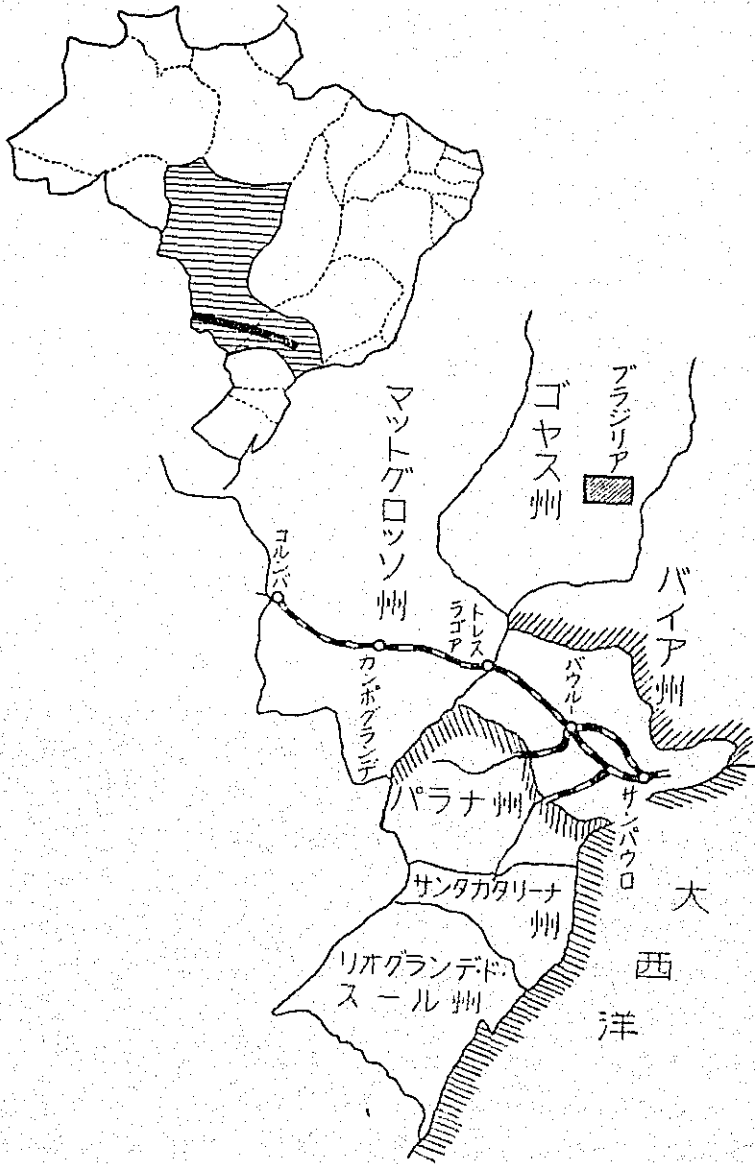
邦人のノロエステ沿線植民の元祖は、1910年にサンジョアキン珈琲耕地へ入耕した移住者達が3カ年辛棒の後リンス駅の原始林を家族毎に5アルケール或は10アルケールを求めて開拓、珈琲栽培を始めた者達であつた。なお、リンス駅は1908年に創設されている。

このノロエステ地域は、日系コロニアになじみの深いところで、モジアナ方面に次いで、開けた地帯で1920年代から30年代にかけて1時は日本移住者が最も多く入植したところである。

その後珈琲園の盛衰とその「西進」に従つて、同地帯から次第にパウリスタ、パラナ方面へとコロニア人も移動して行つた。

現在は、ノロエステ日系コロニアの最盛期に比べて少なくなつている

ノロエステ線地域 N.O.B.



が、それ丈に残つたもの達は無理をしないで着々とその地盤を築き力を附えている。これが、現在同地帯日系コロニアの安定と落着きを促がし、ブラジル社会への浸透となつている。

地区別一般概況

a. バウルー

1887年頃は、デイビーノ、エスピリット・ダフォルタレーザと呼ばれていた沼沢と森に覆われ、狩獵する人の焚火する屯所で過ぎなかつたが、1896年にバウルー（ツピー語で Rio de Lagoas の意味）郡となつた。1904年12月当地からノロエステ鉄道線の起工地となつたときは、ソロカバナ支線の終着駅となつていた。日本人がこのバウルー駅を通つた最初は1908年10月で、ノロエステ線のサンジョアキン耕地へ行つたもの達であるが、その後、ノロエステ線地帯に日本人植民地が發展し出したため1921年に日本の領事館が設置され開戦まで在留民保護の仕事を行つていた。

サンパウロ市より 289 軒の地点で、標高 450 米、人口は約 7 万であり、日本人は管内に約 400 家族各分野で落着いた生活をしている。

此の地方の産物は珈琲、棉、落花生、米、フェイジョン、トウモロコシ、西瓜等与がられ近郊の富士植民地は養蚕も盛んである。

なお、1926年頃のバウルーは、ソロカバナ線、ノロエステ線、パウリスタ線の交叉点となつており約 500 家族にも達していた。

b. カフェランジア

カフェランジア市は、1919年頃まで、プレシデンテ・ペンニャと呼ばれていたが、1925年にカフェランジア郡となり、郡の人口 27,000 余、その中市内に 5,000 人余が住んでおり、サンパウロ市より 364 軒離れた地点で標高 416 米である。

カフェランジアは、名の示す通り、ブラジルで第三番目の珈琲地帯であり、その他、棉、米、養鶏等行つている。日系人は郡内に 500 家族、平野植民地に 40 家族、タンガラ地区に 70 家族定住し、雑作、珈琲栽培を行つているが、市内の日系も商工業界にて活躍しており、精棉、精米、珈琲の精撰、マ

モーナの工場経営者が居り、内には、富士山(合)の名の醬油製造工場経営者も居り多士齊々である。

カフエランジアと云えば、平野植民地の歴史は犠牲植民地とまで言われたこともある地で、述べない訳には行かない所である。

ガタバラ耕地の副支配人であつた平野運平は、時の松村総領事の激励もあり、ガタバラ耕地にコロノとして就働していた3~400家族の日本移住者の独立の事などもあり、日本人の植民地を作ることとし、約2カ月かかつて、ドラーウド河を基点とした1624アルケールを購入し、先発隊20名を1915年8月に入植せしめている。

彼等は、後続入植者の収容所を建て入植次年度の食糧にと、米作を企て低湿地を開拓しその年の末には、82家族が入植した。ところが翌年1月上旬より、マレック患者が現われ、何等体験ない人々は予防をしなかつたため、それからそれへと猖獗して悲惨を極め、死者80名を出している。

マレック患者の夥しい中にも作物は陰つたが、マレックは乾燥期の5月に漸く下火となり、その間穴を握る気力は勿論指をかつぐものもなく、暮まで行かずに石油を注いで火葬にした時があつたとか、当時の生き残りの人は語つており、1家全滅こそなかつたが、残つたのは子供一人、二人という言語に絶したのは多かつた。今これらの中のある者は立派に成人し毎年7月15日には植民者とともに旧墓地の形ばかりの碑の前にぬかつて父母や兄弟姉妹の霊をなくさめ偲んでいる。

この様にして1917年を迎え、米も、玉葱黍もフェイジョンも茂り豊作を予想された11月の或る日蝗の大群が襲い全滅の憂目にあい、1918年はと勇み植付面積を増している上に前年以上の豊作と喜こんでいる植民者の上に未曾有の旱魃に見舞れ、半作に減じ更に6月の大霜でせつかく伸びかけていた珈琲は全滅している。

斯くの如き苦難の歴史は続き、平野植民地は1919年平野の指導による初めての綿作の大当りを予想され前途に光明を見出し、植民者は希望に満ちている2月に入つて、スペイン風邪に患ひ34才にて死亡した。

この様にして、尊い経験により平野植民地は珈琲の霜害を受けなかつた土地を選んだため、その後は霜害も受けず、平野は死んだが植民地は榮えてきている。

c. ミランドポリス (Mirandopolis)

アリアンサ移住地

アリアンサ移住地は、大正13年10月信濃海外協会が第1アリアンサの土地として2,200アルケールを購入したのに始まり、次に鳥取県海外協会が、第1アリアンサの隣接地1,200アルケールと信濃海外協会の800アルケールの買足により計2,000アルケールを第二次に購入し第2アリアンサ移住地を創設し、更に大正15年に富山海外協会と信濃海外協会が共同で、3,000アルケールを購入し第3アリアンサ移住地を創設している。この移住地は珈琲よりも人を作るというスローガンを掲げ草創時代から教育に対する感心が深く、現在2世の活躍は目覚ましいものがあるが、移住地は往年の面影は消せ、珈琲も古るく、養鶏飼育により鶏糞利用により、再興を励んでいる。

現在は日本人200家族がこのミランドポリス管内に住んでいる。

d. アラサツバ (Araçatuba)

アラサツバをはさんで、手前はピリグイ、奥はペレイラ・バレットに至る地区の日系人居住者数は実態調査本部が発表した数字によると、28,742人を数え、聖州地区別では第4位に入っている。

同調査によるとアラサツバ郡の日系人(1世と2世)の市部と農村別の所有面積、それに農業生産高は2世の地主が割に多いのが目立っている。

土地所有面積

市 部	1世	452,900平方米	2世	42,984平方米
農 村	1世	6,351アルケール	パウリスタ	
	2世	1,553	"	

農村生産物高 (1958~59年度)

棉	147,560アローバ	落花生	5,246俵
米	12,546俵	バナナ	7,780房

馬鈴薯	100俵	珈琲	45,828俵
果物	1,345コントス	タマコ	3,559箱
ビメンタ	30疋	トメテ	4,330箱
野菜	11,702コントス	その他	6,612コントス

となつており、この外の作物は、茶、薄荷、ジコート及びラミーが若干ある。

なお、日本の新移住者でなじみの深い安瀬耕地は此処にあり、Agua Limpa 植民地と呼ばれている。

安瀬氏の事業の内アラサツバ管内の概略は次の通りである。

Agua Limpa 植民地（本耕地）

1. 第一耕地 面積 115アルケール

珈琲 16万株

コロノ伯人20で灌漑給水設備あり。

耕地内に支配人住宅、車庫、倉庫、乾燥場の外商店部と珈琲精撰工場がある。

2. モデルノ耕地 面積 98.5アルケール

珈琲 15万株

コロノとして邦人新来移住者があり、その外伯人日雇が10余家族いる。

灌漑給水設備があると共に、鶏3千羽を飼育し、鶏糞（年産80噸）を肥料として珈琲園に施し、模範農場として有名である。

3. サンタ・バルバラ耕地 面積 96アルケール

珈琲 13万株

外人コロノ 16家族

4. サンタ・マリア耕地 面積 105アルケール

珈琲 6万株

外人コロノ 8家族と日本人コロノ数家族就働している。

5. 牧場（所在地 コレゴエジョ） 面積 156アルケール

牛400頭を飼育しており、厩肥をとるため、カビン・コルツーラを植え

ており、推肥を作り、珈琲園に施肥しているが、貨物自動車300台分年2回を生産している。

この外、パウリスタ延長線、フロリダ、パウリスタに、ホルモーザ耕地（面積385アルケール、珈琲37万株）にも、日本移住者20余家族が働いており、私人としても事業は大したものであるが、南米銀行の副頭取その他農拓協の理事長等と公人としての働らきも相当広く活躍している。

第七項 パウリスタ本・延長線地域

パウリスタ本・延長線地域

概況

日本移住者の練習農場の存在であつた、モジアナ線ガタバラ耕地或は、サンマルチンニ。及ツモン耕地へ入植した初期の移住者は、契約期間終了後はこのパウリスタ本線地域へ移動し、借地農或は、珈琲コロノとして就働したが、1930年頃の珈琲不況時代の到来をみるや、此の地域は、砂糖キビ或は牧場と化し、日本人移住者は、更に又、ノロエステ線或は、パウリスタ延長線地域へと若干移動し、夫々、珈琲園経営に乗り出し、残留した移住者達は、砂糖キビ、雑作、雑穀等にて、珈琲の不況時代を切り抜け現在では、夫々落着いた生活をしている。

なお、パウリスタ延長線地域は、モジアナ線地域或はノロエステ線地域より開拓地を求め移動してきた者が多く、珈琲、雑作地帯として、日本人の地主も多く、伯国農業界に貢献している。

地区別一般状況

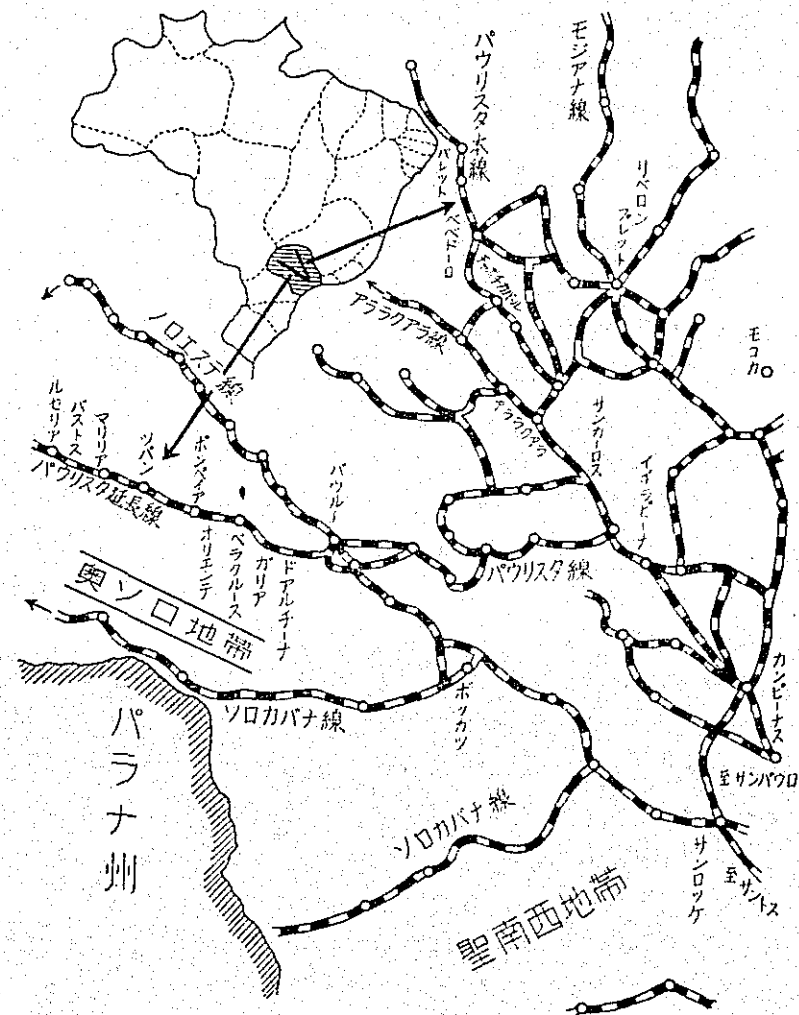
カンピーナス (Campinas)

概況

サンパウロ市からアニヤンゲー街道を北上して約100軒、右手に忽然と新しいビルの聳える市街がひらけてくる。第二次大戦前後からサンパウロ市が急激な発展ぶりをみせ、各種工業が盛んになるに従つて、このカンピーナス市も大都市に近接した健康地で、交通至便ということなどから注目され、各

パウリスタ本線・パウリスタ延長線

主な鉄道



種工業が非常に勢いで興り現在では 1,000 を越す、大小の工場が、同市にて
きている。又、これに伴う人口の増加ぶりも著しく、現在では、18万人を
超し、全ブラジルでも10位に入る大都市に発展している。

カンピーナス市の起こりは、1774年頃からで、1824年2月5日にカンピー
ナス市になつている。郡の全面積は925平方軒、市街地は全体で53平方軒、
この位置は、サンパウロより100軒の所である。

人口は180,905人を数え、この内133,711人が市街地に住み残りは耕地及び
パイロに住んでいる。

気候は温暖で乾燥し、健康に最適、平均気温は摂氏 20 度、平均雨量は年
1,386.6m/m である。土質は、サルモウロン、マサッパ35%混合、ロッシヤ
15%、カタンツーバ45%、ウアリアーダス5%となつており、テラロッシ
ヤに次ぐ肥沃は土地が50%を占めていることは注目される。

農 業

カンピーナス郡内の土地は、大体において肥沃で、大抵の作物に適し、郡
内に耕作してない土地は全くないといつて良く、珈琲はその立地条件により
経済的にも採算がとれるようになったとの事。最近地元の州立農事評験場の
品種改良や指導等も直接受けられることが幸いして、郡内各所に模範的な農
場がある。

蔬菜栽培も郡内各所で盛んで、特にトマトは最近聖市々場に大量送られ、
牛乳もカンピーナス市の供給以外に聖市へ13,000,000立を送つている。養鶏
では、卵の生産は、1,200,000ダースを、これも又聖市々場に供給している。

なを、カンピーナス市の販売方法は、市場と共に週3回市場周囲の広場で
近郊農家の者が露店商（フェイラ）をたて、販売しており担当眠つている。

交 通

カンピーナス市は郡道のみで485軒の整備された道路が網の目のように、
市外に通じ、伯国各郡中でも1~2を争うほどの道路網をもつている。鉄道は
郡内に4路線が通過している。

パウリスタ線——電化されて郡内にサマンバイア、カンピーナス、ポアビ

スタの各駅がある。

モジアナ線——カンピーナス駅は此の線の始発駅で、郡内に6つの駅がある。

カンピーロ支線——私鉄であつたが、現在は、州有（ソロバナ線）となつた。電鉄で8駅があるが、郡外には出ていない。

ソロカナ線——郡内に10駅があり、マイリンクへ通ずる。

聖市へは120mの広軌道で、1時間40分の行程である。電化された路線は、毎日45列車を運転している。舗装道路による聖市への交通は、毎日150台のバスが直通し、この町を通過するバスは、往復472台を超えている。

東山農場 (Fazenda Monte d'Este)

東山農場といへば、コロニアではいうまでもなく、ブラジル農業界でも高度の技術をもつ農場として、有名な存在である。

1927年旧三菱の伯國における事業として、東山農場の名のもとに農場経営が始められてから本年で33年になる。その間第二次大戦による10年の空白時代を経ているが、その合理的な経営法と刷新で優れた農業技術によつて他の大小農場の疲へいを他所に繁榮してきたことは良く知られている。

a 油桐栽培 (Tung)

1931年台湾より支那油桐種子を輸入して試験時に植栽した。これがブラジルにおける油桐栽培の先弁をつけたものである。その結果が良好だったので、1936年より本格的にこの植栽をし、現在は168.4エクタール、樹数24,271本を算えている。

b 果樹栽培

現在果樹類の栽培は次のとおりである。

アバカテ	29.4エクタール	2,678本
レモン		112,293本
蜜柑類		461,216本

アバカテは品種を多数蒐集し、42品種に及んでおり、品種により熟期が異なるため、年度殆んど果実を得ることが出来る。

c 雑作栽培

棉花、玉蜀黍、綠肥作物の三種として輪作により、運営されており、その合理的栽培は、農務局の認めるところとなり、現在綠肥作物各種を含み棉、トウモロコシ、その他の作物が、州所府の依頼により州の採種場になつている。

d 牧畜事業

最近牧畜事業に力を入れ、特に乳牛の飼育では、近在の注目をひいている。牧場総面積927.3エクタールを大小30余区に分割してある。与来の粗放経営ではエクタール当り1頭位しが飼育できなかつたが、高度の利用と牧草に普通の作物並に肥料を施すことによつて実験の結果ではヘクタール当り3頭の飼育が可能となり、不必要となつた牧場1,400エクタールを中小農耕地として現在分譲中であり、これが現在の東山植民地で、邦人の入植者が多い。

e 植林事業

1929年よりユーカリ樹の植林を開始し、現在の成樹数は718,218本、面積は480.3エクタール、第二期事業として40万本、200エクタールの植林を実行しつつある。製材、用材、電機用材建築用材などの丸大材の貸出も行われているが、薪材の生産が今の所主要部分である。

f コーヒー栽培とウガンダ蜂

同農場のコーヒー園は、前農場主時代から受け継いだものであつたが、1943年聖州農事試験場で改良されたブルボンベルメーリヨ種の優良系統によつて旧園を更新している。同農場が実施したコーヒー栽培の新方式が、ブラジル珈琲栽培改良の先弁をつけその業績は大きい。ブラジルの珈琲の大敵ブロックの撲滅のため生物学研究所が、1931年ウガンダ蜂を輸入してこの飼育を奨励するや同農場は真先きに飼育繁殖を計り、細心の注意によつてブロックを撲滅することに成功、減害方法を案出した。

それによつて他地方がブロックの被害を受けたのにも拘らず、同農場は殆んど被害を受けなかつた。それによつて伯國農事協会より要請され、飼

育経過を発表。またその運営の適切さが認められ、生物学研究所の推薦によつて内地分配向け種蜂の供給をなし更に海外にまで輸出したことがあつた。

酒造工場

1934年に設立され、東キリン、東オードリの名で売り出された工場産清酒は、現在2,000石の需要に応じられる丈の醸造能力を持ち、又卓なる量産のみでなく、最近の日本の清酒傾向をとり入れ淡麗な清酒を造るべく、工場設備の改善を行い、南半球唯一の日本酒という誇りをもっている。

アヅマキリン、アヅマオードリが愛飲されて25年になるが、原料となる米は、リオ・グランデ・ド・スール州のカテテ米を使用して、最近では1段と洗練された味となり、邦人の住む処如何なる田舎でも愛飲されている。

年間30万本が堅い需要で、最近伯人向きの小瓶（1合入）を売り出している。

東山農場研修所

東山農場では、中堅人材を養成するため1958年より年間25～30名の青年を研修しており、同農場で1年の研修を受け、その半年更に実習して、夫々の専門分野に巣立ち貢献しており、非常に期待されている。

海外興業アニューマス農場の概略

アニューマス農場は、1918年の大霜の後、海外興業会社が、移民会社として移住者の指導的立場にあるため、農場の必要性を痛感して、既成コーヒー耕地を売却した。

初代農場長は、衛越信胤農学士（後総領事館勸業部技師）二代農場長は、矢崎節夫（後、ブラジル拓植組合に入り、アリアンサ、チエテ、バストス、トレスパラス移住地並びにパラグァイ國コルメーナ移住地設立、指導に当たつた）三代農場長は栗山篤（後、パラナ州ウライ、東京麻糸ラミー農場支配人ラミー栽培の大家）であるが、本農場からは、幾多のコロニアの指導面に有為な人材を輩出している。

なお、アニューマス農場は耕地面積600アルケールで珈琲32万本で、この

界隈の日本人発展の基地であつたが、購入後20年にして、地力の減退と経済界の相次ぐ不況で第二次大戦直前に売却してしまつており、農場は製糖会社の所有となり、カンナ閘と化している。

c. パレットス

当地は、サンパウロ州とミナス州の境をなしているリオ・グランデの沿岸の牧場地並びに原始林を開墾し米作地となつている中心地であり、又、伯人大地主が賃地料で生活している者が多い、日系農家の殆んどは、借地農として(200乃至500アルケール)大規模な機械耕作を行つている。借地料は地味、立地条件により異なるがアルケール当り7,000~10,000crs程度である。

邦人最大の借地農は梅北氏(鹿児島出身)で700アルケールを借地し、借地料4,900,000crs(1958年)を支払い、大小10数台のトラクターによる大規模な米作を行なつている。当地方の日系農家の多くは地主でないため、伯人大地主名義による雇用移住者導入(名義呼寄)となるが、此の地帯の日系借地農は、他地方の小地主よりも資金的に営農の面でも断然隔け離れ健全性でもある。更に機械取扱の経験を有する移住者には適合した入植地とも言え、ブラジル大陸農業方式を連想して渡伯する者にとつては、大平野を耕作するという意味で、サンパウロ郊外の小規模な農家に配耕されるよりも所を得た所である。

パウリスト延長線地域

a. マリリア

マリリア市は、1930年棉作の勃興以来、近年とみに大発展をしており、実態調査の結果では、1,386家族の大日系集団地でもある。

植民地居住日系家族	504家族	3,781名
シャーカラ居住日系	120家族	958名
市内居住日系	762家族	4,755名

で、男女別は、男4,885名、女4,755名。

管内の主な集団地は、フアゼンダ・ノーバ42家族、奥村植民地31家族、エ

スベランサ30家族，中央メスキッタ27家族，ジュリオ・メスキッタ25家族，ロザリア25家族，第一昭和植民地24家族等で，その他計50ヶ所に散在して，職業別では，落花生生産者203家族を筆頭に，珈琲園経営の157家族，棉作38家族，野菜（トマト）生産者98家族，その他あらゆる分野に進出している。

なお，この管内入植している者の県別では熊本を筆頭に次の表の通りである。

県 別	農 地	シャーカラ	市 内	計
熊 本	70	8	97	175
福 岡	52	15	75	142
沖 繩	24	38	78	140
広 島	26	6	53	85
北 海 道	30	1	40	71
福 岡	25	4	43	68
岡 山	23	2	25	50
和 歌 山	14	2	19	35
山 口	11	1	17	29
ブラジル生れ二世	26	7	43	76

b. パカエンブー市

パカエンブー市は，聖市を巨れること702軒，直線距離528軒，標高410米，面積364軒平方，15,000アルケールで，市の創立は1949年である。郡内総人口25,000人，3,000家族，市内日系人口800人約500家族（含シャーカラ地帯），商工方面に非常な進出をして殆んど日本人の町の観がある。

郡の主要産物（1958年度調べ）

珈 琲	70,000俵（リンボ）	トウモロコシ	20,000俵
棉	600,000アローバス		
米	50,000俵	牛	25,000頭
落花生	450,000俵	馬	3,000頭
フェイジョン	15,000俵	豚	15,000頭

c. オリンピア植民地

1942年ノロエステ線バルパライソ、リンス・プロミッソン方面或は、パウリスタ本線地域より入植した者達で開かれ、1947年に日本人会が創立せられた。全体で625アルケールで約80家族、珈琲生産地で樹数100万本あり、平均1,000本につき70俵の収穫をあげており、2度の大霜害を免がれておる理想郷でもある。

d. ニッポランジア植民地

ノロエステ線ピラツキ方面より1946年頃入植したのを始めとし、1948年には日本人会が創立されている。全体で600アルケールで、現在40家族、珈琲樹数40万本程で、珈琲を主作としている。

e. 平和植民地

ノロエステ線、アララウクラ線方面より、1946年頃入植しはじめ、1951年に日本人会創立され、現在22家族の日系が、主作珈琲と取りくんでいる。全体で400アルケールで珈琲30万本である。

f. コリーナ・デ・バツリ植民地

此処は、サンパウロ、オリンピア、ゴヤス方面より入植した人にて作られ、現在日系8家族、此処は、珈琲以外に落花生、棉等をも栽培しており、全体で120アルケールである。

g. ノーボ・ロベルト植民地

1948年が草分けで、1949年には既に日本人会を創立している。全体で320アルケール、日本人は27家族居住しており、主作は珈琲(30万本)その外に棉、落花生、馬鈴薯等栽培している。

h. ミルアルケール植民地

1949年に売り出され、日本人が入植し、1950年の5月には日本人会を創立している。全体で500アルケールであるが、日系人15家族が入植している。

主作は、棉であり、147アルケール、米の71アルケール及び珈琲10万本(但し最近植付)である。

i. アルト・イラセマ

現在は、パカエンブ市に向け直線道路ができていますので、往時 130 家族も入植していた面影なくなつたが、近郊に 34 家族居住し、珈琲、雑作或は商店経営に活躍している。

j. 新生園植民地

1943年に創設され、1956年に従来のアルト・イラセマ日本人会より分離して新しい日本人会を作つた。

主作は珈琲 (52アルケール)、棉 (35アルケール)、落花生である。

k. ツパン (Tupã)

ツパン駅を中心とする邦人居住家族は 800 に近く、ツパン市内の在住 500 家族で、往時の 1,000 家族よりは減少しているが、農家は機械化作業をしているので、作付面積は増大しており、農工、商、医の各方面に邦人の進出はめざましく、特に二世群の進出も目覚ましい。パウリスタ線では、マリリアに次ぐ邦人集団地である。

l. バストス

バストスは、ブラジル拓植組合が、開いた町で 1959 年 8 月 30 日の調査では、植民地内に日本人 395 家族 1,101 人、市街地に 375 家族 1,023 人 (但し、日系 2 世を含む) の計 770 家族で、伯人の 421 家族より断然多く、日本人町でもある。同じく、1959 年度の農産と畜産の総額統計は、農産 104,765,000crs, 畜産 222,650,000crs, 計 327,445,000crs である。

なお、バストスで見逃がせないのは、1940 年 2 月にブラ拓から独立したブラ拓製糸会社があることで、バストス製糸工場の従業員約 120 家族は、市街地在住家族の約 1/3 を占めており、植民地内農業者約 400 家族の半数近くが養蚕を副業とし、ブラ拓製糸の傘下にあり、非常に恵まれている。

m. ドラセーナ

第二のマリリアとして飛躍し続けているドラセーナは 1945 年 12 月創設されたもので、鉄道も 1959 年に開通し、奥パウリスタの要衝である。

創設後 4 年にて、ムニシピオの資格をとり、アンダーソン、ヴォントランチンの 2 大綿花会社を誘致して、近代都市への礎を踏み出している。同市躍

進の原動力をなしている日本人コロニアは、現在同市を中心に200家族を数えている。

第八項 ソロカバナ線地域

ソロカバナ線

奥ソロカバナ

概況

サンパウロから鉄路554軒のアシス (Assis) を起点として、同じく鉄路843軒のソロカバナ鉄道終着駅プレシデンテ・エピタシオ迄を奥ソロカバナ地方と呼んでいるが、範囲は非常に広い。

此の地方に、日本人が「開拓の斥」を入れたのは、約40年前で、鉄路沿いにアシス (Assis) から、パラグアスー (Paragaçu), クワタ (Quata), ランチャリア (Rancharia), レゼンテ・フェイジョー (Regente Feijo), プレシデンテ・プルデンテ (Presidente Prudente) を経て、プレシデンテ・エピタシオ (Presidente Epitacio) までの間に日系農家の活躍の姿を各地にみることができる。

奥ソロカバナの日系農家は、珈琲、棉、ハッカ、馬鈴薯、落花生、等の栽培にその苦斗の歴史と輝かしい業積を残こしてきている。

農家では、養鶏、果樹栽培及び牧畜等に単作より集約農として脱皮しつつあり、1959~60年度においては、落花生、棉等は大豊作に加え高値であつたので、明るく、集約農化は促進されるものと思われる。

地区別一般概況

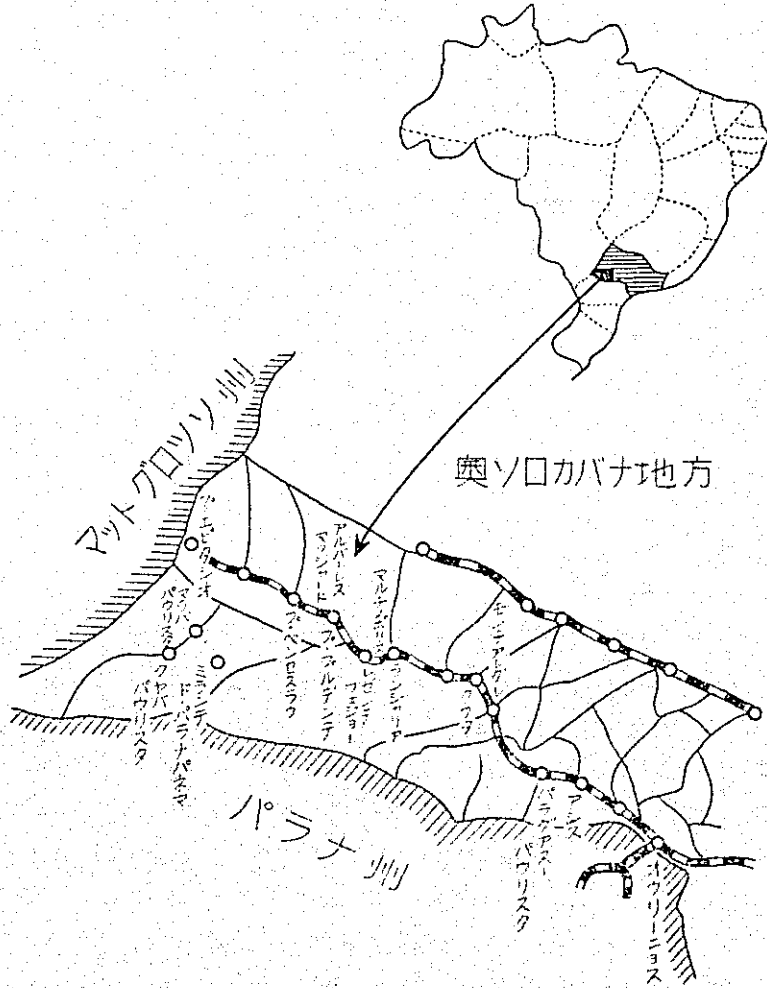
a. アシス (Assis)

奥ソロの「元関口」とも謂われるアシスには、142家族の日本人が在住し、内80家族は農業者である。

棉、落花生、トウモロコシ等の雑作は、他の奥ソロ各地と同じであるが、内36家族は、養鶏を主とした雑作農で、飼育数は約3万羽、年に4,000~5,000箱 (30ダース入り) が同地よりサンパウロへ送られている。

ソロカバナ線地域 E.F.S.

奥ソロカバナ



雑作のうち、多いのは棉で、中には1家族100畝という大農主もいる。本年(1959年)の収穫量はアルケール当り平均200アローバと恵まれているが、生産費は、畝当り40コントス内外であるので、アローバ当り250cr\$では儲けが少ないといっている。

このため、棉作家は年々減少して行く傾向で生産費も少なくてすむ落花生、トウモロコシ栽培が増えている現状である。

b. パラグアスー・パウリスカ (Paragaçu Paulista)

パラグアスー・パウリスカには文化植民地のあるところとして知られている。此の地方には戦前から棉作地として有名で、最盛期の1942年から1943年にかけて、郡内の棉生産量は、年間500万アローバを下らなかつた。

日系農家も当時は、文化植民地に300家族、太陽100家族、センマルケール60家族、東洋50家族、ニワ30家族、クリスクール30家族及びボラ植民地に30家族と、相当いたが、棉の不況から文化植民地の300は現在20家族位になつている。現在同郡内には230家族内外で、内半数は、農家である。

c. 文化植民地

パラグアスーとルテシアを結ぶ州道約16軒のところ、植民地の面積は2,100アルケールである。アメリカ在住(山田登幸を主理とする)日系人がこれを買入植の第一陣は、4年契約の珈琲コロノを入れ、彼らは4年目に珈琲をうけとり入植した。即ち、アメリカにおける日本移民排斥に嫌気をさした人々が集つた集団地である。

第二陣が入植したのは、1936年で、その後、相当入植し1943年頃は日本人300家族、他にブラジル人200家族を数え、棉、珈琲の栽培が大々的に行われていた。

此の頃年間棉生産量は、500アローバ位で、その大半が日系農家の手になつていた。現在のこの植民地は、約1,000アルケール、地主17、コロノ3家族で耕作面積は200アルケールに満たない。1957年頃迄棉作を主としたが、その後落花生にかわり、現在は6割を占めている。

珈琲、樹約5万本であるが、戦前は約45万本があつたが、棉の好況の波に

乗じて折角育つた珈琲を伐つて棉作に転向しており、その後、棉の不況時代もあり、最近では、西瓜、果樹の他養鶏など集約農えの道を進んでいる。

d. ランチャリア (Rancharia)

今まで奥ソロで農学校のあつたのは、プレシデンテ・ブルデンテのみであつたが、1959年8月に此のランチャリアにも開校され、プ・ブルデンテのそれと同じく農村子弟に農業の実際を指導している。

郡内の日本人は、115家族で、内農家は約半数の55家族、棉作を主として、落花生を副業としている。戦争直前の1939年頃には5指に余る植民地を数え400家族を超えたこともあつたが、現在10家族とまとまつた植民地はない。

珈琲栽培もここ4~5年前から数家族によつて行われているが、ランチャリアから70軒以上も離れたところで、パラナバネマ河流域のパラナ州境を接する地帯である。ここは地味も肥沃で発育もよく、将来性があるとみられている。

e. マルチノポリス (Martinopolis)

マルチノポリスには、アンダーソン、クライトン、サンブラサージの3精棉工場があり、約200万アローバの棉を扱っている。この内100万アローバは郡内の生産量であり、日本人は全部で70家族中50家族が市内で、20家族が農業者である。

此の地に日本人が入つたのは、約30年前で、1938年頃には約800家族を数えたが戦後は、サンバウロ近郊、パラナ州へ移動する人が多くなり、現在の70家族となつた。

農家の主作は、棉次いで落花生もあるが、棉の植付面積は、1家族で50アルケールと飛び抜けたものであるが、他は平均10アルケール内外、落花生は3~5畝で各農家ともトラクターを使用して機械化農への1歩を踏み出している。

f. レゼンテ・フェイジョー (Regente Feijo)

ソロカバナ鉄道 (E. F. S.) が現在のプレシデンテ・エピタシオへ延びるまでは、ここが終着駅であつたので、奥ソロ開拓の意気に燃えた日本人は、

ここを前進基地として、プレシデンテ・プルデンテまで16軒、アルバーレス・マツシャードまで30数軒の山野を馬や徒歩で奥地へ奥地へと開拓の歩みを続けてつたものである。

1時は300家族を数へた日本人も次第に減つて現在では、50家族を残すのみとなつた。この内、30家族は近郊で棉、落花生、野菜栽培に従事し、残りは町から20~30軒の地で農業を行つている。

近郊農家は最少10アルケールから20アルケール所有の地主で、棉、落花生、馬鈴薯の外野菜を作り、週2回乃至3回馬車で町へ売りに出る農家が多い。

他方町から離れた農家は棉、落花生が主作で棉も20アルケール、落花生もほぼ同じ面積と此の地方の日系農家は珍らしく大農が多い。1959年は棉はアルケール当り200アローバ内外、落花生もアルケール当り180~200俵の成績をあげている。

此の地方は、大なり少なり夫々地主であるため、落ち着いた生活を送つており、戦前のような投機的な仕事に手をかけず堅実な集約農への途を求めている。

g. アルバーレス・マツシャード (Alvares Machado)

アルバーレス・マツシャードは、戦前より戦後にかけて、奥ソロにおける日系の活躍舞台であつた。同地が日系の手により開拓されたのは、1916年頃で当時はまだ31軒手前のレゼンテ・フェイジョーがソロカバナ鉄道の終点であつたので、彼らは、そこより、食糧、衣類、その他生活必需品を馬或は背に負つて入植したものである。

植民地が開られてから数年後には、日本人も2,000家族を超えたが、現在はその1/3の650家族内外が管内に居住、内市内に100家族、残りは、各地に散在し、馬鈴薯を主とした棉、落花生などの雑作に従事している。

アルバーレス・マツシャードは此処数年間奥ソロ第一の馬鈴薯生産地であり、最も生産量の多かつたのは、1954年度の85万俵で、その内25万俵は、日系人の手により生産されていた。

同地の日本人馬鈴薯栽培農家は、約200家族、植付面積は約300アルケール(2~3月植)である。馬鈴薯のアルケール当りの生産費は種芋(パラナ産)、肥料、農薬剤を加え、労力を別として平均60,000cr\$で、サンパウロ近郊と大差はない。

このため農家は、従来の馬鈴薯の主作から棉、落花生などの雑作に手を伸ばし、また数年前より副業として養鶏を始めている家族(20家族内外)も増えつつあり、1959年は馬鈴薯の生産量も低下し、8~9万俵位であつた。

h. クヤバー・パウリスタ (Cuiabá Paulista)

サント・アナスタシオ市からパラナパネマ河に向つて約70軒の地点で、奥ソロカバナで、唯一の珈琲地帯である。

クヤバー・パウリスタは、ミランテ(後述)郡内だが、ミランテ市附近に較らべて日系農家は圧倒的に多く、植民地は、「独立」しているような感じを受ける。日系農家は約150家族、その内訳はノーボ・パライズに70家族、ノーボ・ツパンに30家族、クヤバー近郊に33家族及びノーボ・オリゾンテ、プロミツソン等に若干固まつている。この内、クヤバー・パウリスタ近郊の棉を除き、他は総て珈琲栽培者で、植付樹数は200万本に達している。

なお、クヤバー・パウリスタは開拓10年になる。

i. ノーボ・パライズ (Novo Paraíso)

クヤバー・パウリスタの市街地から、パラナパネマ河に向つて約20軒の地点、1949年11月に入植しているので、1959年で10周年になつている。在住者70家族の内50家族は地主で、所有面積は約1,100アルケール現在の珈琲樹数100万本、1959年度の収穫は9万俵(サッコ40kg)、ロエステ線バルパライズより移住してきた日系人が嚆矢であるが、主作の珈琲1本ヤリで、米、トウモロコシ、その他野菜等は自家消費程度を作つている。

地形は全く平坦で、地味も肥えているが霜の降りたこともある。

j. ノーボ・ツパン (Novo Tupão)

ノーボ・パライズに隣接した同植民地は、30家族で約500アルケールを所有しており、50万本の珈琲がある。ノーボ・パライズより1年遅くして入植

しており、此処も1955年の霜害に合つておるため、従来のカカオ栽培より棉、養鶏などに順次手を伸ばしている。棉は1959年に試験的に100アルケール栽培した結果畝当り平均300アローバの好成績であつたので、1960年には、200アルケール程に増す計画であり張り切つている。

k. ミランテ (Mirante)

サント・アナスタシオから約55軒のミランテ・ド・パラナパネマは奥ソロカバナで有数の棉作地帯であり、1959年度には此の地で約150万アローバが生産されており棉の都である。

ミランテ市は、1946年に村造りが始められ、サント・アナスタシオに居住していた大久保伊楽氏が2万アルケールの売り出しより始じまつている。

同郡内の日本人は、約200家族、うち市内在住は40内外で、他は棉、珈琲、落花生などを栽培して、着々と実績をあげている(但し、クヤバー地方の140家族が含まれているので実数は60)。1947年頃より入植者が増え、1955年には100家族以上を数えたが、1953年から1957年にかけて、棉の不況で40家族以上が他の地方に移つた。こゝしの棉作はミランテ始じまつて以来の豊作で(1959年)、アルケール当り平均180アローバ以上の収穫をあげ、アローバ当り250cr\$平均であつた。現在では、棉作1本ヤリの危険性を過去の不況で体験しており、棉の外、大豆、落花生、などの雑作をも加えて行つている。ミランテ管内の日本人農家60家族で約800アルケールの土地を所有している。

1. サント・アナスタシオ (Santo Anastacio)

プレシデンテ・ブルデンテとプレシデンテ・エピタシオの中間に位置するサント・アナスタシオは、棉と落花生の生産地帯である。同地方の日本人は約220家族、半数は、農家と推定されているが、目星しい日系集団地は、サント・アナスタシオより約30軒離れた(ミランテ寄り)平和植民地のみである。

m. 平和植民地

この植民地は、1949年に2家族が入植したのを皮切りに1955年頃には、約30家族となり、現在は、移動があつて、12家族である。

入植当時は、馬鈴薯を主作としたが、現在は棉と落花生で、農家は半数以下に減少している。これは、経済的に余裕ができた為にサンパウロ近郊へ移転したものが多く、今残っている人は皆恵まれた生活を送っている。

これを裏書するのが12家族で棉植付面積約300アルケール、平均250アローバとして、75,000アローバを収穫している。また総収入も19,750コントで、家族当たり1,560コントである。家族平均25域であるが、棉以外に落花生栽培も行っており、この主作のかたわら牧畜にも力を入れている。

n. マラバ・パウリスタ (Maraba Paulista)

クヤバー・パウリスタからプレシデンテ・ベンセスラウを結ぶ郡道約80軒の両側は牧場地帯の連続であるが、かつては、1942～1954年頃にかけて日本人農家の棉作地であつたところである。

1943年頃に10数家族が入植し、棉、馬鈴薯、ハッカを植え、好成績を伝え聞き、1953年頃には、100家族以上を数えたが、その後の棉の不況で退耕者続出し、現在2家族のみであり、中心地に住んでいる。当時は、家族平均10アルケールで、日本人の拓いた土地は1,000アルケールを超えていたが、一種の掠奪農業の結果、見渡す限りの牧場と化している。

o. プレシデンテ・ベルナルデス (Presidente Bernardes)

此処は、呉ソロカバナのハッカ栽培の発祥の地である。現在はパラナ州に“お株”を奪われたが、栽培の歴史は古く、1936年頃日本人が先鞭をつけ、第二次戦の勃発とともに、ハッカ景気が到来したので、栽培者も激増し、1942年頃は350家族を超え、植付面積も約3,000アルケールに達したと謂われ当時の主な日系集団地は

旭 植民地	40 家族	新興植民地	100家族
青葉植民地	100 家族	近郊の雑作	100家族

であつたが、現在管内の日本人農家は、市内を含め200家族の中半数である。

ハッカの全盛時代は1947年頃で、その後不況にあい、ハッカ畑であつたと

ころは相当牧場と化している。

また、アルバーレス・マッシュードと共に奥ソロカバナ有数の馬鈴薯生産地でもあつたが、最近は低調であり、棉、落花生、養鶏に主力を注いでいる。ハッカ全盛時代に100家族を数へた有葉・新興両植民地は、夫々数家族という有様で旭植民地のみ15家族を擁して再建の意気を示している。

p. プレシデンテ・ブルデンテとその周辺

奥ソロカバナ最大の日系集落地

奥ソロ最大の都市プレシデンテ・ブルデンテは1時のようにハッカの生産地ではないが、昔は世界一のハッカの集散地として知られ、年間750噸から800噸がこの町に集り、ここから原油のままサンパウロに送りだされていた。

日本人の家族も多く、管内1,500家族を数え、奥ソロ最大の日系集落地である。プレシデンテ・ブルデンテ市よりアシス向け州道6軒のところに、ブルデンテ農学校がある。現在プレシデンテ・ブルデンテ市には、邦人600家族が定着しており、棉、落花生、馬鈴薯を主作としている。

プレシデンテ・ブルデンテ農学校

サンパウロ州農務局の肝入りで、1956年7月に開校した。校長は日本人溝口茂雄氏で、その下に10人の農業技師と4人のメストレ・アグリコラ(Mestre Agricola)が在学生の指導に当つている。農学校の所有面積270アルケール・在學生は、平均各2アルケールの農耕地を受け、ここで各種作物を試作しているが、収穫物は、共同販売制度で売り上げの5割は学校へ、残りは生徒の収入となつている。

在學生の9割は日系人で、奥ソロは元より北パラナ各地から留学している者も多い。

q. プレシデンテ・ベンセスラウ (Presidente Vencesláu)

棉、馬鈴薯の全盛時代であつた1939年から40年には管内600家族を数えた日本人も現在は、250家族内外で、その中約半数は市内居住、残りの130家族位が農業を営んでいる。

全盛時代にもつとも多く居住していた地域は、ブ・ベンセスラウ市とピケ

ロビーの中間にあつたバイベン植民地で約50家族、1,000アルケール以上の棉作地と誇つていたが、現在は4家族のみである(10~20アルケールの地主)。この当時知られていた植民地の現在員は次の通りである。

ラゴア・セッカ	40 家族が現在	10 家族
サンタ・クララ	40 "	3 "
協和	30 "	12 "

この協和植民地は町から20軒のところであり、集団地として形を保っている。夫々20~30アルケールの土地所有者だが耕作面積は少なく、家族当り、棉、落花生、馬鈴薯等各2アルケール程度である。総て自家労働で、その上最近は、養鶏なども行つている。

協和植民地の経営は特殊で興味があるので次に記す。

この協和植民地は俗に「共産村」と謂われ、ピラボジンニ^oから更に約40軒程、パラナ、パネマ河に向かつたところで、約20年前、アララクワラ線バレットス地方からピラボジンニ^oに移り、棉作りのため、1952年に11家族入植したものである。

彼らが手持の金を集めて100アルケールの土地を購入した。(各自の出資額に応じ1株10,000cr\$で1アルケールという株式制度を設け100,000cr\$の出資者は10アルケールの土地所有権を持ち、従つて利益配当も10株分受ける仕組である)。

全植民者90人(1959年)の中幼児と主婦を除いた他は、日給90cr\$ 或いは月給2,500cr\$で、農畜業その他に従事し、これによつて生じた年間の利益を各農年度末、出資金に応じて分配している。今回植民地で行つている主な事業は養鶏(白色レグホン3,000羽)、養豚(150頭)、牛(150頭)、棉(100畝)、落花生(35アルケール)、馬鈴薯(3アルケール)、トウモロコシ(10アルケール)、その他製材、酪農等だが、棉作は連作すると地力が衰える理由で他に借地している。

事業部門には夫々責任者があり、共同作業は、各部門の責任者が相談の上行つている。植民者は全部家族もちで、夫々の家に住んでいるが、作業、販

完購入のすべてを共同で行つて行つているため、第三者から「共産村」というニックネームで呼ばれている。

植民地内には、現在トラクター5台、6噸積カミニオン1台、製材所、脱粒機、煉瓦工場などの準備がある外、各戸に水道、自家発電装置があり、恵まれた生活を楽しんでいる。

なお、将来は「集約農」を目指しており、近く果樹栽培、農産加工の面にも手を伸す予定である。

r. ピラポジンニョ (Piraposinho)

プレシデンテ・プルデンテから河港アホンソ・カマルゴを継ぐ郡道24軒のところにある。ピラポジンニョは、日本人の手により栄えた町であり、此の町を中心に協和、協明、ナランジーバ、日の出、中央、富士の植民地があり、汎ピラポジンニョ連合日本人会も作られている。日本人家族は約180で、棉、落花生、馬鈴薯の雑作を行つている。

s. プレシデンテ・エピタシオ (Presidente Epitacio)

ブ・エピタシオは、サンパウロから鉄路843軒の地点で州境の町である。此地には、在留邦人約40家族、全部市内に居住しており、職業もパール、八百屋、時計、写真屋、洗濯、乾物屋等経営、或は、貨物自動車の運転手などである。

同地の草分けは、1937年頃にパラナ河にて漁業に従事した事もあるが、その後の消息不明で、最近の入植は1950年である。マツト・グロソ州とは、パラナ河を境としているため、両州間の往來の要所となつている。

渡船場は、町から約6軒のポルトチビリッサであり、ブ・エピタシオからは又、ドラーダス、ボンタ・ボラン行きの定期バスも通つている。

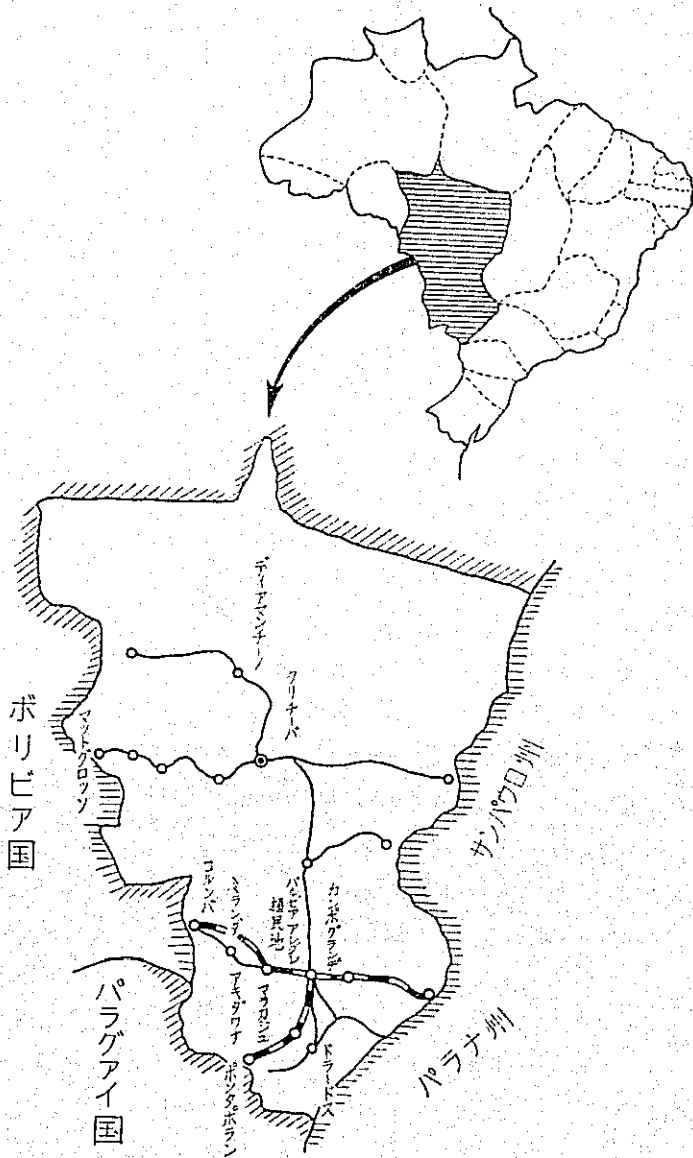
第二節 マツト・グロソ州関係

マツト・グロソ州地域

概況

マツト・グロソ州における邦人發展の歴史は古く、大正の初期ノロエス

マット・グロッセ州



テ鉄道施設工事に工夫として従事した沖縄県人、及びペルーからアンデス越えてブラジルにたどりいつた沖縄県人がカンボ・グランデに留まつたのがその発祥であり、カンボ・ブランデ市を中心とする地方には、既に40年以上の開拓先駆者が在住している、但し麻州への移住は、聖州、パラナ州への進展に阻まれ、一時振わなかつたが、第二次大戦後松原氏が、故ゼツツリオ・バルガス大統領を動かし所謂、松原特許件4,000家族をとりつけ、邦人移住者の受入を再開、第一陣を南麻州ドラードス連邦植民地に入植せしめ、南麻州開拓の機運が高まり、次いで和歌山不動産のドラードス植民地開発の要因となつた。

この南麻州開発とともに北麻州にも邦人が続き、松原のリオ・フェーロ植民地、カップン植民地にも、ゴムの花を咲かせるべく、開拓の斥をふるつている。

近年移住振興会社が、ペードロ・セレスチーノ駅附近の土地を購入し、移住者に分譲、自営開拓費を行わせているので、その成果は万人に期待されている。

地区別一般状況

第一項 ノロエステ線地域

a. カンボグランデ

麻州の表玄関といわれ、州都クヤバに勝る人口を持つ最大の都市で、パラグアイ及び、ボリビアとの貿易の要衝に当り、また聖州方面から入つてくる物資の殆んど凡てが、当市を基点として、マツト・グロッソ州全体に散らばつて行き、国境を越えて、ボリビア、パラグアイへも輸出されている。物資の大集散地で、市内、目抜き場所には、卸商が軒を並べている。市の一隅にあるノロエステ線カンボグランデ駅は、貨物運行では、パウルーやアラサーバをしのぎ、ノロエステ線中最高である。

カンボグランデ市は、国境に近いので、空軍基地もある軍都であるが、日系(二世)の兵隊も相当数営舎居住している。

カンボグランデ市は又、沖繩県人の集団地で約800家族が居住し、農村に市に何れも堅実な歩みを続け殆んど9分通りが、不動産を所有している。日

本人のカンボグランデ入植歴史は古く、子弟の教育に熱心な沖繩県人が主となり、邦人経営の「Visconde de Car」小学校は、本年度で創立47年(1960年8月15日)になる。

農業方面での他州よりの進出も、目覚ましく、これは、近年聖州農業地帯の荒廢の為に一般にマッド・グロソ州に眼をつけ移動を始めた為で、北伯よりの内国移民の流込みも相当ある上に、ポリビア人、パラグアイ人等の入植定住するものも、大きな数に上っており、人口は約80,000人である。

リオ・ネグロの松原植民地、ジャミックのバルゼア、アレグレ植民地、カンボグランデ近郊の大和植民地、シードロランジャにおける各植民地等4～5年このかた、新しい植民地が続々と建設され、入植者数も急激に増加しているので、カンボグランデ並びに周辺の邦人家族数は1,000を超えと思はれる。

街の中心街は、ブラジル銀行等9行、シネマ館3、放送局2、薬店15軒(内邦人2)、写真館13軒(内邦人経営10軒)、その他洗濯店、八百屋等数10軒が殆んど日本人の手で経営されている。市場も1959年落成、野菜用バンカ120、肉屋、雜穀売場等あるが、野菜作りは、日本人の専売特許でもあるが野菜用バンカは、全部日本人によつて占有されている。

b. バルゼア・アレグレ植民地

バルゼア・アレグレ植民地は、カンボグランデ司法区テレーノス郡に所在し、カンボグランデ市より約50軒のノロエステ鉄道ベードロ・セレスチーノ及びムルチーニョ駅を挟む両側の地帯で、移住振興会社が、1957年9月27日に購入した36,363,129エクター(15,026アルケール)である。

ベードロ・セレスチーノ駅付近の土地は、噴流熔岩に由来する玄武岩の風化により成生された真正テラ・ロッシャで1級地(1,733エクター)に相当し、2級地は、テラ・ロッシャとボツカツ砂岩の風化土壌とが混合したもので、テラ・ロッシャ・ミスツラードと呼称され面積約4,000エクター、

その他3級地3,000, 4級地4,000エクトールに分類され、総ロッテは、980に区轄されている。

標高	気温	降雨量
高地 331米	最高(年平均) 32.5°C	年間雨量 1,046%
低地 230米	最低(年平均) 17.8°C	24時間最大雨量114%

第一次入植ロッテ数62の内1960年3月現在16家族100名が入植しており、内訳は、山口10, 広島2, 鳥取1, 新潟1, 山形1, 福島一家族である。なお、入植は、1959.5.15日が最初であるが、初年度の開墾作付面積は、下記の通りで、最高作付面積は家族当たり16エクトール(蔬菜作を含まない)に達している。

作付状況一覧表(1960年3月末日)

回次	作付総面積	1家族平均作付面積	陸稲	トウモロコシ	マンジョカ	大豆	その他
1	97.6	10.7	76.4	9.2	5.4	5.4	バナナ 280本 オレンジ 250本
2	14.6	7.3	11.0	2.0	0.6	1.0	フエジョン 0.3エクトール アバカシー 350本
3	5.5	5.5	5.0	0.5	0	0	オレンジ 270本
4	10.5	5.25	6.0	2.0	1.0	1.5	
計	127.3	9.09	98.4	13.7	7.0	7.9	
平均	9.09	9.09	7.0	1.0	0.5	0.5	

なお、回次とは入植回次であり、1960年3月末現在では次の通りである。

回次	家族数	人員	入植時期
1	9	60	1959 5. 15.
2	2	13	1959 6. 28.
3	1	4	1959 7. 18.
4	2	10	1959 8. 18.
5	2	13	1960 2. 19.
計	16	100	

此の植民地は、移住振興の現在会社が自信をもって運営しておるため、他

の植民地よりは、非常に恵まれていることが特記出来る。(JAMIC, Ltda 聖市支店調べによる)

第二項 南部ドラーダ地域

a. カフェ・ポラン

マツト・グロッソ州ドラーダ郡カフェポラン植民地は、1960年4月17日に入植、6周年を迎えた新しい植民地であるが、永年珈琲栽培に苦勞したノロエステ線ミランド・ボリスより転住したものにより創設された所である。ドラーダ近郊でも指折りの肥沃地で、1,500アルケールの面積をもつた健康地である。入植者も現在116家族(1960.5.現在)に増え、所有珈琲樹も45万本あり、植民地内に珈琲精撰工場、小学校も完備し、日本人会も結成されている。

b. ドラーダ連邦植民地

1953年3月外務、農林、大蔵の三省より6名の調査団が派遣され、このドラーダ植民地と中伯のウナ植民地及びアマゾン地区の入植地を調査選定したが、その結果ドラーダ連邦植民地については、珈琲栽培の適地として、サンパウロ及びパラナ両州に匹敵するところで、将来頗る有望なところと決論がだされている。

ドラーダ連邦植民地は、広さ3,000平方軒、地味肥沃なテラ・ロッシャ地帯で、既に1942年頃からブラジル人の入植が始められていた。

日本よりの移住者は先ず60家族を入植する許可が松原氏の手で農務省より得られ、1家族当り30エクタールの土地を与えられることとなり、これは10年間耕作すれば土地の所有権が無償で与えられるものであつた。

その頃サンパウロの邦人間ではあんなマツト・グロッソ州の山奥に直来移住者を入れても果たして開拓し得るかとの反対意見も多数あり、伯人間の一部には、日本人の為の社会を作る恐れありとしての反対もあつたが、農務省の許可も下附され、入植地の作業等の関係で急ぐ必要もあり、全国公募の形式をとらずに引受責任者松原氏が、和歌山県出身であるところから、有志を糾合、日本拓殖組合を設立、同組合の手で第一回・第二回は、和歌山県下で

募集されて送附された。

但し、輸送船の船席の関係で1953年5月出帆のルイス号にて22家族112人、続いて同年6月出帆のチャレンガ号にて25家族129名が日本を出発し、その後引き続き同年度内に計74家族417名が入植した。

最初は引受人側が建てることになっていた住宅も、入植者が建てねばならなかつたり、入植後の激しい労働にも拘らず、初年度は、米の蒔付も時期遅れとなつたため、自家消費の米さえ収穫出来ず、大半の家族は、ドラーダスの日本人(旧移住者)より援助を受けたり、松原氏個人の資金融通にて、何とか切り抜けた有様であつたが、2年目からは、ロッテの開拓も進み、米、トウモロコシ等の収穫も自家消費を上廻り、これからの現金収入が入りようになると共に、永年作物の珈琲も3年目には35万本が植付けられ、盛大な入植3周年を催して、戦後移住者の成功した好例として注目されている。

なお、移住者と引受責任者との間では、入植に当り契約を締結しており、最低5ケ年間定着せねばならぬことなど規定している。

第三項 北部マツト・グロツソ州地域

a. ロンドノポリス

麻州の北部ロンドノポリスは、米作地として知られているが、日系も100家族余を数え、米は約25万俵を収穫している。

ロンドノポリスは、1955年市制が施かれ、1959年には郡に昇格、人口約3万5千で、内市内は約6,000である。教育施設として、グルッポ4校、師範学校も開校されており、医療施設は病院1、個人医師5、薬局5と揃つており、米の生産地丈に精米所は7カ所もある。日本人会も結成されており、横の連絡と親睦団結、向上を計つている。

b. リオ・フェーロ植民地

リオ・フェーロ植民地は、1952年8月15日に州政府農務局土地植民課との契約により、20万エクタールの植民地建設と分譲が委任されたものである。先発隊は1952年7月、マリリアより入植したもので、その後、道路開通、植

民地の境界測量、区画、架橋作業等進むにつれ、1955年より入植が開始され、1957年末迄に45家族が入植し、ゴム、カフエー、ピメンタ・ド・レーノ栽培を行つている。

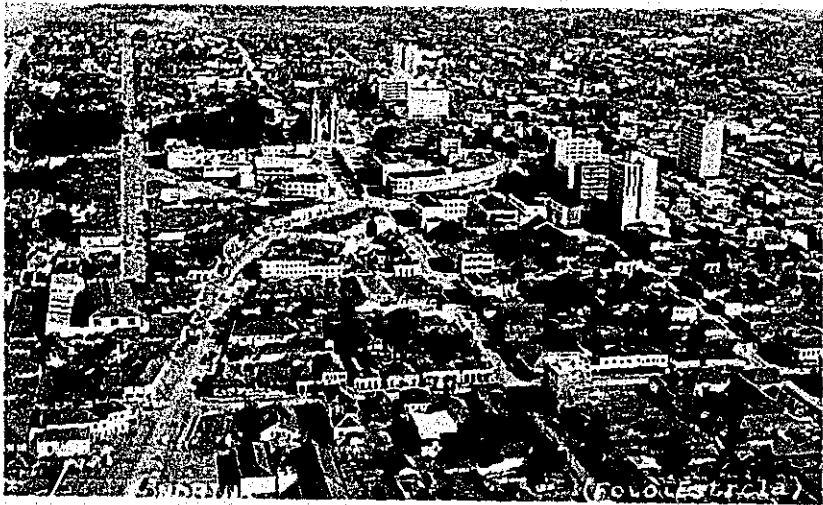
入植者の開拓現況

入植家族数	45家族	独身社員及び従業員	15名
植民地内	人員	228名(内男130, 女98名)	
植民地伐採、植付状況(単位エクター)			
1956年迄の伐採面積		896,222エクター	
1957年	〃	133,000	〃
1958年	〃	150,000	〃
	総計	1,179,222	〃(487アルケール)
全植民地ゴム植付総数		240,005本	
内	1956~57年度植付	137,000本	
	1958年度植付分	103,000本	
全植民地珈琲植付総株数		270,000株	
内	1956年度植付	180,000株	
	1957年度植付	90,000株	
全植民地マンジョカ総株数		30,000株	
全植民地サトウキビ植付済面積		5アルケール	
全植民地ピメンタ・ド・レーノ(胡椒)植付数		1,000本	
全植民地柑橋植付数		1,000本	

なお、植民地内には、飛行場2カ所あり、市街地の主な施設場は事務所、アルマゼン、精米所、オフィシーナ、倉庫、薬局、日伯学校、発電所、試験所、会館、製材所等である。



小ロンドンを意味するロンドクーナ駅



ロンドクーナ市街地

パラナ州の首都はクリチバ市であるが、北パラナ州第1の都会ロンドクーナ市が日系人になじみ深い。パラナ州全域には9,000余家族66,000余人が在住しており、パラナ州のみで、日系65人は万町歩の土地をもつている。



珈琲園の山立作業

珈琲園での1年間の作業は普通次のおりである。

10月より翌年4月頃まで	3回～4回	除草作業
3月～4月頃	1回	山立作業
4月～5月頃	1回	道路補修作業
5月～9月頃		採果作業
9月頃	1回	山散らし作業

第三節 パラナ州関係

パラナ州 概況

略史

西暦1500年に Brasil が発見された後、ポルトガル王は、遠征隊を送り込んでいたが、第4回目のマルチン・アフォンソ・デ・ソウザ遠征隊は、1532年に海岸沿いに南下して、Paranaguá に着いた。この遠征隊が Paranaguá に到着したのを知り、サンビセンテ、カナネアの住民は続々と南下し、パラナ州最初の開拓者となった。

但し、この時は既にスペイン人が、イグアスー、パラナバネマ両河の地域をグアイラー県とすべく占拠を企てていた。

パラナグア沿岸に金が発見されると Piratininga のサンパウロから南へ南へと人が下り、東部地方を開拓した。即ち、カストロ、ボンクグロッサ、パルメイラ、リオネグロ等がそれである。

19世紀の初には、パラナは既に多くの町がたち、金の発見、牧畜、エルバ、マテの栽培が盛んとなつて大発展を遂げた。

1873年グラシオーザ鉄道が開通し、フィデーラ、デ・ブラッソ、サンジョン・ダ・グラシオーザ、リオ・ド・メイオ、ボルダード、カンボ等沿線に都市が作られ、その影響でクリチーバの町は大発展を遂げた。

それと共に、鉄道は、農業と工業を発展せしめた。即ち、エルバ・マテの工業、Cana de Açucar 砂糖工業、その後に Café 栽培、製材業が起こり、小麦、棉をも生産するに至り、現在に及んでいる。

パラナ州開拓者の入植年次年

1500年代	土人
1532年	ポルトガル遠征隊
1609年	ポルトガル人、スペイン人
1829年	ドイツ人 (Rio Negro の開発)
1847年	フランス人 (イバイ・テレーザ植民地を開らく)

1852年	スイス人（スベラギ植民地を開らく）
1865年	オーストリア人，イタリア人
1869年	イギリス人
1871年	スウェーデン人
1872年	オランダ人，デンマーク人
1873年	アイルランド人
1876年	ノルウェー人
1878年	ロシア人
1920年	チェッコ・スロバキヤ人，ハンガリア人，レトニア人，エジプト人，アルゼンチン人，バラグァイ人および日本人
1926年	ブルガリア人，ルーマニア人
1928年	ギリシャ人，シリア人，レバノン人，ユダヤ人

以上過去1世紀間に5万人より今日のパラナ州の人口350万人に膨張している。100年前政府は労働力の不足を補うため、前述の如くヨーロッパ人を移入して農業開発に当らしめた。然し、之等の子孫の多くは、農業より商工業を好み、ために今日のパラナは、独、伊系の伯人工場が多数あり、織物販売にはシリオ系、食糧販売にはポーランド系が活躍しており、医師、弁護士、技師、薬剤師、歯医者としては伊、独系及びポーランド、シリオ系の子孫が活躍している。

パラナの政治的発展過程

今日のパラナ州を形成する地域は、1535年1月20日ポルトガル王ドン・ジョアン三世より第4回遠征隊長マルチン・アフオンソ・ソウザ兄弟が賜つたサンピセンテ領土である。1723年6月サンピセンテ（カクピニア、サンパウロ）のパラナグア司法区（Comarca）となり、1822年ブラジルの独立とともにサンパウロ県の司法区となり、その後広大な土地の開発、発展には独自の力及び計画が必要となつたので、1853年8月29日にサンパウロより独立し、パラナ県となつた。

- 1853年12月19日 本県第一代総督ザカリアス・デゴイス・エ・グスコ
ンセーロス就任
- 1854年7月26日 クリチーバを本県の首府と決定
- 1889年11月15日 ブラジル共和国宣言とともにパラナ県は、ブラジル
共和国のパラナ州となり、現在に至っている。

パラナ州はブラジルの南部、南緯22度30分と26度40分との間及び西経約48度と54度60分との間にあり、面積約20万平方軒、人口約350万を有する。パラナ州の地勢を概観すれば、東部の海岸地帯から西へ海岸山脈を越えると平均標高900米のクリチーバ高原に出、更に西にすれば中央高原のカンボヂェライスの高原（最高1,215米）にでる。

この北方はゆるやかに傾いてカフェー地帯である大草原の峠を越すとグアラプアーバの大高原に達する。ここは最高1,399米である。北西に向つて土地は傾き200米乃至600米の緩かな起伏があるが、一般には平坦なカフェー地帯となつている。

気 候

パラナは、大体温帯に属しているが、海岸地帯の気温は年平均20度であり、南東の風が吹き雨がも多く温度が高い。高原地帯は雨期乾燥期がはつきりしており年平均17度であり、雨期は熱帯とは逆に冬である。気温は緯度高低により若干異なる。例えば、クリチーバの平均温度は16・2度、ジヤタイジーニョの最高温度は39・2度である。

産 業

パラナ開発第一期はゴールド・ラッシュの時代で約100年続き、第二期は牧畜の時代で18世紀の初めサンパウロからクリチーバを経、南大河州に進んだ。その為比較的発達は早かつた。

第三期は、エルバ、マテと木材の産出時代で、現在は農業、特にカフェーの時代である。

勿論産金、牧畜、マテ、木材の産出は、現在も行はれているが、現在の産業を大別すると、

農 業	カフェー, 米, トウモロコシ, マンジョカ, 大豆, 棉, その他
林 業	ペローバ, セードロ, ファイデーラ, 松, インフィア, ピンニョ, その他
鉱 業	金, 銀, 鉄, マンガン, 石灰岩, 石炭, 瀝青
鉱 泉	主として硫黄
商 業	輸出品の大部分はカフェー, 木材, バナナ, 果樹。輸入品は小麦, 機械, 自動車, その他精密機械
工 業	コーヒー精撰, 精棉, 精糖, マテ製茶, 精油, 製材, 製紙

第一項 北パラナ地域

北パラナ 概略

本年(1959年)のパラナ路は名物のポエラ(埃)とともに、物凄い珈琲ブームである。それもその筈、北パラナ一帯で、サンパウロ州を上廻る生産(推定1,500万俵)が予想されている。つまり珈琲といえば、サンパウロ州の代名詞となっていた時代は過ぎたのだ。このことは、ブラジルにおける大きな変化である。この新しい珈琲の最大生産州における我々日本人の力は極めて大きい。北パラナの生産の3割(或はそれ以上とも云われる)は日本人の手によるものである。この北パラナに現在日本人及び日系が約9万人がいるが、大きく分けて、その進出は3期に分けられる。即ち、チバジー川以北が第1期(1932年頃まで)であり、次いでマリंगाまでが第2期(1950年頃まで)そしてパラナバイからセーラ・ドス・ドラードス方面に及ぶ第3期(現在まで)である。

地区別一般状況

a. カンバラ (Cambara)

パラナ州における日本人の歴史は1916年に始まる。聖州におくれること僅か8年に過ぎない。聖州における日本人の歴史が51年(1908~1959年)の苦闘の上に築かれたものとすれば、パラナ州のそれは44年の基盤の上に今けんらんと花が咲きつつあるともいえる。そのパラナ州への進出の足場となつた

ところが、カンバラである。

此処には、北パラナ最初の日本人植民地がある。聖州日本人発祥の地が、グアタパラ耕地であり、サンマルチンニョ耕地であるとすれば、カンバラのバルボーザ耕地は、パラナ州の日本人発祥の地である。また、平野植民地が聖州最古の日本人植民地なら Vila Japaneza はパラナ州最古の日本人植民地である。

1915年頃からバルボーザ耕地に配耕され、或は聖州からバルボーザやその周辺に転耕した人達は相当の数にのぼる。一時はバルボーザ耕地のみで100家族もいた。その意味でバルボーザ耕地は、日本人発展の「足場」といえる。

ヴィラ・ジヤポネーザは1919年に日本人の手により売出され、地価アルケール当り2.5ミルで、全盛時代には日本人丈で60家族を数え、管内500家族を超えていた。

その後は不況や降霜で、今ではすつかり淋れ、土地所有は2家族のみで、カンバラからオウリーニョスに向つて2軒辺りから左手に展開する地である。

ブーグレ耕地 (Fazenda Agua de Bugre)

昔のバルボーザ耕地の本部は、英国のウィンザー公が皇太子当時に訪伯された時、宿舎となつたところであるが、今ではコロニアの銀行として知られている南米銀行が所有している。

勿論旧耕地の全部でなく、ブーグレ、サンタ・エルシリアと名付けられた2耕地約700アルケールである。ブーグレが570アルケールで約40万本、サンタ・エルシリアが10万本、どちらも手に入れた当時は荒れるにまかせたものであつたが、安瀬氏の情熱に高橋支配人、アレシャード監督の名コンビにより見違えるようになっていく。

今年(1959~60年度)の収穫はコッコで3万5千俵であり、ここで見逃がせないのは耕地の6割がムンド・ノーボ種に改植されていることである。早く改植したもので4年もの1,000本に100俵、3年もので40俵の収穫があつた。

ブーグレは昔のバルボーザの殻を脱ぎすべてが新しくなりつつある。

現在(1959年10月)ブーグレには38家族の新来移住者が働らいている。最も古い人で3年組だが、満足して働らいているようだ。

勿論除草費1千本につき6,000cr\$では食うのみであるので、余作地や副業の養鶏、養豚で補っており年収200コントスになる家族もある。

耕地が今迄受入れたのは70余家族となるので、歩留りは30%位である(59年末10~15家族退耕)。40年前のバルボーザ耕地は、今また新来移住者の「前進基地」となっている。

カンバラの日本人は169世帯(1,086人)、一世が430人、二世が461人、三世が279人、それに非日系というのが16人となつている、三世が多いのは、ここが古いことを物語っているが、カンバラでもう一つ見逃がせないのは、沖繩出身者の勢力で、約50家族だが、日本人の所有面積(ブーグレを除く)1,424アルケールの内8割、珈琲約2万2千俵(1957年度)は総て沖繩出身者の生産であつた。

b. アンジイラ (Anjira)

カンバラから19軒の地点にアンジイラ市がある。カンバラと、バンデイランテスに挟まれているので、発展は余り期待出来ない。この管内に約30~40家族の日本人がいる。

c. バンデイランテス (Bandeirantes)

野球の強いこと、戦争中のハッカ事件で知られている。バンデイランテスは、北パラナで、カンバラに次いで日本人の発展したところ、それ次に日本人の地盤も固い。最初は3軒ばかり離れてインベルナーダという部落ができていたが、鉄道がバンデイランテスと決まつたので、自然インベルナーダを吸収してしまつた。現在管内の日本人は253家族、うち市内及び近郊に127家族、段々減る傾向にあるようだ。その理由として雑作農が多いこと、また日本人の所有地は比較的に雷害の危険性あること、更にバンデイランテス界限は、テーラ・ロッシュャ層の浅いことが与げられている。

珈琲1,000本当りの生産量も隣のサンタ・マリアナやゴルネリオ・プロコピオに比べてぐんと低いという。

管内に幸運、厚生、ディビザ、サンタ・アメリカ(旧ガルシアノボリス)、アバチアなどの外、野村農場(後述)等の集団地がある。併し、幸運、厚生など古い植民地の人達は霜害を一度も受けていない丈に皆恵まれている。

殆んどが、ここを足場とし、第二の事業に手を伸ばし、マリンガ・ノーバエスペランサ方面に分耕地をもっており、自適の生活を送っている観がある。併し珈琲園の経営には、カンバラのブーグレ耕地と同じく新種による珈琲園の若返りを真剣に取り組み行っている。

市内に約100家族居住している丈に邦人経営のシネマ館もあり、街は活気に溢れている。

野村農場

バンデイランテスで特筆せねばならないものに野村農場がある。

野村農場は、1952年大阪の野村徳七商会が伊藤陽三氏の斡旋で購入した450アルケールと3年後買足した900アルケールを合わせ1,350アルケールあり、邦人の所有では北パラナ第一である。

伊藤氏の建言とはいへ、今から約35年前にブラジルに目をつけて投資したことは商社の対伯進出に先鞭をつけたものであり、ブラジル日本移住史でも特筆すべきである。

同農場は現在珈琲60万本、コロノガ100家族いる。現在は、日本人家族は、職員を除くと6家族に過ぎないが、野村農場出身者は枚挙にいとまがない。それぞれ農・商界に君臨している。その意味で農場自体の貢献よりも、人材養成所としての野村の存在を大きく評価する人もある。事実農場出身者は、異口同音に農場で働らいたことを誇りとしている。

野村の苦難時代は戦中、戦後の10年間に亘る。年収5万俵という珈琲の全盛期を接収され続け、1951年返還されたときは、荒れるに荒れ日本人の汗と丹精のこもった珈琲樹は、みる影もなく、ホウキのようになり収穫も4,000俵という衰れな状態であつた。

野村農場は、歴史からいえば、確かに30数年になるが、戦後野村が実際に返還されたのは、1952年末で戦前の全ては、政府に接収されていたとみるの

が至当である。従つて農村は、再スタートとして僅か8年しかならない。その意味で野村農場に期待するのは今後である。

農場は日本人こそ少ないが1,200~1,500人の大部落で教会もあれば、クラブも2つあり、フットボールの運動場もある。これらは全て農場内にある売店の利益で維持されている。農場は古るいが新しい形の息吹きを感じられる。

面積が広く未だ原始林が400アルケールもあるので、事業は何んでもやれるのが強味だが、戦争の傷は深く、いま漸く収支償うようになっただけに事務所コロニアなど外観は古び、改装を迫られている感じをうける。

d. サンク・マリアナ (Santa Mariana)

1930年に売り出されたもので、現在アルト区、東照、明德、新興の4植民地がある。管内の邦人は130家族、内市内に58家族住んでいる。土地は非常に良く今年は平均1,000本当りコッコ200俵平均という丈あつて、全盛期には300俵は間違いない。

那の珈琲生産は、推定25~30万、内2割が邦人生産である。

全体的に落着いているということは、邦人の生産者11人が去年より共同で珈琲マキナ経営に乗りだしていることでも知られる。会社名は Maquina Caffeira Produtor de Santa Mariana Ltda. で自分らの珈琲を精選する以外に買付けをして儲けようと考えている。

e. コルネリオ・プロコピオ (Cornerio Procopio)

コルネリオ・プロコピオの日本人発展のスケールは何処とくらべても段違いな位大きい。

筆頭は、宮本邦宏氏で一族の本拠もここにある。宮本氏の事業はケタハズレに大きく、コロニアで事業を統轄するため自家用の飛行機をもっている人は、この人以外にない。同氏がコルネリオに持つている耕地丈で6つを数え、樹数100万本、今年の収穫は精選10万俵といわれているが、これも事業の一端でしか過ぎない。宮本氏がコルネリオに移り住んだのは1945年であるのでコルネリオでは戦後派である。

コルネリオはこの宮本邦宏氏の100万本の外に宮本一族の70万本、後宮耕地の40万本、大本耕地14万本、只野耕地12万本など更に8万本クラスが5人、5万本クラスなら20余という程の日本人珈琲耕地がある。従つて管内の珈琲生産量は、精選50万俵の内4割が日本人にて占められている。コルネリオは北パラナの珈琲の都とも言える。コルネリオに日本人の大地主が集つているのは、とりも直さず土地が非常に良いからであらう。

後宮耕地

1928年慶応大学生の世界一周産業視察団に加わつて来伯した後宮氏は、ブラジルを将来の事業地と定め、当時総領事館の書記生斎藤武雄氏に依頼して求めた土地が、現在の後宮耕地で、翌年再び来伯して慶応大学在学中にランジェーラ川以南最初の入植者となつた。その意味で後宮氏は北パラナにおける日本人の大先覚者で、コルネリオに日本人の大地主が多いのも、後宮耕地が珈琲栽培上のモデルケースとなつたといえるようだ。

耕地は、現在360アルケール、約40万本あり、本年(1959)耕地創設30周年を記念して盛大な祝賀会が催された。

なお、後宮氏は、コルネリオの名誉市民に推されている。コルネリオに鉄道が施設されたのは、1931年の暮れて、当時は板家が数軒あつたに過ぎないというが、現在では人口3万、ロンドリーナ、マリंगाに次ぐ北パラナで第3位の市にふくれあがり、市外にそびえるキリスト像と共にチバジー川以北の中心地としての貫禄を備えている。日本人会もよく纏まつており約100家族いる。

更にレオポリスに近いところにボア・ビスタ植民地がある。1941年の開植で全植民者28家族の内24家族は20アルケール以上の地主で、珈琲園経営にみな真剣で、それ丈夫蹟もあげている。

f. セルクネージャ(Sertaneja)

コルネリオ・プロコピオから西北25軒の所にセルクネージャがある。

郡制をしいたのは8年前の1952年で400家族位だが、管内のマイロランに55家族、エスペランサに55家族、そして町に約20家族の日本人がいる。

各集団地とも主として珈琲栽培だが歴史は新らしく、今後の発展が期待される。

g. ウライ (Urai)

ウライの第2印象は、家族的なフンイキを感ずる南米土地会社が買つて売出し、村づくり町づくりも日本人の手によつて行つたせいかも知れない。北パラナで今なお日本人が主導権を握っているのは、アサイ (Assai 後述) とここだけである。

管内在住邦人は、438家族、ウライ文化協会を中心に全在住者が15区に整然と分けられている。つまり、3,111人のコロニアが完全に1つになつて水ももらさぬ組織を作りあげている。

ウライといへば直ちにラミーを連想させる程あつて、今年度の収穫予想量は、フィブラにして約4,500噸、これは全国の60%に当る。それ丈に連邦政府直轄の唯一のラミー格付所もあり、市議で文化協会の会長である灰田巧氏がパラナ州で初の格付員に任命されている。

ラミーも2~3年前は12~13cr\$まで下落したこともあつたが、日本へ輸出されるようになって好転、現在30cr\$を突破している。つまり、精選珈琲1キロに匹敵するわけだから1アルケール5噸 (1959年は平均6噸) の生産としても珈琲コッコ250俵に当る。

併も1度植付けておけば、あと数年間は年間4~5回収穫ができるため1俵当りの生産費が350cr\$にもつく珈琲園よりは、余程有利と考へられる。

ウライの開拓が始まつたのは、1936年で今年は24年目だが、ラミーの歴史もその2年後に始まつているので、22年昔開の歴史がある。

栽培の口火者は当時の海興事業部長であつた松井氏が、渡辺万次郎氏に依頼し育成されたもので、現在渡辺氏はウライの名譽市民でもあり、その眞蹟を伝えるため、氏の名を冠した広場まだある位だ。

なお、ウライには、Companha Industrial Velanaense de Rami (創立1957年) がラミー紡績に乗り出し操業している。既にあるバルバンテ工場とともにラミー栽培の前途は明るい。

ウライは、ラミー計りでなく珈琲生産も linpo で20万俵あり、内50%は日本人の生産である。珈琲以外に棉の生産も見逃がせない。この方面でも70%が日本人の生産で、どの方面でもウライは、日本人がみじんもゆるがぬ地帯を占めている。

h. アサイ (Assai)

トレスバラス移住地は1932年ブラ拓がバストス・チエテについて売り出した12,000アルケール及び後に買い足した6,610アルケールを含めた総称であるが、その後の郡制改革で1部はウライ、ジャタイジンニヨ、アモレイラの3郡に分割されている。管内の邦人は約1,300家族あつて日本人の地主696人を算えている。

1959年のトレスバラスの棉花生産量は、300万アローバ、これはパラナ州全体の50%に当る。不作の年でも州生産量の殆どというから、優にパラナ州の豊庫である。とくにその機械化は、米国の西部に匹敵するといわれる程、トレスバラスの底力がある。トレスバラス移住地は、市街地のアサイ市、アモレーラ郡の他に15区に分かれており、区名は主に土地の肥沃を示すブラジル産の樹木の名をつけてあるのも移住地の特徴の一つである。

即ち、中央区、グルカイヤ区、ホルテイラ区、バルミックール区、フイゲラ区、セボロン区、バルサモ区、セードロ区、ベローバ区、ロゼーラ区、カピウーナ区、ジャンガーク区、バイネーラ区、サンジョン区、サンターナ区等である。

アサイ市街地

1932年当時僅か8家族であつたのが、現在1世931人、日系252人、ブラジル人59,730人に増加し、周辺の農場地帯の発展と共に、農産物の集散地、都市商工、政治経済都市としての性格をもつてきている。

棉作地帯

15区の内では比較的棉作地として「セボロン」「フイゲラ」「ジャンガーク」の各区があげられる。以前は「ベローバ」「ロゼーラ」が中心であつた。「セボロン区」は1番目に開拓されたところで面積1,130アルケールの

大半が耕作地である。機械化にさしつかへない平坦地で施肥、技術など余り必要としないといわれる肥沃なテラ・ロッシュ地帯である。

機械力は、40家族中21台のトラクター、7台のトラックと、ジープ1台を所有している。区の平均収穫量は、300アローバを産出している。

珈琲地帯

「パルミツタール」「カピウーナ区」が主な所である。現在地主は65家族で、契約者（コロノ）は少ない。現在迄に霜害は3回受けているが、1955年の霜は20%程度の被害であつたので、1959年は平均7~8本に1俵の収穫をあげ在住者の顔も明るい。区全体で1万俵収穫クラスが3家族、5,000俵クラスが6家族を算え、総生産量15万俵がみられている。

珈琲乾燥機（Secadera）が立ち並ぶ植民地である。

アモレーラ（Amorela）耕作の新興地

5年前アサイ郡から独立した現在の市街地は、アサイ市から36軒の地点にある。トレス・バラス河とパボン河が近くを流れていて、下流地帯は、霜の危険地帯で、珈琲の適地ではない。この方面は殆んど白人入植者で、市街地の近くに Fazenda Runader（5,000アルケール）の珈琲園があり市街地の活気を左右している。

邦人地主は42家族で、珈琲、耕作に従事している。市街地には邦人14家族住んでおり、Bar, Emporio, Posto de Gasolina, Dentista, Transportador 等、営んでいる。

郡役所の統計によると（1958年度）面積14,397アルケール、主な生産物も郡役所の1957~58年の統計によると、

珈琲樹数	8,349,532本	珈 琲	189,740俵
棉	161,062アローバ	トウモロコシ	97,442俵
フェイジョン	39,328俵	籾	23,507俵
マンジョカ	990,407疋	西瓜	101,721疋
甘 薯	107,924疋	馬鈴薯	69,880疋
家畜類	1,700頭		

なお、このアモレーラ町より8軒の地点に「サンタ・セシリヤ」町があつて、邦人が耕作に従事している。

i. ロンドリーナ市 (Londrina)

小ロンドンを意味するロンドリーナは、1929年末経験実利主義をモットーとする英国シンジケートの北パラナ土地会社が、3万アルケールを分譲し始めたものである。1930年9月に木造の仮建築家屋が2軒（ボテコ）開業し、1931年に11戸、1933年に400戸、1938年に Comarca が設定され、当時は一躍1,700軒を数え、商業組合やカトリック系の女学校が創設され、水道施設といった近代的な都市形態が着々と赫土に礎かれた。

超えて、1949年に5,900戸、現在は20,000戸を超え、人口にして12万余に達し、北パラナの要としてその重要性を益々帯び産業、経済、文化、教育の都として飛躍を続けている。

珈琲が造りあげた都であるこのロンドリーナ市は、創立25周年を迎え(1959年)だが、市内には日系人の顔がはらんし、東京ビルのある Rua Serjipe は聖市のガルボンブエノ街に似て、日本色にぬりつぶされた観がある。

管内の日系コロニア人口はロンドリーナ市と合せ1317家族、人口9,087人を数え、農工商方面に活発な動きをみせている。

ロンドリーナの文化情報機関として、3カ所の日語ラジオ放送局があり、日系コロニアの文化向上、情操、娯楽の面に大きな役割を果たしている。

ロンドリーナ市を中心として中央区(30家族)、フレーザ区(20家族)、1区(20家族)、2区(10家族)、マラビリヤ(25家族)、コロアドス(25家族)、バイケーレ区(15家族)、ナカニシ(20家族)、チーグレ(25家族)、ローレーナ(20家族)の植民地がある。

この内蔬菜と珈琲地帯の中央、フレーザ、一区、二区、珈琲地帯のローレーナ、チーグレ、コロアドス、バイケーレ、ラミー地帯として、マラビリヤ等が主な生産地帯としてあげられる。

日本人の農生産物は郡総額において、20%以上占めるといわれているが、生産面丈でなく質的にも、日系のカが市の発展に寄与している、特に二世の

活躍はすごい。

進学率にしても、小学校 1割、中学校 3割 5分、商業系 5割、工業系 6割 2分、大学 1割 5分と高い比率をしめている。

珈琲地帯

ロンドリーナより、南西に向つて旧カンベ街道17軒の地点である。1932年11月に斧を入れたのに始まり、その後、ノロエステ線カフェランシア出身者(80%)の人々が自立営農をみて入植した。ロレーナ植民地の発展の原動力となつているものは、開拓の精神が流れ共同の力で物事を解決していく真面目な態度である。

ロレーナ植民地の25周年を記念して調査されたものによると、

総面積	336アルケール
耕作面積の80%は	珈琲栽培
所有珈琲樹数	18万本(地主20家族)
生産量	5万3千俵

現在でも5~7本で1俵平均の収穫をあげている。

特に4年前(1955年)より村が電化、され灌水設備も出来、養鶏、酪農(1942年頃より)熱も盛んである。

ラミー地帯

新興地マラビリヤは、ロンドリーナより南西34軒、アサイ市より僅か7~8軒、チバジー河まで僅か1軒たらずの地点で、テラ・ロッシェの肥沃土に恵まれ、1958年には10年祭を催した比較的新らしい土地である。

主にマリリア地方よりの入植者が多い。現在日系26家族(地主)が250アルケールを所有し、珈琲、ラミーを主に栽培している。ラミーは珈琲の霜害にあい思い通り換金できないので、換金作物として導入された。

収穫は6アルケール栽培で20噸、8アルケールで50噸といった所が現在の生産量であるが、1疋当たり、リーブレ100cr\$の収入の魅力が、外人間でも霜害地は、どんどん珈琲樹を掘り起こしている。品種は主に村上種で、年に4~5回採取されている。

珈琲，蔬菜地帯（中央区）

市街地よりカンベ街道を左右に挟んで西5軒範囲の地点，1931年に開植された。通称（シャーカラ区）といわれている近距離で特に不在地主が多い。日本人会は1938年以来基本財産として1アルケールの土地に珈琲1,300株を植え維持している。

鶏，果樹，蔬菜，珈琲と聖市郊外にみない根強さをしめして高度の多角農がこの中央区，ファイゲラー区にみられる。

パラナ州ロンドリーナ市の物価市場価格（1960.4.6.調）

品物名		価 格 (cr\$)		品物名		価 格 (cr\$)	
大根類	1 kg	日本品	1,000	ラジオ(トランヂス フー)	1 台	7,000	以上
白菜類	"	日本品	1,000	ミシンシンガー	"	25,000	
タマネギ	"	3,000~	5,000	" 伯国製クロスリー	"	9,380	
キャベツ	"	2,000		ソ	パ	1 ワ	47
キナメント	"	4,000		ソ	バ	1 袋	23
ピメント	"	6,000		ウ	ド	一 束	32
トマト	"	4,000~	6,000	昆	布	1 kg	500
キウリ	"	2,500~	5,000	醬	油	1 立	26
カブラ	"	1,000		味	噌	1 kg	27
チリ硝石	50 kg入	600		ソ	一	小1瓶	30
尿酸	"	1,400		干	魚	1 kg	80
加糖酸石	"	400		メ	リ	ケ	ン
塩化加里	60 kg入	650		粉	ミ	ル	ク
硫酸アンモニア	"	650		珈	琲	1 kg	42
殺虫剤	1 立	900		肉		"	80
" ロジヤドックス	"	170		マ	ツ	チ	小箱
噴霧器	1 ケ	6,500~	8,000	ウ	ソ	ク	1束8本
ノコギリ	日本品 (尺二)	300~400		ラ	ン	ブ	1 台
自転車	日本製輸入品	ミヤタ	18,980	ク	ワ	シ	1 ケ
" 伯国製	モナルキ	6,890		ホ	ウ	チ	1 ケ
				ナ	ベ	類	中 型 5人用
							180~ 5,000迄
							10
							50
							280

書籍雑誌類

日本の月刊雑誌は、船便でくるため、2ヶ月遅く来て、当地で発売されて居り、これはサンパウロと同じである。

全ての書籍、雑誌類が販売されて居り、値段は10掛で、日本にて、100円のもの、100cr\$で販売している。なお、月遅れ（当地に発売されてより更に2~3ヶ月後）にて売出す際は、約半額45~50cr\$となつている。

その他の学用品、日用品は次の通りであつた。

品名	価 格 (cr\$)	品名	価 格 (cr\$)			
ノート	8枚綴 1冊	4	封筒	1枚	1	
	12枚綴 "	6	便箋 50枚綴	1冊	33	
	30枚綴 "	14	" 日本製フジ	"	40	
鏡筆	普通の安物	1本	3~5	ワラ半紙 500枚	1包	170
	ゴム消付	"	8	手帳	1冊	14
	外国製 (日本チエコ等)	"	35	学童用書籍		
ゴム消し	1ヶ	1~3~4	国語、数学		45~65	
定規	プラスチック製(30cm)	1ヶ	15~20	理化学史		"
	木製(30cm)	"	2	地 理 等		"
インキ	小学生用	1瓶	12			
	パーカー・パイロット印	"	30			

なお、ホテル最低1晩200cr\$, 最高1晩500cr\$。食費1食(日本食) 80cr\$で、この時の換算レートは1米弗188cr\$で1cr\$は邦幣2円弱であつた。

j. マリング市 (Maringa)

1947年5月に北パラナ開発会社の手によつて売出された市街地は、約1,500万平方メートル(600アルケール)という丈あつて全長7軒に及ぶ数本の大通りは、巾80メートルあり、大都市の風格を備えている。原始林の中にココの声をあげたマリング市も今年で13年の誕生日を迎えたが、この間郡内だけでなく、周囲の開拓につれ経済の中心地として発展をつづけつつあつて、ロンドリーナ市を凌ぐのも時日の問題とまでいわれるようになって居る。

郡内には、パイサンゾー、フロリアーノ、フロレスタ、イパツバ、マリ

ラ、イグアテミーの6つのパトリモニオがあつて、市内の約5万人と合せると実に14万人に達する。

マリンガは、世界一の珈琲生産郡といわれる丈あつて市内の車の数4,000台、州立小学校、郡立6校、中学校2、師範1、商業1、銀行21、シネマ館3、病院9、それに400以上の商工業者が活発に動いている。

マリンガ地方の日本人最初の入植者は、1929年であるが、市内に邦人600家族がおり（この内邦人商工業者約250家族）各分野に互つて発展している。

更に邦人の一次発展地帯として目覚しい躍進ぶりを示しているが、市の中央に市営メルカードが新設され、市街は鉄筋コンクリートが各処にみられ、近代都市化されつつあつてロンドリーナ市に迫りつつある。

k. パラナバイ市とその周辺

概況

燎原の火のような勢で、マリンガまで伸びてきたカフェー栽培は、此処で大きく分けて、二つの方向に向つた。一つは、ノーバエスペランサ（Nova Esperança 後述）、アルト・パラナ、パラナバイとイバイ河の北岸をパラナバナマ河流域まで伸びていつた地帯、及び後述クルゼーロ・ド・オエステ（Cruzeiro do Oeste）、シャーノルテといつたイバイ河を渡つた地域である。

1. パラナバイ市（Paranavai）

マリンガに次ぐ都市として発展しつつある珈琲雑穀の生産地であり、その活気はすさまじいものがある。

中心部の商店街は、連日朝早くから雑踏をきわめているが、ロアング、サンタイザベル、モンテカストロ、ジアマンテ・ド・ノルテ、テーラ・リッカからも集まつてくるからである。管内には、タンボアラ、ノーバ・パウリスタ、アサヒミツホの植民地がある。

奥北パラナの新興都市として発展ししいるパラナバイは1955年のMunicipios Brasileiros de Maior Progresso のコンクールで5都市の内に選ばれば表彰をうけた発刺たる町でもある。此処には伯銀をはじめ10有餘の銀行

支店があり、州・連邦の諸官庁の出張所もある。

教育、衛生機関も充実して州立中学校、師範、高等学校などがあり、聖カザー病院の外に個人経営の病院も多く、又市の西部には、州政府の補助を得て、ジェット機発着を予定しての国際飛行場も建設中である。市の内外には珈琲精撰工場、倉庫が22を数え、アングーソン、サンブラを始め、4つの精棉工場と精米所、精材所などがある。

このように市の発展につれ、日系家族も年々増え、現在200家族以上と推定され、各方面で活躍している。

その周辺植民地

クンボアラ植民地

パラナバイ市から18軒にある植民地で、管内で最も早く開けたところであり、昨年(1959年)9月20日に入植10周年記念祭を盛大に挙行了。主作は、珈琲だが、1953年、1955年の霜害に傷められたが、4年の努力が実り、1959年は大豊作であつた。交通の便もよく、教育施設も完備し、日本人会、男女青年会も結成されている。

パライズ・ノルテ (Paraiso Norte)

クンボアラ町から、18軒のところ、主作は珈琲、1959年は豊作に恵まれ珈琲精撰工場、製材所、仲買商など活発な動きをみせている。

此処には、パライズ連合日本人会があつてピンチ・シンコ区、ホルト区、アグアクララ区などを含めて、連絡も良く行届き、将来大集団地になることが約束されている。また、パラナバイへ35軒、ノーバ・エスベランサへ47軒で交通の便も良い。1951年に日本人が最初に入植し、順次増加、イバイ河流域では有数の珈琲地帯となつている。

アルト・パラナ (Alto Paraná)

1919年に日本人2名が最初に入植、50年には日本人会が結成され、現在日本人会員は67名で、町に40名、27名はシャーカラ地帯の地主である。

ジヤマンテ・ド・ノルテ (Diamante do Norte)

パラナバイ市から約80軒、現在約40家族の邦人が珈琲栽培に当つている。

ここも、1953年、55年の霜害をうけ苦難の道も長かつたが、1959年は、大豊作で明るさを取り戻している。

同地方の最初の日系人の入植は1950年であり、現在ではこれら先人の村造りの努力も実り、日本人会、男女青年会も充実し、親睦、娯楽修養などに努めている。

1. ノーバ・エスペランサ (Nova Esperança)

ノーバ・エスペランサは奥パラナでもマリंगा、パラナバイに次ぐ活気のある町である。珈琲の生産、商工業の発達は同地方をぐんぐんと伸ばしており、邦人は市街地に約190家族在住、管内の各植民地を合すると500家族という一大集団地である。奥パラナでも良質の珈琲生産地と知られており、ノーバ・エスペランサが開拓されてから1959年で10周年を迎え、10月18日に日本人会主催の入植記念等が盛大に挙行された。数ある商工業者の中でも珈琲取扱いで活発な動きをみせているのは Cotia 出荷組合、Cicap、和田、鈴木、ウニオン、パウリスト商会等で15の珈琲マキナがある。

ノーバ・エスペランサ珈琲精撰出荷協同組合は1959年4月に珈琲栽培者の要望に応え設立されたものである。

金融面では、収穫期には1日2万コントスの取引をする南米銀行支店をはじめ9つの銀行がある。なお、日本語学校もあり、160名の生徒に3部教授が行われており、日本人会、男女青年会も活発な動きをみせ、スポーツに北パラナ中でも抜擢である。

親愛植民地

ノーバ・エスペランサ管内でも最も邦人農家の集団している所である。1951年に開植され、1千アルケール余に100家族が住んでおり、珈琲園経営専業地主が7割、残りは契約者(コロノ)である。

イバチング植民地

ノーバ・エスペランサ市から20軒離れた地点でバルメイラ植民地(後述)に隣接した珈琲地帯である。地主と契約者を合せて40家族が珈琲栽培に従事している。開拓は1950年であり、日伯人とともに精神的によく結ばれ、教育

に自治によく協力している。

男女青年会は、日本人とよく連絡を保ち、娯楽、事業、情操方面にも多大の成果を上げ、野球のど自慢なども首位をしめている程熱心な指導者が多い。

パルメイラ植民地

此の部落は、街道の一番手前にあり、コチア組合員が多い。

農村経済の合理化を念願している部落であるが、僅か15家族であり、同管内では底力のある点で上位である。

ノーバ・ピウーナ植民地

イバイチングの隣接地である、1953年、55年の霜害で相当傷められた珈琲地帯であるが、在住者23家族は、悲惨な体験後新たな心構えで精魂を打ちこんだ甲斐があつて、1959年には緑したたる珈琲園に復活し豊作をみた。日本人会も1959年10月に改選し、明るい表情で部落の一層の発展にそなえている。

平和植民地

ノーバ・エスペランサから35軒の地点、パラナシチオ町を離れること5軒にある。同植民地は約30家族の集団で主に地主である。ここも他に劣らぬ珈琲地帯で管内でも有望な部落である。

日本人会は、ポ語校、日語校の経営に全力を傾け、教育方面には充実ぶりを示している。

m. 邦人発展の最前線、北パラナの新興地帯

1959年の北パラナはすごい珈琲ブームであつたため、更に新しい地帯へと入植者を導き、既に北パラナ第二の都市マリंगाは、ロンドリーナに代つて、中パラナへの足場となりつつある。

テラ・ボア (Terra Boa)

マリंगाから90軒の地点にあり、その名が示す通り土地は極上である。町の日本人は約30家族、シャーカラ地帯に40家族居住しているが、日本人が最初に入植したのは1953年であつた。

日本人会は移民50年祭の1958年の8月に記念して作られ、同時に会館も建てられている。市内で商工界に活躍している業種は、珈琲精撰業3軒、マキナ1軒、精米所2軒、自動車工場1軒、製材所及家具店等3軒、その他雑貨、薬局、バザール、パール、運輸業と多士済々で、電燈もある明るい町である。

n. ジュサーラ (Juçara)

マンガから西へ約100軒の地点で、日本人先駆者は、1951年に入植している。市街は、次の年より作られ始め、現在日本人約30家族いる。

ここも1953年、55年と2回雷に見舞われ、今迄は苦勞続きだつたが1959年は超豊作に恵まれ、明るさを取戻している。市街地には、雑貨店2軒、精米所2軒、薬店、美容院、歯科、運搬業等に日本人がたずさわっており、新興都市であり活気がある。

o. シアノルテ (Cianorte)

ジュサーラからクルゼイロ・ド・オエステに向けて18軒にあるシアノルテ町は、新しい珈琲、棉、雑穀地帯として近年クローズアップされてきている。同市は、Melhoramento Norte de Paraná が売出した土地で、市街地の面積は800アルケール、既に珈琲マキナの外、将来を見込んで綿のサンブラも進出している。又、アンダーソン、マトラゾの大手筋も進出を準備中といわれている。

市内には日系商店も数多くブラジル人に伍して堂々と活躍している。日本人の進出は、1953年が最初であり、1956年に日系人の団体親和会が結成されており、全移住者を網羅した文化体育協会もあり、横の連絡は頗る緊密である。1959年の作柄は上上で地理的に恵まれた点と土地の良いことが、発展の因をなしている。日系農家も豊作に恵まれ、新しい希望に輝いている。

p. クルゼイロ・ド・オエステ (Cruzeiro do Oeste)

大半は州有地の払い下げを受け、急激に発展したところで、それ丈に旺盛な開拓魂を溢れ活気のある町である。土地も良く交通も恵まれている。

今年の棉花は、アサイに次いで豊作だつたという。ここもシアノルテ

(Cianorte) 同様 アンダーソン、サンブラ、エステーベ等の綿花会社が進出を準備中である。

邦人の活躍も目覚ましく、主なものだけ拾つても珈琲と棉では、3人共同の Cafeira Bandeirantes, 2人共同の精米所, その他写真屋, 電気屋, 会計事務所, 又別な面では, ホテル, 雑貨商と各方面にて活動している。日本人会も1956年に結成され会員85名であるが, 会館, 運動場も完備している。

q. ウムアラマ (Umuarama)

アルト・パラナで将来の大都市を約束されているウマラマは, クルゼイロ・ド・オエステから35軒の所にあり, 1960年6月には, 満5年を迎え, 郡制実施も予定され, 商社, 商店も次々に進出し活気を示している。同市を中心にセーラ・ドロードス, イカライーマ・シャンブレ, マリア・エレナ, アルト・ビキリ, カフェザール, ペロパール等の地帯からすべてウムアラマに集まり, 此処で取引きされている。

此処もメリヨラメント会社の売出したところ, 市街地も長さ7軒, 面積750アルケールの規模で, 土地は豊饒のうえ, 交通至便 (マリंगा迄190軒, グアイラ港に150軒) という地の利を占めている。ことに航空路も REAL が週3回, また VASP も本年開始する予定である。

この他, サンブラ, ボルカルテの2綿花会社も既に敷地を購入し進出態勢を整え, 更に I. B. C. (コーヒー院) の倉庫 (収容能力珈琲50万俵, 敷地15万平方米) も建設中であり, ウムアラマ市の昇格と共に更に発展が約束されている。日系人の入植は, 1955年で, 現在52家族が居住している。

原始林地帯を控えているので木材も多く, 製材所(日系)2軒あるが, 注文に応じられない程だ。

註 この地帯の59年度の生産

珈琲ココ	100万俵	棉	2万アローバ
トウモロコシ	27万俵	フェイジョン	3万俵
米	8,000俵		

r. フロレスタ (Floresta)

1951年に町が作られ、現在14家族が商工界に活躍しているが、経済的にも恵まれており、実態調査の結果では管内に138家族、その内90%が地主との事で珍しい存在であるが、それ丈に落着いており2年前に文化協会が結成された。

s. セーラ・ドス・ドラードス

技能青年訓練所の地理的環境

技能青年訓練所は、セーラ・ドラードスの町から約50軒強の所にあり、イバイ河に近いところにある。このイバイ河下流のことは、パラナイ市とその周辺の概況のところで若干述べたが、今一度述べると、北部パラナイ州に入つた珈琲栽培は、マリंगाから大きく2つに別かれ、イバイ河の北岸をパラナイ河まで達するものと、イバイ河を渡つてグァイラーに向う鉄道予定線の方角に伸びたものがある。この2つの方向に分かれて伸びたカフェー栽培の歴史は新しく1958年に始めに収穫らしい収穫があつたほどである。

この内、イバイ河北岸に伸びたカフェー栽培は、河畔の低湿地を残し、サンタ・イザベルド、イバイ・モンテ・カステロ等の町をつくつて、ほぼその森林を切りつくした。他方鉄道予定線に沿つてイバイ河を超えた組は、北上した組の霜の害(1953年、55年)が此の地方より大であつた点に意を強くして開発に励み、1952年1家族のクルゼーロ・ド・オエステのように175家族(1958年6月実態調査による)まで増加したところもあり、かつてのパラナイ松地帯であつたカンボ・モロン附近まで南下した組もある。

カンボ・モロンまで南下すると、鉄道予定線を少しはずれるが、この予定線に沿つてはウムアラマ・セードロと既に相当のカフェー園がみられる。

セーラ・ドラードスはこのウムアラマから主線をはずれて北上しているが、この附近も同じく、カフェー適地であつて既に3年、4年生のカフェー園があり、1959年には枝も一杯に実をつけていた。勿論カフェー園があるとともに、木材、米、トウモロコシ、フェイジョンの産出もあるが、このイバイ河の中流は目下、ブラジル薄荷(オルテロン)の主生産地にならうとしている。アルタ・ソロカバナ特にブ・ブルデンテを中心とした薄荷生産者は、パ

ラナパネマの北岸に既に適作地がなくなるまで、栽培しつくし、近年このイバイ流域に多数入植してきている。

薄荷のように特に河岸というのではないが、矢張棉生産者も奥ソロカバナより相当入植している。

セーラ・ドラードスから訓練所に向うと（この道はウムアラマからイバイ北岸のモンテ・カステロに至る公道）、それまで続いていたカフェー園は、とぎれとぎれになり、日系人も幾らかあるが、とぎれの間は原始林である。

セーラ・ドラードスより約30軒でイヴァテーの町になるが、現在のところ、森林のなかにきちんと市街子宛地だけ拓かれ、ルア（Rua 通り）がつけられた中に1軒のみ家がたつていた。勿論数年の間には名実ともこの町に変化発展することは、今までの他の開拓前線によくみられた通り間違いのないことである。

此のイバテより約20軒にて訓練所に達し訓練所よりイバイ河までも僅か20軒である。比較的によく森林が残されており、同時に高い土地の間には低湿地が相当に抵つている。

此の様な地帯にある青年隊の訓練所は、矢張りその400アルケールの土地のうち150アルケールほどの低湿地が含まれており、農拓協は、この低湿地を水田にかえ、そこに黄金の穂を稔らせてみようと試みて1959年度には13アルケールに米を植付けている。もつとも、これは訓練所の特許でなく、この低湿地は大範圍にあり、ロンドリーナ附近の日系数家族が600アルケールを購入し、最初薄荷を始めようとして、試みに植えた米の成績が良く、水田に転向したもの、或は伯人の水田農場主もいる。

なお、問題なのは、大消費地から離れており、重量のある雑穀類の生産について一番問題となる運搬及び価格の面よりの運搬賃は割高になるのは止むを得ないが（クルゼイロからマリंगा迄のトラックによる雑穀運送は現在運賃だけで1俵当り80~90crsについており、マリंगाよりサンパウロ市場にだすとしたら更に輸送費が莫大となる）、パラナ河に近い地帯で輸送に河舟を利用する事を考究すれば運賃を相当切り下げ得る。実際古くからパラグア

イ、アルゼンチンとの交通の要路であつたパラナ河は今でも3つの船会社があつて、奥地生産物の輸送の中心となつている。

第二項 南パラナ地域

南パラナ 概況

南パラナ開拓の歴史

此の地帯は地理学上ブラナルト、ボンタ・グロッサと呼ばれる標高一千米前後の高原地帯である。サンパウロの高原同様東はかなりの急傾斜をもつて海岸線に達し、北は、サンパウロ州へのび、南はサンタ・カタリーナとの州界に至る前に消え去る。西にむかつて次第に低くなつている。

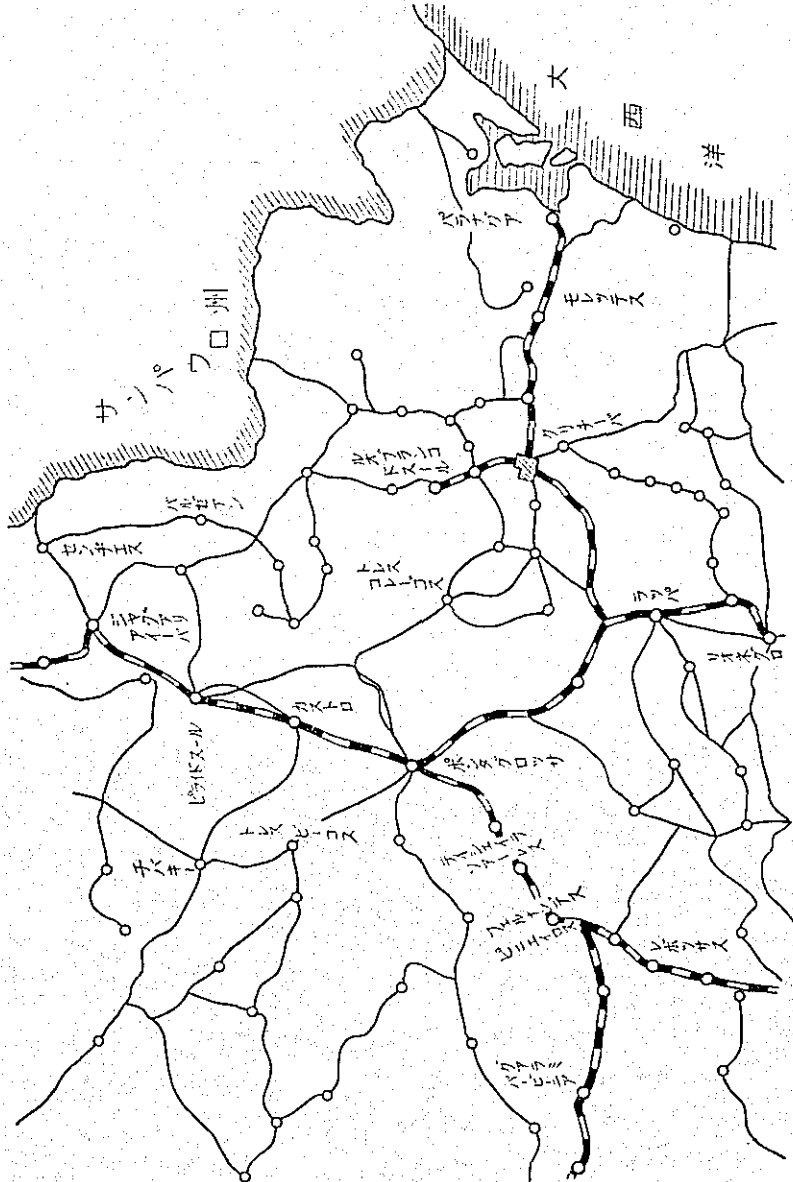
この中部パラナを境として所謂南三州は、如何にもドイツ、イタリア、ポーランド人をはじめとするヨーロッパ移民によつて開られた感である。

北パラナは同じ南三州(Rio Grande do Sul, Santa Catarina e Paraná)に属するパラナ州であるが、これは珈琲の移動と共に開られていつた故にか開拓の様相はサンパウロ州開拓の延長といつた感じが強い。

ヴァーレ・ド・パライーバに始まつたカフェーがモジアナ、ロエステ、奥パウリスタを超え、そして遂に州境を超え北パラナに入り込み、その進展と共に次第に開かれていつた北パラナの開拓の歴史は比較的新らしく、この20数年来のことであるが、それに比べると、南パラナの開拓の歴史はづつと古い。17世紀前半、バンデイランテスが土人狩りのためにパラナに入つたのは別として、パラナ開発の端緒はリベイラ河上流に始まり、イグワスー上流、更にイタラレー、チバジー上流へ逆ほつていつた砂金採集に始まつたといわれる。砂金掘りは1カ所に相当期間定住することになるので、そこに食糧自給のための農耕、牧畜が始まり、そして部落が形成されて行つた。もつとも、その後にミナスの金山発見と共に彼らの大多数は、ミナスの再移動を行つているが、金の採集より足を洗い、このパラナ高原の沃上に腰を落着け、農耕や牧畜を始めた残留者たちが、初期の開発者となつたわけである。

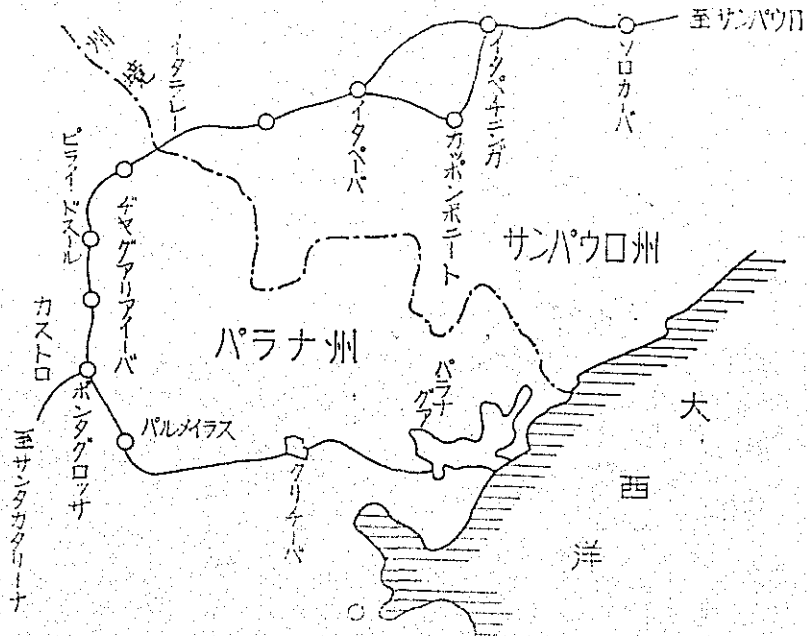
文献によると1720年代には、クリチーバ附近に既に夫婦者200人、その他

パラナ州 2 南パラナ



1,400人が住んでおり、クリチーバを中心として牧畜が盛に行われていた。この1,700年以後、南パラナー帯は牧畜が急速にひろまつて行つた。このクリチーバ附近は勿論、プラナルト・ボンタグロッサ（前述）などはまことに自然のままの牧畜で、この地方は牧畜中心の農業であつた。殊にリオ・グランデ方面に牧畜が盛んになると、これらの最南部地方から毎年サン・パウロ州のソロカバの馬市に送られる牛馬の道路にあたるこの地方は牧場の外に宿場が出現し、それがやがて村落から町へと発展して行つた。

ソロカバを起点として、イタベチニガ、カッポンボニト、イタラレーなどのサンパウロ州の町々、そしてパラナ州に入つてピライ・ド・スール、カストロを通り、クリチーバに至る今日の町々もこの昔時の道路の沿線の宿場村落より発展したものである。



この土人狩に始まり、砂金採集の時代を経て、定着の牧畜、経済に発展したパラナが、今日の段階に達するには、移民導入があつたからである。1850年代以後、サンタ・カタリーナ、リオ・グランデには、ドイツ、ポーランド、イタリヤを初めとするヨーロッパ移民が続々と入つて来て、その一部は南パ

ラナの各地にも入つたが、1853年パラナが、サンパウロより独立。その後は、積極的なヨーロッパ移民の誘入がなされ、彼らの誘入とともに従来の自然発生的な農耕牧畜に新しい農業経営が附加され、各種製造工業も興こされ、本格的なパラナ開発の途が開られ、今日に至つたわけである。

昔日のトロッペイロ（家畜群を誘導するカウボーイ）の通つた道を南に下つて、州界のイタラレーの町を過ぎパラナ州に入り、山をのぼつてブラナルトに至ると住民は、ヨーロッパ系それも北欧系の顔をしたものがめだつ。

最初にパラナへヨーロッパ移民が入つた1829年から今日までに18万前後のヨーロッパ系移民が、この南パラナ一帯に入つているといわれるが、いまなおヨーロッパよりこの地方へ移住してくる移民が多い。新しいところではカストロの Fazenda Cooper Cotia. に隣接するオランダ人の植民地 Castorolandia や、又つい最近中国から移住してきた白系ロシア人たちの集団地 Nova Russa などがある。

この地帯の農業は、今日なお、牧畜が盛んであるが、その他に小麦、トウモロコシ、馬鈴薯、甘藷などがある。なお、つい最近の Folha "O Estado" によると、近年ボンク・グロッサ那を中心としてカストロ、パルメイラ、グアラプアーバの各郡でも米の栽培が盛んになり、約5,000アルケールにわたるペロラ種の栽培がなされており、その栽培成績はアルケール当り120俵程度だと報じている。更にボンク・グロッサ附近の養豚は牛と並んで特に知られている。

聖←→パラナをつなぐ

ブラジル縦断道路の一部、サンパウロ←→クリチーバを結ぶ線は、聖、パラナ両州政府によつて工事が急がれている。サンパウロ州側の工事はすでにレヂストロ附近まで進んでおり、一方パラナ州側も60%完成している。またクリチーバから南へもサンタ・カタリーナ州のラージェエまで出来上つている(1959年末)。

サンパウロ←→クリチーバ間は更にポルト・アレグレまで延ばされ数年後には完工の予定である。

サンパウロ、クリチーバが開通すれば両市は370軒に短縮され、自動車なら5時間、サンパウロ、リオ間よりも近くなる。

この道路は、将来の重量輸送を考へて下部には鉄筋を入れた最も新しい舗装工事で完成すればたんに両市が近くなるのみでなく、沿道の開発は計り知れぬものがあり、州内で唯一の未開発地帯（聖南西地域）も一躍クローズアップされてくる。

地区別一般状況

a. クリチーバ (Curitiba)

クリチーバ市は、人口30万を突破している。珈琲ブームに湧くパラナ州の首都だけに市中の活気は凄いもので、銀行街の雑踏、商店街の人出は他所ではみられない。

軍人、学生、官吏の街でもある。クリチーバは又非常に衛生的で住みよいことではブラジル一だと地元つ児は威張っている。またクリチーバは珍らしく黒人のいない所で反対に欧州系の美人が非常に多い。

活動する日系　クリチーバとその周辺

このクリチーバ市を中心に取り巻いている日系は、どんどん増えつつあり実態調査の結果450家族居住している。管内には、サンタ・フェリシダーデ、カンポ・コンブリード、サンジョゼードス、ピニアイス、クアトロ・バーラス、アラウカリア、リオ・ネグロがある。1959年に此の地方の邦人団体を一丸として連合日本人会が結成されたので、邦人関係の連絡も円滑になるものと期待されている。僅かの市内移住者を除いては断然農業者が多く、主に蔬菜栽培に従来している。

b. アラウカリア

クリチーバ市から25軒の地点にある。此処は、同地方で異色の邦人集団地で、コチア産組の種子薯栽培地（別にカストロ附近の Fazenda Cooper. Cotia 後述）もあり、現在組台員103名、ポーランド系の農業者が多く、日系は30家族である。

ファゼンジーニャ (Fazendinha)

アラウカリアの町から13軒のところであり、コチア産組員の集団地で、現在16家族、主にトマト、養鶏で1954年に開拓されたところで比較的新しい。

d リオ・ネグロ (Rio Negro)

クリチーバ市から105軒のところ、サンタ・カタリーナ州境である。1956年から始まった新興地で標高900米余、気候よく、果樹に最適で、すでに桃、リンゴ、ブドウ等が植えられているが、主作はトマトである。クリチーバ市からここに通ずる州道は、アスファルトで、聖市からの国際道路につながる予定となつている。

e カストロ (Castro)

カストロワプラナルト、ポンタ・グロッサのまん中に位する。サンパウロからは、ソロカバ、イクベチニガ、カッポン・ボニート、イタペーバ、イタラレーという昔のトロッペイロの通つたコースをたどり、パラナ州に入つてピライ・ド・スールを過ぎてカストロに至る。

サンパウロ、サンタ・カタリーナを結ぶ、所謂サンタ・カタリーナ線がここを通つているが、最近では、サンパウロ→ポンタ・グロッサを結ぶバスも1日1往復する。サンパウロからカストロまでは500軒余、クリチーバは110数軒の地点である。

カストロ地方の温度、雨量わ次の通りである。

カストロ地方の温度及び雨量 (1922~1942)

月別	温 度 (C°)					降 雨 量			
	最 平 均	最 高 均	最 平 均	最 低 均	20年間 最 高	20年間 最 低	20年間 平 均	閾 係 数	降 雨 量 mm
1	27.3	16.9	34.4	9.2	20.9	78.3	173.3	74.2	
2	27.1	16.7	33.8	8.3	20.8	80.2	131.7	207.4	
3	26.8	16.2	35.2	5.2	20.3	79.9	104.7	53.4	
4	24.2	13.7	32.0	2.0	18.0	80.2	78.2	60.5	
5	21.4	10.3	29.9	-2.8	15.2	79.5	94.0	87.0	
6	20.1	9.2	27.2	-6.0	13.9	78.8	109.6	88.0	
7	20.4	8.3	28.8	-4.0	13.5	75.5	66.8	102.6	
8	21.8	9.5	32.4	-4.8	14.8	72.5	100.6	98.4	
9	22.3	11.0	33.0	-1.4	15.7	73.9	129.3	106.8	
10	24.0	12.6	35.5	0	17.3	75.2	133.5	76.2	
11	25.8	13.9	33.8	4.2	19.1	73.8	122.8	77.8	
12	27.1	16.0	34.8	7.8	20.7	76.3	156.6	104.5	

平均気温は、17.5度、サンパウロ近郊よりは丁度1度低い。カストロのカーザ・デ・ラポウラの話では毎年4月から8月までの間に4~5回の降霜をみることがあると言っているが、降雨の面では年間平均して大体一定量の雨のあることが特徴であり、セッカに悩まされるということはなく、農作に便利な点でもある。

f ファゼンダ・コペル・コチア (Fazenda Cooper. Cotia)

新設されたファゼンダ・コペル・コチアは、カストロの町から東南に向つて18料の地点、クリチーバ、ロンドリーナを結ぶ州道112軒の地点にある。耕地の面積は446アルケーレス余、入植家族数は8家族で、それぞれ58アルケーレス程度を所有し、馬鈴薯種の生産を目的としている。従つてコチア組合もこの村の建設のため経済的その他で優先的な援助をしている。

現在の入植者はサンパウロ近郊からの人達が多く、馬鈴薯栽培に経験の深い人達であるが、コチア組合員に行きわたる“Batata Semente Certificada”の生産であるので責任は重い。

g カストロランダ (Castrolanda)

Fazenda Cooper. Cotia に隣接するところにカストロランダがあるが、オランダ村である。

オランダ人の集団地は各地にあるが、このカストロランダはそれらの中では最も新しい植民地であり、もつともよく組織化された模範植民地として知られているものである。

創設されたのは1933年、クリチーバ在住のオランダ領事自からが各地を物色して、このカストロの町に隣接する2,800アルケーレスを買いとり Castrolanda と銘名した。

ここの在住者は57家族、1戸当り50~100アルケールを所有し、乳牛を中心とした農業経営を行っている。このオランダ村に入つてすぐ目につくものは緑の丘のあちらこちらに立ち並ぶ赤いカワラ屋根のヨーロッパ風の立派な住宅である。われわれ日本人の移住地或は植民地という観念の中にあるサッベ小屋の感覚とは月とスッポンの差をもつ植民地住宅である。

入植者の古いものは5年余、新しいもので3年余ということであるが、彼らのほとんどは乳牛飼育が主であり、現在の牛乳出荷者数45、1日の出荷牛乳9,000立。これらは、組合の工場に送られ、バター、チーズ或は、チョコレートとミルクを混ぜたショコミルクという飲料などに製造加工し、各地へ販売している。

この乳牛飼育を中心として他の主なものは、養豚や小麦、馬鈴薯、甘蔗、米などを栽培している。

南に入った欧州移民が殆んど移動することなく、小規模年々健全な生活をしてきた点を見ると、これは何もカストロランダのオランダ移民のみの特殊例でなく、まず土地を買い、合理的な家をたて生活を快適なものにして腰を落ち着けて働らいて行こうとする生活態度は、欧州移民の通例であり、これは、移動絶え間ない日本移住者の学んでよい点ではないかと考えさせられる。家庭生活を豊かにするにはまず金をもうけてからという信条のもとに、貧弱非合理的な象に住み、1にも2にも金もうけを目ざして転々としてきた日本人移住者の生活様式と、彼らのそれは、まったく180度の差がある。

第四節 サンタ・カクリーナ州関係

サンタ・カクリーナ州

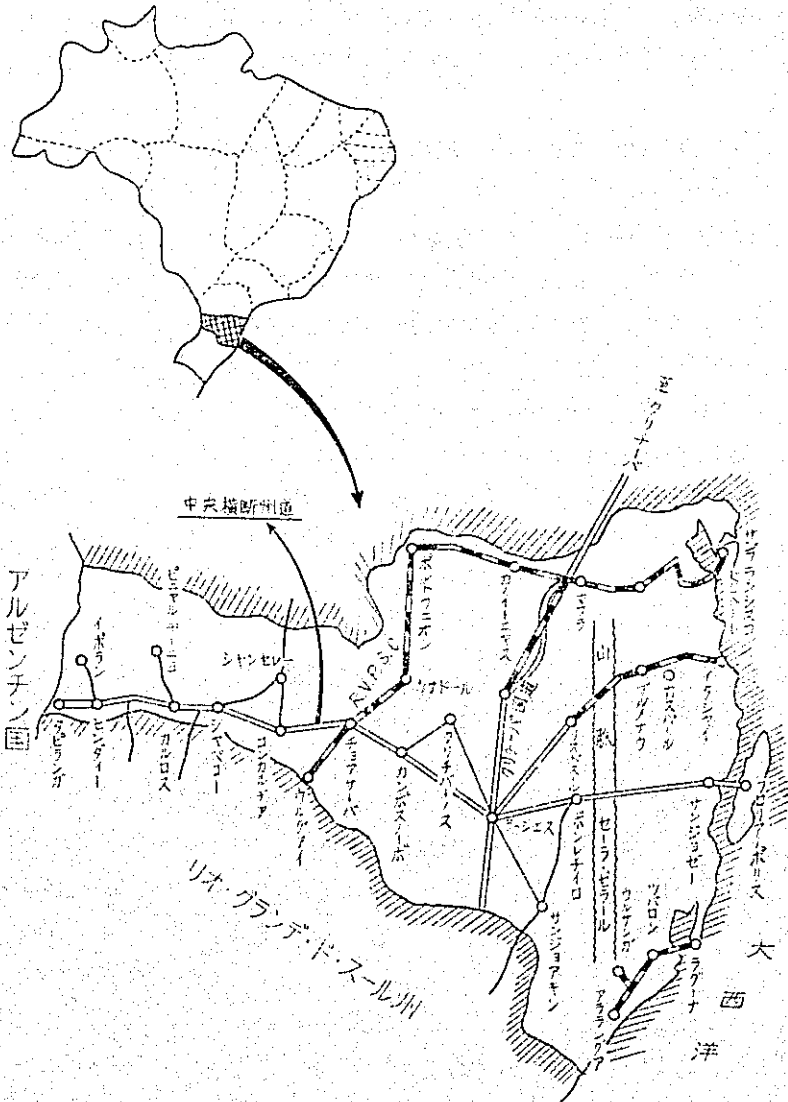
概況

在伯50年余の歴史をもつ日本人は、サンパウロ州、パラナ州においては、農工商各方面に亘つて今日の隆盛をみているが、南伯殊にサンタ・カクリーナ州には、ほとんどその進出をみておらず、当州の事情の詳細は言うに及ばず、ちよつとした常識も知られていない現状である。

併し、州政府も一般州人も聖州、パラナ州における日本人コロニアの農業発展、その貢献ぶりには、感嘆しており当州農業発展のための日本人農家の進出を希望している現状である。

当州は一般に地味肥沃で気候は温帯地であるため、各種の農業生産に適しているが、殊に機械化農業による麦類の生産とその裏作としての馬鈴薯栽培

サンタ・カタリーナ州



或は輪作、又は裏作としての大豆栽培が有望で、また海岸地帯の米作も有望である。各種果樹栽培もよく適して殊に一地方ではあるが、リンゴ栽培には最適地であり、将来性のあるものと確信できる。

ブラジルは国内消費のため毎年多額の小麦やリンゴを外国より輸入している現状であるので、多数の入植生産者が協力するならば、麦類並びに大豆は製粉、製油の加工も出来るし、リンゴは、輸送に耐えるから国内に広く販売することができる。

現在の連邦政府は、小麦の増産政策を推進するため農務局の小麦奨励課 (Serviço de Expansão de Trigo) が指導と援助に当っており、ブラジル銀行の融資によつて最低価格と販売を保障されているので、小麦栽培の大農場が発展しつつある。

サンパウロ州の地価と比較して当州の農業地帯の地価は安価であるため、新しく農業を始めるには好都合であり、日本側も、ブラジル移住者の送出しに努力している現状であるので、気候風土良好な当州への導入を研究すべきである。

勿論大地主が多く且つ、サンパウロ州、パラナ州へ導入されている形態では呼寄してくれるものが少いため移住振興会社或は日本の地方団体なりが適当の場所を選定購入して、自営移住者を送り出すべきであり、その際には、指導者として在伯農業経験者をも入植させる必要がある。これは、当州における農業事情技術に加え、先住の当州人との技術や交際にはどうしても生活上の習慣や言語に通じない新移住者のみではうまく行かないからである。

北米のカリフォルニア州が有名な果樹栽培州であるが、ブラジルにおけるサンタ・カタリーナ州も将来は有名な果樹栽培州になると考へられる。

北米農業では気候の輸出 (Exportação de Clima) ということが言われているが、北米のカリフォルニアとサンタ・カタリーナ州が気候的によく似た点があり、その地方の気候にあつた作物に力を入れるべきである。

冬の変作や夏の馬鈴薯栽培、果樹では、リンゴ、梨、桃、ブドウ等は聖州より気候的に最適と考へられる。

立地条件

ブラジル南三州の真中にあり、北はパラナ州に接し、南は、リオ・グランデ・ド・スール州に面し、東は大西洋、西はアルゼンチン国と境している。

南北延長377軒、東西は545軒、海岸線は460軒、面積は94,367平方軒である。

サンパウロ州の247,000余平方軒と比べると半分より少なく、人口は州全体で2,055,000人位で、1平方軒当り21.7人である。

緯度は南緯25度57分より29度21分に位しているので温帯に属し、大変好い気候である。海岸地帯は、夏暑く冬は温暖であるが時々南風がひどく吹くときには相当な寒さを感じる。概して温度が高く奥地高原地帯は夏の日中は暑い夜は涼しく、冬は到る所降霜があり雪をみる地方もある。此の地帯は空気が乾燥している。サンジョアキン地方は海拔1,300米あつて1957年7月には1米近くの積雪があつた。冬は零下10度位に下ることもあり、ブラジルで一番寒い所といわれ、リンゴの名産地でもある。

州全体の地勢は北部は海岸近くパラナ州境に沿つて海岸山脈があり、パラナ州境東西線の真中の位置より別の山脈 (Sera geral) が東南に連つてシヤパード、ホアピスタ方面より西南に方向を変えリオ・グランデ州境にて海岸におし迫つている。

この山脈が州内の分水嶺をなして東側の諸州は大西洋に向つて流れ、西側は奥地に向つて西南に流れ、リオ・グランデ州境の海岸山脈より発する河に合流し、常に州境を流れ、州境を離れてからはウルグアイとアルゼンチン国境を流れて大西洋に注いでいる。

州内 (Sona Regional) の気温と雨量

地名	雨量年間	気温年平均	標高	緯度
1 カノインニヤス市	1,481mm	17 度	760米	26度19分25秒
2 サンフランシスコ ド・スール市	1,851 "	20.4 "	3 "	26 " 14 " 38 "
3 ブルメナウ市	1,456 "	20.2 "	13 "	26 " 55 " 26 "
4 フロリアノポリス市	1,383 "	20.5 "	2 "	27 " 35 " 22 "
5 ラグーナ市	1,564 "	19.5 "	4 "	28 " 28 " 54 "
6 ラーゼス市	1,551 "	15.6 "	900 "	27 " 40 " 57 "
7 ジョアサーバ市	1,972 "	17.7 "	520 "	27 " 10 " 18 "
8 シャンシャレー市	2,462 "	16.4 "	820 "	26 " 52 " 0 "

国道と鉄道

サンタ・カタリーナ州は行政上106郡 (Município) に分割されており、州の交通は、パラナ・サンタ・カタリーナ鉄道が、パラナ州境ポルトウニオン市より南に南大河州境まで南北にほぼ中央の位置を従断しており、支線がポルトウニオン駅より、パラナ州境に併行して東にサンフランシスコ・ド・スール市 (海岸) まで横断している、途中のマフラ市から国道 (クリチバ→ポルト・アレグレ) に沿つて支線がラーゼス市に向つて敷設されつつある。

前者は国営であり後者州営である。

南には、ドーナ、テレーザ、クリスチーナ鉄道があり、南部諸都市を連絡しているが、未だに州の中央を横断する鉄道がない。首都フロリアノポリスよりアルゼンチン国境まで州道によつて連絡されている。

別に小麦国道 (Estrada de Trigo) といつてパラナ、サンタ・カタリーナ鉄道のジョアサーバ駅より東にカンポスノーボス市を通じてイタジヤイ市港まで敷設されつつある。州内に2万5千軒以上の道路が通じ1,341軒の鉄道がある。

海 運

5大港があつて、北よりサンフランシスコ・ド・スール港は主として木材を輸出し、イタジヤイ港はバーレドイタジヤイの物資を集散し、又、ピンニヨ (パラナ松) も多く輸出している。

フロリアノポリス港はピンニヨを多く輸出しているが、海底が浅いため国内沿岸航路とアルゼンチンの船が主に入港している。

エンリツケラーゼ港は、石炭搬出港であり、ラグーナ港は、石炭と豚、脂肉類加工品等輸出している。

州の産業

州の産業を大別すると、天然採集産物が16.44%、農産物が33.66%、牧畜産物が27.5%、工業産物が22.4%になつているが、現在では工業産物の率が増加していると思われる。

1954年の調査によると、州内の耕作面積は699,489エクターで、その内

主な穀類生産高は、トウモロコシ6,787,720 俵 (60k)、小麦1,229,717 俵、米1,290,097 俵となつている。農産物は近年小麦が増産されつつあり、その他の麦類、トウモロコシ、豆類、米、マンジヨカ、甘蔗、煙草、バナナ、馬鈴薯、トマト等も増産されており、果樹も、果樹も多種類を栽培されているが、高原地帯には、ブドウ、梨、リンゴ等で海岸地帯には柑橘類が多く栽培されている。フロリアノポリス方面よりそれ以北に若干珈琲もあるが、バナナと混植され一種の蔭樹栽培に似ている。

同じく1954年の調査では、牧畜の養豚頭数は約300万頭、牛は140万頭となつている。工業は主として紡績織物、木材、石炭等で、牧畜産物加工品と海産物加工品もある。木材は主として、パラナ松、ペローバ白と赤があり、カネーラ、セードロ、インブイア等が多い。

マテ茶は、パラナ州境によつた Sona de Canoinhas 方面に多く採集され、カノインニヤス郡内に多数の製茶工場がある。

パラナ松とマテ茶はともにピンニヨ統制院(Instito Nacional do Pinho)とマテ茶統制院(Instito Nacional do Maté)によつてその生産を統制されており、マテ茶は多く自然生のものを採集しているが、その栽培も奨励されている。ピンニヨは輸出や移住の搬出に先立つて統制員の監督員に品質の格付を受けている。鉱物としては、南部に石炭が多く産出し、ポルトレドンダの国立製鉄所に運ばれている。

地区別一般概況

a 日本人最初の上陸地フロリアノポリス

寛政5年11月陸奥国石巻より江戸に向つた24反帆の若宮丸の乗組員は途中暴風に襲われシベリヤに漂着し、後にロシアより日本に送還されるため、露艦に便乗をゆるされ途中ブラジル国サンク・カクリーナ州ノツサ、セニョーラ・デ・デステロ(現在のフロリアノポリス)に1803年12月21日に4人の日本人漁夫が訪門している。フロリアノポリスは大陸と接近してフロリアノポリス湾をもつた風景絶佳の観光地である。

フロリアノポリス島には蘭科植物が多種類繁殖しており、1514年にクリスト

ボン・デ・アーロと、ドンヌーノ・マノエルの探検隊によつて発見され1675年にサンパウロ人が初めて岡島に入植した。

その後、1709年にサンタ・カクリーナはサンパウロに属し、1748年にはポルトガルより相当入植、1750年3月に彼らによりフロリアノポリスより7軒離れた地にサンジョゼーの町を作り相当繁栄した。

なお、1829年には、この町より15軒の地点に最初のドイツ人がサンペードロ・デ・アルカントラ植民地を造つている。

昔はフロリアノポリス市と大陸は、渡船によつて連絡されていたが、1926年5月31日に見事な吊鉄橋900mが開通され大陸と連絡されるようになった。この鉄橋は将来のため鉄道も敷設されるように設計されているが、未だ、フロリアノポリス市には鉄道がなく各方面への交通は全部バスである。航空旅客便はリオ・デ・ジャネイロ——サンパウロ——フロリアノポリス——ホルトアレグレの各市をつなぐ REAL. VARIG. CRUZEIRO などの旅客機が毎日何機も通つている。

船便は Loido Brasileiro (半官半民) の沿岸航路 (約1,000噸) 客貨混合が毎月1回2船で北伯に通つている。

フロリアノポリス市は現在人口8万位といわれ、島と大陸側に分れて市街があり商業中心街は島にあつて、街路が昔風に狭く商店が軒を並べて続いている。商工業はあまり盛んでないが、木材の輸出は盛んである。海底が浅いので1,000噸内外のアルゼンチン(外国船)や国内沿岸航路船がパラナ松を積出している。

住民は(市民)主として、ポルトガルのアソーレス郡島人の子孫が多く、それに昔クリシェーマやツバロン方面に入植したイタリア移民の子孫が移転して来たり、又北部に入植したドイツ移民の子孫も移転しており、商業方面にはギリシヤ人、リバン人等が活躍しているものがある。郊外35軒の地点にはカルダス、インペラトリースの鉱泉があり、自然の温泉で年中38度から40度(摂氏)のお湯が多量に噴出している。州政府所有の温泉場(ホテル)まである。又、最近この温泉のお湯が瓶入清涼水(Agua Imperatoris)として

売出されている。

島の中央にある Lagoa Concerção (湖水) は、エビがとれ、カニの一種のシラーもとれるので有名で、リオやサンパウロへ送られている。島と大陸とに挟まれた港内一帯もエビの名産地である。

このように魚の幸には恵まれており、市場も小売部は毎日開られているが、野菜類は品不足で質も余り良くない。

b ブルメナウ市

ブルメナウ市は、イタジャイ大河の右岸にあり河口より約60軒の上流にある。ここはドイツ人、ヘルマンブルメナウ博士によつて開発された所である。1850年9月に新しい移住者が到着しており、この日を植民地開発記念日としている。1950年に100年祭を挙行された古い歴史をもっているが、市内の住宅は庭園に囲まれた美しい家屋が多く、市街も整頓して美観を呈している。人口約4万人、Quinze de Novembro 街が商業の中心街になっている。

この地方は、農牧業が非常に発達し、工業としては、乳酪製品、農業機械製造、鋳鉄工場、織物工場、製紙工場、缶詰工場、ハーモニカ、玩具製造工場等がある。ブルメナウ郡は、サンタ・カタリーナ州内で一番多く工場を有し、郡内で300以上の工場があり、1万人以上の職工が働いている。

織物工場では、有名な“ガルシヤ”があり、“ソウザ、クルース”のタバコ原料倉庫もある。ジョインビレー市と共に自転車の非常に多い市街でもある。

c サンジヨアキン市

サンジヨアキン市は、1,360米の高原にあり、ブラジルで一番寒い都市といわれている。

1871年に開かれ1924年に市となっている。郡内は牧畜の盛んな所で、農業は小麦や馬鈴薯が盛んで、果樹はリンゴ、梨、ブドウが多く、殊にリンゴの産地として名高い。

毎年降雪はないが、1昨年(1957年)7月には、50cmから積雪があつた。

冬は零下10度に下ることもある。

d ラーゼス市

ラーゼスは高原の王女 (Princesa da Sera) と呼ばれ、1767年に村となり、1771年町に1860年に市と発展し、現在人口約2万5千で、クリチバ←ポルトアレグレ間の国道に沿った商業の中心地で郡内は牧畜業が盛んである。

e ジョインピーレ市

ジョインピーレは1846年ドイツのハンブルグ市に組織された植民会社が購入、1851年第1回移民として、191人送り出したところで、1877年に市になったところである。

ジョイピーレ一部は農業が良く発達しており、農耕地が開墾され、米作地、水田になる所が多い。同市より、22軒の地点ピライ河の滝にある発電所は南伯電力会社 (Empresa Sul Brasil de Eletricidade) で、330米からの落差のある水力を利用して発電しており、市内及びその附近へ電力を供給している。

工業都市として繁栄し、農業機械、針金、薬化学用品、ビール、製粉、織物、家具、レングスボルグード (レース、刺繍)、石鹸、ローソク、砂糖、ベニヤ板等の工業が発達し、多数の工場がある。人口は約3万でドイツ系の住民が多く、第二次世界大戦までは市内でもドイツ語が多く話されていた。付近の森林にはカネーラ、イッペ、タジュバ、ジャカラング、セードロ、ペロバ、ローロ等の用材が産出し、多くの製材所もある。

f イタジャイ市

1819年開拓され、1859年4月に郡となり、1876年に市となっている。イタジャイ大河の河口にあつて、州内で一番大きな港で、木材の輸出が盛んである。工業は製紙、マッチ、ガラス、織物等の工場があり、近年セメント工場、砂糖工場も出来て、付近は、甘蔗、バナナ栽培が盛んである。

g ジョアサーバ市

ジョアサーバ市は、パラナ、サンタ・カタリーナ鉄道の沿線にあり、1919年に開かれ、1944年より現在のジョアサーバと称されるようになった。

人口約1万、リオ・ド・ペッシンに沿つて、この地帯はテーラ・ロツシャで地

味肥沃なため、農業が発達し、小麦、牧草、トウモロコシ、フェジョン、葡萄などの栽培が盛んである。

駅には農務省小麦奨励課によつて小麦保管の大穀倉（シーロ）が建設されており、大小4ヶ所の製粉工場がある。

郡内は養豚が非常に盛んで大きな肉製品工場がある。

葡萄は隣りのビデイラ市やカツサドール市と共に有名な産地で、イザベル種が多く栽培され、果食用よりむしろ葡萄酒の原料である。なお、栽培方法は殆んど柵式栽培であり、近年聖市にも果食用として送り出され始めているが、黒紫色小粒の葡萄である。

（参 考）

1. サンタ・カタリーナ州の果樹栽培の現況

リンゴ、サンジヨアキン地方に多く栽培され種類も多いが、一般には、「キングスター種」(デリシャス系)が多い。デリシャス種はアルゼンチンからくるリンゴで、これは *dericiosa de rionegro* と当地で呼んでいる。ボンレチーロ地方では、カリフォルニア種で(Ohaio buty)であり、ロメビューティ種は貯蔵力が大きく樹も強健である。

リンゴは南部ヨーロッパあるいは、カスピアン海地方の原産で当地でも欧州より輸入された種類が多く、名称が異つても日本にあるものと同一系統のものであるとみてさしつかえない。

例へば、ロメビューティは日本の国光、ママ種は日本の祝瓶、ガノ種は紅玉種と変りなく、早生種であつたり晩生種となつたりしている程度の差がある。

生産地としてサンジヨアキン、ウルビシイ、ボンレチーロ地方で中間地帯のウルビシー市で年平均温度15度、一番暑い1月の平均温度でも19度、6月の平均温度は9度で、生育期間である9月から3月の平均温度は18度以下である。9月より3月までの雨量は年平均370%よりやや多く750%位である。

標高900米以上もあるこの三角地帯は、以上の気象条件から今後の研究如何により更に良質のものが生産されるものと期待されている。

梨、どこの庭にも植栽されており、ペーラ・ゾーラ“Pera dura”とペーラダグア“Pera dagua”の二種類に大別される。

一般に梨は不味で、Pera dura は砂糖水で煮て、瓶詰にしておき何時でも食されている。

桃、当地ではまだ桃畑というものはできていない。庭に植栽されている程度で、イタケーラ（サンパウロ州）にて栽培されている種類はなく、バロン・デ・オーロ種（エルバルト種と同一系か？）と早生種のマミエ・ローズ種がある。

葡萄、当地ではイザベル種が多い。ニヤガラ種も栽培されており、成績は上乘である。

柿、当地では、シヨコラツテ種や山柿のような小形の果実がある方で、モジ方面のような多種類にわたっていない。

産地も高原地帯よりも海岸地帯との中間地帯の標高4~500米地域にわたっている。

その他

枇杷も中間地帯からフロリアノポリス市附近の海岸に近い丘陵地帯には、理想的な場所と考えられ、南部海岸地帯から山脈の中腹にかけて桜、桃、オリブ、ビワ、柿、和梨、中間地帯ではリンゴ、桃と広範囲にわたって果樹栽培が出来ると考えられ、有望な地帯である。

2 小麦、馬鈴薯栽培の現状

サンタ・カクリーナ州で、将来農企業として大発展性のあるものが麦類、その内でも小麦は州内到处に栽培されている。小規模で殆んど手で種子を撒播する手蒔法であるが、機械化で栽培されている所もカンボス・ノーボス方面に行くところである。

小麦栽培は益々盛んになりつつあるが、単一農業で年々純益をあげることは、気温、雨量の差によつて年の収穫に差がありむづかしい。小麦はフロンターナ種が多く栽培されているが、カマクラニヤ種はこの地方では、試験的栽培の程度であり、増産種といわれている。

当地の播種期は、一般に6月になつており、種子は農務省の小麦奨励課より販売され小麦の販売は政府の最低保証価格がある。更に、大麦と裸麦は少ないが、燕麦栽培も比較的栽培されている。燕麦（アベイア）は小麦に比較して廢地にもよく成長し、サンタ・カタリーナのカンボにては無肥料でかなりの収穫がある。アベイアには、白と黒とがあり、黒は細粒で家畜の飼料になり、白は太粒で餵料用（オートミル）の原料となつている。

馬鈴薯、サンタ・カタリーナ州ではどこの農村家庭でも自家用として栽培しているが、販売の目的で栽培されているものは、海岸地帯より高原地帯に多い。高原地帯の馬鈴薯産地はラーゼス・カンボス・ノーボス、サンジョアキン方面である。

海岸地帯では3～4月から7～8月までの植付で晩秋から早春までの栽培である。従つて9月より2月頃までは表作に米作が行われている。

高原地帯では9月からの春植で、これは雨期に入り消毒回数も多くせねばならぬが、普通夏植といわれる1月植が作り易く、芋の出来も良いようである。

3 サンタ・カタリーナ州邦人居住地域

実態調査委員会のサンタ・カタリーナ州関係統計では、14家族50名となつているが、海協連ポルト・アレグレ事務所が、1960年5月に調査した概数は次表の通りであつた。

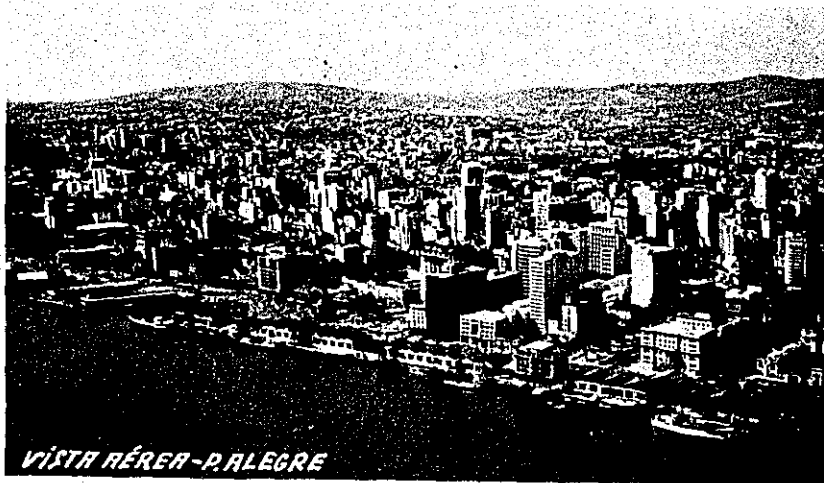
但し、5日間の調査で、在住者に直接会い、これより情報を得たものも含まれている。

4

サンタ・カタリーナ州では1961年より入植を開始する予定で現在調査中であり、同州の連邦植民地に50家族の導入方申し入れもあり且つ、州の試験農場を海協連に貸与したい旨の申し入れもある。

海協連では現地支部をして、ブラジル移植民院（INIC）に対し計画移住件を申請せしめている。

（編集後記）



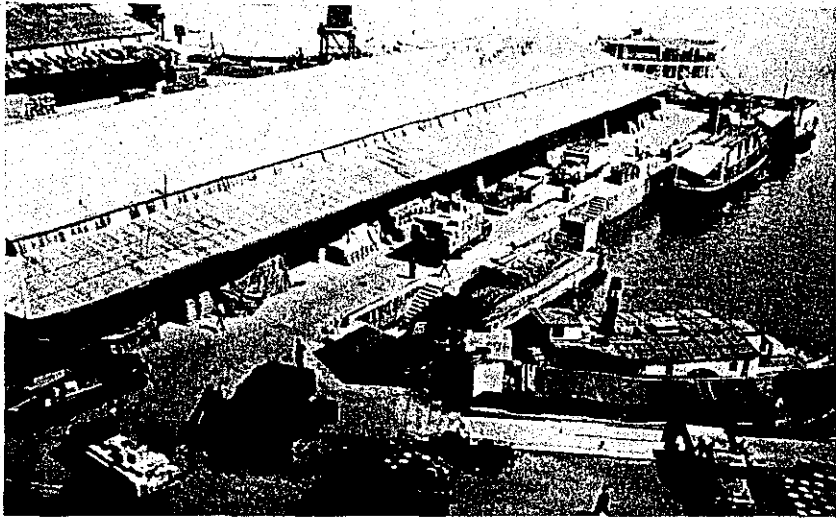
VISTA AÉREA - P. ALEGRE

ポルト・アレグレ市全景



RUA DORDES DE ALEIROS - P. ALEGRE

ポルト・アレグレ市中心街



ホルトアレグレ港の税関倉庫



蔬菜園 リオグランデ・ド・スール州リブラメント邦人移住地

地 域 名	家 族	単 身	概 算 家族平均
フロリアノポリス	4	3	23
ポルト・ベローロ	2	1	11
ブルメナウ	2	—	10
イリオータ	5	3	28
ジヨインビーレ	1	—	5
サンフランシスコ	3	—	15
クバトソン	2	—	10
イクジャイ	1	—	5
マサランディーパー	10	1	51
ブルスケ	2	—	10
ラーゼス	13	7	72
フェデーラル	2	—	10
カッサドール	—	1	1
クリチバーノ	1	2	7
総 計	48	18	258

第五節 南大河州関係

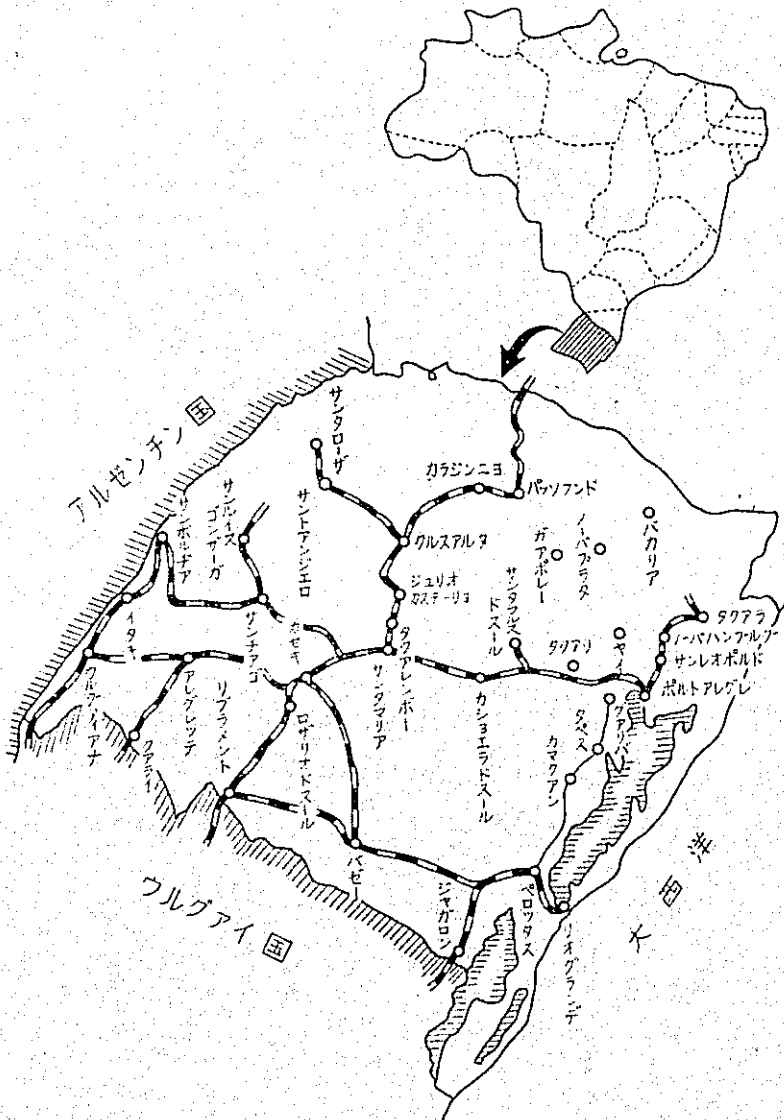
南大河州 概況

南大河州は、大部分がカンボ地帯（高原地帯）で、伝統的な大フェゼング農法による牧畜と、米作、小麦、ブドウを主として来ているため、野菜の不足に悩み乍らも、蔬菜栽培は、ペロックス近郊で僅かに行われていたのみであり、あまり顧みられなかつた。

日本移住者も、実際に50年の歴史をもっているサンパウロ州やパラナ州のように多くなく、戦前の移住者が此の州に定住しているのは僅か65家族に過ぎず大部分は農業を行つている者で、都会生活者は極く稀である。

戦後、此の南大河州に移住者が入植したのは、昭和31年7月が初めてであり、その後現在（1960.3）迄に161家族が州内各地に分散入植し、蔬菜、米作等分益農として、佃人地主の所で就働している。従つて、戦前、戦後に入植したもので、現在定住しているものは別表の通り45地域に別れ、226家族1,235人及び単身152人の計1,387人がおり、最高の邦人集団地でも28家族と、サン

南大河州関係



パウロ、或はパラナの集団地とはおうよそかけはなれている。

これは、営農の種類が異り、且つ、蔬菜類の生産は、市場との問題より社会的条件が異なるためである。移住者の入植している各地区については、後述のとおりであるが、移住者導入の観点より南大河州の主作物をみると、移住振興会社が、同州内に土地を購入し分譲を開始しない限り集団入植は望み薄く、且つ歩合農より前進することは、余りにも封建的考えの地主が多いため小規模の土地を求めることが困難で、必然的に換金容易な作物となり、又大小都会周辺のシャーカラ地帯に限定される所故でもある。

概念的に、戦後入植の新移住者はその殆んどが都市近郊にて蔬菜作りをしている。日本移住者に好意をもっている伯人耕主（多くは、牧場主又はシャーカラ主）は果樹、養鶏又は米作を希望しているが、既に米の歩合作は、カマクアン地区で少数行なっており、若干果樹栽培を行なっている者もある。

この地域の新移住者の雇用条件は、その大半が蔬菜栽培を主体とする分益農を対象とするものであり、サンパウロ州或はパラナ州に比して、比較的経済的基礎を固め易く単独青年の独立も予想以上である。

分益農の条件

- イ 全ての費用を差引き純益の折半或は4分（耕主）6歩（移住者）。
- ロ 全ての費用を半額負担する場合は純益を折半。
- ハ 種子、肥料は地主負担で純益は折半。

例外はあるが大體三種であり、何れの場合でも住宅は貸与される。

ニ 生産物の出荷迄食料及必需品を前貸しされ、収穫後精算される。

ホ 1年間毎月家族の状態により一定額を貸出される場合もある。

南大河州日本人定住一覧表（1960.3）

在 住 地 区	戦 前				合 計（現在）			
	家族	人員	单身	計	家族	人員	单身	計
ポルト・アレグレ近郊	34	203	2	205	16	72	17	89
ベロツタス	16	90	1	91	28	145	4	149
カマクアン				0	8	47	0	47
リオ・グランデ	3	25		25	4	26	3	29

グ	ア	イ	バ	1	5	5	5	28	11	39
リ	ブ	ラ	メ			0	8	58	1	59
ウ	ル	グ	ア			0	2	13	0	13
サ	ン	タ	・	1	8	8	17	103	1	104
タ	カ	レ	ン			0	2	12	0	12
ジュ	リ	ヨ	・			0	2	13	0	13
カ	シ	ヨ	エ			0	3	19	2	21
カ						0	2	15	0	15
ク		ク	ア			0	2	15	2	17
グ	ア	ボ	レ			0	1	5	0	5
バ	カ	リ	ア	2	9	9	6	32	11	43
ノ	ー	バ	・			0	1	5	0	5
カ	シ	ー	ア	2	10	10	5	27	3	30
ノ	ー	ボ	・			0	5	32	5	37
カ	ラ	シ	ン			0	2	16	0	16
サ	ン	レ	オ	6	42	42	18	88	3	91
サ	ブ	カ	イ			0	6	33	2	35
カ		ノ	ス			0	4	23	3	26
グ	ラ	バ	タ			0	5	21	3	24
エ	ス	テ	イ			0	1	18	1	19
イ	ク	ブ	ア			0	1	9	3	12
サ	ン	・	ア			0	1	6	1	7
ヴ	イ	ア	モ			0	9	47	9	56
ヴ	イ	ラ	ノ			0	6	32	11	43
ベ	レ	ン	・			0	5	25	5	30
ベ	レ	ン	・			0	2	7	1	8
ラ		ミ	ー			0	5	29	6	39
シ	ド	レ	イ			0	1	2	8	10
イ		ク	ラ			0	0	0	4	4
パ	ツ	ソ	フ			0	1	9	3	12
パ		ゼ	ン			0	3	16	1	17
ク		ベ	ス			0	1	5		5
サ	ン	ク	・			0	5	33		33
サ	ン	ク	・			0	6	35		35
サ	ン	ク	・			0	2	18	3	21
サ	ン	ク	・			0	0	0	5	5
ツ	バ	ン	シ			0	0	0	1	1
ク		ラ	シ			0	17	85	9	94
ボ	ア	ビ	ス			0	2	8	16	14

ジャグアロン				0	0	0	3	3
合 計	65	391	3	394	226	1,235	152	1,387

ポルト・アレグレ市内物価表 (1960.4.20調)

品 目	単位	小 売 価 格 (cr\$)	品 目	単位	小 売 価 格 (cr\$)
米 長 粒	kg	36	コ ー ヒ ー	kg	66
中 粒	"	32	食 用 油	"	120
小 粒	"	28	豚 油	"	140
小 麦 粉	"	28	塩	"	12
トウモロコシ粉	"	18	砂 糖	"	18
マンジョカ粉	"	12	馬 鈴 薯	"	22~28
フェイジョン黒	"	45	人 参	"	6~10
" 白	"	47	玉 ねぎ	"	32~40
" 黄	"	49	キ ヤ ベ ツ	1 コ	18~22
牛 肉	"	80~180	チ シ ヤ	"	5~8
鶏 肉	"	80~120	ト マ ト	"	28~30
卵	ダース	80~85			

註 ドル相場 売 185cr\$ 買 192cr\$
 ボンド相場 売 500cr\$ 買 534.80cr\$
 円 1米弗 360円

地区別一般状況

a ポルト・アレグレ市 (Porto Alegre)

ポルト・アレグレは、グアイバー河の左岸に位し、南大河州の首都である。最初は、ポルト・ドス・カザイス(Porto dos Casais)と呼ばれていたが、1773年に現在のポルト・アレグレに変わり、1809年に州政府が置かれた。市の人口は約600,000人で、内381,964人が市内に住んでいる。

ブラジルでは第4番目の人口をもつ都市であり、サンパウロに次いで、ブラジルの南部では商工業が発達しているところである。

更に、ポルト・アレグレよりベロックスへ196軒、リオグランデへ246軒、ジャグアロンへ392軒、ククアリーへ108軒、バゼーへ405軒、カシヨエラ・ド・スールへ166軒、カラジニョへ248軒、クルスアルタへ288軒、リブラメントへ554軒、パッソフンドへ230軒、サンタ・マリアへ265軒、サンタ・ヴィ

トリア・ド・パルマルへ510軒、ウルグァイアナへ588軒、フロリアノポリスへ365軒、クリチーバへ625軒、サンパウロへ844軒、リオ・デ・ジャネイロへ1,217軒と交通の要所になっている。

ポルト・アレグレには日本より進出の倉敷紡績が操業しており、農業移住者に加え技術移住者も17家族入植しており、今後の発展が期待される。

b サンタ・マリア (Santa Maria)

サンタ・マリアはポルト・アレグレより265軒のところであり、南大河州の中央に位している。人口約10万の文化都市で交通も（鉄道）南大河州を縦横に貫通しており、サンタ・カタリーナより同市を経てポルト・アレグレ又はウルグァイに抜ける要所となっており、更に航空路も発達しており、ポルト・アレグレ迄1時間の距離である。同市への日本人移住者の入植は、当初、サンルイスゴンザーガのサンペードロ耕地に入植した移住者が集団移動したものであり、現在、サンペードロ耕地及びウルグァイアナより移動してきた17家族が個人耕地の分益農として蔬菜栽培或は果樹園に従事している。

c カマクアン

ポルト・アレグレよりベロックス経山、リオ・グランデに向う道路約100軒の地点にあり、人口35,546人で、市内に居住のものは、3,575人である。

1864年4月19日に開拓され、サンジョン・バチスタ・デ・カマクアン (São João Batista de Camaquã) と呼ばれていたが、1865年1月7日に変へられ米どころとして発展してきた。

移住者は、現在8家族入植し歩合作として蔬菜栽培に従事しており、短期間に基礎を固めたものが多い。

d ノーバ・ブラッタ

ポルト・アレグレより142軒離れた海拔820米の高原地帯で、人口は27,362人、内市内には2,285名が住んでいる。町の開発は1924年8月11日で当時は、単にブラッタ (Prata) と呼ばれていた。主な産業は、養豚、木材等であるが、蔬菜、果樹栽培も可能である。

現在此処には、昭和33年ジュスチーナ耕地より移動した移住者が1家族分

益農として入植し蔬菜栽培を行つている。更に1960年4月に1家族入植し計2家族となつた。

e リブラメント (Libramento)

リブラメントはポルト・アレグレ市より426軒の地点にあり、ウルグァイ側リベイラ市と続いている。海拔210米の大平原地帯で、人口約5万人中3万人程が市内に住んでいる圍境の町である。1857年2月10日に創設され、1857年6月29日に町になり1876年4月6日に市になつている。

現在此の地に9家族が分散定住し、歩合作として蔬菜栽培に従事しているが、主なものはトマト、スイカ、玉ネギ、ニンニク、落花生、南瓜、ニンジンその他の野菜類である。

f ペロックス (Pelotas)

ポルト・アレグレよりペロックス迄約200軒、海拔7米であり、人口129,505人、内市内に79,649人居住している。1780年に創設され、1830年12月7日に町となり、1832年4月7日市となり、1835年6月には、リオグランデ郡庁所在地と發展し、南大河州第二の都市になり現在に及んでいる。

此処は、商業中心地で、戦前より日本人は16家族が定住しており、戦後新移住者の入植と相俟つて、邦人の集居地(28家族149名)となつた。

g サン・レオポルド (São Leopoldo)

ポルト・アレグレより27軒離れたところで、海拔26米、郡内の人口76,251人、内市内19,735で、ポルト・アレグレに向う道路が突備している。1846年4月1日にポルト・アレグレの郡となり、1846年7月24日独立し、1864年4月12日現在のサン・レオポルド市となつた。

此処にも戦前より6家族程住んでおり、戦後、カマクアン呼寄名儀にて、此処に入植したもの12家族あり、ポルト・アレグレの市場を需給地として蔬菜栽培に従事している。

h バカリア (Vacaria)

ポルト・アレグレより166軒のところであり海拔955米の高原地帯である。

ポルト・アレグレへは、道路にて連絡されており、郡の人口42,180人、市内には5,615人が居住している。

1850年10月22日創設され、1871年4月1日にサント・アントニオ郡より分離し現在の町となった。

バカリアの市に蔬菜を供給するため戦後6家族が分益農として入植している。最近馬鈴薯の生産地として、脚光を浴びており、果実の生産地としても著るしく進出してきた。

i ヴィアモン (Viamão)

海拔52米、人口約2万1千、市内には2千人位である。1880年10月8日にポルト・アレグレの郡より独立したところであるが、戦後カマクアン呼寄名儀にて9家族が入植し、ポルト・アレグレ市場に野菜を供給している。何れも分益農で入植しているため、比較的収入が良く、ポルト・アレグレ近郊であるので、立地条件が極めて良い。

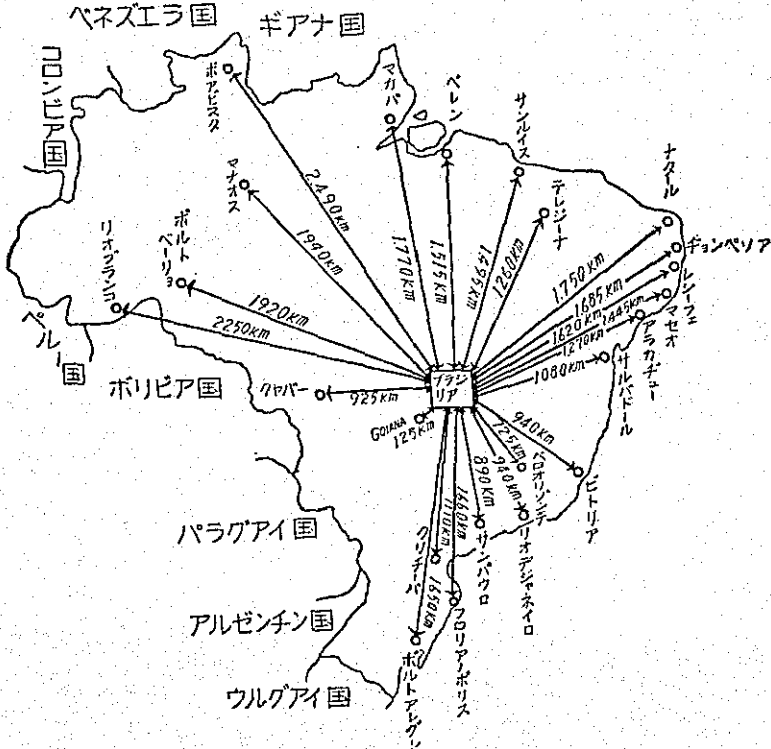
第六節 ブラジリヤ連邦府関係

ブラジリア連邦府

ブラジリアは、1960年4月21日ブラジルの首都であつたりオ・デ・ジャネイロより、そのお株をとり首都として政治の中心になつたところである。前クビチェック大統領が新首都建設の推進役であつたが、ブラジリア建設の計画は100年以上溯り、ブラジルが独立を遂げた直後(1823年)にブラジルの首都を叵地に移し、その名をブラリアとすると定めており、莫然とではあつたが、アマゾン、サンフランシスコ、ラプラタの三大河が相寄る地のゴヤス州内が新首都建設地に良いと提案されていた。その後、1891年の共和制憲法制定議会議では、首都移転が憲法に規定され、その翌年には、最初の調査団がゴヤス州を実地踏査している。

20世紀に入つてからも首都移転論は続けられていたが、具体化されぬまま1946年の憲法議会を迎えた。この時に再び移転論が再燃し、特別委員会を設け調査は数回に亘り、1953年には、最終的に地域決定し、翌1954年にはこの

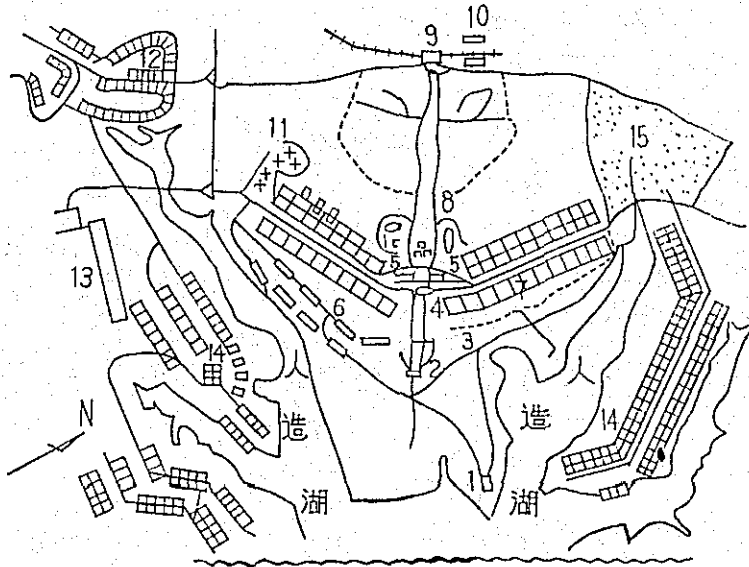
ブラジリア連邦府



委員会は、新首都建設と移転計画の委員会と前進、1956年クビチェック大統領が就任すると直ぐに新首都建設の具体化に着手した。

斯くして、大統領は、ブラジル新首都建設会社 (NOVA-CAP) を公社として発足させ、ブラジルの都市設計家ルシオ・コスタ案を取り入れ、ニーマイヤーを首班とする数拾人の技師団に建設設計を行わせ、実行に着手し、大統領の任期中に首都移転を完了させた。

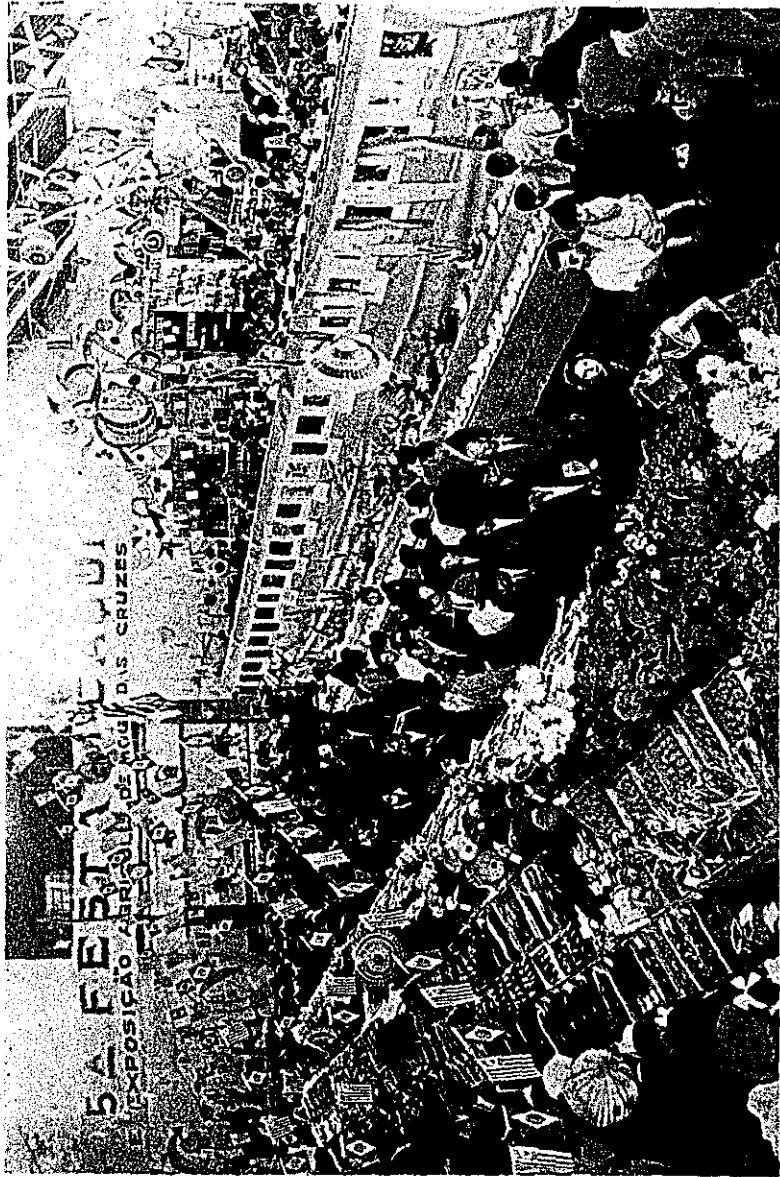
ブラジリア市街地略図



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
大	三	大	銀	商	娛	公	兵		小	墓	郊	空	独	植
統	権	学	行	店	楽	園		駅	工		外		立	物
領	の	都			セ	住			場		邸		住	
官	広				ン	宅			地					
邸	場	市	街	街	タ	(ア	營		帯	地	宅	港	宅	園
						パ								
						ー								
						ト)								

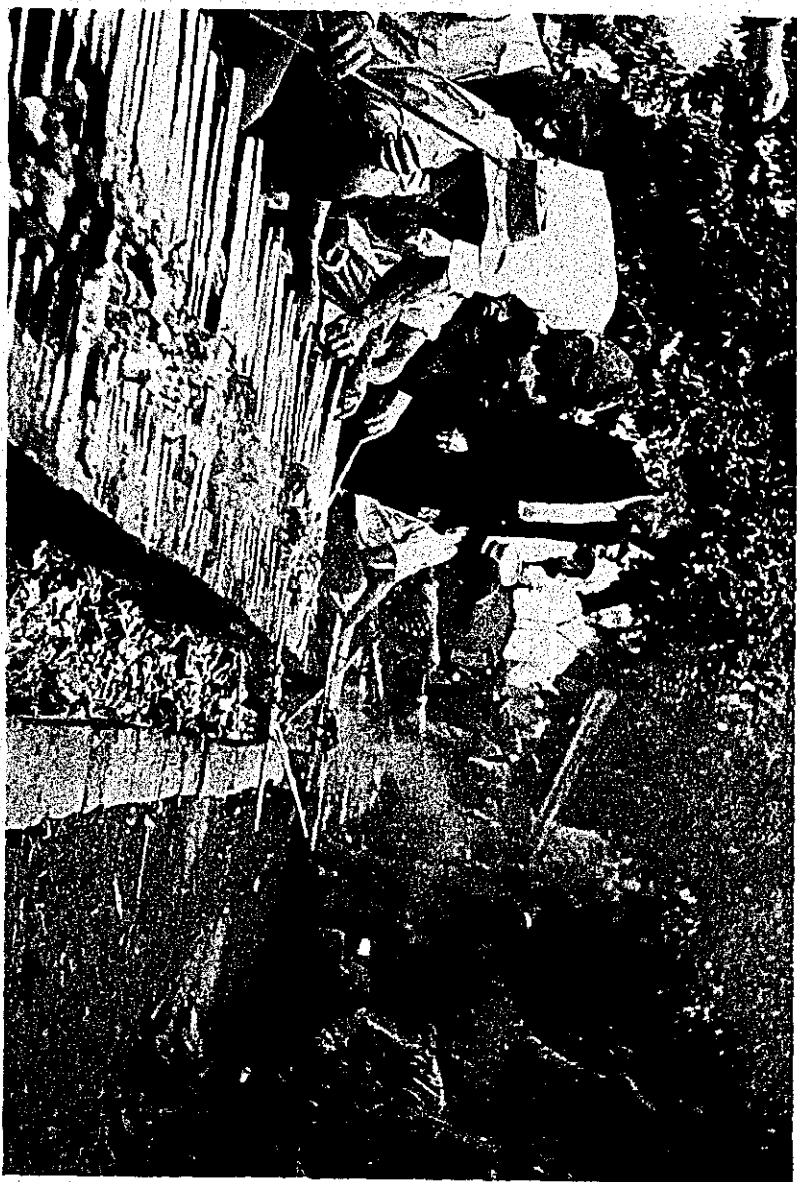
道路

道はローマへ通ずという言葉があるが、ブラジルでは、いまや道はブラジリアへ通ずということが出来る。首都をブラジリアに移した理由も、ほぼ国の中央に位置する新首都を中心に放射線状に国土開発を進めて行こうとする



“仲祭”の農産物品評会（風景）

5月中の適当な日曜を逃らびモジ・ズス・クルーゼなどは州農務局の後援で毎年盛大に催される。



シエラスコ風景

アラシルでは一般に家庭ではフェシヨアータ料理を多くとっており、熊物等で多くの人
が果る場合は写真のようなシエラスコ料理で牛一頭二頭と魚膳に供されている。



棉 作

棉はブラジル農産物の中で畑につぐものである。全伯生産量
1,177,363噸(1957年度)に対し、日系人の全伯生産量は、11.6%
噸でに對している。



葡 萄 園

サンバウロ州では、シェンシア、ウネリニヨス、サンロウケ地方が主産地で、南の河州では良質な葡萄酒を産出している。

のがねらいでもあつた。各首都からブラジリアまでの距離（空路）は次の通りである。

空路距離

ブラジリア→		ブラジリア→	
ゴヤニア	125 軒	サンルイス	1,495 軒
ペロオリゾンテ	725 軒	ベレン	1,575 軒
サンパウロ	890 軒	レシーフェ	1,620 軒
グヤバー	925 軒	ポルト・アレグレ	1,650 軒
リオ・デ・ジャネイロ	940 軒	フオルクレザ	1,660 軒
ピトリア	940 軒	ジョンペンソア	1,685 軒
サルバドール	1,080 軒	ナタール	1,750 軒
クリチーバ	1,110 軒	マカパー	1,770 軒
フロリアノポリス	1,240 軒	マナウス	1,940 軒
アラカジュー	1,270 軒	リオ・ブランコ	2,230 軒
テレジナ	1,290 軒	ボアビスタ	2,490 軒
マセイオ	1,455 軒		

道路距離

ブラジリア→アナポリス間	132 軒
ブラジリア→ペロオリゾンテ→リオ・デ・ジャネイロ間	1,100 軒
ブラジリア→アナポリス→コロンビア→サンパウロ間	1,106 軒
ブラジリア→ベレン間	(B.R. 14 国道) 2,194 軒
ブラジリア→フオルタ・レーザ間	1,832 軒
ブラジリア→アグレ直轄領間	3,335 軒

鉄 道 ブラジリアと結ぶ鉄道建設も道路と同じく NOVA CAP の仕事で、次のようになっている。

ブラジリア→ピラポラ (マツトグロツソ州)	490 軒
ブラジリア→ピレス・ドリオー→コロンビア (サンパウロ州)	全長 590 軒

日本人の活躍

ブラジリアの建設にあつては、かなり多方面に亘り協力しているが、大統領官邸の裏庭に日本式庭園を作つたのも、クビチェック大統領よりの信頼により日本より庭園師を派遣し造成しているし、他方、労務者に対する果実、野菜、鶏卵の供給者の殆んどは、日系人であり、市場（メルカード）で野菜を売つているのは日本人が多くサンパウロの市場と変りない。

ブラジリアの自由都市（Núcleo Bandeirante）には邦人約 200 家族が農業を営んでおり、同市にはブラジリア産業組合（Cooperativa Agrícola Mista de Brasilia 理事長大藤氏）があり、現在は、居住者に対し新鮮な農産物を供給し喜ろこばれている。

第六章 南伯農産物事情

農地購入の指針

農業者が土地の購入、或は借地農として耕作地を借入れる場合、一応は土地の視察なり、調査を行なつているが、移住者には、現地実情が不明のまま単に割安である理由にて購入に踏切つている者も多く、労多くして益の少ない場合もおこり得るので、概念のみでも知つていて調査し、その上可否を決定するよう願いたいものである。

勿論、立地条件、栽培物の種類、地価等度外視するものでなく、まして、永住を志す土地の購入選定にあつては、次に述べる林相や一寸した土壤の調査などでなく科学的方法を応用してその森林の林相や、生成植物などの種類による鑑定よりも、土壤そのものの性質を各方面より研究して土地を選定するのが至当である。

優良土を示す標となる植物では、パウダーリヨ、サブーヴァ、ジャンガダ・ブランカ、パルミット・ブランカ、セードロ・ブランカ、バルサーモ、フオーリヤ・ラルガ、ウーニヤ・デ・バック、クレシウマ、エンパウバ・ヴェルデ、フィゲラ・ブランカなどがあり、

不良度の標としては、エンバウーバ・ブランカ、タクアーラーザ、グラウーナ、バターリヤなどがある。

また瘠薄化した土壤の標としては、マッサ・ベインエ、サツペー、サマンバイヤ、マサンバラーなどがあげられ、古くからの土地鑑定の方法とされ確實性もあるが、この方法を原始林の土壤鑑定に応用する場合は十分に注意しなければならない。

草丈の低い禾本科植物だけ生育している原野やや、またはインダイヤのような根が極めて深く葉が厚く強健な椰子類などの生えている土地や、バルバ・デ・ボーデのような葉が細く、しかも根だけ大きく発達した植物や、幹が厚い樹皮で覆われ枝はわん曲し、小型の葉を粗生するバルバチモン、アンチッコの類が粗生している土地は、勿論良くない、林相が良くても確実な材料とならない場合もあり、これは、大体高温多湿の地帯の森林の発生は、その土壤の中に含まれている化学的な養分の多少に因り左右されるものでなく、特に土壤中の水分に左右されていることが多いからである。従つて、美事な原始林を呈していても、一度伐採され或は山焼されると、森林であつた時の状態とは一変し、そこに植えられる植物により、今迄蓄積された養分を瘠うため土壤そのものの化学的や理学的な性質が良くない場合には、短い年月のうちに蓄積養分の欠乏を起して瘠薄地になる度合が早い。

第一節 南伯の農事暦

南伯の四季は、日本程劇然としたものでないが、普通雨期と乾燥期に別けることができ、更に正確には、次の通り四季に分類されている。

1958年の四季の始め	わ夏	1958年12月21日23時52分より
秋		1959年3月21日0時42分より
冬	〃	6月21日19時3分より
春	〃	9月23日10時33分より
夏	〃	12月22日5時16分より

南伯は亜熱帯より温帯地域まで拡がっており、冬夏の温度の差も南伯南部を除いては差程ないため、一年を通じて蔬菜類は栽培可能で、農業者にとつては、恵まれた地域である。

此処で聖州の乾燥期の雨量について、最近10年間の降雨量統計があるので記載する。なお、乾燥期は、5月から9月頃まであり、5ヶ月間の降雨量(単位ミリメートル)である。

計 量 地	1950年 5~9月	1951年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年
カンピーナス	105	79	161	170	198	168	434	378	404	155
ピング・モン ニヤン・ガーバ	36	88	394	143	185	106	281	243	356	63
リベロン・ブ レット	34	30	95	180	257	63	308	420	275	133

農 事 暦

蔬菜, 雑作, 果樹, その他

一般作物栽培間隔

エクタール当種苗量

(1月)

ナツマ芋	70×40cm(又は150×50)	3,000kg
煙草(苗床)	5×5m	55~70g
果物		
アバカシー	150×60cm	1,100苗
アバカテ	9×9m	100×150苗
バナナ	4×3m(小型種)	833苗
ラランジャ	8×8m(肥沃地)	156苗
マンゴ	10×10m	100苗
マモン	2×3m	1,300苗
ピフ	7×8m	178~156苗
オリーブ	10×10m	100苗
蔬菜		
アルファッセ	25×25cm	500g

人 参	30×30cm	2kg
シコリヤ	30×30cm	2kg
夏期コウベフロール	100×60cm	15kg
大 根	15×15cm	30kg
バージェン	80×30cm (蔓性)	75kg

(2月)

	セッカ期馬鈴薯	80×35cm	1,500kg
	甘 藷	150×50cm	3,000kg
	煙 草	120×60cm	1,500苗
果物	アバカテ	9×9m	123苗
	アバカシー	15×60cm	1,100苗
	ラランジャ	7×7m	156苗
	マンゴ	9×9m	123苗
	メロン	1.5×1.5m	1穴4粒
	ピ ワ	7×9m	178苗
蔬菜	イクリア南瓜	1.5×1m	1穴4粒
	アセルガ	40×40cm	” 3粒
	アルファッセ	30×30cm	平方米当り 3g
	ニ ラ	40×20cm	” 4g
	マルメロン	10×5cm	” 3g
	ナ ス	1×0.5m	” 4g
	ベテラーバ	30×10cm	1穴3粒
	セボーラ	40×15cm	平方米当り 4g
	人 参	20×40cm	” 3g
	ジロー	1×0.5m	” 4g
	カラシナ	40×30cm	” 2g
	大 根	25×8cm	” 2g
	レポーリヨ	80×50cm	” 2g

キヤボ	1×0.5m	〃 0.5m
蔓バーヂェン	80×20cm	1穴3粒
(3月)		
セッカ期馬鈴薯	80×35cm	1,500kg
甘 薯	150×50cm	3,000kg
ライ麦	100×20cm	100キロ
煙 草	120×60cm	1,500キロ
マンジオカ	100×50cm	1,800本
小 麦	100×20cm	100キロ
アバカシー	150×60cm	1,100苗
蔬菜 イチゴ	40×30cm	80,000苗
アルファッセ	25×25cm	10平方米当り25g
アルメロン	10×5cm	〃 30g
アーリオ	30×12cm	〃 280g
ニ ラ	40×15cm	〃 40g
アグリオン	14×15cm	〃 450苗
アセルガ	40×20cm	〃 15g
ベテラーバ	30×5cm	〃 15g
コーベ・フロール	80×50cm	〃 30g
コーベ・ブロコリ	80×50cm	〃 30g
シコリア	30×30cm	〃 30g
人 参	20×5cm	〃 5g
セボーラ	40×25cm	〃 50g
カルル	10×4cm	〃 10g
エンドウ	60×20cm	〃 25g
エスピナフ	30×30cm	〃 20g
カラシナ	30×15cm	〃 15g
カブラ	30×10cm	〃 50g

大根	20×10cm	10平方米当り15g
レポーリヨ	80×50cm	” 40g
シコリヤ	10×5cm	” 10g
トマト	100×50cm	” 40g
花卉	アルフィネッテ	箱植え
	アノマテカ	花壇植え
	ベイジヨ	養苗場植え
	ベリス・ベレネ	”
	サイネリア	鉢植
	ブイラルジャ	温室蒔き
	ジリア	養苗場
	石竹花	”
	垂麻	”
	白百合	花壇
	みぞかくし	養苗場
	オルギニヤ	種子及苗
	桜草	鉢植
		種子及苗

(4月)

	ライ麦	100×20cm	100kg
	小麦	100×20cm	100kg
	苺	40×30cm	8万苗
	メロン	1.5×1.5cm	コーバ4粒
蔬菜	アセルガ	40×40cm	コーバ3粒
	アルファッセ	30×30cm	1平方米当り3g
	ニラ	40×20cm	” 4g
	アーリヨ	30×10cm	” 50g
	サルサ	10×5cm	” 3g
	アルメイロン	10×5cm	” 3g

ベテラーバ	30×10cm	1平方米当り3g
ブロコリ	80×50cm	” 3g
人 参	20×5cm	” 3g
シコーリア	30×30cm	” 3g
コーベ・フロール	80×50cm	” 2g
小型種エンドウ	50×20cm	コーバ当り3粒
カラシナ	40×30cm	1平方米当り2g
レポーリヨ	80×50cm	” 2g
トマト	1.5×0.5m	” 3g

(5月)

馬鈴薯(奥ソロ)	80×35cm	1,500キロ
マンジオカ(加工用)	100×50cm	1,800本
カフェー苗圃場	10×連続線	4,000苗に 1kg
西 瓜	22.0×2.20cm	1kg
イチゴ	40×30cm	8万苗
オリーブ	10×10m	100苗
蔬菜 アルカシヨフレ	2×1m	5,000苗
アルファッセ	25×25cm	10平方米当り 25g
アルメロン	10×15cm	” 30g
シコーリア	30×30cm	” 30g
人 参	20×5cm	” 15g
コウベ	80×50cm	” 15g
エンドウ	60×20cm	エクタール 60kg
マンジヨキンニヤ	50×30cm	” 6,600苗
大 根	30×10cm	10平方米当り 15g
レポーリヨ	80×50cm	” 40g
トマト	100×50cm	” 40g
花卉 三色菫	30×30cm	

ボッカ・デ・レオン(金魚草)	30×30cm
カンバストラ(釣鐘草)	30×30cm
カレンドラ(金せん花)	30×30cm
クラーボ(カーネーション)	30×40cm
クリザンテモ(菊)	30×30cm
グラジオラス	40×15cm
ラインニヤ・マルガリーダ(雛菊)	30×30cm

(6月)

(エクダール当り種苗量)

	低地作馬鈴薯	80×35cm	1,500kg
	甘藷(苗床)	20×10cm	150kg
	コーヒー(苗床)	5×15cm	1kg(は4,000苗)
	山芋	75×30cm	400kg
	マンジオカ	100×50cm	1,800苗
果物	アメイシヤ	6×6m	277苗
	柿	6×6m	277苗
	無花果	3×3m	1,111苗
	リンゴ	6×6m	277苗
	マルメロン	4×4m	625苗
	ミカン	10×10m	100苗
	梨	5×5m	400苗
	桃	6×6m	277苗
蔬菜	イタリア南瓜	1.5×1m	コーバ4粒
	アルファッセ	25×25cm	10平方米当り25g
	アルメイロ	10×5cm	” 30g
	コーベ・フロール	30×50cm	” 30g
	マンジオキーニヤ	80×40cm	35,714苗
	大根	20×50cm	10平方米当り 30g
	レポーリ	80×50cm	” 35g

	トマト	100×50cm	＃	40g
	(7月)			
	甘藷(苗床)	20×10cm		150kg
	カラ(ヤマイモ)	75×30cm		400kg
	マンジオカ	100×50cm		1,800苗
果物	柿	6×6m		277苗
	無花果	3×3m		1,111苗
	ゴヤバ	5×5m		20g
	リンゴ	6×6m		277苗
	アメイシヤ	6×6m		277苗
	アルメロ	4×4m		625苗
	ミカン	8×8m		156苗
	梨	5×5m		400苗
	桃	6×6m		277苗
	ブドウ	2.3×1m		2,700苗
蔬菜	イタリア南瓜	1.5×1m		コーバ4粒
	アセルガ	40×20cm	10平方米当り	13g
	アルファッセ	25×20cm	＃	25g
	アルメイロン	10×5cm	＃	30g
	アスパラガス	2×0.4m		12,000
	ベテラバ	30×15cm	10平方米当り	20g
	プロコリ	80×50cm	＃	35g
	人参	20×5cm	＃	20g
	シコーリア	30×30cm	＃	30g
	コーベフロール	80×50cm	＃	30g
	マンジオキンニヤ	70×40cm		35,714苗
	マンガリト	60×25cm		4,000苗
	カラシナ	30×15cm	10平方米当り	10g

大 根	20×10cm	10平方米当り 30g
レポーリヨ	80×50cm	＃ 35g
トマト	100×50cm	＃ 40g
ヤマ芋	75×30cm	400kg
マンジオカ	100×50cm	1,800苗

(8月)

蔬菜 馬鈴薯	80×35cm	1,500kg
カラー	75×30cm	400キロ
イクリア南瓜	1.5×1.0m	コーバ4粒
アセルガ	0.4×0.2m	10 平方米当り 15g
アルファッセ	0.25×0.25m	＃ 25g
アルメイロン	10×5cm	30g
ベテラーバ	30×15cm	20g
プロコリ	80×50cm	35g
人 参	20×5cm	20g
シコーリア	30×35cm	30g
白 菜	40×30cm	20g
コーベフロール	80×50cm	35g
カラシ菜	30×15cm	10g
大 根	20×10cm	30g
レポーリヨ	80×50cm	35g
ルクラ	25×連続線	20g
トマト	1.0×0.5m	50g
バージェン・ラスティラ	50×20cm	コーバ3粒
＃ 蔓性	80×30cm	根莖 2,500kg
アスパルガス	2.0×0.4m	12,000苗
マンジョキンニヤ	70×40cm	3,570苗

(9月)

	落花生	60×10cm	100kg
	雨期馬鈴薯	80×35cm	1,500kg
	クロタラリア	100×20cm	13kg
	フェイジョン	40×20cm	100kg
	フェイジョン・ボルコ	50×20cm	140kg
	ヒマワリ	80×30cm	15kg
	グワンド	100×20cm	30kg
	クズ	200×200cm	2,500苗
	ムクナ	50×20cm	60kg
	ソルゴ	80×28cm	15kg
果物	ゴヤバ	5×5m	400苗
	マモン	3×3m	1,111雨
	西瓜	2.2×2.2m	コーバ4粒
	メロン	1.5×1.5m	"
蔬菜	イタリア南瓜	1.5×1.0m	コーバ4粒
	アセルガ	0.4×0.2m	10 平方当り 15g
	アルファッセ	2.5×2.5m	" 25g
	アルメイロン	10×5m	" 30g
	アラルク	80×50cm	2,500kg
	アスパルガス	2.0×4.0m	1,200苗
	ベテラーバ	30×15cm	1 平方米当り 20g
	プロコリ	80×50cm	" 30g
	人参	20×50cm	" 20g
	シコリア	30×30cm	" 30g
	モガンゴ	3×3m	コーバ4粒
	モランゴ	3×3m	"
	キユーリ	1.5×1.0m	"
	キヤーボ	1.0×0.5m	"

大根	20×10cm	1 平方米	30g
レポーリヨ (ロウコ種)	80×60cm	〃	35g
ルクラ	25cm	〃	20g
トマト	1.0×0.5m	〃	40g
小型種バージェン	50×20cm	コーバ3粒	
蔓性バージェン	80×90cm	〃	

(10月)

アドライ麦	80×20cm		20kg
棉	70×30cm		30kg
落花生	60×10cm		100kg
陸 稲	70cm		80kg
水 稲	30cm		80kg
コーヒー	3.3×2.5m	1,200苗	
クオタラリア	100×20cm		12kg
フェイジョン	40×20cm		100kg
フェイジョン・ボルコ	50×20cm		140kg
ニュージランド麻	2×1m	5,000苗	
ゴ マ	60×20cm		10kg
ヒマワリ	80×30cm		15kg
グワンド	100×20cm		30kg
ク ズ	2×2m	2,500苗	
マモナ	1.5×1.0m		7kg
マンジオカ	100×50cm	2,000苗	
ミーリヨ	100×20cm		18kg
ムクナ	50×20cm		60kg
ラミー	80×50cm		35俵
シザル麻	3×1m	5,000苗	
ソルゴ	80cm		15kg

果物	アノナ	6×6m	277苗
	バナナ	4×3m	833苗
	バイア椰子(アノン)	6×6m	277苗
	マモン	3×3m	554苗
	ピワ	7×8m	178苗
蔬菜	アルクアッセ	25×25cm	1平方米当り 25g
	アルファブアゴン	100×80cm	” 15g
	ナス	100×50cm	” 30g
	人参	20×5cm	” 20g
	モガンゴ	3×3m	コーバ4粒
	キヤーボ	1×0.5m	”
	大根	20×10cm	10 平方米当り 30g
	レポーリヨ	80×60cm	” 150g
	トマト	1×0.5m	” 40g
	バージェン	50×20cm	コーバ3粒
特殊作物	バウニーリヤ	樹陰栽培	不 定
	シトロネラ	100×80cm	15,000苗
	クラボ・ダ・インジア	8×8m	156苗
	ピメンダ・ド・レーノ	2×2m	4,000苗

(11月)

	アドライ麦	80×20cm	20kg
	棉	70×30cm	30kg
	灌溉米作	30cm	80kg
	サツマイモ	80×30cm	5,000苗
	ゴマ	60×20cm	10kg
	珈琲	3.3×2.5m	1,200苗
	シザル麻	3×1m	5,000苗
	大豆	60×10cm	60kg

果物	アバカテ	9×9m	123苗
	バナナ	4×3m	833苗
	ラランジャ	7×7m	156苗
	西瓜	2.2×2.2m	コーバ5粒
	メロン	1.5×1.5m	"
	ピワ	7×8m	178苗
	オリーブ	9×9m	123
蔬菜	イタリア南瓜	1.5×1m	コーバ5粒
	アルメイロン	10×5cm	10平方米当り 30g
	ナス	100×50cm	" 40g
	人参	20×5cm	" 20g
	シコーリア	30×30cm	" 30g
	ホウレン草	30×15cm	" 10g
	キューリ	1.5×2m	コーバ5粒
	ピメントン	80×40cm	10平方米当り 40g
	キャーホ	1×5m	コーバ5粒
	大根	20×10cm	10平方米当り 30g
	小型バージェン	50×20cm	コーバ3粒
	蔓性バージェン	80×20cm	"

(12月)

	甘蔗	80×30cm	5,000苗
	煙草(苗床)	5×5cm	50~70g
	大豆(緑肥用)	60×10cm	60g
果物	アバカテ	9×9m	123苗
	アバカシー	120×25cm	33,332苗
	バナナ	4×3m	833苗
	ラランジャ	7×7m	156苗
	マンゴ	10×10m	100苗

	マモン	2×3m	1,666苗
	枇杷	7×8m	178苗
蔬菜	ナス	100×50cm	10平方米当り 40g
	夏作コーベフロル	70×40cm	" 35g
	ピメントン	80×40cm	" 40g
	大根	20×10cm	" 30g
	レポーリヨ (ロウコ種)	80×10cm	" 35g
	蔓バージェン	80×20cm	コーバ3粒
特殊作物	クラーボ・ダ・インジア	8×8m	156苗
	緑肥クロタリア	40cm	20kg
	コショウ	2×2m	4,000苗

種の値段 (1960.6.20調査・サンパウロ)

野菜作りは、昔から一種、二肥料三手入れと言われており、肥料、労力を惜しみなく油いでも種が悪るければ、生産があがらない。併し、種の値が高いばかりでも良いということとは出来ないが、サンパウロ市の種の値 (1960年6月20千現在) を次に記す。

(1クルゼーロス=約2円)

種子品名	10g			100g			1kg		
	cr\$	cr\$	cr\$	cr\$	cr\$	cr\$	cr\$	cr\$	
南瓜 メニーナ	15	120	1,200	ベテラーバ	15	100	1,000		
アセルガ・ブランカ	10	60	600	セボーラ・リオ・グランデ パイア・ベルホルメ種	60	500	5,000		
アグリオン・デ・アグア	70	600	6,000	セボーラ・カナリア	25	200	2,000		
アルファッセ・セン・リン パール	20	150	1,500	セボーラ・エクセル	30	250	2,500		
アルファッセ・ロマーナ・ パロン	20	150	1,500	セボリンニヤ	30	250	2,500		
アルファッセ・グレスパ 黒種グランデ・ラビット	20	150	1,500	セノウラナンテス・メイ アコンプリーダ	20	140	1,400		
アーリョ・ボロー	15	130	1,300	シコリア・アマルガ	10	80	800		
アルメイロン・フォリヤ ラルガ	10	80	800	カクローニヤ	10	80	800		
ベリンジェラ・メイアコ ンプリーダ	50	400	4,000	シコリア・エスカロー ラリーザ	15	120	1,200		
				コウベ・マンティガ	15	120	1,200		

ブロッコリー	25	200	2,000	朝 鮮 白 菜	10	80	800
コウベ・フロールボーラ ・デ・ネーベ	80	700	7,000	山 東 白 菜	10	80	800
バー ジ エ ン	15	120	1,200	京 菜	10	80	800
青 大 胡 瓜	50	400	4,000	肉 子 菜	10	80	800
ビメントン・ルービキ ング	70	600	6,000	大 葉 高 菜	10	80	800
キ ャ ー ポ	20	200	2,000	トマト・サンタクルース	70	600	6,000
ラバネーテ 20日大根	10	60	600	日本産 時 無 大 根	10	80	800
レポーリョ	20	150	1,500	春 箱	10	80	800
レポーリョ・ローコ	25	200	2,000	白 菜 ぶ だ ん 草	10	80	800
サルサ・リーザ	10	60	600	ほ う れ ん 草	15	100	1,000
サルソンドラード	70	600	6,000	岩 槻 大 ね ぎ	25	200	2,000
ト マ ト・カ キ	50	450	4,500	三年子・レポーリョサク セッション	25	200	2,000
日本産 みの早生大根	10	80	800	滝 野 川 ゴ ボ ウ	20	150	1,500
聖護院大根(大丸)	10	80	800	青 大 胡 瓜	40	300	3,000
練 馬 大 根	10	80	800	大 和 大 丸 西 瓜	25	200	2,000
宮 重 大 根	10	80	800	ラバーネレドンド	10	60	600
かきば大根(養鶏用)	10	80	800	ラバーネコンブリード	10	60	600
寄 井 か ぶ	10	80	800	ラバーネボンタブランカ	10	60	600
結 球 白 菜	10	80	800				

第二節 栽培育成方法について

日本の開拓地は、荒地を開墾するため、最初は栽培の成績が挙げられないが年々土の管理が行われるため生産が向上し、やがて良田良畑となり、それが生産力の高い土地として極めて長い年月に亘り農地として栄えるが、ブラジルでは、開墾当初が比較的良くでき、年数を経るに従って生産力の低い土地になつて行く。それは、気候、風土、農業のやり方などの相違もあるが、農業者の土地に対する認識と管理が閉却されているからでもある。

土と共に生きる農業者は土地を愛する精神が要求されるが、経済的な生産をあげるためには、作物の選択も考慮されなければならない。

次に栽培、育成方法につき略記する。

1 フェイジヨン

フェイジヨンの種類には、Rossinho, Muratinho-Preto, Branco, Bico de Ouro, Shumbinho, Enchofre などであるが、ロッシーニヨ、ムラチンニヨ・プレットなど南部諸州殊にサンパウロ、パラナその他で、熱帯圏内の諸州には出来ないうだ。フェイジヨンの栽培は、新開地に良く出来2~3年位連作されているが、3~4年目頃より低下し、収量は上がらない。

播種期

サンパウロ州での播種期は、アグアもので9~11月、乾燥期ものは1~2月である。

種子量は、ムラチンニヨ・プレットで1アルケール30~50疋を必要とする。小型種の播種間隔は40~70cm、大型のもの100~150cmの畦巾が必要である。コーバは、小型種で20~25cm、大型種で40~50cmが必要である。2本立にしたものは1本立よりも増収があり、除草土寄の管理を行うと生産が多い。

2 トウモロコシ (Milho)

トウモロコシの播種間隔は新開地なら畦間1米20種、コーバ間隔40~50種が適当である。各コーバに種を落すのは、2~3粒、古土地には、播種機を用いると、生産に対する労力、時日が節約でき、9~11月の労力の不足時期には得である。播種機で插く場合は、畦間1米として10種毎に1粒落ちるようにし、そのために、10米進むに100~120粒落ちるシャツバを用いると良い。間引は優勢なものを残して、各作物間20種にするのが適当である。

トウモロコシは間引きを行うことが大切であるが、その適期は、発芽後30日前後に行うことが効果が大きい。

カンピーナス農事研究所の試験では、間隔、間引日が収量に及ぼした影響の調査を次のように発表している。

間 引 日	間 隔	収量 (エクタール)
15日目 (1本立)	1米×20極	3,900疋
30日目 (")	"	4,020疋
45日目 (")	"	3,310疋
無間引 (コーバ3粒)	90極×9極	2,020疋
無間引 (コーバ3本立)	1米×20極	3,870疋

以上の結果によると、1米×20極で、30日目間引が最も優秀な成績であることを示しており、45日では、収量の低下がみられる。

3 ヒマ (Mamona)

ヒマは養分吸収力の強い作物であるが、収穫後の残骸を施用することによって、回復されている。この他根が土中に深く伸挿する作物である点から栽培に当つては、次の点を考慮しなければならない。

- A 耕土の深い土地を選ぶこと。
- B 養分吸収が甚しいので、施肥が是非必要である。
- C 好ましい適性は、pH6~7程度で、石灰撒布を行つておく。

油肥の成分が多く、丈も中型で収穫し易い品種として、カンピーナス農事試験所がすすめているものに「アナン IAC-38号」がある。

植付距離は畦巾1.5米、株間50極に播種すればよい収量に上がることが実証されている。アルケール当りの収量は1.5米×1.2米に植付けた場合3,600疋に対し、1.5米×50極では5,300疋という大きなひらきみせている。この点栽培地を選らび管理面で施肥技術を生かせば、更に収穫でき得る。なお、播種時期としては、9~10月中で遅播は、結実期に乾燥にあい減収となる恐れがある。

播種前アラードを2回程度20極の深さに掘り返し後、石灰をアルケール当り4~5極撒布しグラデーをかけて良くまぜておく。

新開地外での施肥では、エクタール当り、硫安150疋、過燐酸石灰300疋、塩化加里50疋を用いると良い。

4 大豆 (Soja)

大豆の収量と播種時期

大豆は光線に敏感な植物であつて、その育成には、湿度や温度も大切であるが、光線を度外視することはできない。

聖州農務局が、各試験所で何回も行つた播種時期による収量差の実験報告をみてもらう。

11月播種のもは雨季と高温の12～1月に枝葉を繁らせて、2月初めの日が短くなりだしてから開花期に入るので、大豆の生理は申し分がなく、従つて大きな実を結ぶ、10月中に種を播くと枝葉が必要以上に繁り結実期になつても伸びがとまらず殆んど落花してしまう。

緑肥用や食料用に早播まが良く、又、12月以降になると開花から結実期が遅そくなり矢張り良い収穫は得られない。普通畦巾60～80匁、株間5匁内外で発芽、間引後の管理で最も必要なのは、除草と中耕と土寄せである。

5 ゴマの栽培 (Gergelim)

当国では、栽培はまだ本格的でないが注目される油料作物である。

ゴマの適地は、熱帯地方であるが、温帯でも気候の変化の少ない温暖な地方なら容易にできる。栽培方法などと言うむづかしいものはない。熱帯地方では、散播混作などを行つてその気候条件からして良くできるが、畦間70匁、株間40匁位に播き、除草、管理など行うのが、経済的に有利な栽培方法である。

発芽は、1週間～10日間位である。収穫期は、発芽後130～150日位であるが、葉が黄化脱落するので、その時が刈取時期である。1アルケール当り必要な種子は約30匁である。

6 アルファッセ栽培 (高度の土地利用と連作)

アルファッセ栽培は、近郊でも奥地でも都市附近の低湿地利用栽培の重要な部分を占められて低湿地はその栽培のために開られたとも言える。

アルファッセほど、極度の土地利用と、同作物の連作の度合の甚しいものはない。野菜栽培と養鶏などと併行している場合鶏糞に骨粉過リン酸石灰、多少の加里などを加用すると経済的な肥料となるが、鶏糞主体の肥料を連用

すると、土地の性質や状態が次第に悪るくなり、それに同種作物の連作では思わしくない。

(註) 蔬菜栽培と酸度の関係

都市近郊の土地の殆んど、その度合は種々ではあるが酸性が多い。一般作物には大した支障もないが、永年の栽培にない種々の土地異変が栽培に影響してきている現状から一般に関心をもたれるようになってきている。

酸性の最も抵抗力の強いものは、水稲や、陸稲で酸性に抵抗力の強いものは、大根、甘藷、馬鈴薯などである。

酸性にやや抵抗力の強いものに、小松菜、西瓜、トマト、玉葱、里芋など、酸性に最も抵抗力の弱いものは、周知のように、ホウレン草、大豆、小豆、パージェン、アルファッセなどで、殊にこの酸性、抵抗力の最も弱いものを栽培して酸性の影響をうけ、更に支障を受けている場合が非常に多いと思はれる。蔬菜栽培もその種類によつて、適する土壌反応と、実際栽培地の反応を調整して栽培するだけの管理が必要である。

7 マンジヨカ (Mandioca)

サンパウロ州でのマンジヨカ栽培は高温多湿になる9月から10月の間にその7分通りは植付けられている。マンジヨカは、その生育に高温、多湿を必要としているからである。然し高温、多湿という状態は、年によつてもことなりがあるが、大体3~4月頃、9~4月の期間の植付に用いる挿木用の莖は6~7月の間に収穫したものであるから、その保存が大規模の場合は、注意を要するが、日蔭に莖をたてにし束で保存すると長く保つことができる。

10月以降の植付は、年によつて雨不足で発芽率が悪く欠株を多く出すこともあり不利である。今迄に行はれた試験によると、6~7月の植付は、その発芽は概して暇どつているが、それは気象条件によるものである。

発芽は一般に良好で、欠株が少ない。発芽の遅速は、雨と温度によつて左右されるが、発芽率は、5月、6月、7月、8月、9月、10月迄の植付では83.5~98.6%と非常に良い。従つて一般に発芽に対して甚だしい乾燥、高温にあわない限り比較的順調に成長する。

8. サツマイモ (Batata doce)

施肥した土地に30種位の作条として10種位の間隔に芋を植付けるが、定植はサンパウロ州であると9~11月であるから、少くともその3、4ヶ月前から準備する必要がある。養苗場の芋から芽が出て、それが発育したら、それをとつて苗として定植するのであるが、それには種々の方法がある。

農研の試験によると、その苗の使い方と収量の関係を示したのが、次の通りである。

蔓の先端	38,400疋	1エクタール当り
芋の芽	33,200疋	”
蔓の中間部	31,700疋	”
芋	13,800疋	”

植付は地力や芋の種類でも異なるが、大体60種、苗間25種位が適當である。当地の品種をあげると、

- A ジャカレー種 食卓用として最適のものであり、外部黄色、肉質部はクリーム色、貯蔵に耐える。生育は旺盛で莖、葉柄葉の緑など濃厚な紫色である。
- B イエローヤン種 銅色がかつた黄色のイモで肉質は鮭色がかつた黄色である。美味だが、腐敗し易く貯蔵に下向きである。多産早生で植付け後3ヶ月で収穫ができ収量も多い。
- C ビイソザ種 これは飼料用の品種であり、芋は、紫色、肉質はクリーム色である。長期貯蔵に堪え、晩生で収量は豊富である。
- D サント・アマロ種 飼料用品種である。芋の色は紫色であるが、ビイソザ種に似ている。ただ、ビイソザ種は、外皮の薄皮及び厚皮まで紫であるに反して、サント・アマロ種は外皮、薄皮だけが紫色である。

9. バナナ

バナナ栽培の適地は、温度の高い、温暖むしろ熱く、降雨の多いところで温度の変化の少ない地帯が適當である。バナナは風に倒れ易いから風当りの強いところは、避けなければならない。

植付間隔 その土地の地力や植える種類により異なるが、普通中位の土地では、“ナニカ”等わ3米から4米、樹高の大きなのを5米～7米の間隔を置いた方がよい。1エクタールの植付本数は次の通り。

間 隔 = 植付株数

2×2m = 1,090本	3.5×3.5m = 784本
4×4m = 628本	4.5×4.5m = 434本
5×5m = 400本	6.0×6.0m = 256本
7×7m = 224本	

植穴、種類 植穴は50匁～60匁立方のものを掘るが掘上げた土は良く風化させる。種類の選定は、その栽培目的によつて異なるが、輸出を目的とするなら“ナニカ”（別名カツラ）が良く、国内市場であれば、ナニカの外マッサン、プラタ、オウロ、ダ・テーラ、サントメー、マルメロ、ピナグレ等である。

植付期 植付は、雨期初めの9～12月迄が適当である。可能なら9月中が良く、掘上げで風化させてあつた土を良く砕いて植付を行なう。

管理 一番大切な作業は芽欠きである。1本から沢山発生すると房が甚だしく、小さくなるから1コーバ1本立とし、多くの芽が出たら必ずこれを除去する。

然しバナナは1本1房であるから、その後継が必要である。親株を植えてから4カ月して発生した芽を2代目として残し、その後も4ヶ月置きに1本残すことによつて毎年順調に収穫が得られる。

10 ラミーの植付

植付期は4～9月頃まで、雨の時期を利用するのが好結果を得ている、12月1月の雨期は紫外線強く欠株が生じ易い。この点に注意し、補植の用意を充分して置く。降雨のありなしに拘らずこの期間に植付する場合、定植地にまづ穴を掘り、掘り出した土はそのまま穴にもどし苗の採集をなして降雨をまつて定植する。

新伐採地の場合は特に穴掘りに注意し、穴中の木の根を良く切り除かねば

ならない。植付後のコーバは苗の頭部が少しる程度にして、土を固く踏みつけておくと、これによつてラミーの活着をよくし、欠株率を少なくすることが出来る。

定植に使用する吸枝「ソーゾマ」は、育苗3年以上経過した古株より10種～15種に切り根をとり去つたものを使用する。

11 ハッカの栽培

有機質に富んだ土壌或は、マサッペープレットのような粘土質土壌などが適している。それに冷涼な気候であることも必要である。気候条件の中で最も大切なのは、雨量である。ハッカの成長は早く年3回までの刈取を行なう程であるから生育が迅速であるためには、降雨の配分が順調であることが最も望ましいことである。そして、それがハッカ油の質と含有量に影響を及ぼす。

繁殖と定植 耕地に直接根莖の植付か、苗床仕立ての苗を定植する。育苗では6～8月頃に苗床に播種して9～11月に苗を作りあげて、それから定植を行う。根莖の植付は必ず春植えてそれ以外は不適當である。

根莖を苗床に植付けて生育10種～15種に達した頃降雨があるように植付け、土地に湿気の多い時に定植を行うのが、確実である。植付間隔は65種、畦巾55種株間が適當とされている。

収穫の適期は、種類に異なるが、概ね、開花期が収穫期とみて良い。つまり油分、ハッカ脳は開花期に最も多く含まれているからである。

刈取りは、乾燥し日、そして植物もまた乾燥しているものを刈り取り、収納舎で陰干しにしたものを(4～5日間)蒸留する。

第1回の刈取りは、その時の状態にもよるが、11～12月頃である。収量はブラジルでは1アルケール平均250 瓩位であり、葉の繁茂が旺盛なほど収量も多い。

12 花の栽培

隣国のアルゼンチンでは、日系移住者の大半がこの業種に従事しているが、ブラジルでは、まだまだで、これからの職業として伸びる可能性は充分

にあり、市場は開けている。20年前の1940年に聖市で消費されたグラジオラスは1日400ダースにも満たなかつたが、現在では、5,000ダース出荷され、軽く消費されている。

日系移住者は、漸く、聖市近郊で約30~40家族が専業に當つており、グラジオラスの出荷量が1日2,000ダース以上をだしているスザノ福得村の石橋花奔園もある。

現在聖市への出荷、切り花の種類は、前述のグラジオラス5,000ダース、ローザ（バラ）5,000ダース、クラボ（カーネーション）2,000ダースの外、ダリア等が主である。この内日系人栽培家の進出しているのは、グラジオラスとカーネーションの2種で、バラは3~4人位しか進出していない。

スザノの石橋氏のところでは、主に所有の球根（100万個）によるグラジオラスの栽培をしているが、この原種は毎年本場のオランダから300疋位づつ輸入している。現在の輸入価格は、疋当り2,000cr\$以上もしている。

植付時期は1年中時を選らばないが、寒い時期は開花までに長くかかる。植付から開花までの期間は早いときで75日、遅い時期では85日以上かかる。植付は約90種市の溝の内巾を広くとり千鳥に2列になるよう各間隔を25種くらいにする。この作物で一番手をとるのは、花を切ることで半開きのものを1日100ダース切れば上等であるといわれる。

聖市で好まれている色は、紅、鮮紅深紅など赤系統で、黄色空色などが、それに次ぎ、紫や他の色はよろこばれていない。

前述のように現在の聖市の消費量は毎日5,000~6,000ダース位でぐんぐん上昇しているし、リオへの出荷、リオ近辺での栽培の有望性は無限である。

13 ユーカリ樹 植林

ユーカリ樹は成長の早いと種々の用途があるので、その植林は、サンパウロ州政府も大いに奨励しているが、ユーカリには種類が多く、300種以上あるといわれている。従つて植林者は、その目的に従つて種類を選択しなければならない。

その主な種類とその用途を述べる。

- a アルバ種 (Alba) 用途は薪、炭、垣の抗や柱等
- b アルベス種 (Albes) 建築用材、薪、炭等
- c アストリンゼンス種 (Astringens) この種は、タンニンを40%も含んでいるので、電柱や垣根の柱に利用。
- d ボシトアナ種 (Bosistoana) 枕木、垣根の柱、建築材
- e アングローザ種 (Angulosa) 防風林や日蔭樹
- f ボツリヨイデス種 (Botryoides) 家具材、床や天床材
- g ブロックエイ種 (Brockuayi) 抗道材、薪、炭
- h カマルツレンシス種 (Camaldulensis) 建築材箱、枕木、薪
- i シトリオドラ種 (Citriodora) 橋の桁、枕木、電柱
- j ダルリンプレアナ種 (Dalrympleana) 道具の柄、橋の桁、床
- k クラドカリスス種 (Cladocalyx) 防風林や日蔭樹、又、花からよい蜜がとれるので養蜂に良い。
- l グミフェラ種 (Gumifera) 抗道材、電柱、垣根の柱、床材等
- m グンニイ種 (Gunni) 枕木、電柱、橋の桁
- n レウコシロン種 (Leucoxydon) 道具の柄、板箱、車の心棒
- o レグナンス種 (Regnans) セルローゼ、箱、指物材として良い。

14 イチゴの栽培 (morango)

苺の播殖方法にわつしを出してその先端に新株芽をつけて行く方法、株自身の分けつによつて株の数が増して行く方法、花芽をだして結實した種子を作る方法の3つがある。

聖州でお苺の苗は3月下旬から4月上旬に本圃へ植付ける。この苗が5月中旬に花芽をだすが、その年の気候が暖かすぎると、4月中旬から下旬にかけてつるが出るので寒さにくるまでつるが出て、花芽をだすのは8月以降になる。適当な気候の場合は、植付けた苗は、第2の播殖法へ移る4月の下旬から5月にかけて盛んに株が分けつする。この場合も次の花芽が用意されるのは、8月以降である。

適期に植えら適当な温度(寒さ)に恵まれた苗のみが順調に花芽をだし結

果する。5月下旬から6月、7月の果物の殆んどない時期に苺を市場に出せるので、苺作りの経済的意義がある。

(註) 日本のように前年の秋に植付けて苗に暖い春を人工的に押しつけて早く、結実させるという方法が、ここでは又く反対の結果になる。

15 メロン (merão)

メロンは西瓜と同じく瓜科の植物であるから、なるべく新しい土地が好ましく、土質も砂質のほうが適する。植付け時期は3月下旬から7月迄か、10月から12月が良い。間隔は、3米×3米、蒔いてから10日位で発芽するが、本葉4~5枚目で摘蕊、次いで第3、第4葉を出すように摘蕊せねばならぬ。

収穫までの期間100日内外で、種々の種類があり、当地に向く種類は、デリシオーゾ、トウルス、ベルデ・ソロッパディオ等である。

16 アバカシー (Abacaxi)

アバカシーの適地は、砂質が良く、植付適期は、3月から5月で、翌年の11月から12月に出荷出来るようになる。

畦巾は1米20匁から1米50匁、株間60~80匁、特に注意を要するのは、果実に出入り易いから植える時殺虫(卵)すること、その後も殺虫剤の撒布を怠つてはいけない。

17 アスパラガスの栽培 (Aspargo)

アスパラガスはユリ科に属する南欧原産の多年性栽培植物である。葉状の莖の若芽を食用とする。伯国では、3~4月頃実が熟するから採取しておき、7~8月苗床へ播種する。本圃に植え付けるまでには、1ヶ年を要する。本圃の畦間を1米60~2米位。株間60匁で植付ける。

巾60匁、深さ30匁の溝を掘り、元肥を十分に施してから植付ける。毎年根株が上がってくるから深く植えることが必要である。1年目は採取出来ないから浅く覆土しておくが、2年目からは莖が軟白するので、畦巾を一律に利用して覆土する。一株に1~2本の莖を伸ばしておかねばならぬがそれ以外わずべて採取して良い。覆土した表面の上が少し割れかけた頃が採取の適期で、採取期間は9月から2月頃までである。採取を始めてから8年位は毎年収

量が多くなって行くが、根が上がつてくるので覆土を高くする事が必要である。

収量は、1アール当り初年は50疋、2年目から増加して、5年目には4~500疋となる。

18 コーヒーの定植 (Cafè)

植付けの深さ、初年度の収穫にも左右されると言われており、普通10~12月迄に縦、横深さ各50cm又わ60cmのゆつたりした穴を掘り有機質、化学肥料を施しておく。

定植する苗数と収量の関係について、カンピーナス農事試験場の種々の実験によると、1つの穴の中に3本から4本の苗を植えることが良いことになっており、コーバの中の苗と苗との間隔は、25cmから30cm。苗と苗との置き方は四角四方、並列と色々好みがあるが、一般には温度を保ち、光線の具合をよくする意味で四角四方がとられている。次に植付けの深さは、砂質地で夏期の温度の高い地域で15~20cm、その他の地域では10cm前後の浅植えがすすめられている。

なお、一般には、定植後2カ月日に窒素肥料を2回ほど分施する。硫酸アンモニアなどは第一回目に50g程度で良い。なお、第四節珈琲物語りを参照され度い。

第三節 農産物統計

サンパウロ日本文化協会は、日本移民入国50年の1958年を記念して、コロニア実態調査委員会を設置し、コロニア50年の歩みを科学的に調査しており、やがてその全巻を発表することと思うが、今迄発表された分につき記す。

第一項 コロニアの農業生産力

此の調査は、1957年度のもので、同年の連邦統計局のそれと比較されており、現在(1960年)はこの数字を更に上廻っていることは確かである。この

数字をみるとコロニアが如何にブラジル農業界で重要な役割を果たしているかを雄弁に物語っている。

a 珈琲

全伯	1,409,304	担	
全伯コロニア	124,726	担	比率 8.9%
聖州	602,879	担	
" コロニア	63,910	担	比率 10.6%
パラナ州	277,780	担	
" コロニア	57,201	担	比率 20.6%

b 棉

全伯	1,177,369	担	
全伯コロニア	136,628	担	比率 11.6%
聖州	429,979	担	
" コロニア	115,403	担	比率 26.8%
パラナ州	103,000	担	
" コロニア	20,690	担	比率 20.0%

c 米

全体の2.2%に当る1,560,308担、州別では、サンパウロ、パラナ、マツト・グロッソの順であるが、最高のサンパウロ州でも1,310,780担で8.1%である。

全聖州97万担に対しコロニアは7,800担で8.1%である。

d ビメンタ

ビメンタは2,484担、パラナ州が一番で、2,322担、アマゾン25担と続いている。バイア州7担、マニエオン州0.1担。

ビメンタは連邦統計局のそれより上廻っている。

e ハッカ

コロニアの全体の生産は339担、サンパウロ州が62担、パラナ州が188担で前者は州全体の79%に当る。その他の生産州マツト・グロッソは3担である。

f トマト

全生産量の75%が日系である、コロニア全体では、6,114,109箱、サンパウロ州が4,839,392箱、これは州生産量の78%である。次ぎがリオの712,869箱、パラナ268,000余箱、ミナス126,000余箱と続く。

g 馬鈴薯

全体で4,498,517俵(998,993噸)、全国の27%が日系による生産である。多いのはサンパウロ州で4,111,476俵、州全体の67.9%に当る。以下パラナ州248,572俵、ミナス州114,950俵の順である。

全 伯	998,993噸	
聖 州	363,332 "	
コロニア	246,680 "	比率 67.9%

h 卵 子

全 伯	141,457,000ダース
全伯コロニア	54,684,480ダース
聖州コロニア	52,339,050

州農務局の統計によると、日系は全伯に対し37%を占めておる。パラナ州、リオ連邦区リオ州の順である。

i バナナ

12,357,000房余、サンパウロ州が10,429,000余で大部分を占めている。比率は25.4%。

j ジュート

全 伯	32,929噸
全コロニア	1,502 "
アマゾン州	1,028 "
パラナ州	193 "

当初日本人により広められたが、今日では余り日本人は生産に従事しておらず、適性作物とわ考へられていない。

上述でわかる通り、日系が重要な部門を占めているのは、ビメンタ、ハツ

カ、馬鈴薯、トマト、卵等であるが、その他でもかなりの実績をあげている。

第二項 在伯邦人所有面積

日系コロニアの持つ農地の広さわ、日本の四圍の約2倍半で、農地として持つている広さは、1,903,526アルケール（パウリスク）、備格にして、37,454,800コントス（記入額）である。この他、宅地として市部にもつている土地が80,762,774平方米、備格にして、19,701,595コントス、宅地農地を合せた評価は、57,157,445コントスに上り、コロニア最大を誇る南米銀行の資本金の425倍にも当つている。

連邦直轄区を含めて、25区域のうち、アマパー・ピアウイ、アラゴアス、セルジツペの三州を除くと日本人が土地を所有していないところはない。リオとグアナバラ兩州を合せたものよりも広い。邦人の土地所有面積のベストテン（市部所有地を除く）は、次の通りである（単位聖州アルケール）。

1 Mato Grosso	1,011,173アルケール
2 São Paulo	489,150 "
3 Paraná	260,747 "
4 Goiás	78,310 "
5 Amazonas	17,977 "
6 Pará	16,897 "
7 Rio	8,953 "
8 Rio Grande do Sul	6,668 "
9 Minas Gerais	6,425 "
10 Guanabara	2,345 "

上述により、新しい首都のあるゴヤス州での所有面積が、アマゾーナス、パラ州をしのいでいるのは、矢張り開拓精神旺盛なる日本人と興味が深い。

Brasil におけるコロニアの農業生産力
 (1956年度の連邦及びサンパウロ州政府統計及び1957年の
 コロニア実態調査統計による)

種 別	単位	ブラジル 全生産量	総生産 対コロ ニア	日系コロニ アの生産量	州生産 対コロ ニア	サンパウロ 州全生産量	備 考
珈 琲 精選	噸	1,409,304	8.9%	124,726	10.6%	602,879	1957年
実 綿	〃	1,177,369	11.6	136,628	26.8	429,979	〃
米	〃	354,540	2.2	7,800	8.1	970,000	〃
ピメンタ	〃	3,833	65	2,484		—	〃
ハ ッ カ	〃		79	339	79		〃
ト マ ト	〃	310,525	75	6,114,109	78	—	〃
馬 鈴 薯	〃	998,993	27	246,680	67.9	363,332	〃
卵	ダース	144,457,000	37	54,684,480			〃
バ ナ ナ	房			12,357,000	25.4		〃
ジュート	噸	32,929	22	1,502		—	〃
蕎 麥	〃	1,060	90	245,459	100	245,459	1956年
桃	〃	442,486	100	442,486	100	442,486	〃
柿	〃	90,837	100	90,837	100	90,837	〃
茶	〃	731	90	658	100	658	〃
蔬 菜 類		—	70	—		—	〃
苺	〃	300	100	300	100	300	〃
ラ ミ ー		—	90	—	—	—	〃

金伯農業生産物統計

農務省の統計局では、1959年度の主な農産物について、その生産高を次のように発表した(単位噸, クルゼイロス)。

	生産高	備 格
珈琲コッコ	4,403,943噸	65,622,844,000cr\$
米	4,105,913 〃	36,696,542,000 〃
トウモロコシ	7,680,111 〃	36,347,876,000 〃

棉	1,347,037	24,918,127,000
フェイジョン	1,490,899	22,688,868,000
砂糖キビ	50,813,629	18,909,313,000
マンジヨカ	16,009,769	16,755,535,000
小麦	792,119	9,366,712,000

耕作面積(単位エクタール)

トウモロコシ	6,100,806エクタール
コーヒー	4,327,585
米	2,701,759
棉	2,590,134
フェイジョン	2,298,711
砂糖キビ	1,240,391
小麦	1,255,643
マンジヨカ	1,220,405

総価格では、コーヒーが断然多いが、耕作面積では、トウモロコシが第1位である。但し、1エクタール当りの生産高(価格)では次の順序になつて
いる(単位クルゼイロス)。

砂糖キビ	15,243cr\$
コーヒー	15,162
マンジヨカ	13,729
米	13,582
フェイジョン	9,870
棉	9,620
小麦	7,460
トウモロコシ	4,482

即ち単位面積では、砂糖キビが咖啡よりも多く第1位であり、マンジヨカは米よりも多く第3位となつていることは興味深い。

上述は主な生産物8種類のみであるので少し古いが、1957年の全伯農産物

の生産量及栽培面積の統計を述べる。

第三項 全伯農業生産高

1957年、農務省統計局 (面積=エクタール, 量=噸又は1,000コ, 1,000房)

農産物品名	栽培面積	生産量	農産物品名	栽培面積	生産量
アバカテ	6,681	291,990	茶 (精撰)	4,905	765 千コ
アバカシー	20,156	141,524	ココ・グ・パイア	64,507	307,151
アルファア	27,309	221,975	フ	94,265	43,145
棉	2,405,385	752,928 英綿	フェイジョン	2,335,093	1,685,091
アーリオ	10,409	24,067	大豆	96,901	120,695 千コ
アモンドイン	168,067	185,327	イチザク	2,269	302,591
籾	2,470,855	4,076,273	葉煙草	182,489	142,329
アベイア	22,315	16,141	ジュート	26,429	34,367 千コ
アゼイトーナ	276	298 房	ランジャ	87,243	7,441,687 千コ
バナナ	166,204	234,422	リモン	5,683	538,593 千コ
サツマイモ	115,018	1,094,390	リンゴ	176,9	83,314 千コ
馬鈴薯	179,183	996,420	ビマ	220,933	193,440
カカオ	391,320	167,180	マンジョカ	1,186,313	15,822,309
珈琲	3,660,704	1,393,289 精撰	マンゴ	36,306	1,814,473
サトウキビ	1,141,876	46,576,491 千コ	マルメロ	7,471	133,648 千コ
柿	1,432	102,781	西瓜	87,346	63,170 千コ
カスクニヤ・エストランジェーラ	67	135	メロン	4,599	2,960
セボラ	35,643	184,711	ミーリ	6,050,904	7,706,944
センテイオ(裸麥)	25,225	19,704	クルミ(ノス)	504	343 千コ
セバグ(大麦)	27,224	30,200 千コ	西洋梨(ペーラ)	3,277	248,247
桃	7,586	536,892	小麦	1,267,051	1,198,782
ピメントドレーノ	1,913	2,189 千コ	ツンゲ	4,772	6,387
クンジュリーナ(密柑)	12,718	1,257,288	ブドウ	53,116	389,310
トマト	24,655	310,525			

サンパウロ州内の主な農産物

主産地

州統計課の最近の報告書によると、サンパウロ州内の主な農産物（短期性作物）の主産地を郡別しており、次の通りである。

アバカシー 全州生産 27,151,000個

タツイー 3,000,000個、プロドスキー 2,000,000個、バタタエス
1,281,000個、コリーナ 1,160,000個、モジミリン 1,100,000個

アボーボラ 全州生産 5,034,380個

イタペチニング 814,800個、イタピータ 326,000個、リベイラ
312,000個、アビアイ 312,000個、リオグラディア 280,000個

アルファツセ 全州生産 23,671,000kg

モジ・グスクルーセス 17,500,000kg、グアルーリヨス 2,200,000kg、
サンパウロ 1,920,000kg、サント・アンドレー 376,000kg、リベロ
ン・ピーレス 300,000kg

コーベ・フロール 全州生産 23,671,000kg

グアルーリヨス 1,000,000kg、マイリポラン 600,000kg、カンピー
ナス 250,000kg、ジユンジアイ 160,000kg、イタペセリカ 73,000kg

西瓜 全州生産 6,164,560個

バストス 1,219,000個、タツイー 749,960個、イタペチニング
323,000個、サンベードロ 290,000個、カンデ・ド・モッタ 250,000個

セボーラ 全州生産 2,648,820アローバ

ピエダーデ 600,000アローバ、ブラガンサ・パウリスタ 285,000アロー
バ、ソロカーバ 184,500アローバ、フアルツェラ 170,000アローバ、
サンジョン・ド・リオプレット 140,000アローバ

セノーラ 全州生産 8,579,100kg

マイリポラン 3,600,000kg、ピエダーデ 1,499,000kg、サンベン
ト・ド・サアカイア 1,250,000kg、イタペセリカ 1,050,000kg、カ
ンボス・ド・ジヨルドン 870,000kg

トマト 全州生産 175, 668, 560kg

ブラガンサ・パウリスタ22, 700, 000kg, カンピーナス13, 500, 000kg,
イビウーナ 13, 050, 000kg, タクアリチンガ11, 500, 000kg, ピンダ
モンニャンガーバ 10, 000, 000kg

小麦 全州生産 5, 993, 000kg

イタペーバ 1, 800, 000kg, ファルツォーラ 800, 000kg, マラカイ
453, 000kg, イトラレー 300, 000kg

(註) これらの短期作物の主産地は常に移動しているので、恒久的な産地
ということとは出来ない。

第四節 珈 琲 物 語

ブラジルの台所は大半がコーヒーで賄なわれており、ブラジルの年間外貨
収入14～15億弗の中 6割が珈琲の輸出代金である。

この稼ぎ出したドルでブラジルは必要な物資を買入れており、コーヒーに
よつてブラジルの経済は支配されているといつて過言でない。更にこのブラ
ジルのコーヒーは世界の珈琲市場を支配しているといつても良い位に、ブラ
ジルは世界の生産量の半分に達している。1959～60年度の世界の全生産量
5, 712万俵の中ブラジルは3, 000万俵を生産している。

名実共に“コーヒーの国ブラジル”であり、誰れもが知つている言葉であ
る。

コーヒーの歴史

ブラジルにて栽培されるようになってから

ブラジルに初めてコーヒー樹が育てられたのは、パラ州のベレンで1727年
に植えられた。仏領ギアナに特使として派遣されたフランシスコ・デ・メーロ
が使命を果たしての帰り、一握りのコーヒーと5本の苗木を持ってきて、これ
を移植した。このコーヒーが順次南に移植され、サンタ・カタリーナ州まで
に及ぶ海岸地帯に、又、内陸では、ゴヤス方面までに拡がった。

家庭の消費段階から商業ベースに乗るまでには、50年以上の才月がかかつ

ており、ブラジルが、コーヒーの輸出国として頭角を現らわし、コーヒー園の栽培が、経済的な重要性を持ち始めたのは、19世紀の初めになつてからである、コーヒーがブラジルに入つてから70年以上も発展しなかつたのは、当時農業が重視されなかつた事情による。18世紀は、ブラジルは鉱業開発に血道をあげ、ミナス地方は黄金景気でうなつており、コーヒーに眼を向けるものが少なかつたからである。

併し、ブラジルの自然条件はコーヒー栽培に適している。米国の消費量が増大すると共にブラジルのコーヒーが陽の目をみるようになってきたが、1773年ジョージ3世の「茶条令」に反抗し、東インド会社の茶を飲んではならないとの申合せがあり、この茶条令のお蔭で米国人が茶からコーヒーに転換する習慣が生れたためである。このためアメリカはブラジルコーヒーの最も重要な市場となつた。その時代のブラジルコーヒーの輸出数量は確実なことはわからないが、1779年リオ港より、ポルトガル向けに79アローバ出されている。これが1796年即ち18世紀の終りには輸出量は8,494アローバに増え、更に1806年8,245アローバに達している。

コーヒーは、年毎に輸出が増し1850年には世界的な生産地であつたジャバを追いこして全世界の産額の50%を占めるようになった。

「緑の黄金」コーヒーは、パラíba地域から、サンパウロ州東部及びミナス州境に発展して行つた。サンパウロでは、カンピーナスを皮切に、テラ・ロツシヤ地帯を伝わつて西部に急激な伸展をみせた。この急激な発展を助けたのは、サントス・サンパウロ間の鉄道施設である、1868年に鉄道がしかれ、この開設でコーヒー産業は飛躍的な発展を遂げた。

併し、ブラジルの生産活動は、常に1つの現象を繰り返しており、ブーム的な発展とその後に来る衰退が、ブラジル経済史に何度も見られてきた。

広範な、粗暴な開発方法によつて、緑の黄金は波に乗つて奥へ奥へと拡がつて行つたが、その後に残つたものは廢地である。1877年にパラíba地帯を貫らぬいて、リオ——サンパウロを結ぶセントラル線ができあがつた頃には、パラíba地帯のコーヒー生産はすでに峠を越していた。

ブラジルの現勢

イ. 量のコーヒー

コーヒー「緑の波」は、モジアナからノロエステ、パウリスタへ、その後ソロカバナへ、更に北パラナ地帯へ進出したが、略奪農業の結果、旧地帯は年々衰微し、活況わ常に新地帯である開拓前線にみられている。

最近では、ブラジルのコーヒーを代表するものは、パラナのコーヒーである。

サンパウロのコーヒーはクセがなく質的には、パラナのコーヒーを上廻っているが、量のコーヒーというブラジルコーヒーの本質では、パラナに首位を譲りつつある。1959～60年度のコーヒー生産量は、パラナが1,500万俵、サンパウロが1,200万俵で、1960～61年度の生産予想では、パラナのコーヒーが圧倒的に多い。

州別コーヒー樹の数

州	本数	少生産樹	欠株	生産樹
サンパウロ	1,180,000,000	450,000,000	120,000,000	610,000,000
パラナ	850,000,000	40,000,000	80,000,000	730,000,000
ミナス	500,000,000	50,000,000	75,000,000	275,000,000
エスピリット・サント	350,000,000	45,000,000	40,000,000	265,000,000
ゴヤス	70,000,000	—	6,000,000	64,000,000
リオ	60,000,000	48,000,000	7,000,000	5,000,000
バイア	47,000,000	40,000,000	3,200,000	3,800,000
ペルナンブーコ	37,000,000	30,000,000	2,600,000	4,400,000
マツト・グロソ	26,000,000	—	2,000,000	24,000,000
セアラ	11,000,000	11,000,000	—	—
サンタ・カタリーナ	10,000,000	10,000,000	—	—
アラゴアス	2,400,000	400,000	200,000	1,800,000
パライーバ	2,200,000	400,000	150,000	1,650,000
合計	3,145,600,000	724,600,000	337,500,000	2,083,500,000

前表でもわかるように、ブラジルのコーヒー樹は31億4,560万本で、その中の75%以上がサンパウロ州に植つている。数の上ではサンパウロ州が絶対的の首位にある。併し、生産するコーヒー樹でなければあつても役に立たない。1千本当り15アローバ乃至16アローバの精選コーヒーしか生産しないデエフィタリオ（小生産樹）及びフアーリア（欠株）の数は、パラナ州と比較すると、非常に大きな割合を占めている。生産樹はサンパウロ6億1千万本、パラナは7億3千万本であるので、パラナ州の方が多い勘定になる。

ロ. 生産費の安いパラナ

パラナ州の59~60年度産コーヒーを1,500万俵とすれば、パラナにおける千本当りの平均収穫量はコツコにして約53俵、これに比較してサンパウロ州では、30俵である。

生産したコーヒー値段はサンパウロの方が質がいいだけに高値だが、パラナものとそれ程大きなびらきはない。サンパウロのコーヒー生産者が、パラナと比較して経済的苦惱が大きいのはこの数字ではつきりする。1俵あたりの生産費は、サンパウロとパラナでは大差がある。

次の表は1959~60年度産コーヒーの州別の精選コーヒー1俵当りの生産費を示すものである。

州別 コーヒー 生産費			
州	生産量	経 費	一俵当り生産費
サンパウロ	8,900,000	15,340,000	1,700cr\$
パラナ	9,700,000	10,200,000	1,051
ミナス	3,100,000	5,000,000	1,613
エスピリット・サント	1,950,000	1,900,000	815
ゴヤス	800,000	560,000	700
リオ	320,000	476,000	1,490
バイア	250,000	320,000	1,300
ベルナンブーコ	280,000	260,000	930
マツト・グロツソ	40,000	400,000	1,000

セアラ	22,000	25,000	1,000
サンタ・カタリーナ	19,000	20,000	1,000
アラゴアス	10,000	10,400	1,000
パライーバ	6,000	5,200	866
計	25,397,000	34,511,000	

サンパウロ州農業統計課の技師 José de Queiros Terres 氏によるものだが、この推定は全収穫量を2,539万俵にしているのので、実際の収穫量を下廻っている。

サンパウロの精選コーヒー1俵の生産費を1,700cr\$, パラナのそれを1.051 cr\$と算出しており、1959～60年度のコーヒー政策決定の前にサンパウロの生産者は、輸出用コーヒー1俵3,000cr\$を主張、パラナの生産者は1俵2,000cr\$を主張したのもその事情を物語っている。

生産から輸出まで

1 コーヒー園栽培

コーヒー園栽培の一步は、まず深くて肥えた腐植土の層を持つ森林地の開拓から始まる。処女林の灌木や葛蔓など払つたのち、伐材と乾燥を待つて、一挙に焼き払う、所謂山焼きである。普通山焼きがすんだ後抜払いなどを行つてすぐ植付けるわけだが、アサンニヤメント・マディラ作りと仕事は多い。

ここで種子をじかに播くか或は予め仕立てある苗を定植する方法とがあるが、所謂ケイマードの場合は種子蒔きが多く苗を定植するのは、古地の場合が多いようだ。

株と株の間隔はほぼ3米半、コーバは普通横20種から25種、縦40種、深さ25種見当である。ここに4～6本植えを行うが抵抗力が少ないので冷たい風や強い直射日光でいためつけられるのを防ぐため2年間はコーバを木片で囲つて置く。

コーヒーの実がなるのは、種類により及び実蒔と苗植では異なるが、実蒔の場合普通4年目からである。2年目に少し花が咲くが、この花は実にならない。本格的な花が咲くのは3年目で、こうなると1,000本当りよければ30俵

から40俵の収穫があるところもある。

コーヒーの花は8月末から10月末まで普通4回咲く、その時の天候によつて落ちるものもあり、落ちないものもあるが、花の寿命は2~3日しかもない。花は咲いたらすぐ実がついて来る。このコーヒーの実が大きくなり、真赤に熟するのが翌年の5月であるが、この間の天候は結果に大きな作用する。熟れ始めるとコーヒー園は忙がしい。収穫前の本山立て、それに先立つてパレットソンの収穫が行われる。

コーヒー樹の下は固い地肌が見えるまできれいに掃除され、ルアの真中に引き寄せられ、モンテが立てられる。収穫時にはこのきれいにした土の上にコーヒーの実を落すわけである。

その次が収穫である。

サンパウロは5月、パラナは6月と少し時期的にずれる。枝になつている実を手でしごいて取るのが普通であるが、熟れて黒くなつたら雨の後などは軽い棒でたたいて落す。土の上に落した実は天気の良い日、まず、ラスターロでかき集め、枯葉を除いて山にし、ペネーラにかけ土塊と枯枝とを撰別される訳だが、このペネーラの使い方、所謂バナ、カフエーは要領がいる。

ペネーラでコーヒー丈になつたら俵につめ、乾燥場(テレーロ)に運び、設備によつては、水洗いをして日光にさらして乾燥する。水洗いは、テレーロ・ロツシヤ地帯では絶対に必要だが、ノロエステ線パラナ地帯などミスタ乃至アレイアツ砂地帯は殆んど水洗をしていない。また熟した実と青い実と撰別するところもあり、しないところもある。

世界でもつとも味の良いコーヒーのコロンビアコーヒーは、熟れた赤実だけを採集し、水洗い式精選によつて作られる。コロンビアでは、コーヒーの実の熟す時期がブラジルのように一時的でなく比較的長い。そこで熟れた赤実だけをつまんで採集し袋につめる。この点ブラジルの採集方法と異り、更にブラジルにおいても、パラナのコーヒーとノロエステのコーヒーと異なる点も若干ここにある。

サンパウロとパラナのコーヒーとの品質の差は、雨量条件の外、サンパウ

口の良質コーヒー生産者は、パレツソンを何度もやり青い実がなくなつてから時期をみて採集し、更に水洗いする場合、青い実を除く方法をとつている。一般的に云つて、パラナは粗暴であり、サンパウロは入念である。

2 マキニスタの仕事

コーヒー生産者は、テレーロで乾し上げたコーヒーを精選加工業者であるマキニスタ或は、商人に売り渡す。売渡されたコツコは、最初カタドール・デ・ペードラという機械にかけられる。この機械は大きな土や石をコツコと振分けるもので、振り分けられた穀付コーヒーは精選機械場（ツーリア）に送られる。ツーリアからでたコツコは、ピツカ・デ・ジョーゴというザルを平にしたような金属のベルト上で揺り動かされ泥を落し乍ら、カタドール・ヂェラルに送られる。ここで更にコツコと同じ大きさの石や土で振り落されなかつたものを落とし、綺麗になつたコツコは、皮むき機械のデス・カスカドールに入つて行く。此処で外皮も果肉も羊皮も銀皮もはがされ、抱きあつているコーヒー豆も別々に離され始めてコーヒー豆の姿になる。

新しい姿のコーヒー豆は、同じ機械にある分離機に送られ、仕分け（モノートル）へ送られる。ここでコーヒーは大きさの順に分けられ、各大きさのグループはベネーラから空袋の待つている出口に押し流され、大きさ別の精選したコーヒーとなる。

精選されたコーヒー豆はなるべく等級の良いものにする必要があり、黒い豆や未熟な豆や小石や木片を取り除くためトランス・パラナー（機械名）を使用したり、カタドールといつて女子労働者に悪いのを一粒一粒拾わせているところもある。こうして等級のいいコーヒー豆を作る。

3 港への積出し

マキニスタによつて60キロ俵に詰められ輸出港に向うわけであるが、商人は、輸出用コーヒー6割、国内消費用（エセデンテ）3割、肥料用（エスブルゴ）1割の割でコーヒーを用意せねばならぬ。

コーヒーの生産過剰から低質のコーヒー4割を国内に保留せねばならないため、この4割は政府がきめた値段で買上げることになつている。原則的

には、この4割をコーヒー院指定の倉庫に入れなければ他の6割は港へ運ばない。

このコーヒーの港湾への積出しは、政府のコーヒー政策に基づいた積出し規則 (Reglamento de Embarque) に従わねばならぬ。この規則によるとコーヒーは4種類に刷けられている。即ち

- 1 セリエ・コムン (Serie Commun) 普通の輸出用コーヒーで7~8級以上のもの。
- 2 セリエ・プレフェレンシアル (Serie Preferencial) 3~4級以上の良質のコーヒーで優先的に輸出許可される。
- 3 セリエ・デスポルパード (Serie Desporpado) 水洗式による最良のコーヒーで第一番に輸出でき、エセデンテと関係はない。
- 4 セリエ・センデンテ (Serie Sendente) 国内消費用コーヒーで7~8級以下。

コムン・プレフェレンシアルとデスポルパードが輸出用コーヒーで、その内コムンとプレフェレンシアルは輸出用6割に対して、国内消費用3割、肥料用1割を (I. B. C.) コーヒー院に引渡さねばならない。これに反してデスポルパードはエセデンテを出す必要がない。また政府は各輸出港の輸出用ストックを決めている。サントス港が250万俵、パラナグア港が250万俵という具合で、各港ともそれ以上制限を超えないようにしている。これは、輸出準備体制OKのコーヒーが港に多くあると競争して値段を下げる可能性もあり、港湾の倉庫の収容力を超えて積出される危険があるため設けられている。この制限量内に入ることをリベラソンといい、この状態によれば海外へ輸出できる。

コーヒーが港から輸出され、港の倉庫があけば、それに応じてあとのコーヒーがリベラされる訳で、リベラされたコーヒーは港へ運ばれる。

リベラソンは各月を三ツに割り、フリメイラ・デゼーナ、セグンダ・デゼーナ、テルセーラ、デゼーナと積出し期を基準にそれぞれのコーヒーに対して行はれる。

サンパウロ州では、サンパウロ州コーヒー監督局(S.S.C.)がコーヒーの積出し、運送、倉庫、リベラソン、等級の査定などを監督している。コーヒーはみなこの監督局の指示に従つて港へ運ばれる。

サンパウロ州では、普通セリエ・コムンは鉄道で積出される。この鉄道で積出されたコーヒーは、各鉄道で決めてある調整倉庫(アルマゼン、レグラール)に強制的に収容され、リベラされるのを待たねばならない。その倉庫費用は荷主持である。また、プレフェレンシアルも同様、調整倉庫に入れられるが、この方はリベラされれば優先的に港湾に送られる。

デスポルパードは、リベラソンとは関係ない港湾へ積出してよいことになっている。このとき、監督局がコムン及びプレフェレンシアルに対して、エセデンテが送られるか否かを調べるのは、勿論であり、エセデンテは必ず鉄道で送らなければならない、調整倉庫に収容される。

デスポルパード、プレフェレンシアルの最上質コーヒーは多く陸路で運ばれる。陸路の場合も、トラックは、サンパウロ市モンセニオール、アンドラーデ街の監督局に寄らなければならない。

監督局は、デスポルパードの場合は直ちにサントスへ、プレフェレンシアルの場合は港の倉庫があいておれば、サントスへ、さもなければ調整倉庫へ送る。港へ入つたデスポルパード及びプレフェレンシアルは監督局のグラシフィカソン(等級格付け)を受けて輸出許可されるのが普通である。

デスポルパードは港に降りた場合リベラされた状態であるが、プレフェレンシアルの場合はリベラソンを待たねばならぬ。

このような規則を通らなければコーヒーは港へおろせないのである(パラナの場合は少し異なる)。

4 コーヒーの金融

マキニスクはこのような積出し規則の範囲内で輸出用コーヒーを送り出すと、銀行から融資を受けることができる。

コーヒーを積出すと鉄道や陸路運送会社がコシメントを発行する。これは、コーヒー積出しの場合有価証券でもあるわけで、これを銀行に担保に入

れ、政府の決定した融資額を基準にして融資を受けることになる。又このコミシメントによる金融が行なはれない場合、倉庫に入れたあと倉庫会社の発行するウオラント（倉庫証券）を担保に入れ融資を受ける方法もある。融資期間は何れも180日となつている（陸路輸送の場合は危険性が大きいのでコミシメントでわ受けられぬ場合もある）。又、マキニスクが I. B. C. に渡した国内消費用コーヒー、エセデンテは I. B. C. が30日以内に払らつてくれることになつているので、仕切状として I. B. C. に請求せねばならぬ。

5 輸出業者の手へ

さて、リベラされた輸出用コーヒーは、荷主の好みの倉庫に入れられる。倉庫には殆んど鉄道の引込み線が入つていて、貨車からすぐ倉庫内に入れられるようにできている。倉庫会社は受取る場合、コーヒーの俵から少しづつ見本をとり出し、ペネラや形などによつて分け、倉庫内に積上げる。

ここで中間販売人が登場してくる。仲介人は得意先のマキニスクから販売方を依頼され、倉庫から見本を受取つて、輸出業者へ商談に出掛ける。この商売の基礎となるのが、チツボ（等級）、ベビーグ（香味）、ペネラ（大小）、色沢などである。

サントスやパラナグアの輸出商に行くと、等級格付やベビーグを決定するクラシフィカドール（格付鑑定人）がいる。クラシフィカドールは見本からコーヒー豆の等級格付やベビーグを決定する。これには、格付のクベラがでており、300gのコーヒー豆をとり出し、この中の欠点の数で等級を決定する。クベラは次の通りである。

等級（チツボ）	欠点	等級（チツボ）	欠点
1 級	0	2 級	2
3 #	12	4 #	24
4 #	24	5 #	46
6 #	86	7 #	160
8 #	360		

この欠点の標準となるのが黒豆である。

黒豆1につき欠点1で、又他の爽雜物はそれぞれ黒豆何個に相当するとい

う規定がある。即ち、大きな木片、土塊が5、中位の石、木片が2、小さい木片、石、土が1という具合である。こうして欠点を差引いて等級が決まる。

次に大切なことがペビーダの決定である。見本を煎つて粉末にし、これに湯を差して舌で味う。口の中に入れて飲まずにふき出す。日本のキキ酒のようなものである。

こうして輸出業者が購入に決定する訳であるが、マキニスタが倉庫に入れる際のコーヒーの袋は使用したものが多いが、これを輸出用の袋に入れかえるのである。

この輸出用の袋は、マキニスタの袋より丈夫に出来ており、真中にブラジルの地図が書かれており、地図の中に BRASIL と印刷されている。また、地図の上には Produzido no Brasil, 下には輸出港例へば、パラナグアなら Paranagua, Estado do Paraná と書かれている。

輸出された後

ブラジルのコーヒーの得意先はアメリカである。アメリカは世界最大の消費国であり、そして加工国である。大体世界のコーヒーはブラジルコーヒーと、マイルドコーヒーに大別されている。マイルドコーヒーはブラジル以外の国で生産されるコーヒーの総称である。

豆の特徴はそれぞれの生産国によつて異なる。これは気候、採集方法、精選加工法、標高、土質、貯蔵法などによつて違つてくるもので、マイルドコーヒーは一般にブラジルコーヒーに比較して、力も酸味も強く、香気もよく、また外観も美しい。

コーヒーの風味は中性味、甘味、苦味、酸味(渋味)に大別されるが、ブラジルのコーヒーは一般に中性味で、クセがなく値段が安い。ブラジルのコーヒーは単一で使われる場合もあるが、単一よりは酸味、甘味、苦味などの豆を混合すれば、それ丈複雑なコクのあるコーヒーが飲めるので、アメリカのコーヒーの街話は必ず配合品である。

次に各生産国の豆の風味を記す。

酸味　　メキシコ、ガテマラ、ニカラグア、コスタリカ、一カ、モト

	ミニカ、ハイチ、サントス（ブルボン種）
中性味	サントス、サルバドール、コスタリカ（低地産）、ガテマラ（低地産）
甘味	コロンビア、ヴェネズエラ、サントス（高級）、ドミニカ、ハイチ（高級）
苦味	東インド産豆、ボゴク（古豆）

であり、アメリカの焙煎業者は消費者向く、売れ易くて、うまい配合のコーヒーを作り出している。

配合を終えたコーヒーは、こんどは焙煎機にかけられる（焙煎してから配合することもある）。焙煎されたコーヒーは最後に粉末にして消費者の手に渡るが、粉砕方法は大体次の5種である。

- 1 微粉末挽　　メリケン粉程度のもの。
- 2 細末挽　　メリケン粉よりは幾らか粗大。
- 3 小挽　　細粉ともいい中間の粉。
- 4 中挽　　普通コーヒーポットに入れて飲むもの。
- 5 粗挽　　荒挽きとも言い最も荒い粉。

これら粉末コーヒーの外、アメリカでは可燃コーヒーが非常に多く使われている。これわネスカフェーであり、アメリカでは現在消費の3割に相当している。

コーヒー園と標高

ブラジルでは、どの鉄道どの駅でも必ず次の駅までの距離とともに標高が明記されている。人間の生活には標高が幾らだつて大した影響はないが、珈琲栽培と密接な関係があり、駅の標高は珈琲適地を選定する上には絶対必要である。

つまり、駅の標高を基準にその地帯が珈琲栽培上に適不適かの判断をする訳で、土地は申し分がないが標高が低いから霜害があるから駄目だということにもなる。

昔は、大体において500m以下の土地は、降霜の危険性あるものとして珈